

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第127集

一本柳遺跡群

# 西一本柳遺跡Ⅹ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡Ⅹ発掘調査報告書  
(弥生中期～平安時代集落址、他)

2005.2

佐武建設株式会社  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第127集

一本柳遺跡群

# 西一本柳遺跡Ⅹ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡Ⅹ発掘調査報告書  
(弥生中期～平安時代集落址、他)

2005.2

佐武建設株式会社  
佐久市教育委員会



上：西一本柳遺跡X  
調査風景（南より）

下：西一本柳遺跡X  
調査前遠景（西より）

（中央発掘調査はINPⅢで  
現在の砂田線である。）  
（H14年8月撮影）



H71・H84号住居址出土遺物



H71号住居址（古墳中期）完掘（西より）・遺物出土状況・堀方（西より）



H17号住居址(弥生中期)完掘(南より)・炉(西より)・堀方(南より、床下に旧住居址確認)



H19号住居址(弥生中期)完掘(南より)・炉(北より)・遺物出土状況(南より)



H19号住居址出土遺物(H70.9含む)



H27号住居址(弥生後期)完掘(南より)・遺物出土状況(北より)  
 ・遺物出土状況(東より)



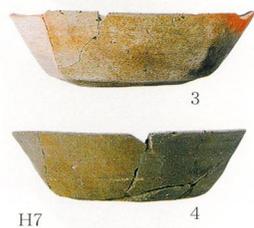
遺物出土状況(北より)



H27号住居址出土遺物



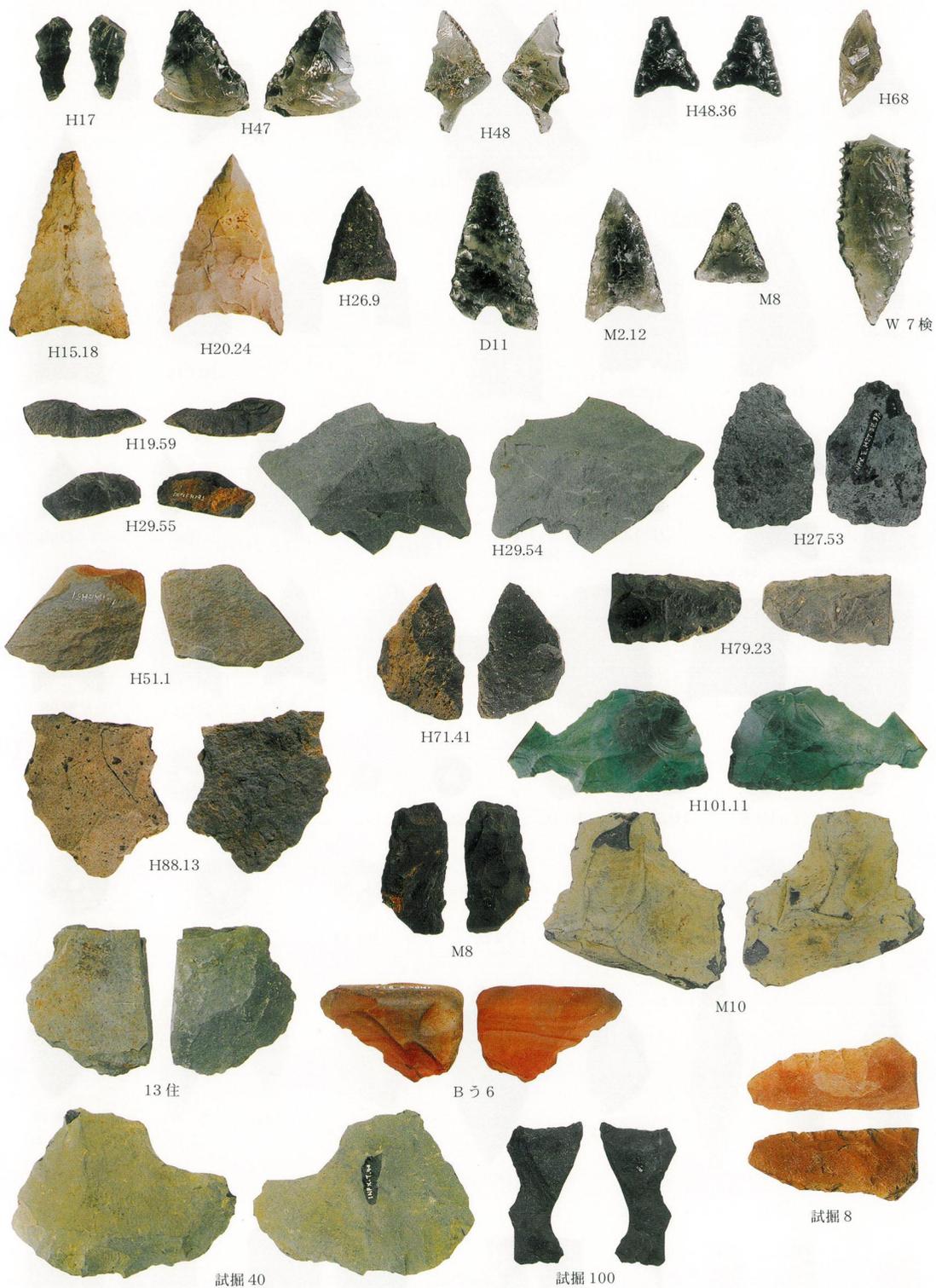
H7号住居址(奈良)完掘(南より)・堀方(西より)・出土遺物



H7



磨製石鏃・白玉・ガラス小玉・石製模造品・土玉・勾玉・管玉・小形扁平片刃



石鏃・確・スクレイパー・二次加工のある剥片石器

## 例 言

1. 本報告書は、佐久市岩村田字地籍において平成15年度に行われた(株)ヤマダ電気店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の『一本柳遺跡群西一本柳遺跡X』の報告書である。
2. 発掘調査は佐武建設株式会社の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
3. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の地形図(1:25,000)、佐久市発行の基本図(1:2,500)を使用した。
4. 発掘調査は須藤隆司、上原 学、出澤 力、森泉かよ子が担当し、本書の編集・執筆は森泉かよ子が行った。
5. 自然科学分析・鑑定は株式会社古環境研究所、炭化物の14C年代測定は株式会社加速器分析研究所、黒曜石の産地推定は望月明彦氏、石器の分類・記述は株式会社アルカに依頼した。
6. 須恵器器台については長野市飯島哲成・風間栄一の両氏に御指導いただいた。
7. 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に置かれている。

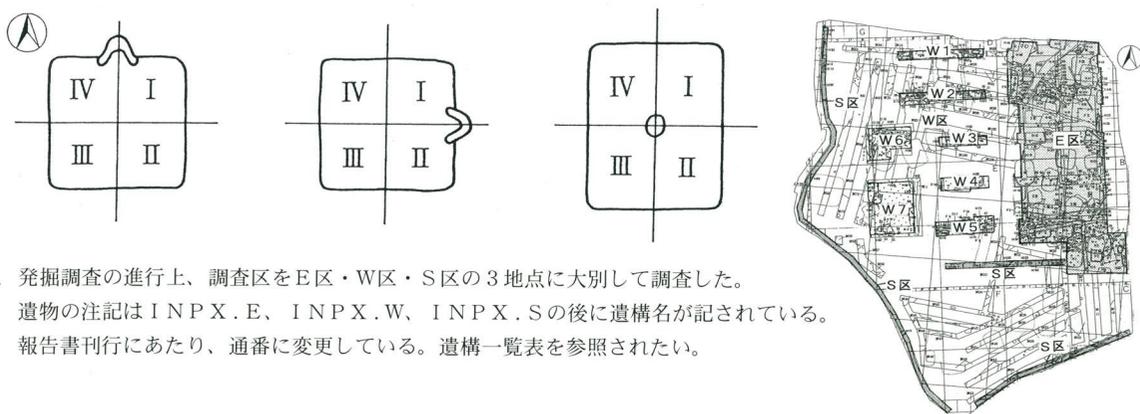
## 凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。  
H-竪穴住居址 F-掘立柱建物址 D-土坑 P-単独ピット M-溝址
2. 挿図中の遺構の縮尺は原則として1/80、遺物の縮尺は1/4である。異なる場合は明記してある。
3. 遺構の海拔標高は、水系標高を「標高」として記した。
4. 土層・土器の色調は1999年版『新版 標準土色帳』に基づいて示した。
5. 住居址の規模は床面で測り、周溝のある住居は周溝の外側下場での数値である。掘立柱建物址の規模は四隅の柱穴の中心を方形に囲んだ範囲である。
6. 挿図の遺物番号、遺物一覧表、写真図版の遺物番号は対応している。
7. 挿図中のスクリーン・トーンは以下のことを示す。

### 遺 構

地山断面		焼 土		粘 土	
柱 痕		堀 方			
遺 物					
須恵器断面		黒色処理		礫	
赤色塗彩		釉			

8. 遺物の出土地点は下図の遺構分割によるものである。



9. 発掘調査の進行上、調査区をE区・W区・S区の3地点に大別して調査した。  
遺物の注記はINPX.E、INPX.W、INPX.Sの後に遺構名が記されている。  
報告書刊行にあたり、通番に変更している。遺構一覧表を参照されたい。

# 目 次

巻頭図版

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査結果の概要	2
第3節 調査体制	3
第4節 調査日誌	3
第Ⅱ章 遺構と遺物	
1. 竪穴住居址	4
弥生中期	4
弥生後期	49
古墳中期	66
古墳後期	83
奈良	100
平安	102
2. 単独ピット	102
3. 土坑	102
4. 溝址	104
5. 範囲確認のみの住居址	114
第Ⅲ章 西一本柳遺跡X次調査より出土した弥生石器群の評価	117
引用参考文献	
遺構一覧表	140
付 編	
佐久市西一本柳遺跡出土黒曜石産地推定結果 望月 明彦	144
佐久市西一本柳遺跡X出土試料の自然科学分析 株式会社古環境研究所	151
加速器分析研究所放射性炭素年代測定結果報告書 (株) 加速器分析研究所	156
写真図版	

## 挿図目次

第1図	西一本柳遺跡X位置・周辺遺跡分布図……………	1	第46図	H94号住居址……………	47
第2図	西一本柳遺跡X遺構配置図 (1:1,000)……………	4	第47図	H92号住居址……………	48
第3図	西一本柳遺跡X全体図 (1:500)……………	5・6	第48図	H104号住居址……………	48
第4図	弥生時代遺構分布図……………	7	第49図	H27号住居址 (1)……………	49
第5図	弥生時代土器図……………	8	第50図	H27号住居址 (2)……………	50
第6図	弥生竪穴住居址形態図……………	9	第51図	H27号住居址 (3)……………	51
第7図	H5号住居址……………	10	第52図	H33号住居址……………	53
第8図	H6号住居址……………	11	第53図	H34号住居址……………	54
第9図	H16号住居址……………	11	第54図	H39号住居址……………	56
第10図	H11号住居址……………	12	第55図	H48号住居址 (1)……………	57
第11図	H17号住居址 (1)……………	13	第56図	H48号住居址 (2)……………	58
第12図	H17号住居址 (2)……………	14	第57図	H50号住居址……………	59
第13図	H18号住居址……………	15	第58図	H77号住居址 (1)……………	60
第14図	H19号住居址 (1)……………	16	第59図	H77号住居址 (2)……………	61
第15図	H19号住居址 (2)……………	17	第60図	H80号住居址……………	62
第16図	H19号住居址 (3)……………	18	第61図	H55号住居址……………	63
第17図	H21号住居址……………	20	第62図	H82号住居址……………	63
第18図	H23号住居址……………	21	第63図	H88号住居址……………	64
第19図	H22号住居址……………	22	第64図	H105号住居址……………	65
第20図	H25号住居址……………	23	第65図	古墳時代遺構分布図……………	66
第21図	H24号住居址……………	24	第66図	古墳中期土器図……………	67
第22図	H28号住居址 (1)……………	25	第67図	H9号住居址 (1)……………	68
第23図	H28号住居址 (2)……………	26	第68図	H9号住居址 (2)……………	69
第24図	H29号住居址 (1)……………	28	第69図	H12号住居址……………	70
第25図	H29号住居址 (2)……………	29	第70図	H13号住居址……………	71
第26図	H29号住居址 (3)……………	30	第71図	H14号住居址……………	72
第27図	H35号住居址……………	31	第72図	H20号住居址……………	73
第28図	H36号住居址……………	31	第73図	H31号住居址……………	74
第29図	H40号住居址……………	33	第74図	H64号住居址……………	75
第30図	H43号住居址……………	33	第75図	H71号住居址 (1)……………	77
第31図	H44号住居址……………	34	第76図	H71号住居址 (2)……………	78
第32図	H47号住居址……………	35	第77図	H83号住居址……………	80
第33図	H49号住居址……………	36	第78図	H84号住居址……………	81
第34図	H51号住居址……………	36	第79図	H93号住居址……………	81
第35図	H52号住居址……………	37	第80図	H96号住居址……………	82
第36図	H59号住居址……………	38	第81図	H1号住居址……………	83
第37図	H66号住居址……………	39	第82図	H4号住居址……………	84
第38図	H69号住居址……………	40	第83図	H15号住居址 (1)……………	85
第39図	H70号住居址……………	41	第84図	H15号住居址 (2)……………	86
第40図	H73号住居址……………	42	第85図	H26号住居址……………	87
第41図	H79号住居址 (1)……………	43	第86図	H30号住居址 (1)……………	88
第42図	H79号住居址 (2)……………	44	第87図	H30号住居址 (2)……………	89
第43図	H81号住居址……………	44	第88図	H42号住居址……………	90
第44図	H86号住居址 (1)……………	45	第89図	H46号住居址……………	90
第45図	H86号住居址 (2)……………	46	第90図	H45号住居址……………	91

第91図	H56号住居址	92	第108図	M6・M7・M9～M11・M13号溝址	109
第92図	H57号住居址 (1)	93	第109図	M12・M14～M16号溝址	111
第93図	H57号住居址 (2)	94	第110図	M8号溝址 (1)	112
第94図	H58号住居址	96	第111図	M8号溝址 (2)	113
第95図	H67号住居址	97	第112図	2号住～13号住検出	115
第96図	H75号住居址	97	第113図	石鏃形態分類模式図	118
第97図	H95号住居址	97	第114図	磨製石鏃実測図 (1)	122
第98図	H101号住居址	98	第115図	磨製石鏃実測図 (2)	124
第99図	奈良・平安遺構分布図	100	第116図	太形蛤刃石斧長幅比	128
第100図	奈良・平安土器図	101	第117図	太形蛤刃石斧幅厚比	128
第101図	一本柳遺跡群弥生時代の竪穴住居址と環濠	102	第118図	有孔石剣関連資料	129
第102図	単独ピット (1)	103			
第103図	単独ピット (2)	104			
第104図	D2・D3・D5・D6・D18号土坑	105			
第105図	D8～D15号土坑	106			
第106図	D1・D4・D7・D16・D17・D19号土坑	107			
第107図	M1～M5号溝址	108			

## 図版目次

巻頭図版 1	西一本柳遺跡X調査風景 (南より)・西一本柳遺跡X調査前遠景 (西より)
巻頭図版 2	H71・84号住居址 (古墳中期)
巻頭図版 3	H17・H19号住居址 (弥生中期)
巻頭図版 4	H27号住居址 (弥生後期)・H7号住居址 (奈良)
巻頭図版 5	磨製石鏃・小形扁平片刃石斧・勾玉・管玉 (弥生中期・後期)・白玉・ガラス小玉・土玉・石製模造品 (古墳中期・後期)
巻頭図版 6	石鏃・碓・スクレイパー・2次加工のある剥片石器
図版 1	H5・H6・H11・H16～H19号住居址
図版 2	H19・H21・H22号住居址
図版 3	H23・H25・H28・H29号住居址
図版 4	H29・H35・H40・H43・H44号住居址
図版 5	H47・H52・H59・H66・H69・H70・H73 H79号住居址
図版 6	H79・H81・H86号住居址
図版 7	H86・H92・H104・H27号住居址
図版 8	H27・H34・H39・H48・H50・H77・ H82号住居址
図版 9	H80・H88・H105・H9号住居址
図版 10	H12～14・H20・H31・H64号住居址
図版 11	H71・H83・H84号住居址
図版 12	H93・H1・H4・H15・H26・H30号住居址
図版 13	H42・H45・H46・H56・H57号住居址
図版 14	H58・H67・H75・H95・H96・H101号住居址
図版 15	H101・H2・H3・H10号住居址
図版 16	H7・H8・H38・H53・H54号住居址
図版 17	H61・H63・H65・H68・H72・H74号住居址
図版 18	H76・H78・H85・H91・H100・H102・H103号住居址
図版 19	H32・H37号住居址
図版 20	H41・H60・H62・H90・H97号住居址
図版 21	H87・H98号住居址・掘立柱建物址・土坑・溝址
図版 22	M8号溝址
図版 23	M8・M10～M13・M15・M16号溝址・単独ピット
図版 24	2～5住・7～10住・13住・試掘
図版 25	試掘・鉄製品
図版 26	磨製石鏃・擦切石

# 第 I 章 発掘調査の概要

## 第 1 節 調査の経緯

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川右岸の台地上にある。岩村田市街地の南西 1 km、標高 690m を測る。浅間第 1 軽石流が地盤をなしているが、その上に南に流れる湯川の河川堆積層である砂層が堆積している。一本柳遺跡群は台地上を東西の帯状に展開し、中央から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北部を北一本柳遺跡と呼称している。本遺跡群内では昭和 43 年に東一本柳遺跡が、また昭和 46 年度には金銅製馬具の飾り金具などを出土した東一本柳古墳が発掘され、貴重な資料を得ている。さらに国道 141 号線の開通に伴い、西一本柳遺跡を南北に貫く調査がなされ、平成 4 年の公共下水道事業に伴う西一本柳遺跡Ⅱ、また平成 7・8 年度の国道 141 号線の工事に伴う西一本柳遺跡Ⅲ～Ⅵ、平成 12・13 年度の市道 11-1 号線緊急地方道路整備事業に伴う西一本柳遺跡Ⅷ、平成 14 年の店舗新築に伴う西一本柳遺跡Ⅸが調査される。西一本柳遺跡Ⅰ～Ⅸまでの調査で竪穴住居址 405 棟が検出され、密集した古代集落であることが判明している。弥生時代中期から中世に至るまで連綿と人々の痕跡が残されている佐久市内でも有数な遺跡の一つであり、一本柳遺跡群は県の重要遺跡とされている。

今回、(株)ヤマダ電気店舗建設が計画され、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、遺構が破壊される部分を発掘調査し、破壊されない部分は埋土保存することとなった。

佐武建設株式会社より委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が発掘調査を実施することとなった。

遺 跡 名	一本柳遺跡群西一本柳 (にしっぱんやなぎ) 遺跡 X (略号 I N P X)
所 在 地	佐久市大字岩村田字下樋田 1780-1 他
調査委託者	佐武建設株式会社
開 発 事 業	(株)ヤマダ電気店舗建設
発掘調査期間	平成 15 年 6 月 11 日～8 月 5 日
整理 期 間	平成 15 年 7 月 28 日～平成 17 年 2 月 28 日
調 査 面 積	1,500㎡
調 査 担 当	須藤 隆司 上原 学 出澤 力 森泉 かよ子



第 1 図 西一本柳遺跡 X 位置・周辺遺跡分布図 (1:10,000)

## 2. 調査結果の概要

### 検出遺構

竪穴住居址	105棟	弥生時代中期	34棟 (B C前1・2 C頃～)
		弥生時代後期	12棟 (1・2 C頃～)
		古墳時代中期	12棟 (5 C頃～)
		古墳時代後期	15棟 (6 C～7 C頃)
		奈良時代	21棟 (8 C頃～)
		平安時代	9棟 (9 C頃～)
		時期不明	2棟
掘立柱建物址	14棟		
土坑	19基		
溝址	14本		
単独ピット	151個		

### 出土遺物

#### 縄文時代

縄文土器 (鉢・深鉢)、石鏃、スクレイパー、

#### 弥生式時代

弥生土器 (鉢・高杯・壺・甕・蓋)、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、小形扁平片刃石斧、磨製石鏃、打製石鏃、石鋏、擦切石・ヒスイ勾玉・管玉・土製管玉、磨石、砥石

#### 古墳時代

土師器 (小型丸底壺・壺・甕・杯・高杯・甑)、須恵器 (甕・壺・甗・杯・高杯・器台)、ガラス小玉、白玉、石製模造品 (剣形・勾玉)、編物石、磨石、砥石

#### 奈良・平安時代

土師器 (杯・鉢・甕)、須恵器 (杯・杯蓋・甕・壺)、灰釉陶器 (皿・杯・壺)、鉄製品 (刀子・紡錘車・鉄鏃)、砥石、炭化材・骨

### 調査の成果

西一本柳遺跡Xは爪形文の小破片、後期加曾利Bの浅鉢などの縄文土器や石鏃をわずかに含むが、主な時代は弥生時代中期から平安時代の遺構・遺物である。全体図に示したように新旧の住居址が重なり、密集した遺構が検出された。西一本柳遺跡Iから西一本柳遺跡Xまでの住居址の調査総数は、西一本柳遺跡Xの住居址数105棟を合わせると、510棟となる。ことに弥生時代中期の遺構は湯川右岸地帯の西隣にある北西の久保遺跡、さらに西の鳴沢遺跡群まで含めて、佐久地域では最も濃厚に分布している所であろう。本調査で弥生中期34棟、周辺遺跡の一本柳遺跡群・北西の久保遺跡・五里田遺跡の合計は197棟を数えることができる。弥生時代後期の竪穴住居址は周辺遺跡を含めて合計68棟あり、一本柳遺跡群全体に調査が及べば相当数であろうことが解明されてきた。西一本柳遺跡X地点では弥生時代中期の集落から始まり、古墳時代前期は検出されないが古墳時代中期から平安時代にわたり長く集落が営まれ、居住環境に恵まれた地といえる。

弥生時代中期後半の集落は、重複関係が3段階はあり、時間差を示せた。また住居址と同期であるM12溝址はこれまでの西一本柳遺跡Ⅷ・Ⅸで検出された住居址を囲む溝の延長であり、弥生中期の集落を円形に囲むようである。

弥生時代後期初頭の住居址はまとまった土器群や石器群多量に出土している。ことに磨製石鏃は製品とともに原石、剥片、未製品があり、あらたな製作技法に検討を加える資料が出土した。弥生後期初頭の住居址と、本調査域の北にある西一本柳遺跡Ⅸで検出された方形周溝墓とは同期と推察され、弥生時代後期の集落と四隅の切れる方形周溝墓の存在が明らかになった。

古墳時代中期のH71からは須恵器の器台が出土し、長野県では3例目にあたる稀少例で、時期も最も古いものであろう。須恵器器台を出土する集落は積極的にカマドをとり入れたりという性格を持つという。また北西の久保遺跡に多くあるカマドを持たない古墳中期前半の住居址は本調査でも2棟ある。この古墳時代中期前半の集落と同期の遺物を出土するM8溝址が調査区中央を南北に延びている。M8溝址の西側に集落が分布している。

古墳後期・奈良時代は通して集落がみられ、平安時代は10C代の集落が営まれたようである。

### 第3節 調査体制

#### 調査受託者

教育長 高柳 勉

#### 事務局

教育次長 赤羽根 寿文

文化財課長 島崎 節夫（平成15年度） 小林 正衛（平成16年度）

文化財係長 高村 博文

文化財係 林 幸彦 三石 宗一（平成15年度） 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也（平成16年度）

富沢 一明 上原 学 出澤 力 赤羽根太郎

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査副主任 堺 益子

調査担当者 須藤 隆司 上原 学 出澤 力 森泉 かよ子

#### 調査員

阿倍 和人 荒井ふみ子 岩崎 重子 碓氷 知子 小幡 弘子 柏木 義雄 木内 明美

木内 節夫 菊池 喜重 神津ツネヨ 小林まさ子 小林百合子 小山 功 佐々木 正

佐々木久子 佐藤 愛子 佐藤志げ子 中條 悦子 中島とも子 中嶋 良造 林 美智子

羽田 貴恵 比田井久美子 細萱ミスズ 細谷 秀子 柳澤千賀子 三石 園子 山浦 豊子

渡辺久美子 百瀬 新治

#### （報告書作業分担）

（図面修正）細谷秀子 （遺物実測）堺益子 高見沢綾 田中ひさ子 中條悦子 森角雅子 柳澤孝子

（トレース）副島充子 林美智子 柳澤千賀子 （拓本）佐藤愛子 柳澤千賀子

### 第4節 調査日誌

#### 平成15年度（2003）

- 6. 11 重機を入れ表土を剥ぎ始める。
- 6. 12 機材搬入。
- 6. 16 調査員により、検出作業を行い作業開始。
- 6. 18 遺構の掘り下げに入る。調査区をE区（東建物基礎、出入口）・W区（西側建物基礎）・S区（擁壁・排水溝）地点に便宜的に分けて調査。
- 7. 9 S区終了。
- 7. 23 W区終了。
- 7. 28 E区調査区が残り少しとなり、一部室内にて遺物の洗浄作業開始。
- 8. 4 E区の調査終了。
- 8. 5 調査区を重機により埋め戻し。
- 8. 25 注記作業開始。
- 9. 25 注記作業終了。



E区プラン確認（6.16）



W区調査風景（6月下旬）



浅科中職場体験学習（7.18）



E区調査風景（東より）  
（7月下旬）

#### 平成16年度（2004～2005）

- 4. 1～2. 28  
土器の接合、石膏復元、遺構図の図面修正、遺物の実測、遺構図・遺物の実測図トレース、版下作成、遺物の写真撮影を行い、報告書の編集し、刊行する。



第2図 西一本柳遺跡X遺構配置図(1:1,000)

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居址

1. 弥生中期 H5・H6・H11・H16・H17・H18・H19・H21・H22・H23・H24・H25・H28・H29・H35・H36・H40・H43・H44・H47・H49・H51・H52・H59・H66・H69・H70・H73・H79・H81・H86・H92・H94・H104 (プラン確認のみ) 2住・3住・4住・5住・10住

弥生時代中期の竪穴住居址は34棟を調査した。新しい遺構に壊され、また部分的な調査であるため、全容の明らかなものはない。この他にプラン確認のみの住居址5棟と試掘調査時に7棟検出されており、総数は45棟以上になるであろう。弥生中期の住居址は炉を住居址中央に持ち、コの字または一辺に握り拳大の礫を置いている地床炉である。炉址を検出し得たのは9棟のみである。

住居址は重複により新旧がある。

H49(旧)→H5(新)(Bい7グリッド)(重複部分が多く遺物の新旧が捉えにくい。)

H18(旧)→H17→H16(新)(Aけ10グリッド)(H16の時期が明確ではない。)

H22(旧)→H21(新)(Bお2グリッド)

H24(旧)→3・4住→H25(新)(Bう4グリッド)

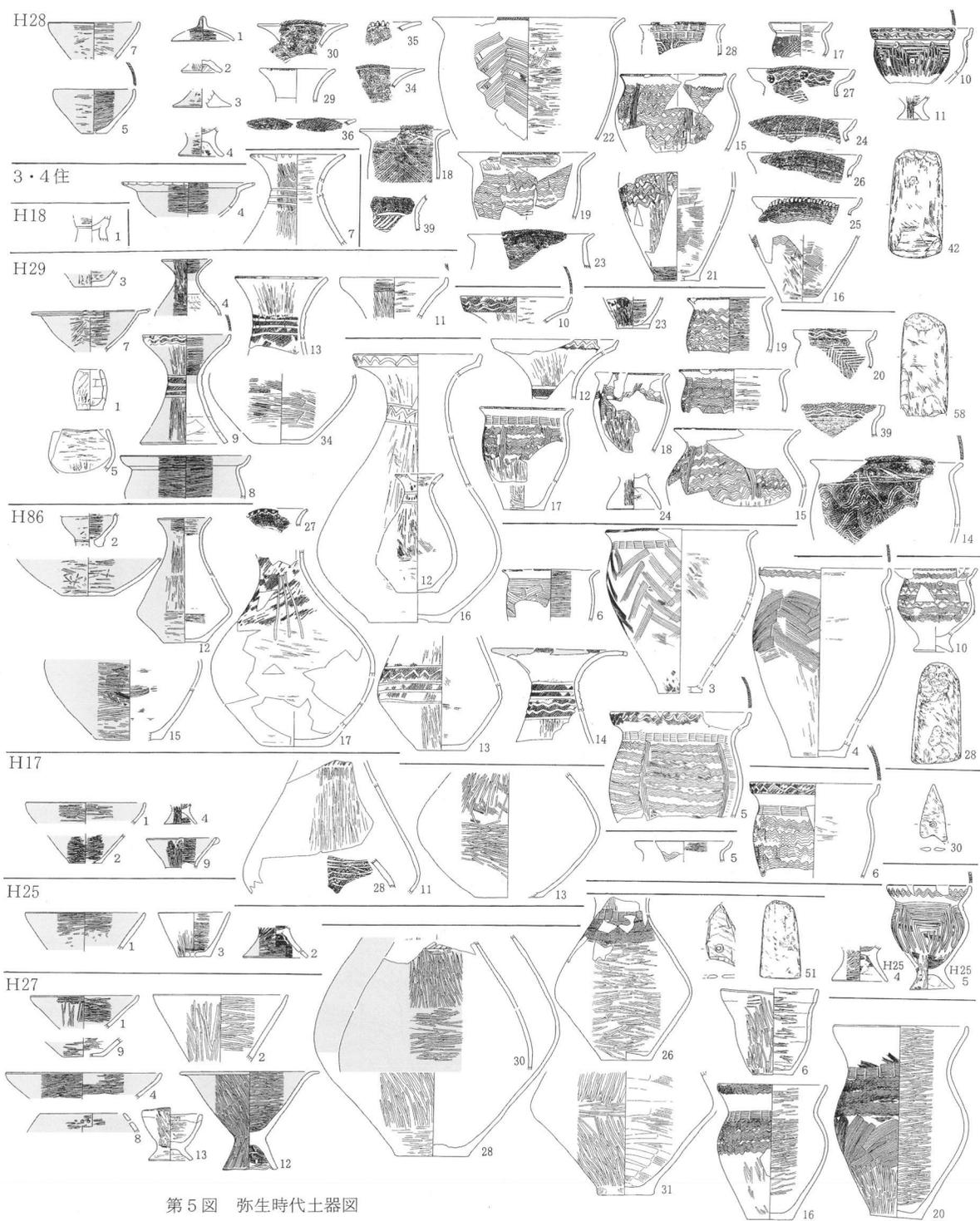
住居址の形態は4分類される。

1. 隅丸方形 H21・H28・H40・H47・H73・H81・2住・10住
2. 隅丸長方形(矩形が強い) H11・H18・H22・H23・H24・H29・H35・H43・H44・H49・H52・H59・H66・H69・H73・H79・H86・H92
3. 楕円形A H19

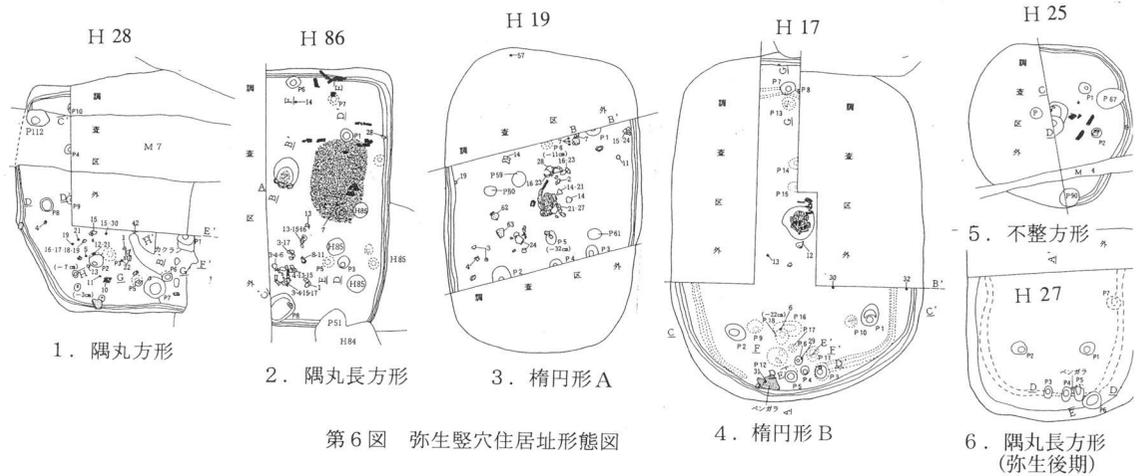


第3図 西一本柳遺跡X全体図(1:500)





第5図 弥生時代土器図



第6図 弥生竈穴住居址形態図

- 4. 楕円形B H5・H6・H17・H51・H70
- 5. 不整形(円形に近い) H16・H25
- 6. 隅丸長方形(弥生後期) H27・H34・H48・H77

住居址形態

住居址形態は隅丸方形・隅丸長方形(矩形が強い)→楕円形B・不整形へと新しい傾向が窺える。

本遺跡は2.隅丸長方形が18棟と53%近くを占める。

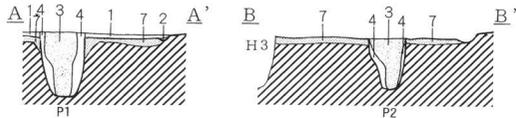
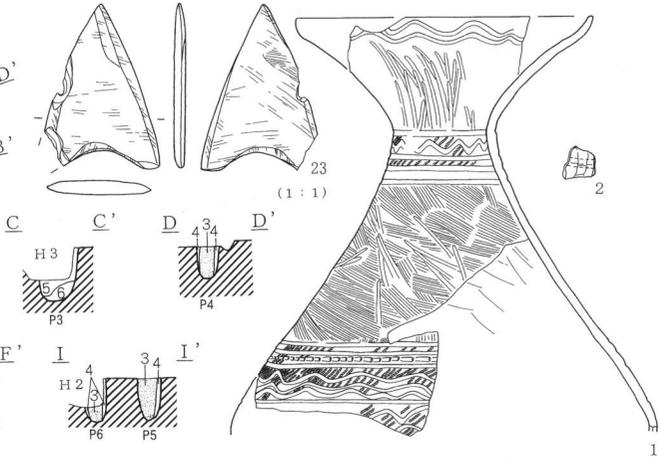
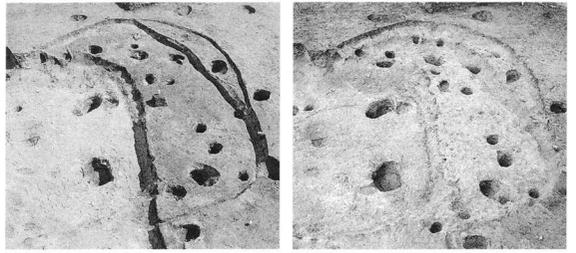
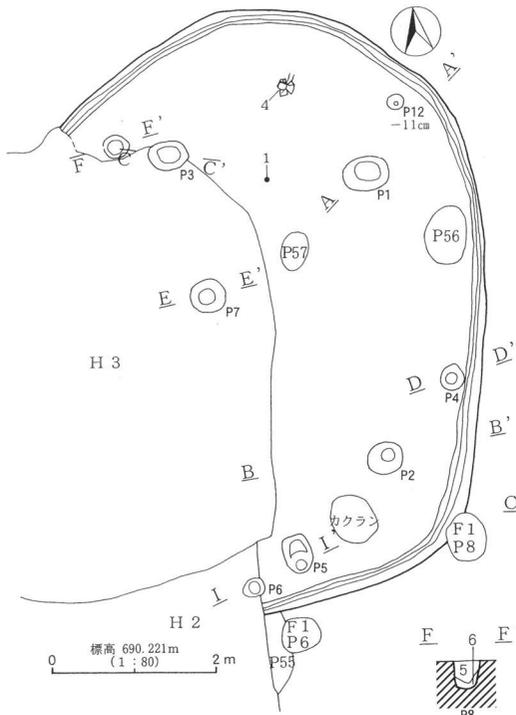
土器様相

弥生土器は壺・甕については縄文・ヘラ描文・櫛描波状文を施文し、杯・高杯・鉢は無彩も少数あるが大半はミガキ赤色塗彩されている。これまでの北西の久保遺跡・西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳと同様のものであり、弥生時代中期後半に位置づけられる。また同じ中期後半の集落であり、湯川対岸の根々井芝宮遺跡の住居址の重複関係から形態変化を追ってみると、楕円形の住居址Y31、隅丸方形の住居址Y37(旧)→隅丸長方形(矩形が強い)住居址と新旧がみられ、1.隅丸方形・3.楕円形Aの住居址が旧くなっている。北西久保遺跡では隅丸長方形(矩形が強い)のY11を楕円形のY12が切っている。根々井芝宮・北西の保遺跡の楕円形のY31・Y12からの出土遺物はいずれも太頸の壺である。深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・ⅤのH50も大型で太頸の壺が出土している。これら壺は胴上半・下半にかけて横帯の施文がなされ佐久では弥生中期後半では古相とされている土器群である。本遺跡では破片資料として存在するのみである。松原遺跡(2000.長野県埋蔵文化財センター)では弥生中期4段階の住居址形態中で、1段階では隅丸長方形、4段階では円形(ここでいう円形は縄文からの伝統的な円形)を呈するものがないとしている。西一本柳・北西久保・五里田・根々井芝宮・深堀遺跡など佐久市内の中期後半の遺跡でも縄文的な円形の住居址は検出されていない。松原遺跡2段階では隅丸方形主体、3・4段階では隅丸方形が減少し、楕円・隅丸長方形が増加しているとしている。円形・隅丸方形→楕円・隅丸長方形といった変遷の方向性があり、5.やや不整形な隅丸方形・4.楕円形Bに変遷するとしている。佐久市の遺跡の新旧関係も同様である。

西一本柳遺跡Xの弥生中期の土器様相は第5図に示した。住居址形態の変遷とほぼ一致している。(P19に続く)

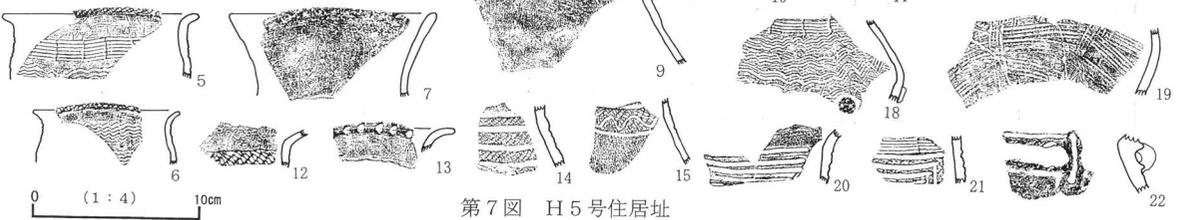
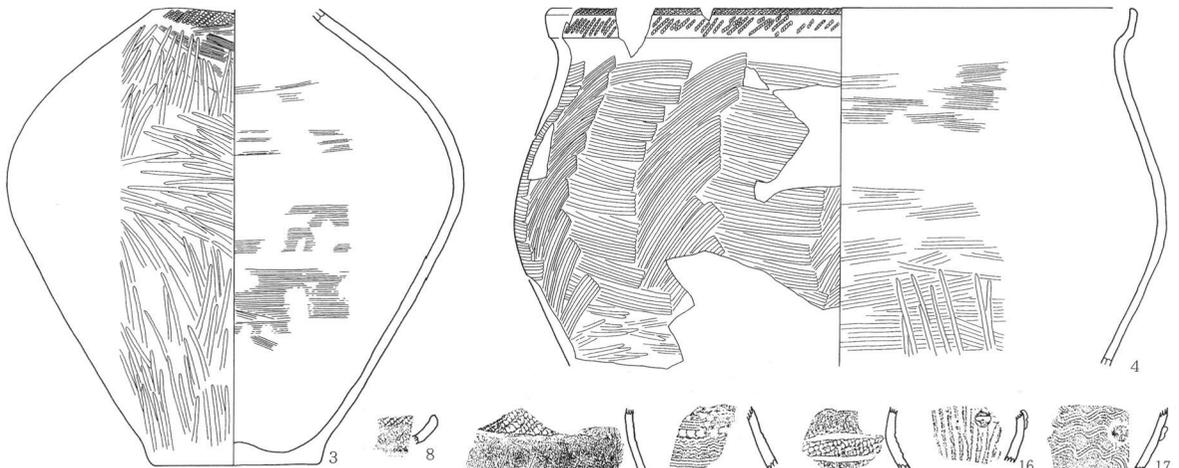
第1表 INP X H5号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生壺	(18.2)	内 口縁ヨコナデ ハケナデ 表面剥落	内 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	頸部完形	No.1
		(25.5)	外 口縁ヨコナデ ヘラナデ(楕目)→ミガキ 口縁部ヘラ描波状文 頸部縄文→ヘラ描山形文 ヘラ描平行線文 体部中位縄文→ヘラ描波状文 ヘラ描平行線文 ヘラによる押し引き線文	外 7.5YR7/4 (にぶい橙)		頸部体部1/4 回転実測	
2	弥生注口土器	-	内 ナデ	内 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細長石・細石英粒子含む。	注口部完形	検出
		-	外 ナデ	外 7.5YR5/4 (にぶい褐)			
3	弥生壺	(10.5)	内 ヘラナデ(楕目)	内 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	頸部~底部1/2	検出 IV区
		(27.9)	外 頸部縄文 ヘラナデ(楕目)→ミガキ 底部ヘラケズリ→ミガキ	外 7.5YR6/4 (にぶい黄橙)		回転実測	
4	弥生甕	(36.2)	内 ヘラナデ(楕目)→ミガキ	内 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁~体部1/4	No.3 I区
		(22.0)	外 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ(楕目)→ミガキ 口唇・口縁部縄文 体部櫛描斜走文(縦位羽状)	外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	緻密。内面、剥離。	回転実測	
5	弥生甕	(12.0)	内 口縁~胸部ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石・細黒色粒子含む。緻密。	口縁部1/7	E区 H5 IV区
		(4.0)	外 口縁ヨコナデ 口唇部縄文 頸部櫛描波状文 (1連止、6本1組) 胸部櫛描波状文(単位不明)	外 7.5YR5/3 (にぶい褐)			
6	弥生甕	(9.0)	内 口縁~胸部ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英・黒色粒子含む。	口縁1/6	E区 H5 I層
		(3.3)	外 口縁ヨコナデ	外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	緻密。		
7	弥生壺	(12.7)	内 口縁ヘラナデ(楕目)	内 7.5YR6/3 (にぶい褐)	細石英・細長石・細黒色粒子含む。	口縁1/4	E区 H5 IV区
		(5.1)	外 口縁ヘラナデ(楕目) 口唇部縄文	外 7.5YR6/4 (にぶい橙)			
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	ε	備考	出土位置
23	磨製石鏝	25.0	17.5	2.0	0.8	左脚欠損。粘板岩・研磨・穿孔	II区

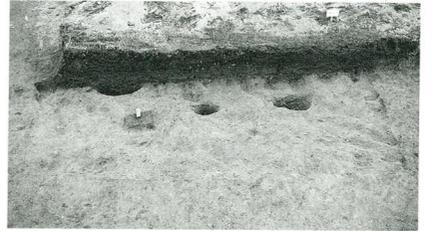
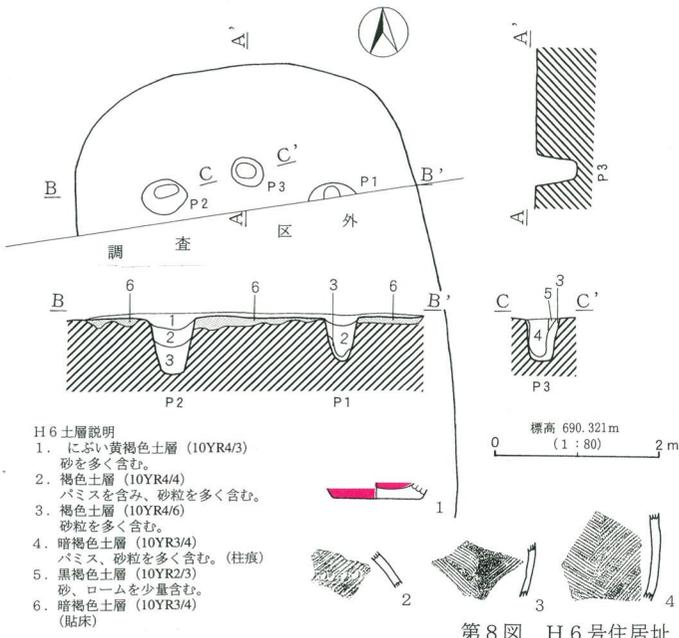


H5 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 砂、小石を含む。  
 2. (周溝)  
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 (柱痕)

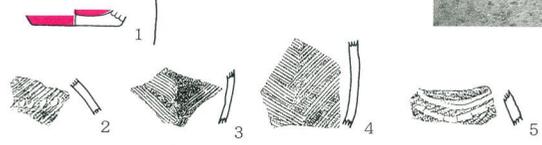
4. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
 砂、黒褐色土ブロックを含む。  
 5. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
 砂、小石を含む。  
 6. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
 砂に黒褐色土を含む。  
 7. 暗黒褐色土層 (10YR3/3)  
 砂ブロック混在。(貼床)



第7図 H5号住居址



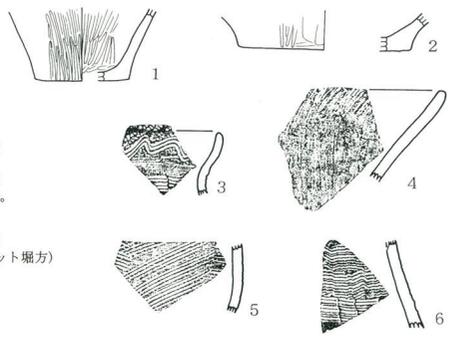
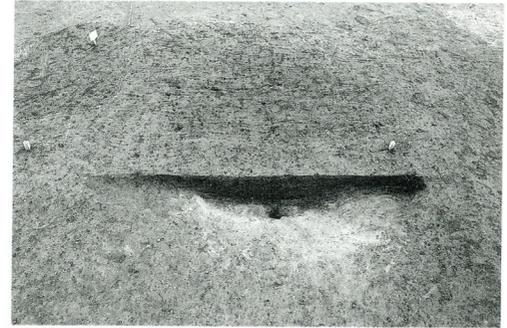
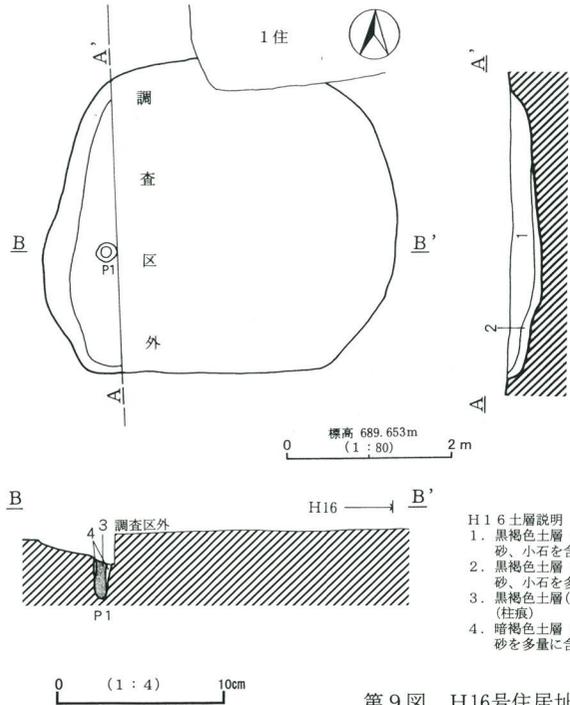
- H6 土層説明
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂を多く含む。
  2. 褐色土層 (10YR4/4) バミスを含み、砂粒を多く含む。
  3. 褐色土層 (10YR4/6) 砂粒を多く含む。
  4. 暗褐色土層 (10YR3/4) バミス、砂粒を多く含む。(柱痕)
  5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、ロームを少量含む。
  6. 暗褐色土層 (10YR3/4) (貼床)



第8図 H6号住居址

第2表 INP X H6号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(5.4) (1.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/6 (赤) 外 7.5R4/6 (赤) 底部 橙 5YR6/6	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/4 回転実測	

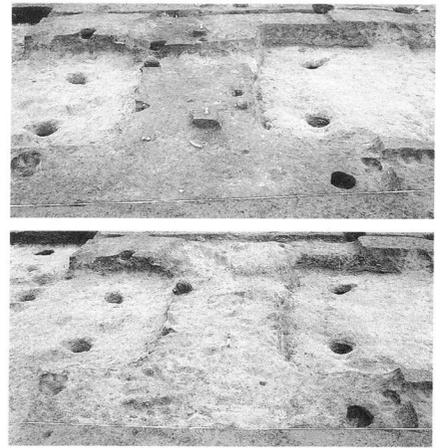
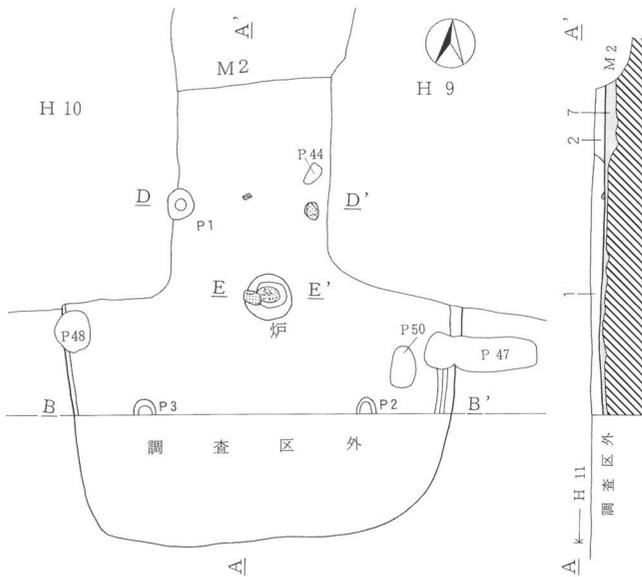


- H16 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、小石を多量に含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱痕)
  4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を多量に含む。(ピット堀方)

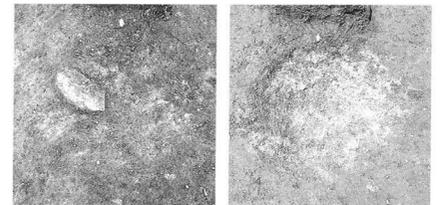
第9図 H16号住居址

第3表 INP X H16号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生甕	(5.6) (4.4)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測	
2	弥生壺	(10.6) (2.4)	内 剥落 外 ヘラナデ→ミガキ	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測	検出

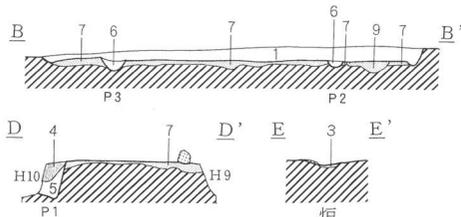


上から完掘 堀方 (南より)



炉 (南より)

炉堀方 (南より)



- H11 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂、小石を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、小石を含む。
  3. 赤褐色土層 (5YR4/6) 焼土。
  4. 黒褐色土層 (10YR3/2) (柱痕)。
  5. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂、多量に含む。

6. 褐色土層 (10YR4/6) 砂主体。
7. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂、小石を多く含む。(貼床)。
8. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
9. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。

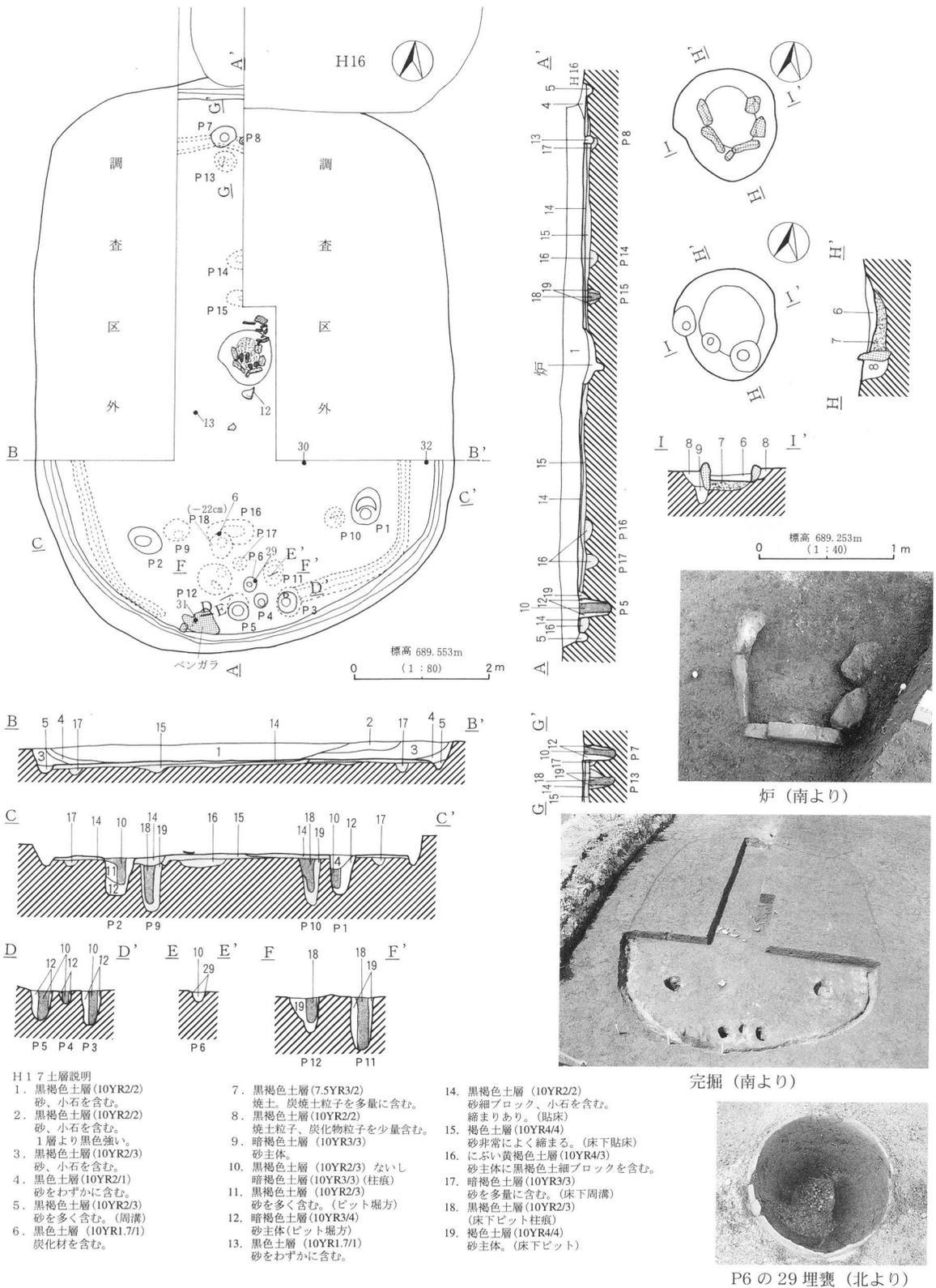
第10図 H11号住居址

第4表 INP X H11号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 壺	(14.2) - (3.1)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細長石 胎土	口縁1/8 回転実測 器面荒れ目立つ	I区
7	?	130.0	巾 18.5 厚さ 8.0 径 15.8	鉄製品	備考		IV区

第5表 INP X H17号住居址出土遺物一覧表

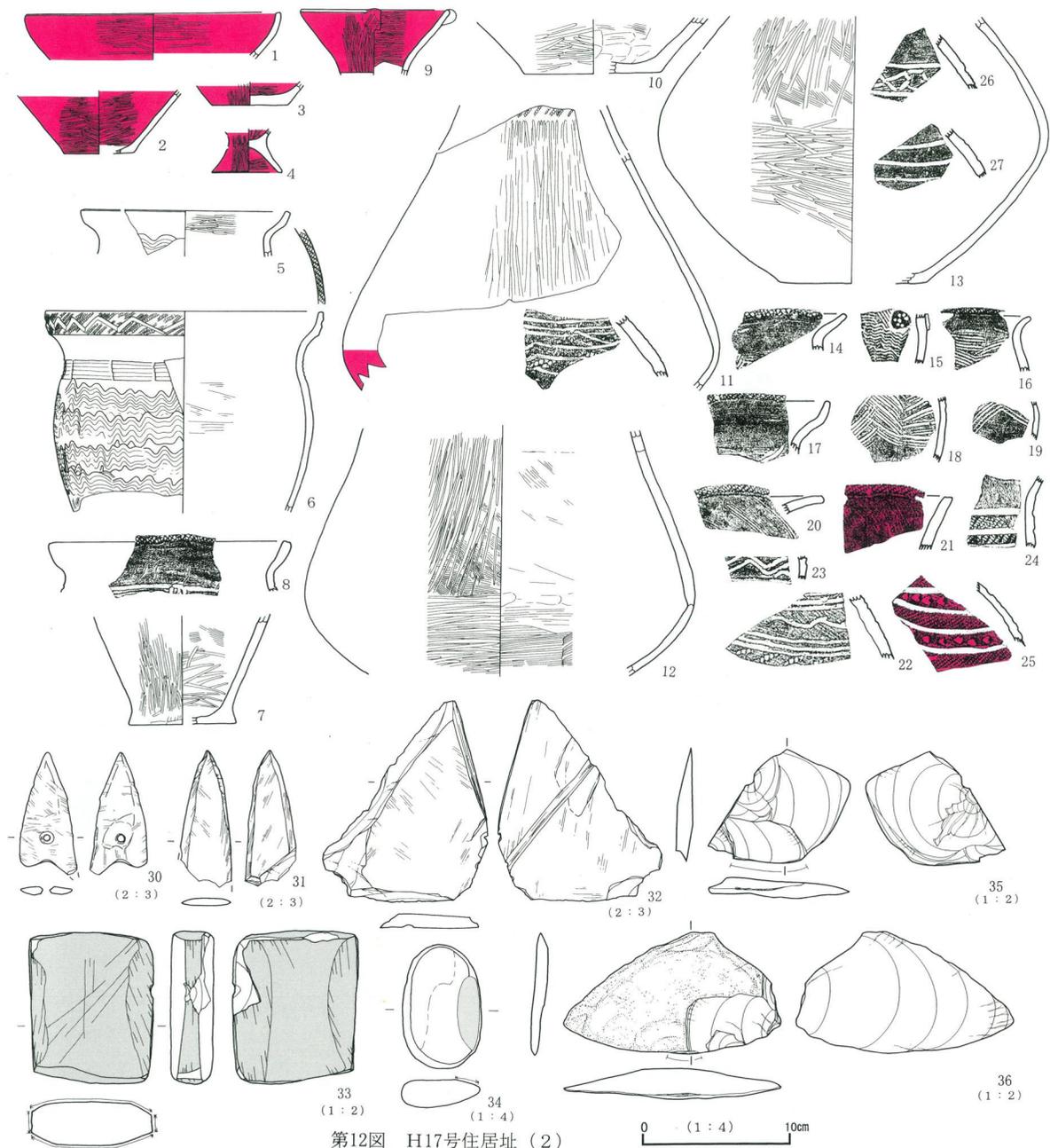
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 鉢	(17.6) - (3.2)	内 ミガキ 赤色陰彩 外 ミガキ 赤色陰彩	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤)	細長石、細石英 胎土	口縁1/8 口縁端面取	II区
2	弥生 鉢	(4.8) (4.4)	内 ミガキ 赤色陰彩 外 ミガキ 赤色陰彩	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤) 底部 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石 胎土	底部1/4	II区
3	弥生 鉢	(5.6) (1.6)	内 ミガキ 赤色陰彩 外 ミガキ 赤色陰彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石 胎土	底部1/2	検出
4	弥生 高杯	(4.8) (3.0)	内 ナデ→まばらなミガキ 赤色陰彩 外 ミガキ 赤色陰彩	内 2.5YR4/6 (赤褐) 外 10R4/6 (赤)	細石英・細長石 胎土	脚部1/2 ミニチュア品	III区
5	弥生 甕	(14.4) - (3.2)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ 口唇部縄文 胴部櫛波状文	内 2.5YR4/2 (灰赤) 外 2.5YR4/2 (灰赤)	細石英・細長石 胎土	口縁1/4	II区
6	弥生 甕	(19.2) - (13.9)	内 ヘラナデ (柱目) →ナデ 外 口唇縄文 口縁縄文→ヘラ描山形文 頸部櫛波状文 体部櫛波状文 胴下部ミガキ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR6/8 (橙)	細石英・細長石 胎土	口縁1/4 回転実測	No.4
7	弥生 甕	(7.4) (7.5)	内 ヘラナデ (柱目) →ミガキ 外 ヘラナデ (柱目) →ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石 胎土	底部1/3	III区
8	弥生 甕	(16.6) - (3.5)	内 ミガキ 外 ヨコナデ 文 口唇部縄文 胴部ヘラによる文様	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石 胎土	口縁1/10	E区 H17 II区



H17 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。1層より黒色強い。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、小石を含む。
4. 黒色土層 (10YR2/1) 砂をわずかに含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を多く含む。(周溝)
6. 黒色土層 (10YR1.7/1) 炭化材を含む。
7. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 焼土。炭焼土粒子を多量に含む。
8. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
9. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3) ないし暗褐色土層 (10YR3/3) (柱痕)
11. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を多く含む。(ピット堀方)
12. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂主体(ピット堀方)
13. 黒色土層 (10YR1.7/1) 砂をわずかに含む。
14. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂細ブロック、小石を含む。縮まりあり。(貼床)
15. 褐色土層 (10YR4/4) 砂非常によく締まる。(床下貼床)
16. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂主体に黒褐色土層細ブロックを含む。
17. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を多量に含む。(床下周溝)
18. 黒褐色土層 (10YR2/3) (床下ピット柱痕)
19. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。(床下ピット)

第11図 H17号住居址 (1)



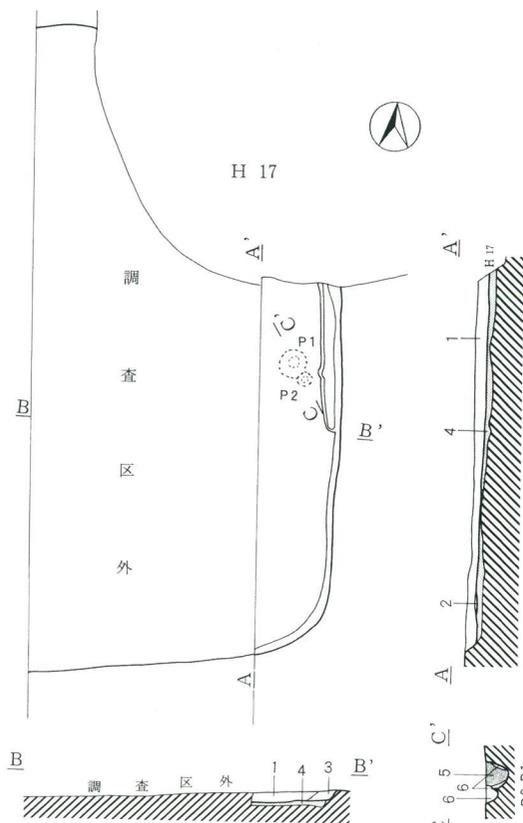
第12図 H17号住居址 (2)

9	弥生 甕	(10.3) - (4.6)	内 ミガキ 赤色塗彩 胴部ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁部 1/8	Ⅱ区
10	弥生 壺	(9.4) (3.7)	内 ヘラナデ (榎目) → ナデ 外 ミガキ 底部ヘラケズリ → ミガキ? (器面剥落)	内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 10YR4/2 (灰黄褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/3	Ⅱ区
11	弥生 壺	-	内 ヘラナデ (榎目) → ナデ 外 頸部縄文 体部ミガキ一 体部下赤色塗彩あり	内 7.5YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	~ 1mm 大長石・石英粒子含む。	胴部 1/3 回転実測	I区、Ⅱ区
12	弥生 壺	-	内 ヘラナデ (榎目) → ナデ 外 ヘラ (榎目) → ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	胴部 1/4 回転実測	No.7
13	弥生 壺	(10.2) (18.5)	内 剥落 外 ヘラナデ (榎目) → ミガキ (底部剥落)	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	体部~底部 3/4	No.5
29	弥生 甕	-	内 ミガキ 外 櫛歯斜走文		細長石・細石英粒子含む。	写真のみ 実測不可能	No.12

番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
30	磨製石鏃	31.5	15.0	2.0	1.0	粘板岩。右脚欠損	No.3
31	磨製石鏃	35.0	13.0	2.0	1.1	粘板岩。基部欠損	No.11
32	磨製石鏃分積前剥片	52.0	42.0	3.5	9.1	未製品。溝あり。	No.1
33	砥石	53.0	43.0	15.0	49.9	砂岩。手持ち砥石で、砥面が面として多く形成される。	II区
34	砥石	86.0	54.0	19.0	111.9	砂岩。部分的に砥面あり。	I区検出
35	掘切石器	39.8	48.7	7.2	10.8	頁岩。横方向磨耗痕、器体上辺単発加工。	
36	掘切石器	42.3	75.2	8.6	16.6	ホルンフェルス。刃部横方向磨耗痕。	

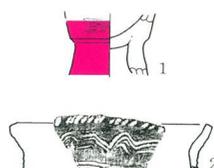
第6表 INP X H 18号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 脚付深鉢?	- -<3.9>	内 ナデ わずかにミガキ 外 ミガキ 赤色塗彩 剥落する	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 10R4/6 (赤)		脚部 1/3 完全実測	
2	弥生 甕	(12.0) -<2.8>	内 ミガキ 外 ヨコナデ 口唇部刺突文 口縁部櫛描波状文 (4本1組) 頸部櫛描波状文	内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3・4/2 (にぶい黄橙・灰黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6	E区 H18
3	弥生 壺	(12.6) -<2.3>	内 ヘラナデ 外 ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR5/2 (灰褐)		底部 1/4 回転実測	検出
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
20	打製石斧	79.0	75.0	13.0	90.3	安山岩。被然なし。上部及び刃部左欠損。正裏節理面→磨滅。刃部磨耗痕、刃部縁辺整形加工直後、器体加工直後。	No.3



- H18土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を含む。
  2. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
砂、小石を含む。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、小石を多量に含む。
  4. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂に黒褐色土ブロック、小石を多量に含む。(貼床)
  5. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(床下ピット柱痕)
  6. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂主体。(床下ピット)

標高 689.653m  
(1:80)



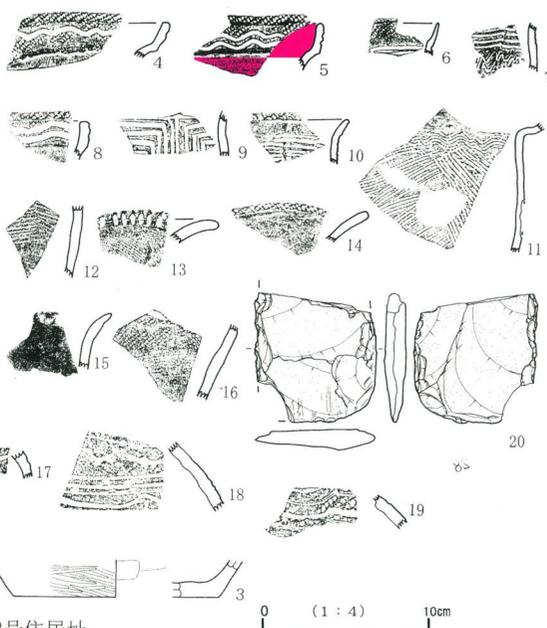
第13図 H18号住居址



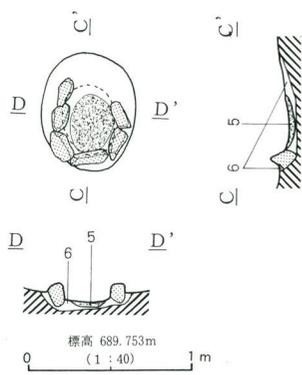
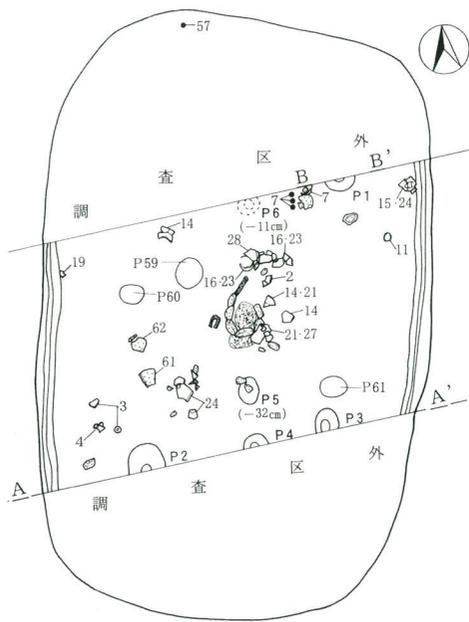
完掘 (東より)



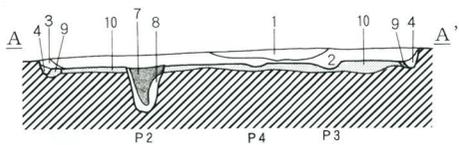
堀方 (東より)



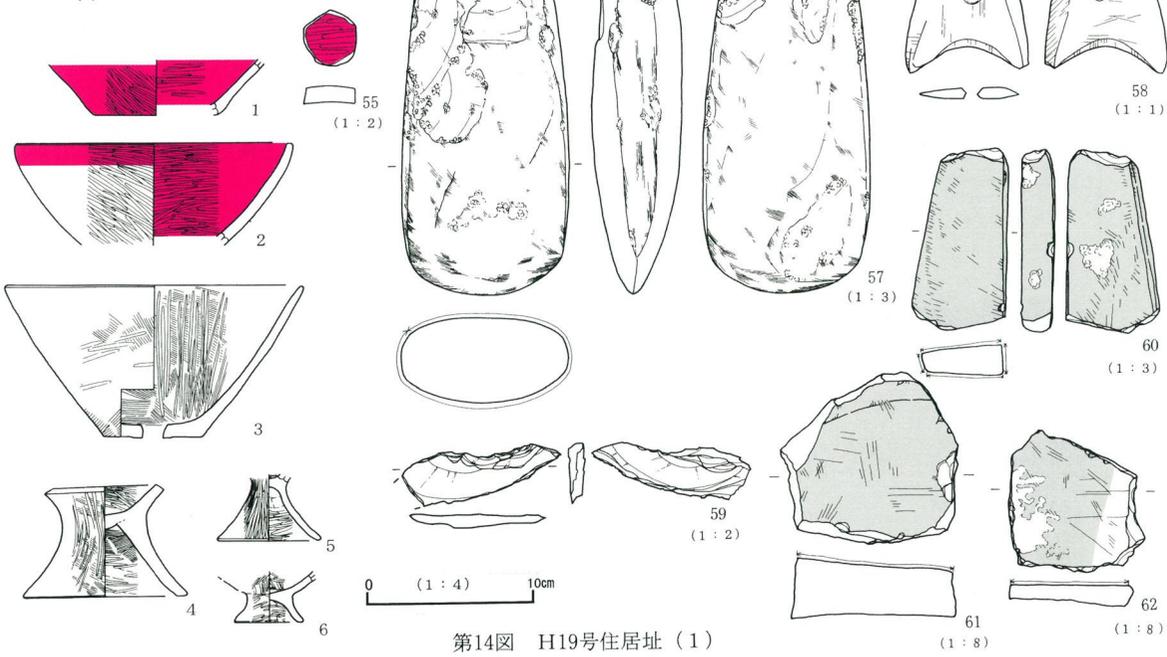
(1:4) 10cm



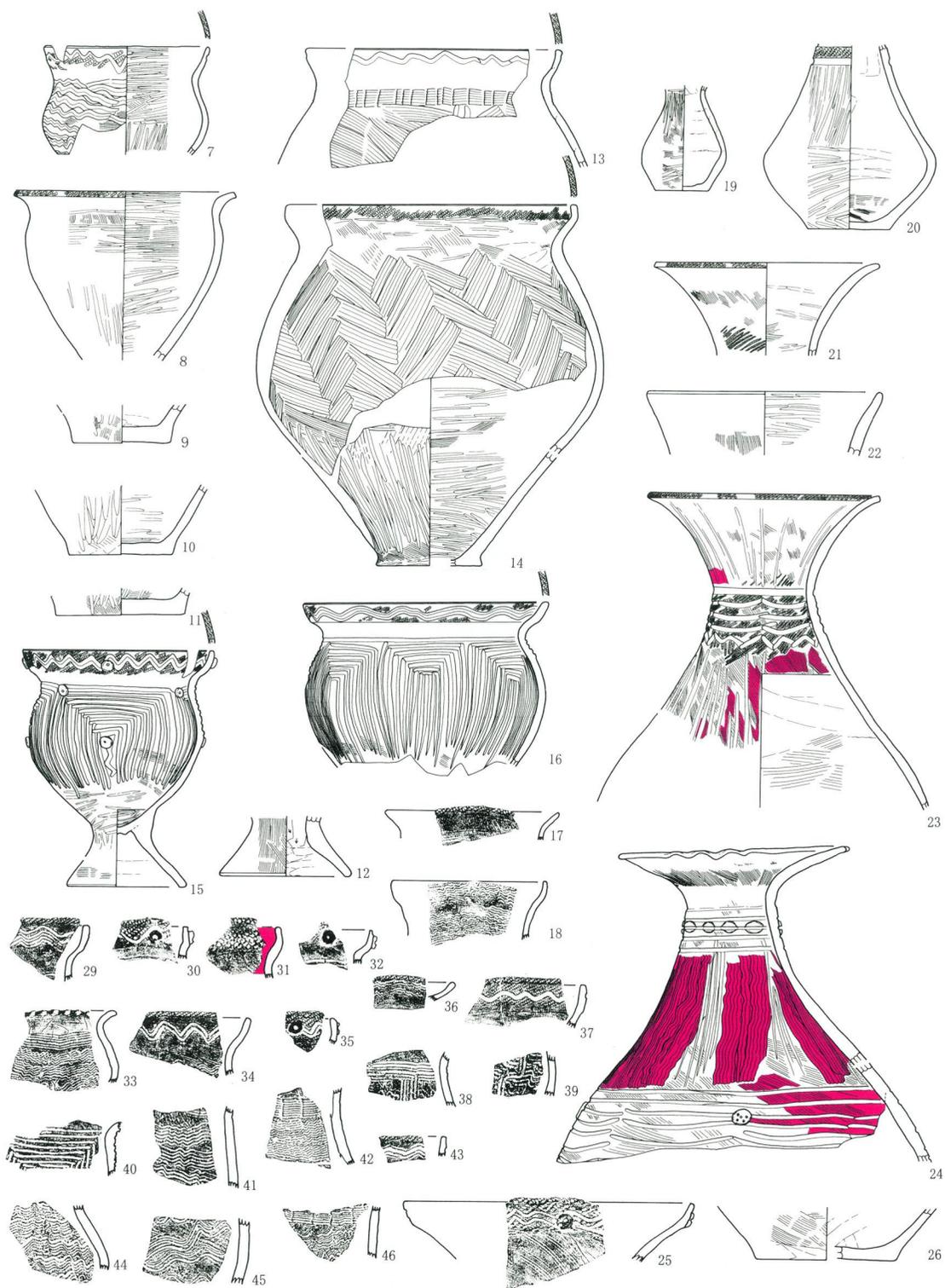
- H19土層説明
1. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
砂、小石を含む。
  2. 黒暗褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を含む。
  3. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
砂、小石を含む。
  4. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を多量に含む。(周溝)
  5. 明赤褐色土層 (5YR5/6)  
焼土。
  6. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
(伊堀方)
  7. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
(柱痕)
  8. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂主体。
  9. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(周溝堀方)
  10. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂に黒褐色土ブロックを含む。  
縮まりあり。(貼床)



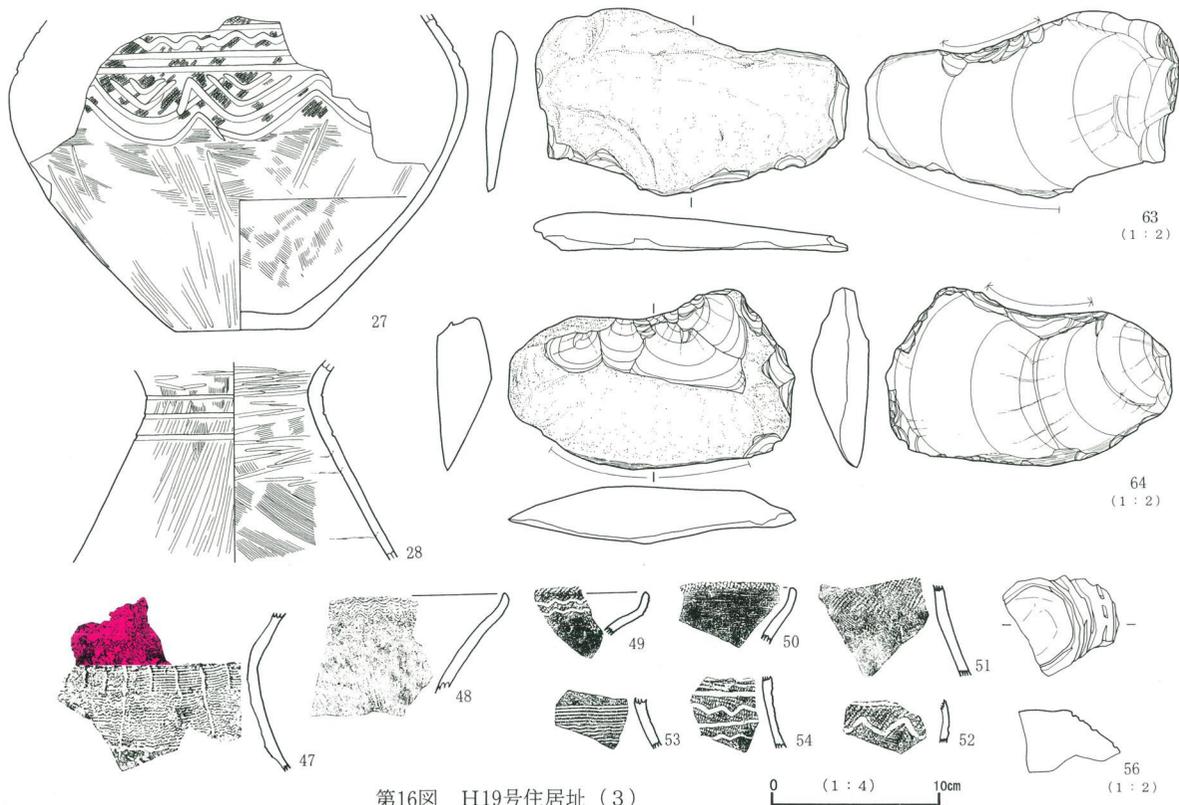
遺物出土状況 (南より)



第14図 H19号住居址 (1)



第15图 H19号住居址(2)



第16図 H19号住居址(3)

第7表 INP X H19号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(7.6) (3.4)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R3/4 (暗赤) 外 2.5YR3/2 (暗赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/4	
2	弥生鉢	(17.0) (6.3)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 口縁上端ミガキ 赤色塗彩 ミガキ	内 10R4/8 (赤) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/2	No.8
3	弥生甕	(18.2) (6.0) 9.4	内 ヘラナデ (楕目) →一部ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →一部ミガキ 底部ナデ	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR4/1 (褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	底部ほぼ完形 一孔	No.3
4	弥生器台	7.3 10.0 6.8	内 体部ミガキ 脚部ヘラナデ (楕目) ナデ→ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 口唇部スリ切り	内 脚 5YR6/6 (橙) 体部 5YR4/2 (灰褐) 外 7.5YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	完形 台付裏転用	No.1
5	弥生蓋	6.3 - (4.1)	内 つまみ部分ミガキ 体部ヘラナデ→ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR5/4 (にぶい褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁ほぼ完形	No.2
6	弥生高杯	- 4.2 (3.1)	内 胴部ミガキ 脚部ヘラナデ→ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ	内 杯部 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部ほぼ完形	
7	弥生甕	(11.9) - (7.8)	内 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) 口縁ヨコナデ 口唇部縄文 口辺部縄文→ヘラ描山形文 胴部縞 (ヘラ?) 描波状文	内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	細長石粒子多く含む、石英粒子含む。	口縁ほぼ完形	No.12 No.13
8	弥生甕	(16.0) - (12.2)	内 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 口唇部縄文	内 7.5YR6/3 (にぶい赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/3	検出 H21, H22 検出
9	弥生甕	- 7.0 (2.8)	内 ナデ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 底部ナデ	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	細長石粒子含む。 細石英粒子少し含む。	底部完形	検出
10	弥生甕	- (7.4) (5.0)	内 ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 底部ナデ 砂粒押し痕あり	内 7.5YR2/2 (黒褐) 外 7.5YR7/4 (褐)	~3mm 大長石・細石英粒子含む。	底部 3/4	
11	弥生甕	- 9.3 (1.9)	内 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 底部ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部完形	No.14
12	弥生台付甕	(9.4) (4.4)	内 ヘラけずり及びナデ 外 ヘラナデ (楕目)	内 5YR6/6 (橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石含む、まれに細石英粒子含む。	底部 1/4	
13	弥生甕	(18.4) (8.5)	内 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 外 口縁ヨコナデ 口唇部縄文 口縁部ヘラ描波状文 胴部縞描波状文 胴部縞描羽状文 へら描縦線文	内 7.5YR5/3 (にぶい褐) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/4	
14	弥生甕	(21.0) (7.6) (26.2)	内 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 口唇部・口縁部縄文 胴部縞描斜走文 (縦羽状)	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/3 底部 1/3 図上で合成	No.6 No.7 No.16

15	弥生 台付甕	13.7 (8.5) 17.1	内 外	胴部ミガキ 脚部ナデ 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ (柱目) 胴部下半→脚部ヘラナデ (柱目) →ミガキ 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描山形文 胴部ヘラ描「コ」の字重ね文 口縁・頸部・胴部 円形貼付文	内 2.5YR5/8 (明赤褐) 外 2.5YR5/8 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/3	No.15
16	弥生 台付甕	17.5 (12.5)	内 外	ナデ→ミガキ 口縁・頸部ナデ 胴部ヘラナデ (柱目) 文 口唇部縄文 口縁部縄文→帯描波状文 胴部ヘラ描「コ」の字重ね文	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 2/3	No.9 No.11
17	弥生 甕	(12.0) - (2.0)	内 外	ヨコナデ ヨコナデ 文 口唇部縄文	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	細石英・細長石を少量含む。	口縁 1/7	検出
18	弥生 甕	(11.2) - (4.2)	内 外	ミガキ ヨコナデ 文 口縁部帯描波状文 (5本組) 頸部帯描波状文 (単位不明)	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石を少量含む。	口縁 1/5	
19	弥生 壺	- 3.9 (7.6)	内 外	輪積値 ナデか? ヘラナデ (柱目) →ミガキ 底部ナデ 砂状の圧痕あり	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 口縁欠損のまま 使用か?	No.17
20	弥生 壺	- (6.0) (13.3)	内 外	ヘラナデ (柱目) ナデ 頸部縄文・頸部ヘラ描平行線文 胴部ミガキ	内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子多く含む。	底部 1/2 内面全体に ペンガラ付着。	検出
21	弥生 壺	(16.0) - (6.7)	内 外	ヘラナデ (柱目) ナデ→ミガキ 口縁ヨコナデ ヘラナデ (柱目) →口縁ヨコナデ 頸部・口唇部縄文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/6 (橙)		口縁 1/2	No.5 No.7
22	弥生 壺	(17.0) - (4.6)	内 外	ミガキ 口縁ヨコナデ→ヘラナデ (柱目)	内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/6	検出
23	弥生 壺	16.7 - (22.7)	内 外	口縁→頸部ヘラナデ (柱目) →ミガキ 胴部ナデ 胴部ヘラナデ (柱目) ナデ 文 口唇部縄文 頸部縄文→ヘラ描横線文・ヘラ描連弧文 ・ヘラ描山形文 一部赤色塗彩残る	内 口縁 7.5YR7/3 (にぶい橙) 胴部 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 5YR5/2 (灰褐)	細長石粒子多く含む、細石英含む。	口縁完形	No.9 No.11
24	弥生 壺	16.3 - (22.5)	内 外	口縁→頸部ヘラナデ (柱目) →ミガキ 胴部ヘラナデ (柱目) 口縁→頸部ヘラナデ (柱目) 胴部ヘラナデ (柱目) →ミガキ 口唇部3個1組の突起 頸部ヘラ描横線文・円形の貼付文→ヘラ描横線文 胴上部帯描懸垂文 胴中部ヘラ描横線文・ヘラ描連弧文・円形貼付文 ※部分的に赤色塗彩残る	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/2	No.4 No.15
25	弥生 壺	(20.8) - (4.2)	内 外	ヘラナデ (柱目) 後継いミガキ ヘラナデ (柱目) 口唇部縄文 口縁部縄文 帯描波状文 (2本1組) 貼付文	内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 10YR6/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石径 1mm 以下の 黒色粒子含む。	口縁 1/9	
26	弥生 壺	(10.2) - (3.8)	内 外	ナデ ヘラナデ (柱目) 体部下端ナデ 底部ナデ	内 7.5YR5/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細長石粒子多く、細石英粒子含む。	底部 1/3	検出
27	弥生 壺	- - (19.3)	内 外	ヘラナデ (柱目) →ミガキ ヘラナデ (柱目) →ミガキ 胴部縄文→ヘラ描横線文・ ヘラ描波状文・ヘラ描連弧文	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部完形	No.5
28	弥生 壺	- - (12.3)	内 外	ヘラナデ (柱目) →ミガキ ヘラナデ (柱目) →ミガキ→頸部ヘラ描横線文	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石粒子多く含む。	頸部 3/4	No.10
55	弥生 土製円板	1.7 0.5	内 外	ミガキ 赤色塗彩 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5R (赤) 外 7.5R (赤)	緻密。	完形。杯の二次 利用。カット面 にスリあり。	
56	弥生 壺?	- -	内 外	上面ナデ ヘラ状工具による沈線と押引文	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石粒子含む。	断片 壺ミニチュアか	

番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
57	太形蛤石弁	167.0	76.0	39.0	840.0	変質輝緑岩。刃部研磨。両側面に研磨による面取り整形。基部の厚みを整える剥離加工。器体直接研磨。	検出
58	磨製石鏃	23.0	19.0	2.0	1.0	緑色片岩。研磨。穿孔。	
59	二次加工剥片	18.0	48.0	4.0	3.7	頁岩。被熱なし。左側欠損。器体加工直接。	
60	砥石	84.0	43.0	14.0	60.0	砂岩。敲打痕あり。	覆土
61	台石	210.0	216.0	74.0	5000.0	安山岩。	No.20
62	台石	173.0	168.0	26.0	1020.0	安山岩。	No.19
63	擦切石器	58.3	95.8	12.0	61.8	頁岩。刃部横方向磨耗痕。器体上辺潰し加工。	検出
64	擦切石器	55.3	87.8	17.7	85.8	頁岩。刃部横方向磨耗痕。器体上辺潰し加工。	

住居址形態 1. 隅丸方形・2. 隅丸長方形 (矩形が強い)・3. 楕円形 A 住居址 - H28・H86・H19

甕・壺の口縁部の外反・外傾が強く平らに近く長い。口唇部に指頭の押圧痕が残る。甕の頸部文様の意識が薄い。

鉢・高杯の口縁・高杯の頸部に装飾がなされる。

4. 楕円形 B・5. 不整形方形 (円形に近い) H17・H25

壺・甕の口縁部形態の外反度が弱まり、外傾度が弱くなっている。

本遺跡の資料は重複関係から3段階の変遷がある。しかし、新しい資料であるH25は資料が少なく、比較できないが、4・5の楕円形Bと不整形方形住居址出土遺物には新しい傾向がみられ、おおむね新旧2段階を確認した。

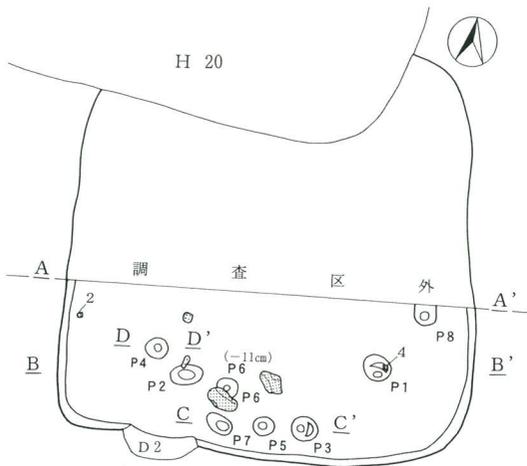
周辺の遺跡で調査された弥生中期の住居址の数は

本遺跡	西一本柳Ⅱ～ⅩⅡ	北西の久保	五里田	合計
34	53	91	20	198

これらの他に弥生中期としてプラン確認されている住居址があり、本遺跡の東では、西一本柳遺跡 I で弥生中期の住居址が多数検出されており、この西一本柳・北西の久保遺跡地点は弥生中期後半から集落が発生し、展開していた様子が窺える。

H28-17・H29-14の甕は関東北部からの搬入品と思われ、北西の久保遺跡でも同様の破片が出土している。

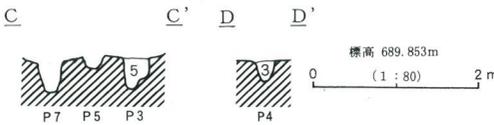
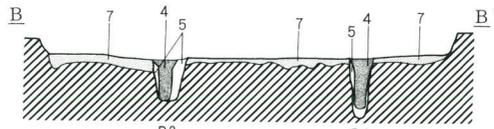
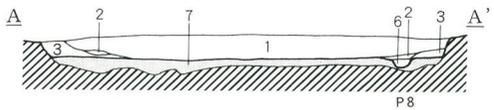
弥生中期の住居址から出土した炭化材 (ナラ材) を放射性炭素年代測定をした結果、H17は1950年から2240±70、H86は2320±70という年代が得られた。(P32に続く)



完掘 (南側 H22) (南より)



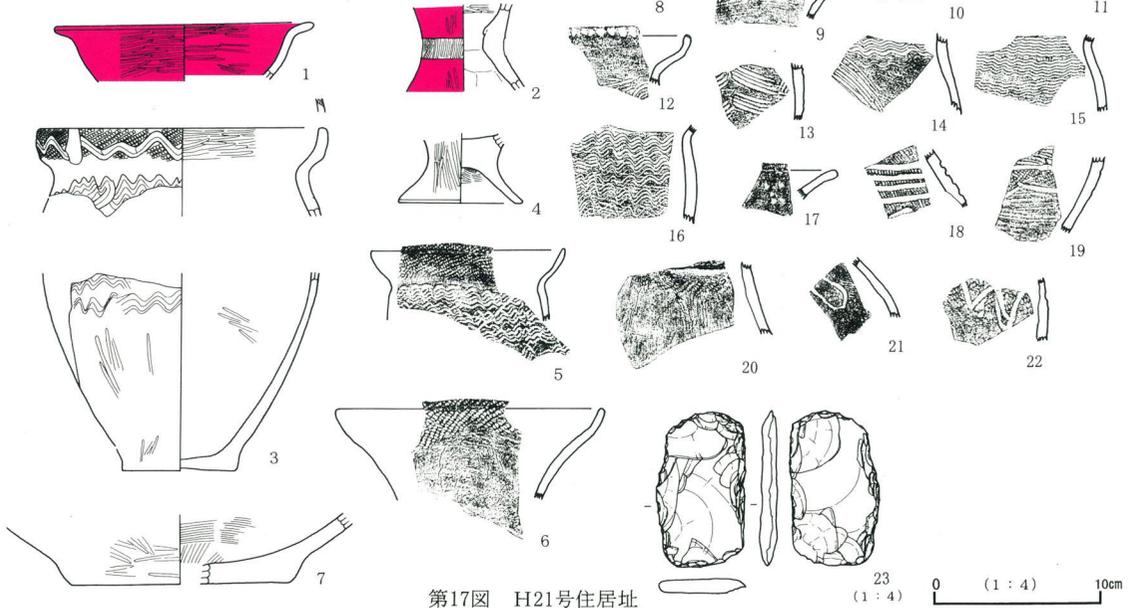
掘方 (南側)



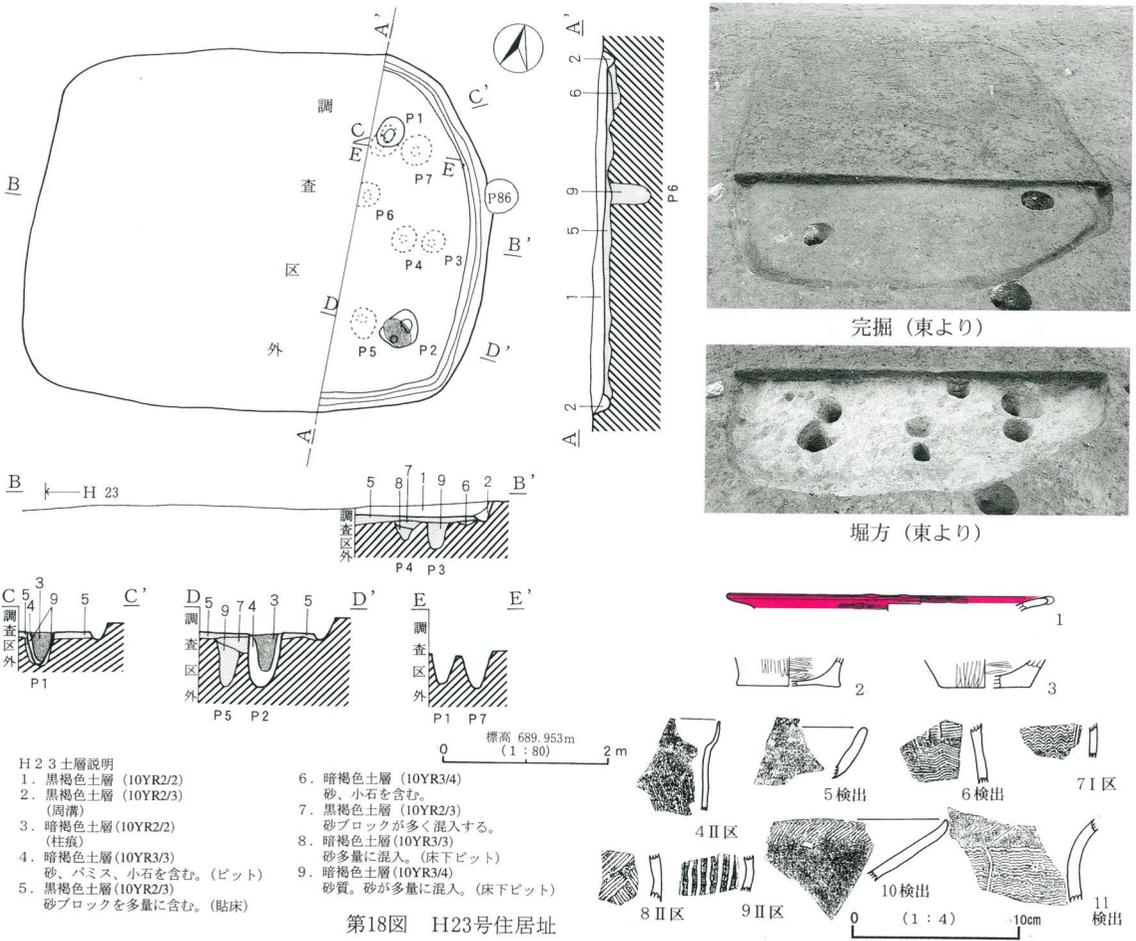
標高 689.853m  
(1:80) 2m

H21 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂をわずかに含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂を多量に含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂に黒褐色土を含む。(P8)
7. 黒褐色土 (10YR2/3) と 暗褐色土ブロック (10YR3/4) 混在。(貼床)



第17図 H21号住居址

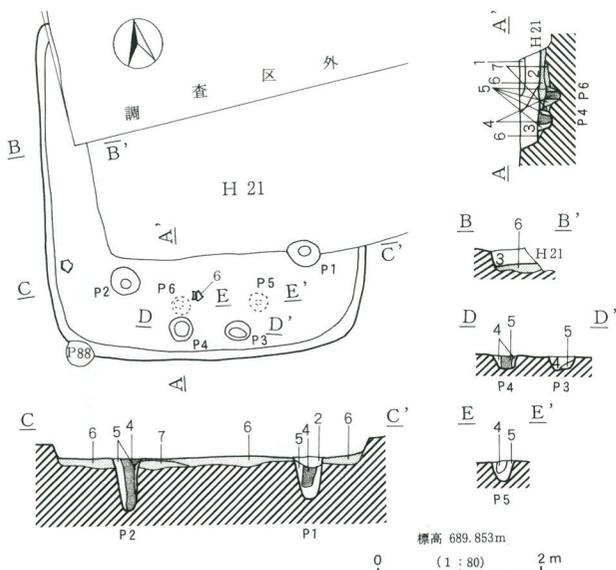


第8表 INP X H21号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調		胎土	残存・備考	出土位置
				内	外			
1	弥生高杯	(15.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤)	外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/7 回転実測	
2	弥生脚付深鉢	(3.5)	内 体部ミガキ ヘラナデ 脚部ヘラナデ 外 ミガキ 赤色塗彩 突帯の剥落部ヘラナデ (柱目)	内 7.5YR7/4 (にぶい橙)	外 10R4/6 (赤)	細長石粒子含む。	完全実測	No.2
3	弥生甕	(17.8)	内 ミガキ 外 口唇部縄文 口縁部縄文→櫛溝波状文 (2本) 胴上部櫛溝波状文	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR3/1 (黒褐)	外 10R4/6 (赤)	~1mm 大砂粒、雲母、細長石・細石英含む。	口縁1/3 底部完形 回転実測	
4	弥生台付甕	(7.0)	内 脚部ヘラナデ (柱目) ヨコナデ 胴部ミガキ 外 ミガキ ヨコナデ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	外 10R4/6 (赤)	細長石・細石英含む。	脚部ほぼ完形 完全実測	No.1
5	弥生甕	(11.8)	内 ミガキ 外 ヨコナデ 文 口唇部・口縁部縄文 胴部櫛溝波状文 (単位不明)	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)	外 10R4/6 (赤)	細石英、細長石径1mm以下の黒色粒子含む。	口縁1/7	H22 検出
6	弥生壺	(17.8)	内 ミガキ 外 ミガキ 文 口唇部・口縁部縄文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	外 10R4/6 (赤)	径1mm以下の長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。	口縁1/10	
7	弥生壺	(13.2)	内 ヘラナデ (柱目) 外 ミガキ	内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/6 (橙)	外 10R4/6 (赤)	細石英粒子~1mm 大赤色粒子含む。	底部1/2 回転実測	H22 検出
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	径	備考		出土位置
23	扁平片刃石斧	95.0	54.0	9.0	83.0	未製品。蛇紋岩、刃部直接加工、器体直接加工。縁刃剥離加工で整形途上。		

第9表 INP X H23号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調		胎土	残存・備考	出土位置
				内	外			
1	弥生鉢	(19.6)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤)	外 10R4/6 (赤)	緻密。	口縁1/6 回転実測	検出
2	弥生甕	(6.4)	内 ヘラナデ→ミガキ 外 ミガキ	内 2.5YR3/1 (暗赤褐) 外 2.5YR5/3 (にぶい赤褐)	外 10R4/6 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	底部1/4 回転実測	I区
3	弥生甕	(5.6)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	外 10R4/6 (赤)	~1mm 大砂粒含む。	底部1/4 回転実測	検出



H22土層説明

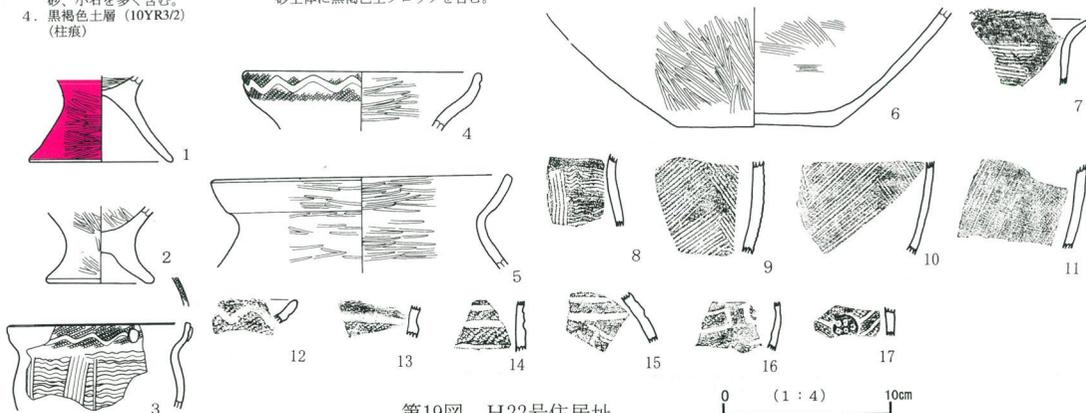
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、小石を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、小石を多く含む。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
(柱痕)
5. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂主体。
6. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、小石を含む。(貼床)
7. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂主体に黒褐色土ブロックを含む。



完掘 (南より)



堀方 (南より)

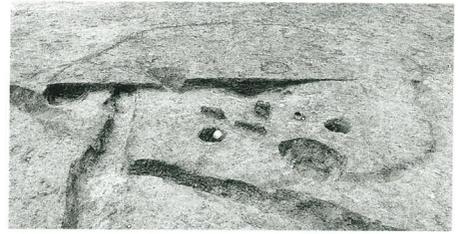
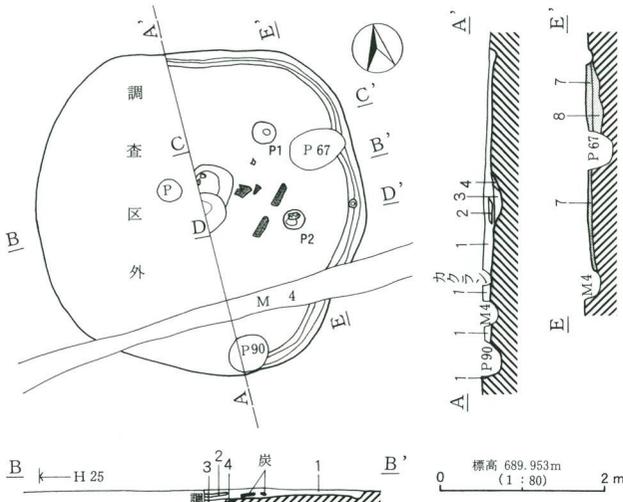


第19図 H22号住居址

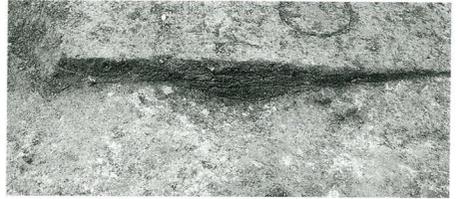
0 (1:4) 10cm

第10表 INP X H22号住居址出土遺物一覧表

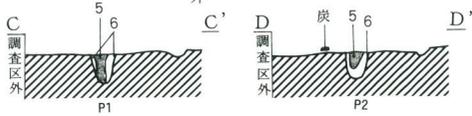
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生高杯	- (8.8) (5.3)	内 杯部ミガキ 脚部ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 脚 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 10R4/8 (赤)	細長石多く含む、細石英少量含む。	脚部4/5 完全実測	Ⅲ区出土
2	弥生台付甕	(6.6) (4.8)	内 ミガキ 脚部ナデ 外 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細長石多く含む、細石英含む。	脚部1/2 回転実測	Ⅲ区
3	弥生甕	(11.2) (5.3)	内 ヘラミガキ 外 口縁部縄文 口縁部縄文→ヘラ描山形文 円形貼付 体部彫削波状文・櫛歯垂下文	内 2.5YR2/1 (赤黒) 外 10R5/6 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	Ⅲ区3層
4	弥生壺	(14.6) (3.6)	内 ミガキ 外 口縁縄文 ヘラ描山形文 一部赤色塗彩?	内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁2/3 回転実測	Ⅲ区3層
5	弥生甕	(18.4) (5.9)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	Ⅱ区2層
6	弥生壺	9.8 (7.3)	内 ヘラナデ 外 ミガキ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	No.2 Ⅱ区地方 Ⅲ区3層 H21



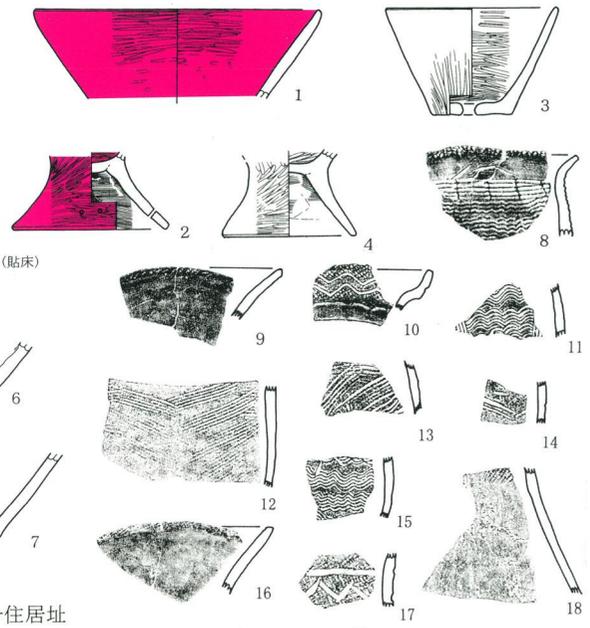
完掘（東より）



炉（東より）



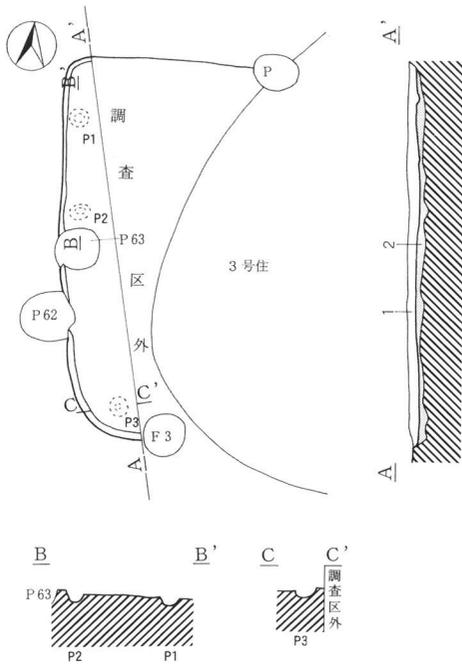
- H25土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂・小石・炭化材を含む。
  2. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 焼土粒子を多量に含む。
  3. 黒色土層 (10YR1.7/1) 炭化物・焼土粒子を含む。
  4. にぶい褐色土層 (7.5YR5/4) 焼土粒子を含む。(旧炉)
  5. 暗褐色土層 (10YR3/3) (柱痕)
  6. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂主体。(ピット壁方)
  7. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂ブロックを含む。縮まりあり。(貼床)
  8. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。



第20図 H25号住居址

第11表 INP X H25号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(17.6)	内 ミガキ 赤色塗彩 (下半部剥落) 外 ミガキ 赤色塗彩 (下半部剥落)	内 7.5R4/8 (赤) 外 7.5R4/6 (赤)	まれに1mm 大白色粒子含む。 細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8	検出
2	弥生台付鉢	9.6 (4.8)	内 鉢部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ (榎目) →赤色顔料付着 外 ミガキ 赤色塗彩	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 10R4/8 (赤)	緻密。	底部完形 2個1組の穿孔が 2カ所にある。	No.1
3	弥生甌	(10.6) (5.0) 6.6	内 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 外 ミガキ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 7.5YR4/1 (褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 一孔 孔径 (1.0)	Ⅱ区検出
4	弥生台付甌	8.2 (5.3)	内 胴部ミガキ 脚部ヘラナデ (榎目) ナデ 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	緻密。	底部完形	No.2
5	弥生台付甌	12.5 6.5 15.4	内 胴部ヘラナデ (榎目) →ミガキ 脚部ナデ ヘラナデ (榎目) →ミガキ 口縁ヨコナデ 外 口唇部縄文 口縁部縞 (ヘラ?) 描波状文 胴部ヘラ描『コ』の字重ね文	内 7.5YR7/3 (橙) 外 7.5YR7/4 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁4/5	検出 Ⅰ区 P1
6	弥生壺	(10.2) (4.3)	内 器面剥落 外 ミガキ 体部下端ヘラズリ 底部ヘラズリ→ナデか?	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部3/5	Ⅰ区
7	弥生壺	(12.2) (5.8)	内 ヘラナデ (榎目) 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 底部周辺ヘラナデ	内 7.5YR5/4 (褐灰) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部1/4	Ⅰ区 検出 炉



H24土層説明  
 1. 黒褐色土層(10YR2/3)  
 砂、小石を含む。  
 2. 暗褐色土層(10YR3/3)  
 砂、小石を多量に含む。(貼床)



完掘 (西より)

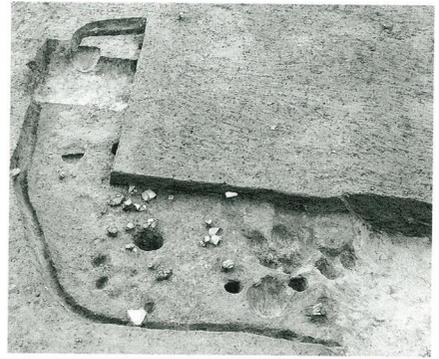
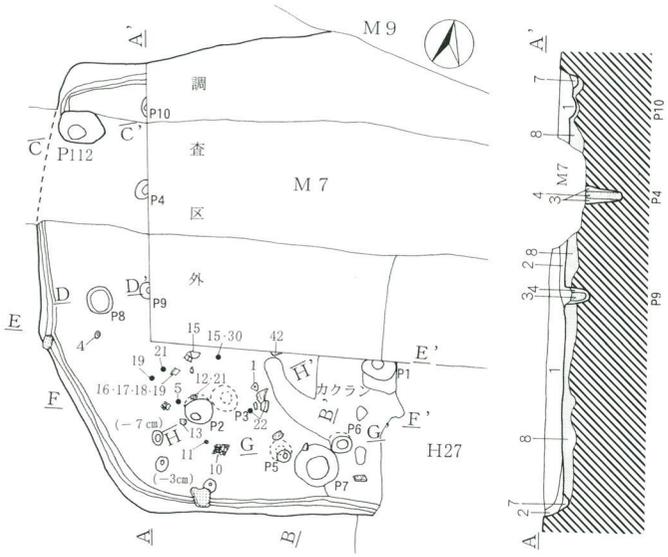


堀方 (西より)

第21図 H24号住居址

第12表 INP X H28号住居址出土物一覧表

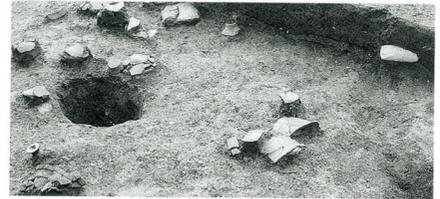
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 蓋	(9.2) - 3.7	内 ミガキ 外 ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	口径 3/8 完全実測	No.15
2	弥生 高杯	- 6.0 (1.8)	内 脚部ナデ 外 ミガキ(雑) 赤色塗彩 (ハケ塗り)	内 5YR4/2 (灰褐) 外 10R5/6 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/1 完全実測 剥離した面も赤い	トレンチ
3	弥生 土製円板?	(1.7) (8.6) (2.5)	内 ミガキ 赤色塗彩 凹部ヘラナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 外 7.5R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/2 回転実測 外周摩滅 用途器種不明	トレンチ
4	弥生 高杯	- 6.7 (4.3)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ(柾目) ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/6 (赤) 5YR7/3 (にぶい橙) 外 10R5/6 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	底部 3/4 完全実測	No.1
5	弥生 甌	(11.8) (3.8) 6.6	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 口唇部縄文 (孔径 0.8)	内 10R3/2 (暗赤褐) 外 10R3/2 (暗赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/3 回転実測 一孔施成後せん孔 孔径 (0.8)	No.10 トレンチ II区
6	弥生 鉢	(19.2) - (2.4)	内 ミガキ 赤色塗彩 (剥落) 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6 (赤) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	II区
7	弥生 鉢?	(13.5) - (5.5)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	II区
8	弥生 鉢	(8.5) (1.9)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 10R5/4 (赤褐) 外 10R6/4 (にぶい赤褐) 底 10R7/4 (にぶい黄橙)		底部 1/2 回転実測	II区
9	弥生 台付甕	- (9.2) (5.4)	内 胴部ミガキ 脚部ヘラナデ(柾目) 外 ヘラナデ(柾目) ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測	トレンチ
10	弥生 甕	12.6 - (8.2)	内 ミガキ 外 口唇・口縁部縄文→ヘラ描山形文2本 胴部縄文→ヘラ描『コ』の字重ね文	内 7.5YR4/2 (灰褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/1 完全実測	No.13
11	弥生 台付甕	- 4.8 (3.6)	内 杯部ミガキ 脚部ナデ 外 ヘラナデ(柾目) ミガキ	内 体部 5YR4/1 (褐灰) 脚部 7.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR5/8 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/1 完全実測	No.12
12	弥生 甕	- 5.4 (5.1)	内 ナデ ミガキ 外 ヘラナデ 底部ヘラナデ	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	0.5mm 大砂粒・細長石・細石英粒子含む。	底部 1/1 完全実測	No.11
13	弥生 甕	- (7.8) (6.2)	内 ミガキ 外 ミガキ 底部ミガキ	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	0.5mm 大砂粒細長石・細石英粒子含む。	底部 3/8 回転実測	No.9
14	弥生 壺	(9.6) (2.6)	内 ヘラナデ(柾目) 外 ミガキ 赤色塗彩 底部磨耗	内 2.5YR1.7/1 (黒) 外 2.5YR3/4 (暗赤褐) 底 2.5YR3/1 (暗赤褐)	~ 0.5mm 大細長石粒子多量に含む。 細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測	II区



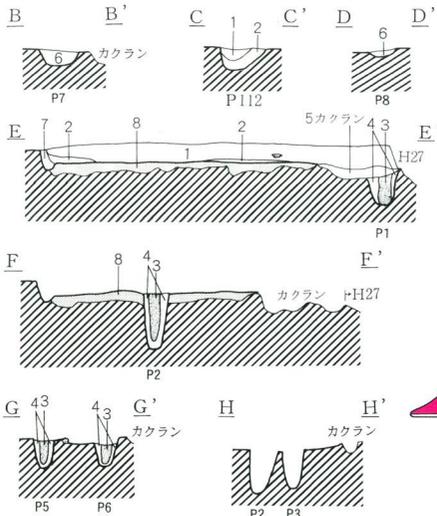
完掘 (南より)



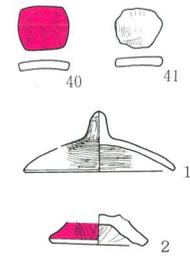
堀方 (南より)



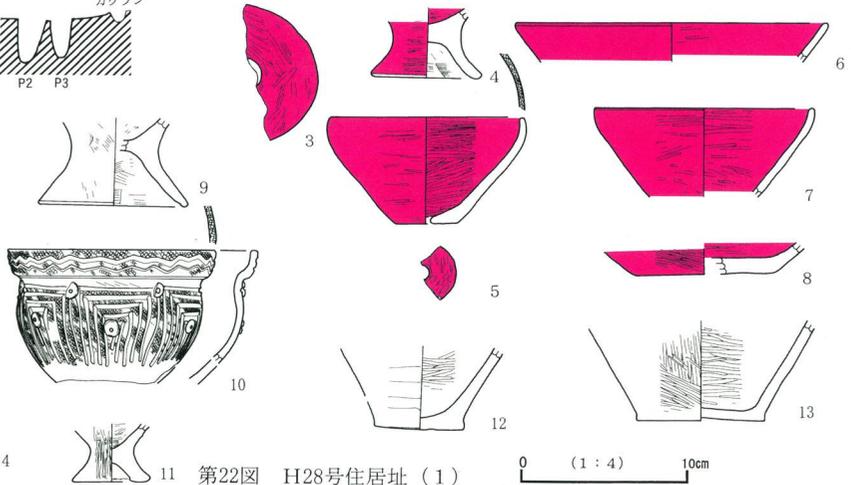
遺物出土状況 (南より)



標高 689.653m  
0 1 2 m  
(1 : 80)

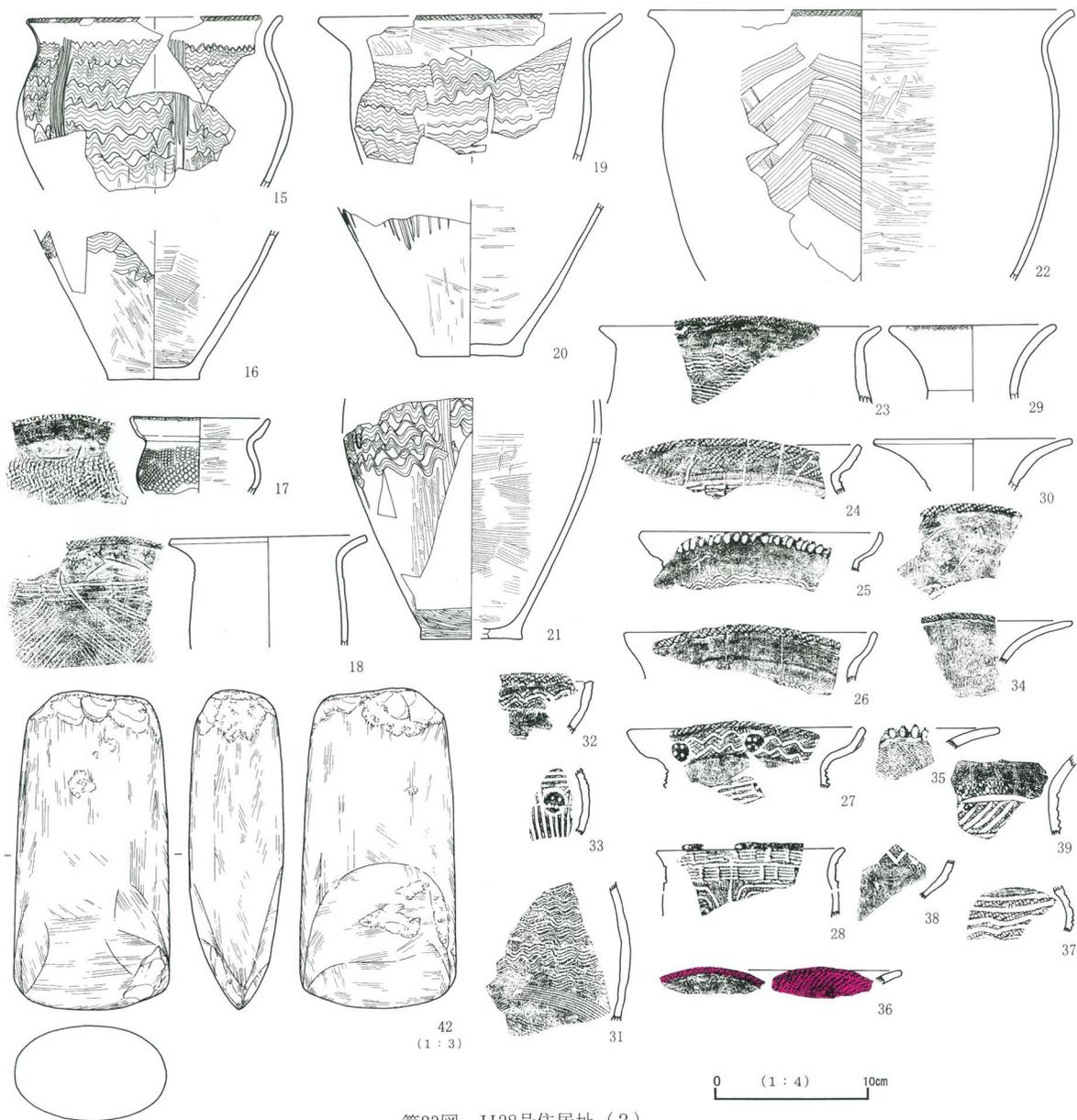


- H 2 8 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
パミス、小石を少量含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
パミス、砂を微量に含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
(柱痕)
  4. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を多量に含む。
  5. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
カクラン。(狸穴か)
  6. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂を含む。
  7. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂を多量に含む。(周溝)
  8. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を多量に含む。(堀方)



第22図 H28号住居址 (1)

0 (1 : 4) 10cm



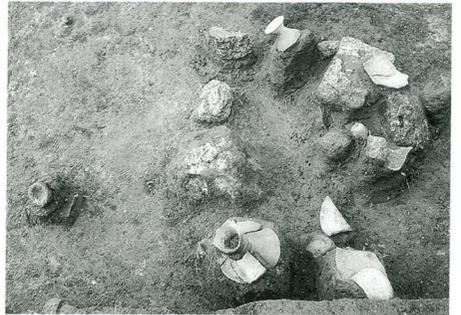
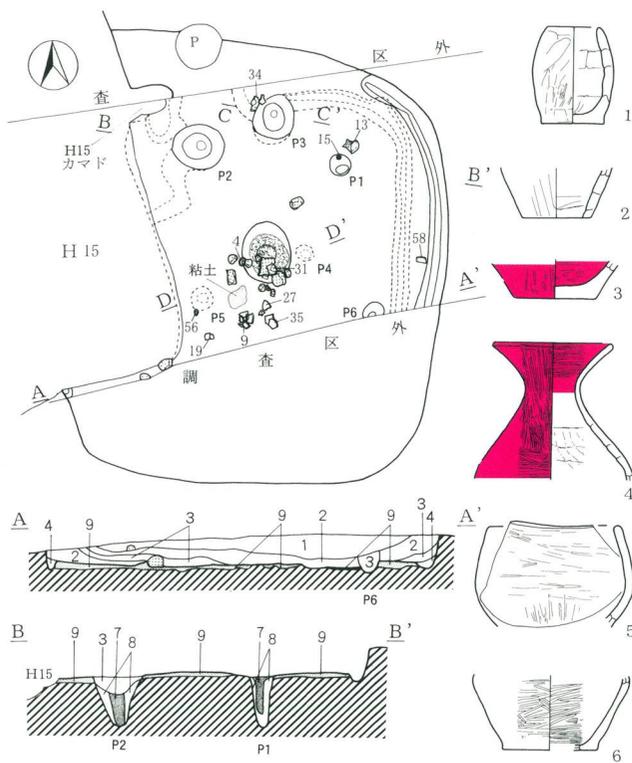
第23図 H28号住居址 (2)

15	弥生 甕	(17.0) - (11.5)	内 ヘラナデ (柾目) ミガキ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→口唇部縄文 体部櫛波状文 櫛波縦線文	内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子多く含む。	口縁 3/8 回転実測	No.3 No.4 トレンチ Ⅲ区
16	弥生 甕	- 6.2 (10.0)	内 ヘラナデ (柾目) ミガキ 外 ヘラナデ (柾目) →櫛波状文→ミガキ 底部ヘラケズリ→ミガキ	内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	0.5mm 大の長石・石英粒子多く含む。	口縁完形 底部 1/2 完全実測	No.5 Ⅱ・Ⅲ区・トレンチ
17	弥生 小型甕	(9.4) - (5.1)	内 ミガキ 口唇部縄文 外 体部縄文 ナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子多く含む。	口縁 1/2 回転実測	トレンチ P2 Ⅱ区 Ⅲ区 No.5
18	弥生 甕	(13.2) - (7.4)	内 ナデ (柾目) →ミガキ 外 口唇部縄文 体部ヘラナデ (柾目) →櫛波状文 →櫛波羽状文 (縦)	内 7.5YR7/2 (明褐灰) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/8 回転実測	No.5
19	弥生 甕	(10.3) - (9.9)	内 ヘラナデ→ミガキ 外 口縁ヘラナデ (柾目) →ミガキ 口唇部縄文 胴部櫛波状文	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR1.7/1 (黒) 7.5YR5/2 (灰褐) 7.5YR1.7/1 (黒)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/8 回転実測 波状文下から上に施文 口唇部逆にして施文。	No.5 No.7 Ⅲ区
20	弥生 甕	- (7.0) (10.3)	内 ミガキ 外 ヘラナデ (柾目) →ヘラ描『コ』の字重ね文→ミガキ 底部ヘラケズリ	内 7.5YR5/4 (にぶい黒) 外 7.5YR5/4 (にぶい黒)	0.5mm 大砂粒、細長石・細石英 粒子含む。	底部 3/8 回転実測	Ⅱ区 Ⅲ区 トレンチ

21	弥生 甕	(6.8) - (16.2)	内 外	ヘラナデ (楕目) わずかにミガキ 口縁部縄文 体部ヘラナデ (楕目) 縹縹線文 ミガキ 底部ミガキ	内 外	10YR7/3 (にぶい橙) 10YR1.7/1 (黒) 10YR7/3 (にぶい黄橙) 10YR1.7/1 (黒)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/2 回転実測 薄手	No.6 No.11
22	弥生 甕	(28.4) - (18.1)	内 外	ヘラナデ (楕目) →ミガキ 口縁部縄文 体部ヘラナデ (楕目) ナデ 縹縹斜走 (羽状) 文	内 外	10YR7/3 (にぶい黄橙) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	0.5mm 大砂粒, 細長石・細石英 粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	No.14
23	弥生 甕	(18.8) - (5.2)	内 外	ミガキ 口唇部縄文 頸部縹縹波状文 (単位不明) 縹縹斜走文 (単位不明)	内 外	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/6	P6
24	弥生 甕	(20.2) - (3.4)	内 外	ミガキ ココナデ 口唇部縄文 口縁部縄文 頸部縹縹波状文	内 外	10YR7/3 (にぶい黄橙) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	径 1mm 以下の長石・細石英含む。	口縁 1/5	Ⅱ区トレンチ
25	弥生 甕	(17.0) - (2.6)	内 外	ミガキ 口縁ココナデ 口唇部刺突文 頸部縹縹波状文 (単位不明)	内 外	7.5YR6/3 (にぶい黄橙) 7.5YR5/2・7/4 (灰褐・にぶい橙)	細長石・細石英含む。	口縁 1/6	No.2
26	弥生 甕	(17.2) - (3.4)	内 外	口縁ココナデ 胴部ミガキ ミガキ 口唇部縄文 胴部縹縹波状文 (単位不明)	内 外	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	径 1mm 以下の長石・細石英 赤褐色粒子, 細石英含む。	口縁 1/4	Ⅱ区
27	弥生 甕	(15.8) - (4.0)	内 外	ミガキ ミガキ 口唇部縄文 口縁部縄文 ヘラ楕山形文 貼付文 頸部縹縹波状文 (単位不明)	内 外	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/5	Ⅱ区トレンチ
28	弥生 甕	(12.6) - (4.6)	内 外	ミガキ 口縁部縹縹波状文 (1 連走・4 本組) 頸部ヘラによる文様	内 外	7.5YR6/3 (にぶい黄橙) 7.5YR5/1 (褐灰)	1mm 以下の長石・細石英含む。	口縁 1/5	トレンチ
29	弥生 壺	(11.2) - (5.0)	内 外	ナデ 口縁部縄文 頸部ヘラ縹縹線文	内 外	10YR7/4 (にぶい黄橙) 10YR5/2 (灰黄褐)	細長石・細石英粒子多く含む。	口縁 1/6 回転実測	Ⅱ区
30	弥生 壺	(13.2) - (3.5)	内 外	ミガキ 口縁部縄文 頸部縄文→ヘラ縹縹線文 ミガキ	内 外	7.5YR5/4 (にぶい黄橙) 7.5YR5/3 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子多く含む。	口縁 1/8 回転実測	No.4
36	弥生 壺	(15.0) - (0.9)	内 外	ミガキ 口縁部縄文 ミガキ 口唇部縄文	内 外	10YR6/2 (灰黄褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	径 2mm 以下の赤色粒子・細石英 ・細長石含む。	口縁 1/6	Ⅱ区
40	弥生 土板	2.8 3.1 0.55	内 外	ミガキ 赤色塗彩 ミガキ 赤色塗彩	内	7.5YR4/6 (赤) 10R4/4 (赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	破片 端部スリ 杯転用	Ⅲ区
41	弥生 土板	2.5 2.9 0.6	内 外	ナデ ヘラナデ (楕目)	内 外	5YR6/6 (橙) 5YR6/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	破片 壺、甕転用。	Ⅱ区
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考			出土位置
42	太形蛤石斧	158.0	78.0	47.0	1050.0	変質輝緑岩。完形。刃部線状痕・研磨、器体研磨。刃縁は研ぎ直しされている。 刃部両側面に研磨による面取り整形。			No.16

第 13 表 INP X H 29 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 小壺	(3.2) - (3.9) (6.0)	内 ナデ ヘンガラ付着 外 ヘラナデ ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/2 回転実測 手捏	I 区
2	弥生 甕	(3.0) - (4.2)	内 ナデ 外 ヘラナデ 孔部は擦り切りか。	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	脚部 1/4 回転実測 下端を擦っている。再利用	I 区
3	弥生 鉢	- 4.9 (2.4)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/4 (赤褐) 底 5YR7/4 (にぶい橙)	まれに 1mm 大砂粒含む。	底部 1/1 完全実測	サブトレンチ
4	弥生 壺	7.4 - 8.4	内 ナデ→口縁ミガキ 赤色塗彩 体部ヘラナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 体部 7.5R7/4 (にぶい橙) 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。 緻密。	口縁 1/1 完全実測	No.5
5	弥生 片口付鉢	(8.0) - (6.2)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR6/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測 6 と同個体か	I 区
6	弥生 壺	(5.8) - (4.6)	内 ベンガラ付着 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英粒子含む。緻密。	底部 3/4 回転実測	サブトレンチ
7	弥生 高杯	(17.2) - (6.1)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/6 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 3/8 回転実測 口縁突起あり。	サブトレンチ 1 区 A 区 9
8	弥生 深鉢	(19.2) - (6.4)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 下部はミガキのみか	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/1 完全実測	I 区
9	弥生 壺	12.9 - (15.9)	内 胴部ナデ ヘラナデ 口縁部ミガキ 赤色塗彩 外 口縁・口唇部縄文→ヘラ縹縹波状文 頸部縄文→ヘラ縹縹線文→ミガキ赤色塗彩 胴中位ヘラ縹縹線文	内 10R4/8 (赤) 外 胴部 7.5YR7/3 (にぶい黄橙) 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 7/8 完全実測 口唇部剥落あり 壺を器台に再利用か?	No.1 サブトレンチ
10	弥生 壺	(16.4) - (3.9)	内 ミガキ 外 口唇部縄文・口縁部縄文→ヘラ縹縹波状文	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 5/16 回転実測	T103
11	弥生 壺	(15.8) - (6.1)	内 ミガキ 外 ミガキ 口唇部縄文	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	No.2
12	弥生 壺	(18.8) - (8.8)	内 ミガキ 外 口縁縄文→ヘラ楕山形文 (3 本) ミガキ 頸部縄文→ヘラ縹縹線文 (3 本)	内 7.5YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	頸部 1/3 回転実測	I 区
13	弥生 壺	13.6 - (11.5)	内 ミガキ 外 口唇部縄文 頸部縄文→ヘラ縹縹線文 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/1 完全実測	No.7
14	弥生 甕	(22.4) - (11.9)	内 ミガキ 外 口縁ココナデ→口唇部縄文 頸部縹縹線文 3 本 体部縄文→縹縹波状文	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR4/3 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	I 区
15	弥生 甕	(18.6) - (11.4)	内 ミガキ 外 口縁ココナデ→口唇部縄文 体部縹縹波状文→縹縹線文→縹縹波状文 下部ミガキ	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR6/3 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/2 回転実測 内面赤付着	I 区 検出南 No.8

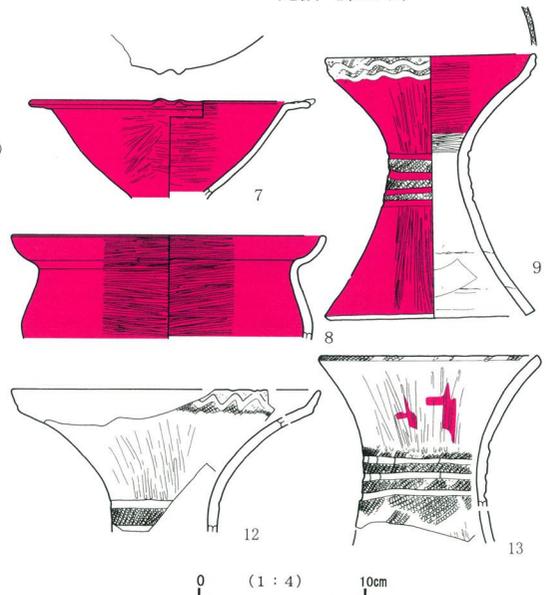
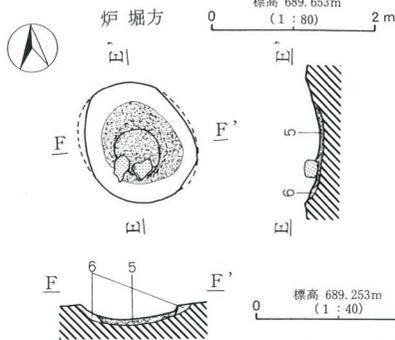


遺物出土状況 (南より)



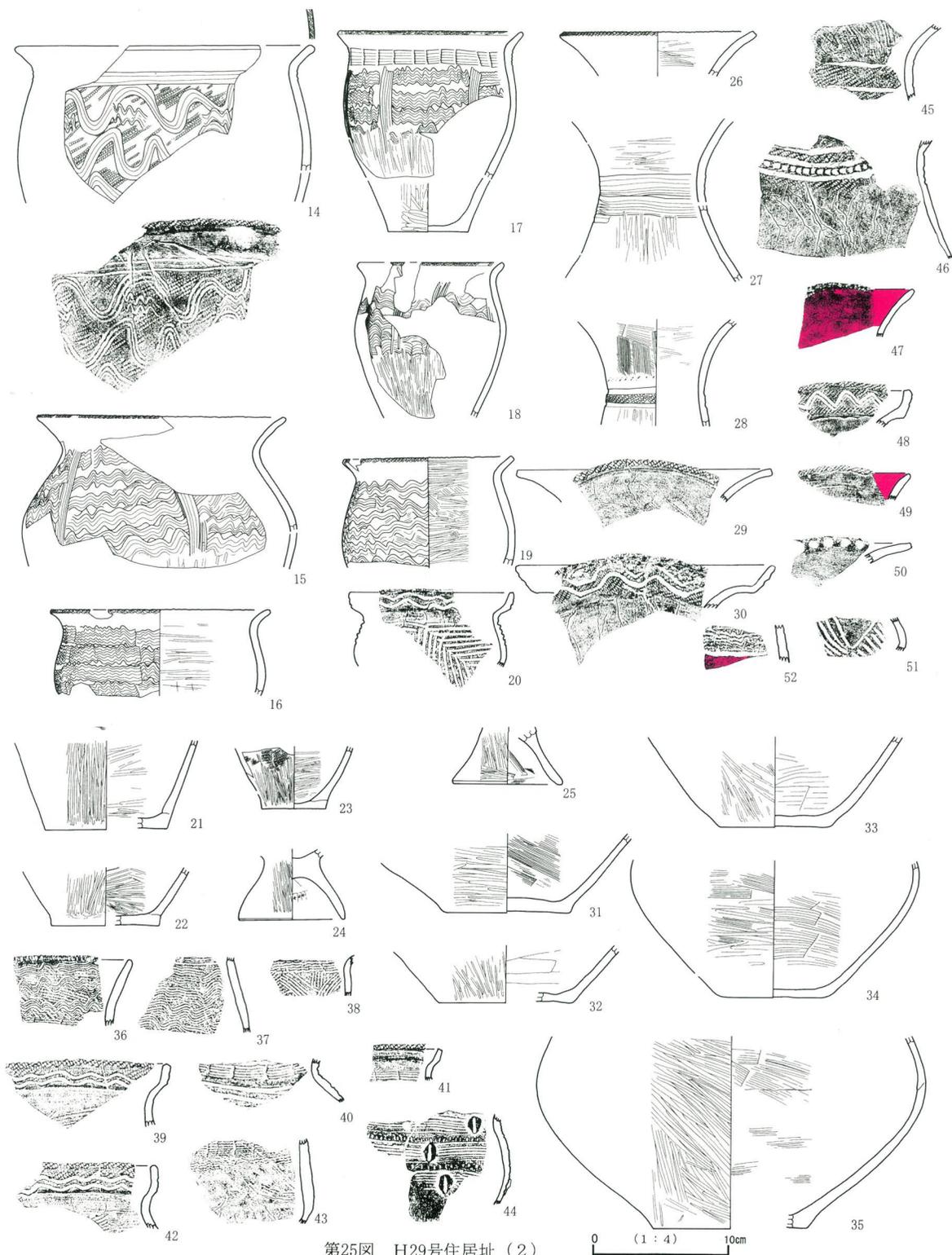
完掘 (東より)

- H29 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
1層より明るく、砂を多く含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂を少量含む。
  4. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂を含む。(周溝)
  5. 赤褐色土層 (5YR4/6)  
埴土。
  6. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)  
(炉堀方)
  7. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(柱痕)
  8. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)  
(ピット堀方)
  9. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、多量に含む。(貼床)
  10. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
(床下柱痕)
  11. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。(床下ピット)

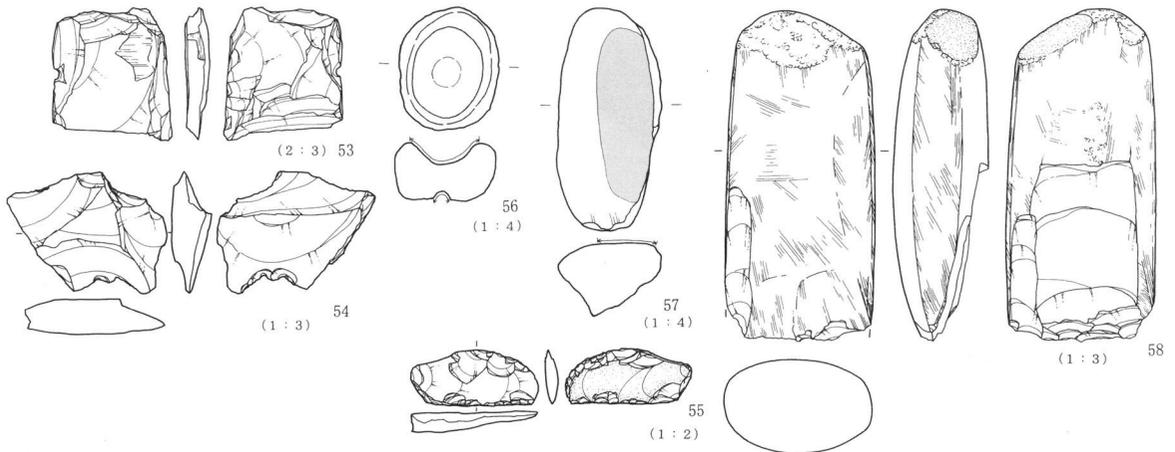


炉 (南より)

第24図 H29号住居址 (1)

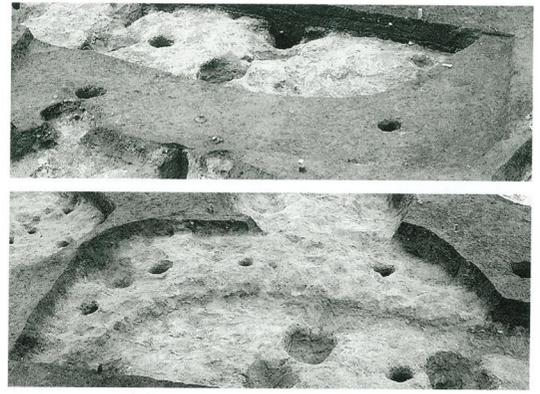
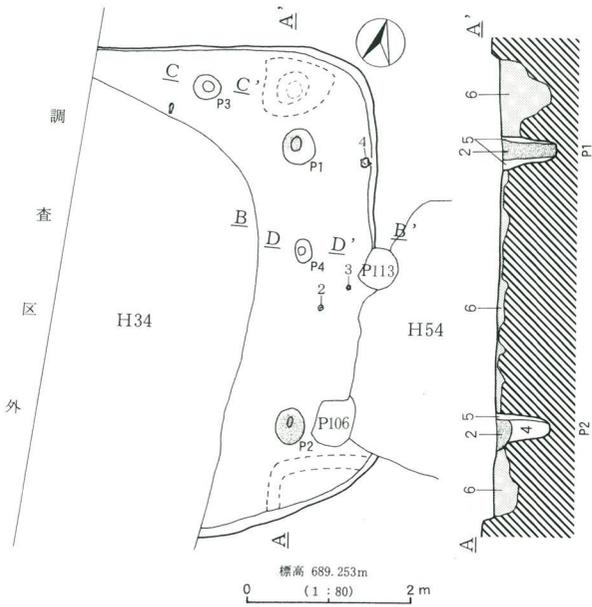


第25图 H29号住居址(2)

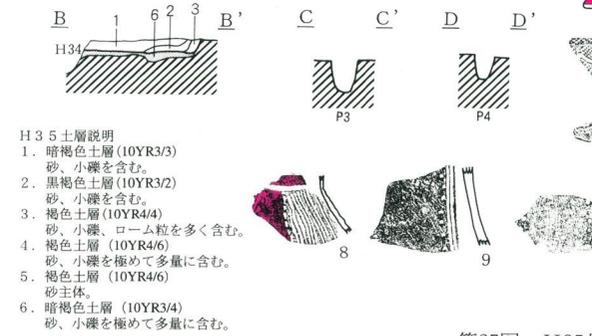


第26図 H29号住居址 (3)

16	弥生 鏝	(16.4) (6.4)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ→口唇部縄文 体部櫛描波状文	内 7.5YR5/1 (褐灰) 外 7.5YR5/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 3/8 回転実測	I区 サブトレンチ
17	弥生 鏝	(13.9) 6.0 (15.1)	内 ミガキ 外 口唇部縄文 頸部櫛描縹文→体部櫛描波状文→ 櫛描縹文 下部→ミガキ	内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/2 底部 1/1 回転実測	I区
18	弥生 鏝	(11.0) -	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ→口唇部縄文 体部櫛描波状文→櫛描縹文→体部下半ミガキ	内 7.5YR5/3 (にぶい橙) 外 7.5YR3/1 (黒褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	I区
19	弥生 鏝	(12.8) -	内 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 外 口縁ヨコナデ→体部櫛描波状文 (4本) 口唇部縄文	内 10YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	No.4
20	弥生 鏝	(12.4) -	内 ミガキ 外 ヘラナデ (榎目) 文 口唇部縄文 口縁部ヘラ描波状文 胴部ヘラ描「コ」の字重文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/7	I区
21	弥生 鏝	(9.2) (6.6)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 5YR4/3 (にぶい赤褐) 外 5YR5/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/6 回転実測	I区
22	弥生 鏝	(8.0) (4.4)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/2 回転実測 内面スス	I区
23	弥生 鏝	4.8 (4.7)	内 ミガキ 外 縄文→ミガキ	内 7.5YR (灰褐) 外 7.5R2/1 (赤灰)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/1 完全実測	I区
24	弥生 台付鏝	(8.0) (5.3)	内 杯部ナデ 脚部ヘラケズリ、ナデ 外 ミガキ	内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/6 回転実測	I区
25	弥生 台付鏝 (脚)	(8.2) (4.3)	内 ヘラナデ (榎目) 外 ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部 5/6 回転実測	I区
26	弥生 壺	(14.8) -	内 ナデ→ミガキ 外 口縁ヨコナデ→口唇部縄文	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 3/8 回転実測	I区
27	弥生 壺	-	内 ナデ→上部ミガキ 外 頸部櫛描縹文 (6本) →ミガキ	内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	細砂粒含む。	首部 1/1 完全実測	No.3 I区 II区2層
28	弥生 壺	-	内 ヘラナデ→ミガキ 外 ヘラナデ (榎目) →頸部縄文→ヘラ描平行線文→ミガキ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	首部 3/4 回転実測	サブトレンチ 検出
29	弥生 壺	(19.2) (2.4)	内 ミガキ 外 ヨコナデ後ヘラナデ (榎目) 口唇部縄文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	10YR1/5	I区
30	弥生 壺	(19.4) (3.2)	内 ミガキ 外 ミガキ 口唇部剝離のため判別不能 口縁部縄文 ヘラ描波状文	内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	径2mm以下の黒色粒子、径1mm 以下の褐色粒子、長石・細石英を含む。	口縁 1/5	I区
31	弥生 壺	9.6 (6.0)	内 ヘラナデ (榎目) 外 ミガキ	内 5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/2 完全実測	No.6 I区
32	弥生 壺	(10.0) (4.4)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部 5/12 回転実測	I区
33	弥生 壺	(8.4) (6.8)	内 ヘラナデ (榎目) 外 底部ヘラケズリ→体部ミガキ一部赤色顔料付着	内 10YR7/2 (にぶい黄橙) 外 5YR3/1 (黒褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/4 回転実測	I区
34	弥生 壺	- 8.5 (10.3)	内 ヘラナデ (榎目) ナデ 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子多く含む。	底部 1/1 完全実測	No.9 検出 I区
35	弥生 壺	- (11.6) (14.5)	内 ヘラナデ (榎目) 外 ミガキ 赤色顔料付着	内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR7/2 (明褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/4 回転実測	I区 No.2
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
53	磨製石鏝	30.5	27.0	6.0	5.5	未製品。上部付近欠損。	サブトレンチ
54	二次加工刮片	55.0	72.0	16.0	53.0	凝灰岩。器体加工直接。	検出
55	削器	17.0	39.0	5.0	4.1	頁岩。刃部対こぼれ。	I区
56	凹石	75.0	61.0	36.0	8.0	軽石	No.11
57	凹石	13.6	6.5	4.5	484	砂岩。直接による器体加工あり。両端と基部中央に敲打痕。	
58	太形蛤刃石斧	151.0	68.0	42.0	740.0	変質緑輝石。刃部欠損・研磨。器体研磨。刃部を大きく破損。	No.10



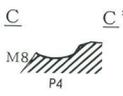
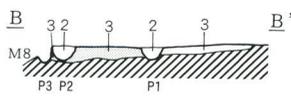
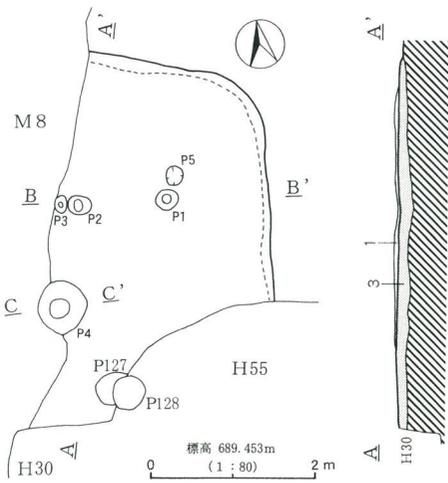
完掘（東より） 堀方（西より）



H35 土層説明

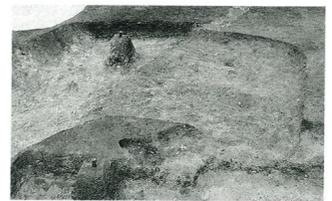
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、小礫を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、小礫を含む。
3. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫、ローム粒を多く含む。
4. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂、小礫を極めて多量に含む。
5. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂主体。
6. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂、小礫を極めて多量に含む。

第27図 H35号住居址



H36 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を多量に含む。(貼床)



完掘（南より）

第28図 H36号住居址

第14表 INP X H 35号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整				色調		胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(14.9) - (3.4)	内 外	ミガキ ミガキ	赤色塗彩 赤色塗彩	内 外				口縁1/8 回転実測	検出
2	弥生高杯	- 10.4 (6.5)	内 外	杯部ミガキ ミガキ	赤色塗彩 赤色塗彩	脚部ヘラナデ(柱目)	内 外	杯部10R4/6(灰褐) 7.5YR6/2(灰褐) 10R4/8(赤)	細長石粒子多量に含む。 細石英粒子含む。	底部7/8完全実測 脚内側に赤付着 底部かなり摩滅	No.3
3	弥生台付甕	- 8.2 (5.3)	内 外	胴部ミガキ ミガキ		脚部ヘラナデ(柱目)ナデ	内 外	7.5YR7/4(にぶい橙) 7.5YR7/4(にぶい橙)	細長石粒子多く含む。 細石英粒子含む。	底部1/1 完全実測	No.2
4	弥生壺	- (6.6) (13.0)	内 外	ナデ 頭部縄文→ヘラ描平行線文	剥離 ミガキ		内 外	10YR1.7/1(黒) 10YR7/4(黒) 10YR1.7/1(黒)		底部3/4回転実測 体部穿孔か? 円孔あり。	No.1 I区
番号	種類	長さ(mm)	山(mm)	厚さ(mm)	重	備考					出土位置
12	砥石+巖石	89.0	29.5	23.0	69.0	部分的に砥面あり。敲打痕端部にあり。					床
13	小形扁平片刃石斧	34.0	23.0	5.0	8.8	蛇紋岩。刃部縁辺整形加工研磨、流通品か?					II区

第15表 INP X H 40号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整				色調		胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	- (6.0) (4.2)	内 外	ミガキ ミガキ	赤色塗彩(薄く残る) 赤色塗彩	内 外	2.5YR4/6(赤褐) 2.5YR5/6(明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	Ⅲ・Ⅳ区	
2	弥生台付甕	6.4 (4.3)	内 外	体部ナデ ミガキ	脚部ナデ	内 外	7.5YR6/4(にぶい橙) 7.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/1 完全実測 内面スス	No.2	
3	弥生甕	(15.6) - (9.9)	内 外	ミガキ		口縁ヨコナデ→口縁刻目 体部櫛描縦羽状文	内 外	7.5YR7/4(にぶい橙) 7.5YR5/3(にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	No.1
4	弥生甕	- 5.8 (6.2)	内 外	ミガキ ヘラケズリ			内 外	10YR6/4(にぶい黄橙) 10YR4/2(灰黄褐)	長石粒子多い。	底部1/1 完全実測 内面赤色顔料付着	No.3

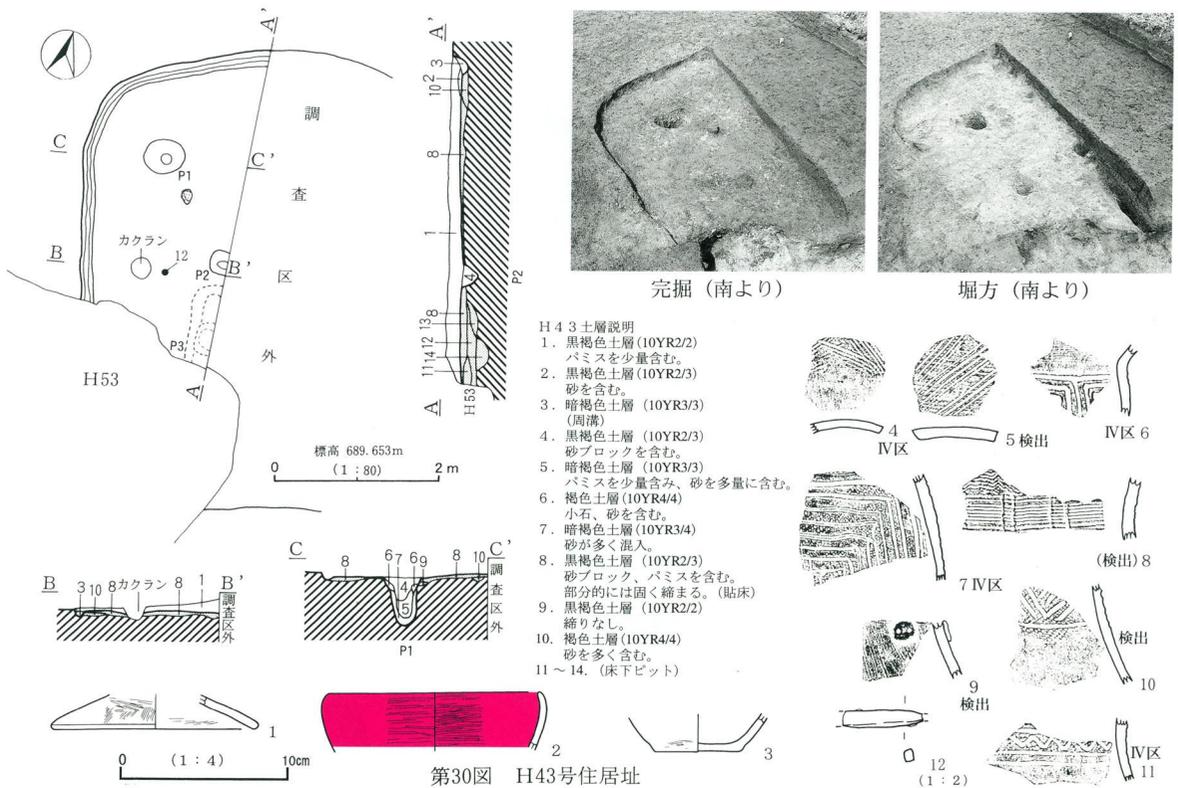
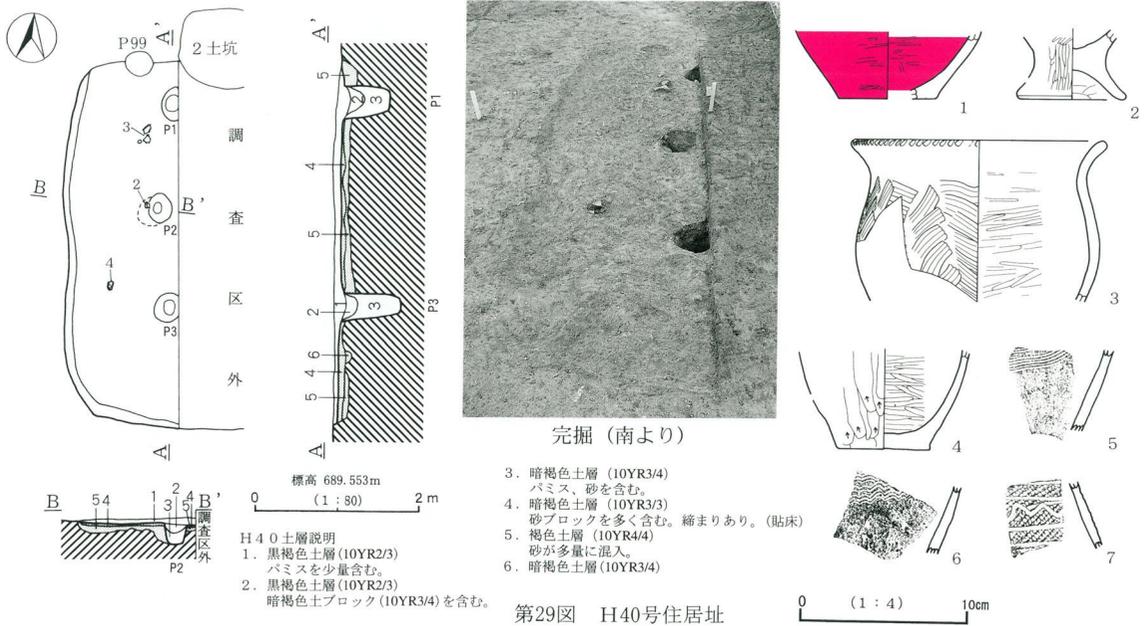
## 2. 弥生時代後期 H27・H33・H34・H39・H48・H50・H55(不明)・H77・H80・H82・H88・H105

弥生後期の住居址は12棟検出され、H55・H33を除いて、ほぼ同一期である。甕は口縁部に櫛描波状文が一段帯状に施文されるか、または無文で、壺は胴中位に外稜を持っておらず、後期初頭の土器様相を持つものである。隣接する、西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳで9棟検出され、本調査とあわせ17棟の弥生後期初頭の住居址が確認された。Ⅲ・Ⅳ地点では本資料より後出するであろう弥生後期の箱清水期の住居址も5棟みられ、西の北西の久保遺跡も後期の箱清水期の集落が主体である。2棟のみが後期初頭であるが他に後期初頭の住居址はみられない。本遺跡の弥生後期初頭の土器群は弥生中期と直接連続せずに琵琶坂遺跡群直路遺跡ⅠのH1などの土器群が介在するようである。

本遺跡を含め、周辺の弥生後期住居址調査数は67棟である。

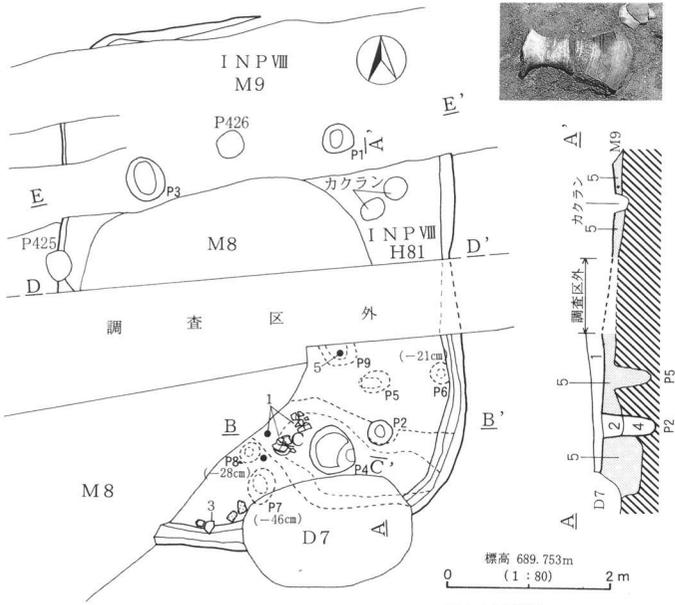
本遺跡	西一本柳遺跡Ⅱ～ⅩⅡ	北西の久保遺跡	五里田遺跡	合計
12	17	38	1	68

墓としては北に隣接する西一本柳遺跡Ⅸで一辺8.6mの四隅の切れる周溝が検出されている。報文では弥生中期としているが弥生後期初頭の方形周溝であろう。本遺跡弥生後期初頭の集落に伴う周溝墓と推測され、弥生後期初頭の方形周溝が集落と構成されていたことが確認された。

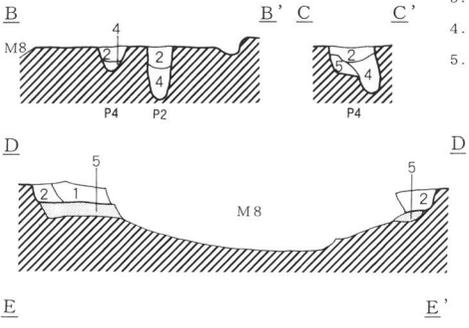


第16表 INP X H43号住居址出土遺物一覧表

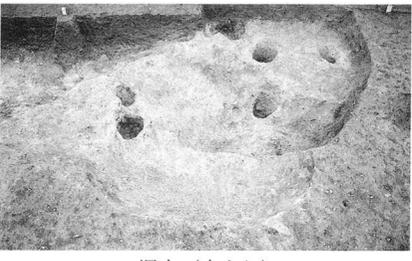
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生蓋	(12.7)	内 ナデ 外 ヘラナデ (楕目) → ミガキ	内 2.5YR4/6 (赤) 外 2.5YR4/6 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁5/12 回転実測	P1 III区 IV区
2	弥生鉢	(12.8) (3.6)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	堀方



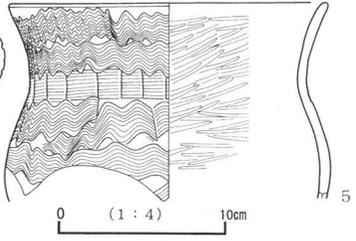
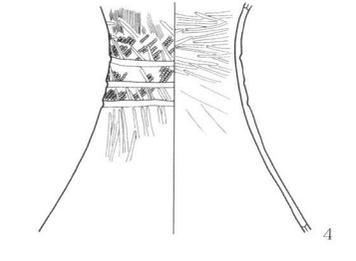
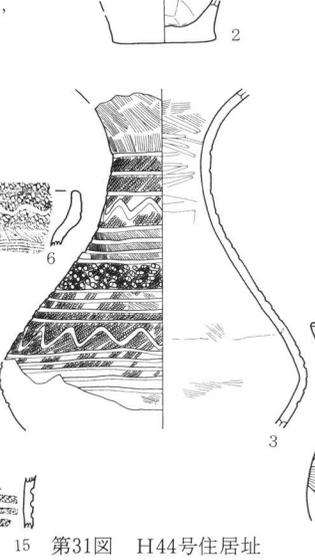
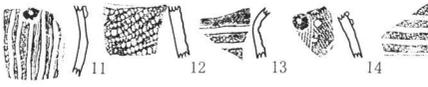
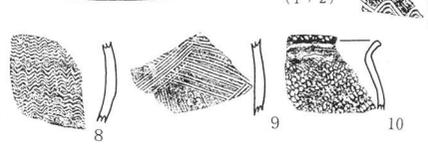
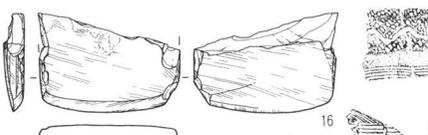
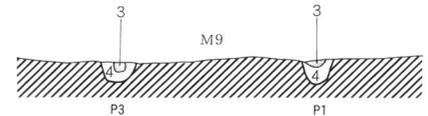
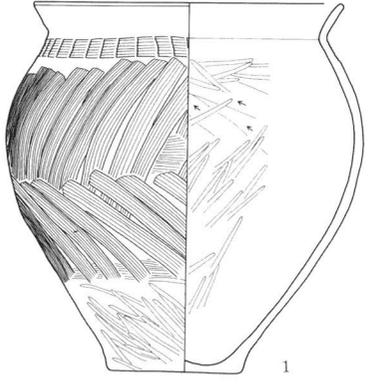
- H44土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
  2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
  3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(柱痕)
  4. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂を多量に含む。
  5. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。(堀方)



完掘 (南より)



堀方 (南より)



第31図 H44号住居址

0 (1:4) 10cm

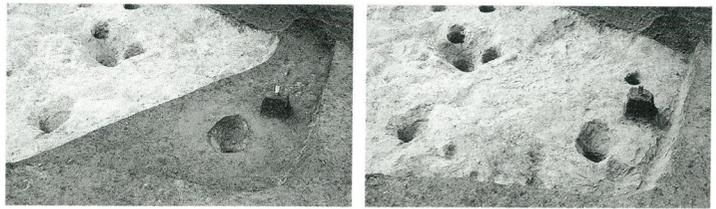
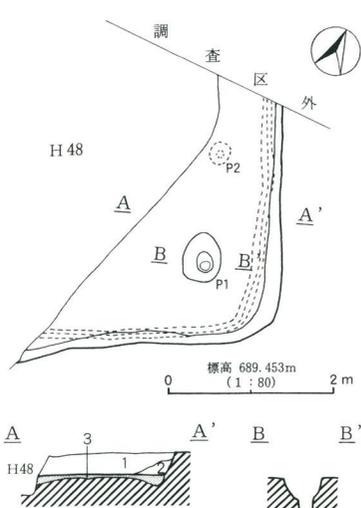
3	弥生壺	(5.1) (2.4)	内外 ナデ ミガキ	内 7.5YR6/8 (橙) 外 7.5Y7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 回転実測 内面ヘンガラ付着	検出
4	弥生土製内板	(4.6) 4.6 0.8	内外 ミガキ ヘラナデ後ミガキ 櫛描斜走平行線文	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	一部欠損 弥生甕の二次利用	IV区
5	弥生土製内板	5.3 5.3 9.0	内外 ミガキ ヘラナデ (榎目) 5本1組とする櫛描斜走文	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR5/1 (褐灰)	径1mm以下の黒色粒子、長石・細石英含む。	ほぼ完形 弥生甕の二次利用	検出
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
12	刀子	(24.0)	4.0	2.5	0.9	鉄製品・混入品?	No.1

第17表 INP X H44号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生甕	19.1 8.1 22.6	内 ヘラケズリ→ミガキ 外 ヨコナデ ヘラナデ (榎目) →ミガキ 頭部櫛描縹状文 (1連止7本) 一部部櫛描斜走文 (横位羽状)	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR8/4 (淡黄)	細石英・細長石粒子含む。	ほぼ完形 完全実測	No.2・3・4 床 1層
2	弥生甕	6.3 (2.7)	内外 ナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	1層
3	弥生壺	- - (20.8)	内外 ヘラナデ (榎目) ミガキ ヘラナデ (榎目) 頭部縄文 ヘラ描平行線文 ヘラ描波状文 刺突文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	頭部~体部上半完形 頭部~胴中位まで施文 完全実測	No.1 床
4	弥生壺	- - (14.2)	内外 ヘラナデ ミガキ ヘラナデ (榎目) ミガキ 頭部縄文→ヘラ描平行線文	内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	頭部3/4 回転実測	床
5	弥生甕	(19.6) (12.1)	内外 ミガキ 頭部櫛描縹状文 (9本1連止) →口縁・胴上部櫛描波状文 (9本)	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	~0.5mm大細石英・長石粒子含む。	口縁1/2 回転実測	No.6
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
16	扁平片刃石斧	31.0	43.0	6.0	12.7	蛇文岩。上部欠損。刃部縦方向線状痕・研磨、器体研磨。	

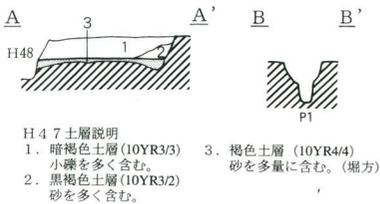
第18表 INP X H47号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生壺	(16.9) (5.7)	内 ミガキ 赤色塗彩? 外 口唇部縄文 口縁縄文→ヘラ描山形文 ミガキ赤色塗彩?	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	I区
2	弥生壺	(6.0) -	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/8 (赤褐) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	I区
3	弥生甕	(13.4) (4.6)	内 ミガキ 外 口唇部縄文 体部櫛描縹状文	内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	I区
4	弥生甕	(11.2) (1.4)	内 ミガキ 外 ヨコナデ 文 口唇部縄文 口縁部縄文 ヘラ描波状文 貼付文	内 5YR5/2 (灰褐) 外 5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石含む。	口縁1/8	II区
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
8	石鏝未製品	21.5	18.0	4.7	1.2	黒曜石。刃部縁辺整形加工押圧、器体加工押圧。	堀方
9	磨製石鏝	24.0	21.0	2.0	1.2	粘板岩。先端石脚欠損。	I区



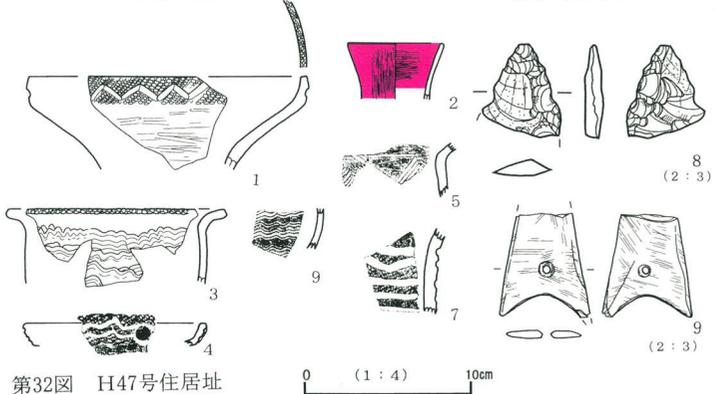
完掘 (南より)

堀方 (南より)



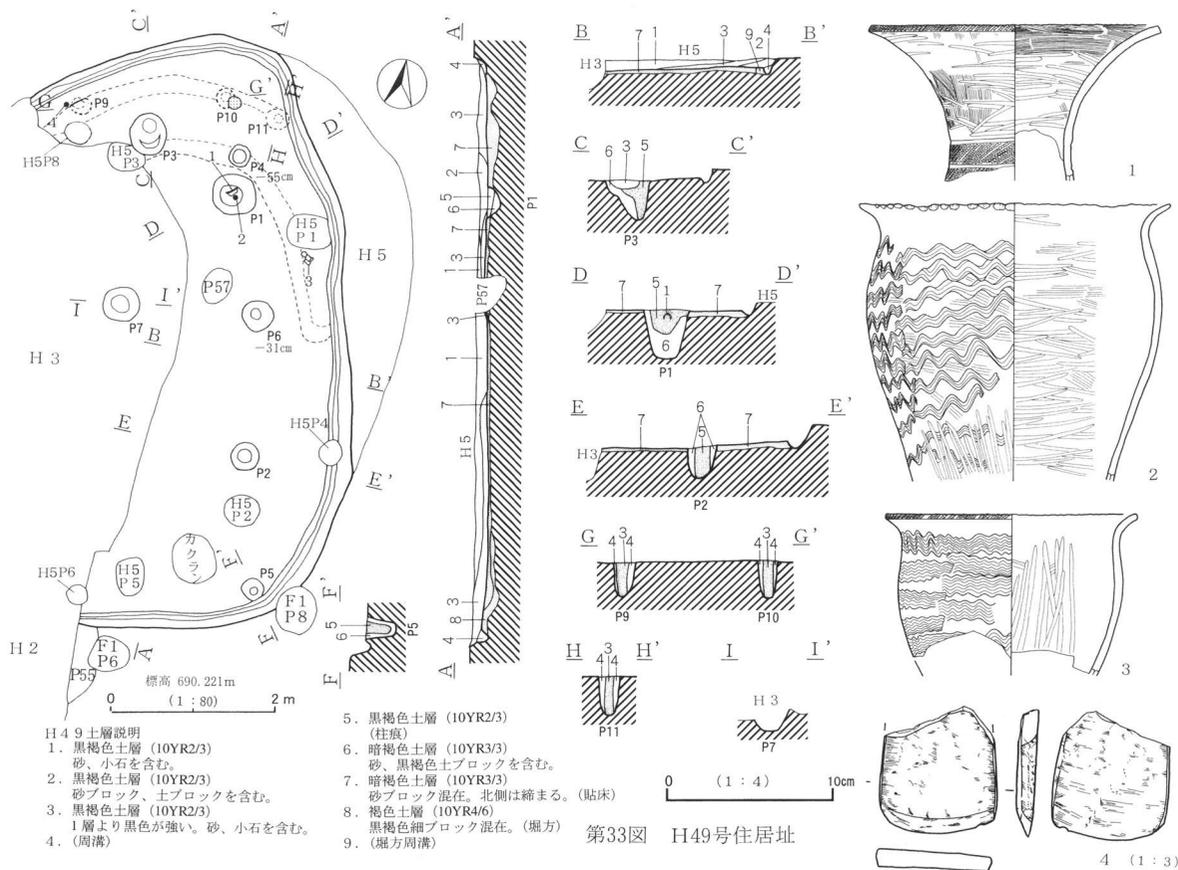
H47土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 小礫を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂を多く含む。
3. 褐色土層 (10YR4/4) 砂を多量に含む。(堀方)



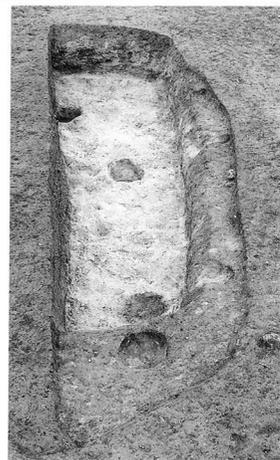
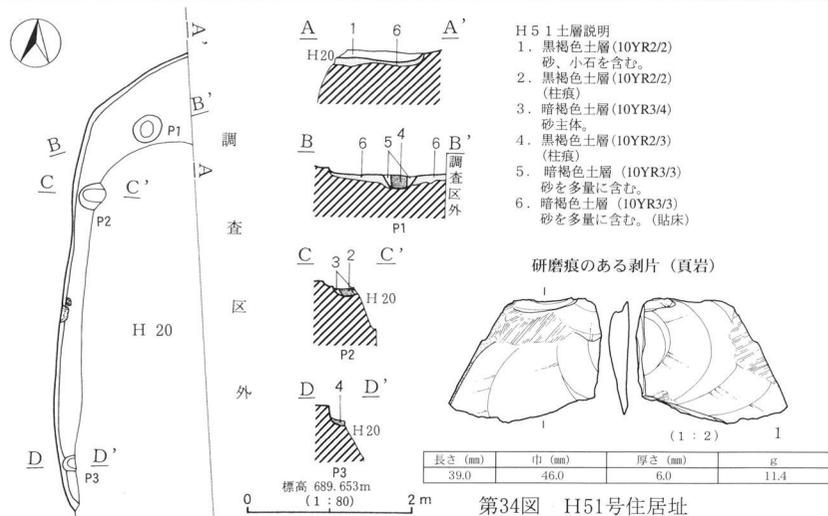
第32図 H47号住居址

0 (1:4) 10cm

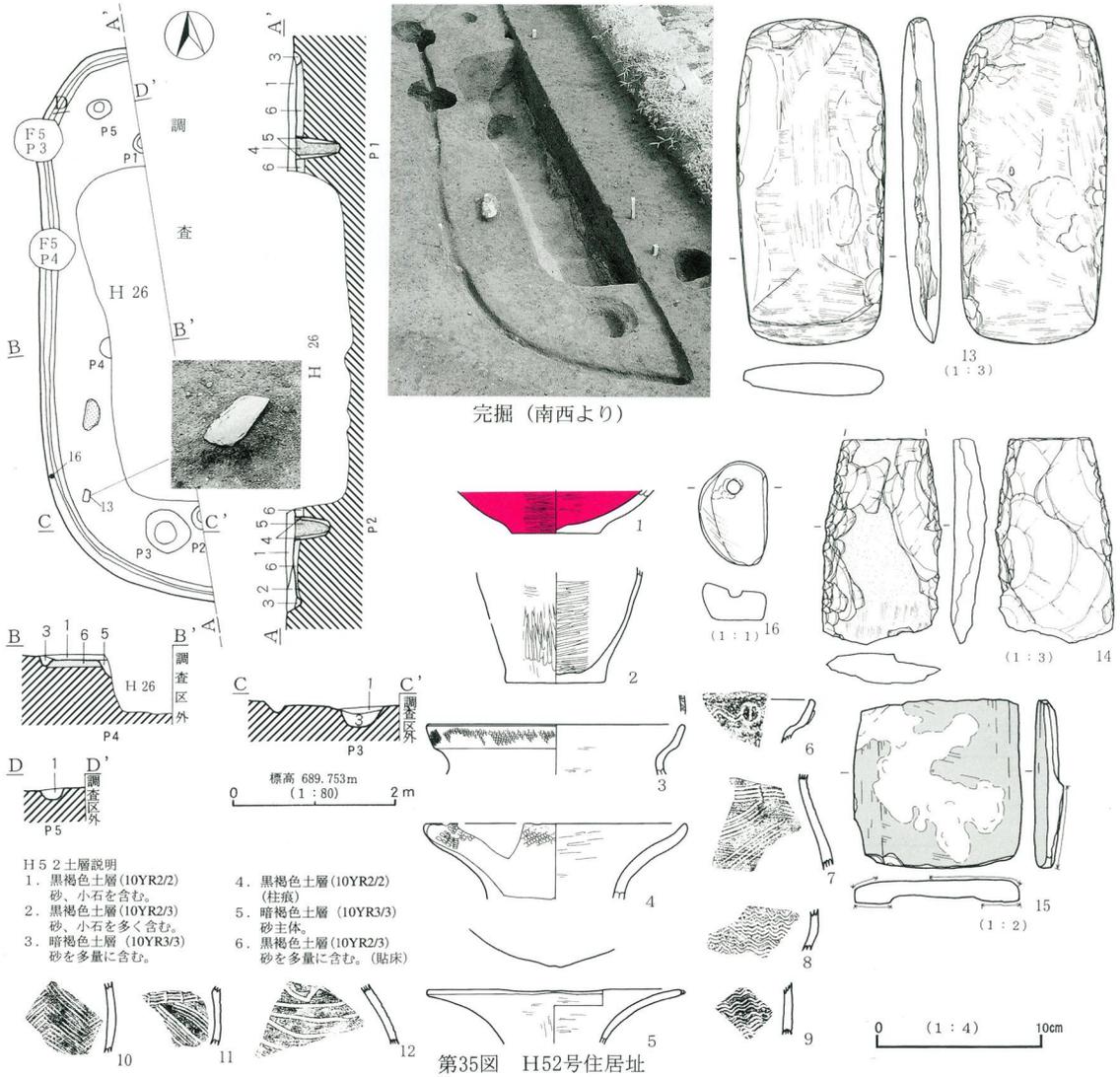


第19表 INP X H49号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 壺	17.9 (9.6)	内 ヘラナデ (榎目) → ミガキ 赤色顔料付着 外 口縁ヘラナデ (榎目) → ミガキ 口唇部縄文 頭部縄文 → ヘラ曲平行縄文 赤色顔料付着	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。緻密。	口縁部完形 完全実測	No.5
2	弥生 甕	(19.0) <(17.0)>	内 ヘラナデ (榎目) → ミガキ 外 体部下半ヘラナデ (榎目) → ミガキ 体部上半ヘラナデ (榎目) 縞描波状文 口唇部横ナデ → 押捺	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。緻密。	口縁～体部 1/2 回転実測	No.2
3	弥生 甕	(15.4) -	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ (榎目) → ミガキ 外 口縁ヨコナデ 口唇部縄文 縞描波状文 (6本)	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英多く、細長石粒子含む。	口縁部完形 完全実測	No.4
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
4	扁平片刃石斧	58.0	53.0	9.0	0.5	変質解緑岩。刃部縦方向線状痕、刃部研磨、器体研磨。	No.6

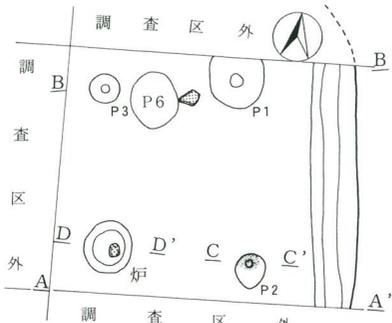


完掘 (北より)



第20表 INP X H52号住居址出土物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整				色調		胎土	残存・備考	出土位置
			内	外	底	貼	内	外			
1	弥生鉢	(5.4) (2.7)	内 ミガキ 外 ミガキ	赤色塗彩 赤色塗彩	底部ミガキ	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/8 (赤) 底 7.5YR7/4 (にぶい橙)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/5 回転実測	検出	
2	弥生甕	6.0 (7.2)	内 ミガキ 外 ミガキ			内 7.5YR6/3 (にぶい靑) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/1 完全実測	T4	
3	弥生甕	(16.4) (3.1)	内 ミガキ 外 口縁縄文			内 5YR6/6 (橙) 外 5YR4/2 (灰靑)		細長石・細石英粒子含む。	口縁 3/10 回転実測	Ⅳ区	
4	弥生壺	(16.4) (4.7)	内 ミガキ 外 口縁縄文			内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)		細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	H26 H52 Ⅲ区	
5	弥生壺	(15.8) (3.4)	内 ミガキ 外 ミガキ			内 7.5YR5/2 (灰靑) 外 10YR5/2 (灰黄靑)		細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/5 回転実測 突起あり	Ⅲ区	
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考					
13	扁平片 刃石斧	151.0	69.0	16.0	268.0	砂質頁岩。刃部縦方向線状痕+刃こぼれ・研磨、器体研磨、長大な扁平片刃石斧。					No.2
14	打製石斧	95.5	55.0	13.0	87.6	安山岩。刃部磨耗痕、刃部縁辺整形加工直接、器体加工直接。					Ⅳ区
15	礫石	52.0	52.0	9.0	30.0	砂岩。砥石かどうか疑問点あり。面取り認められる。					Ⅲ区
16	翡翠勾玉未製品	15.5	10.0	5.0	1.8	翡翠。穿孔、研磨、ヒスイ製勾玉の未製品、穿孔段階のもの。挟りなし。					No.1

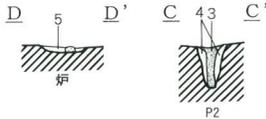
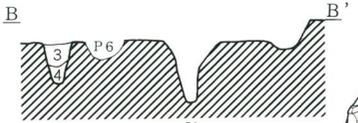
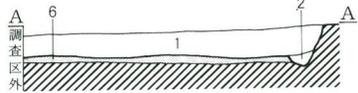


炉 (東より)



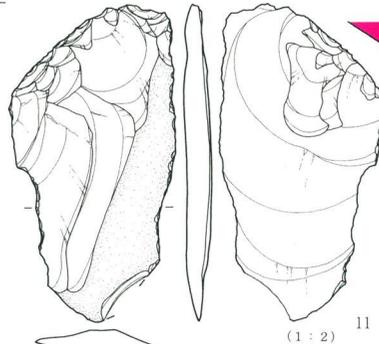
完掘 (南西より)

- H 59 (W H4)土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
  2. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂多く、締まりなし。(周溝)
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、パミスを含む。
  4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)  
砂主体。
  5. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
焼土粒子を含む。
  6. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。(貼床)

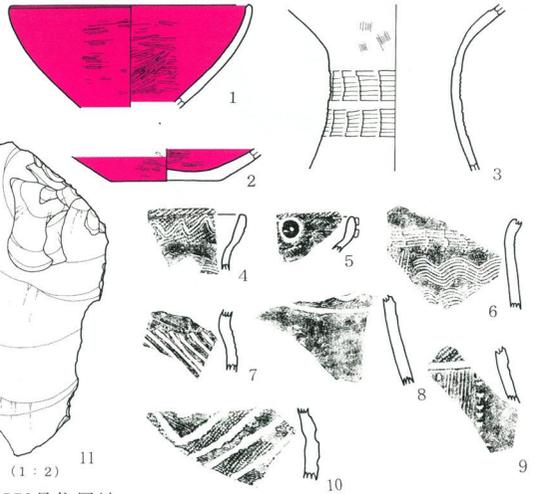


標高 688.70m  
0 (1:80) 2m

0 (1:4) 10cm



第36図 H59号住居址

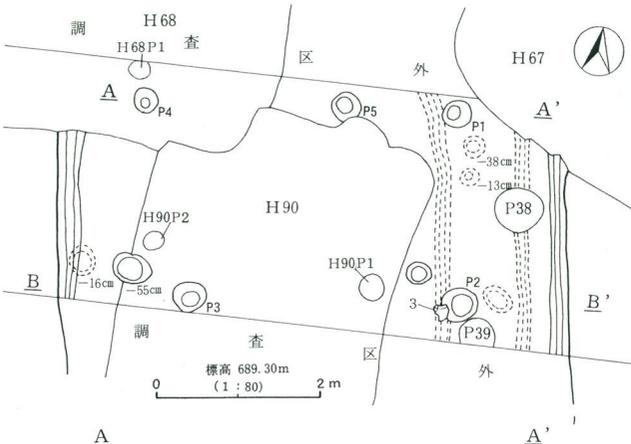


第21表 INP X H 59号住居址出土遺物一覧表

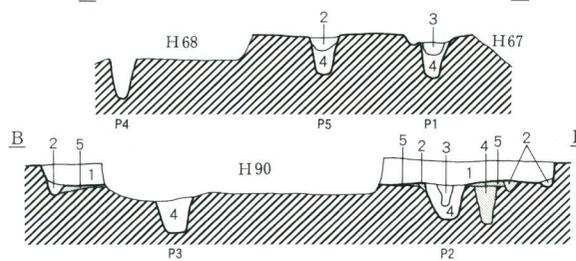
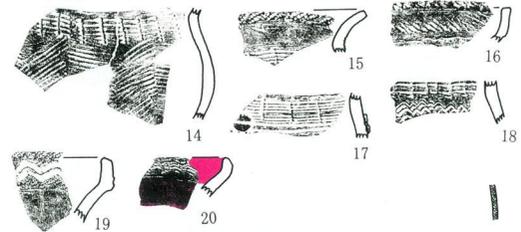
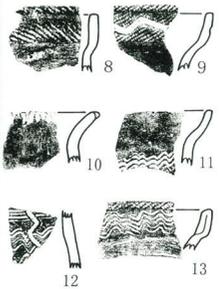
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(15.0)	内外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 2.5YR4/6 (赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	
		(6.3)	内外 ミガキ 赤色塗彩				
2	弥生鉢	(6.8)	内外 ミガキ 赤色塗彩 底部ヘラナデ	内 2.5YR3/3 (前赤褐) 外 2.5YR4/6 (赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/8 回転実測	
		(2.0)	内外 ナデ				
3	弥生壺	-	内外 ナデ	内 7.5YR2/1 (黒) 外 7.5YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子、1mm 大長石粒子含む。	頸部1/1 回転実測 口縁部再加工か	炉
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
11	使用痕のある剥片	97.0	51.0	7.0	40.5	頁岩。刃部刃こぼれ、背部に細かい剥離。	堀方

第22表 INP X H 66号住居址出土遺物一覧表

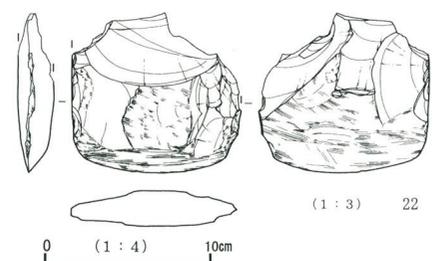
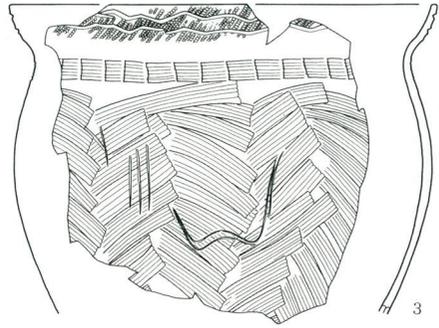
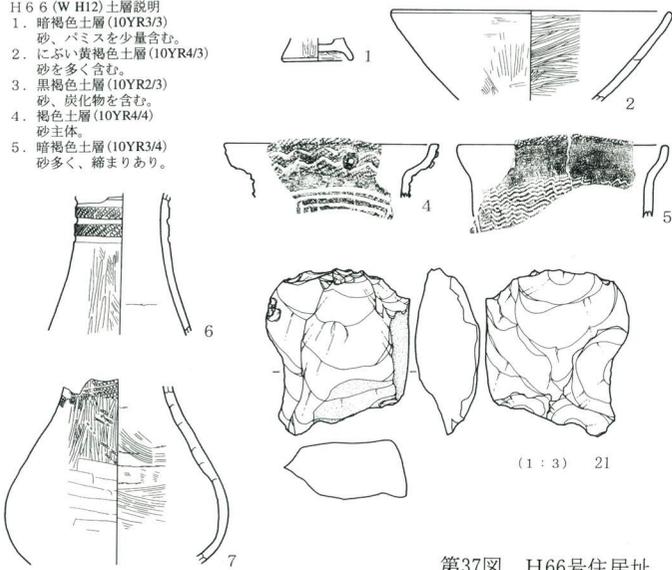
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	ミニチュア高杯	(4.4)	内 胴部ナデ 脚部ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	
		(1.4)	外 ミガキ				
2	弥生鉢	(17.2)	内 ミガキ	内 10YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	床
		(5.5)	外 ヘラナデ (柾目) ナデ	外 10YR6/4 (にぶい橙)			
3	弥生壺	(26.2)	内 ミガキ	内 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	No.1
		(15.7)	外 口唇部縄文 口縁縄文→ヘラ描山形文 体部櫛描羽状文→頸部櫛描縹状文	外 7.5YR7/4 (にぶい橙)		頸部1/8 回転実測 胴部にヘラ描縹文あり	
4	弥生壺	(12.9)	内 ミガキ	内 7.5YR5/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4	
		(4.4)	外 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描波状文→貼付文 胴部「コ」の字重ね文	外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)			
5	弥生壺	(13.1)	内 ミガキ	内 10YR5/2 (灰黄褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4	
		(3.3)	外 口唇部縄文 胴部櫛描波状文 →胴部櫛描波状文→櫛描縦線文	外 5YR7/4 (にぶい橙)			



上から完掘 堀方 (南より・東より)



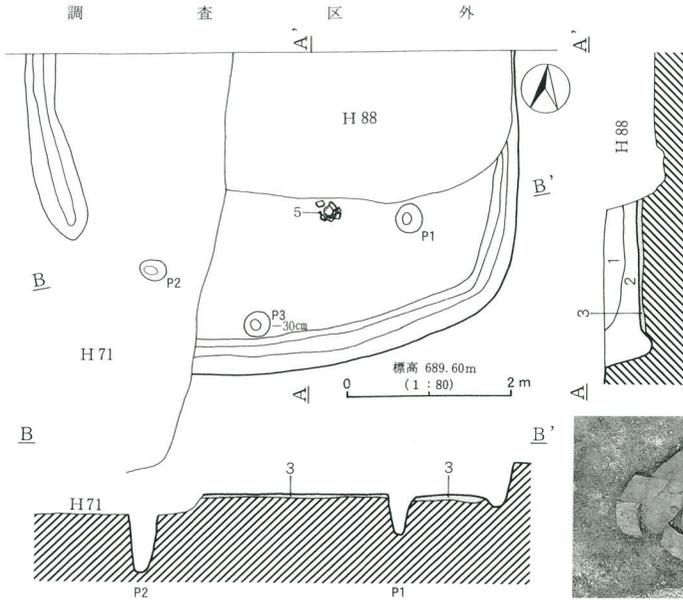
- H66 (W H12) 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂、パミス少量含む。
  2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂を多く含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、炭化物を含む。
  4. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。
  5. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂多く、締めりあり。



第37図 H66号住居址

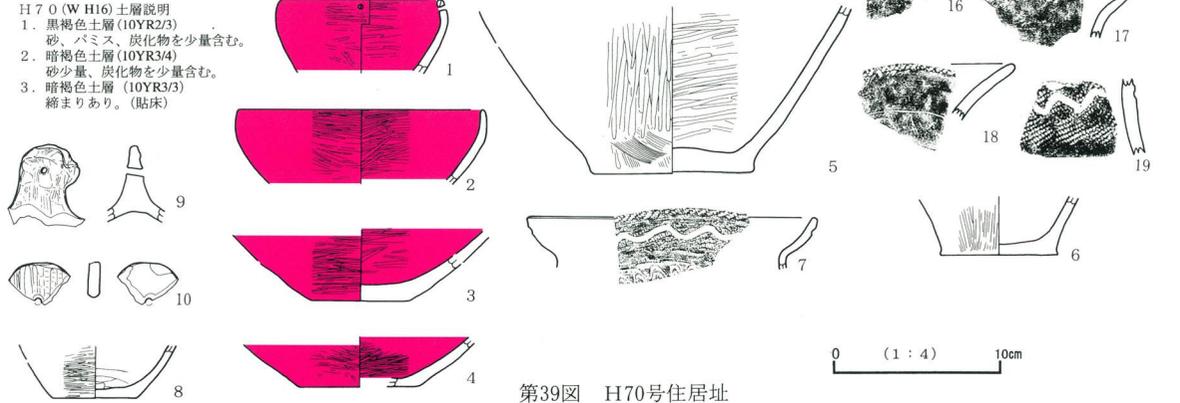
6	弥生 壺		内 ナデ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ赤色塗彩付着 頸部縄文→ヘラ楕平行線文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	首部 1/3 回転実測	
7	弥生 壺		内 ナデ ヘラナデ (楕目) 外 頸部縄文→ミガキ 体部下半ヘラナデ ミガキ剥離	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	体部 1/3 回転実測	
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
21	二次加工剥片	76.0	65.0	29.0	161.8	ホルンフェルス。器体加工直接、石枝の可能性もある。	土層
22	扁平片 刃石斧	73.0	77.0	16.0	135.0	砂岩。刃部縦方向線状痕・研磨、器体研磨、基部欠損。	検出





完掘（北西より）

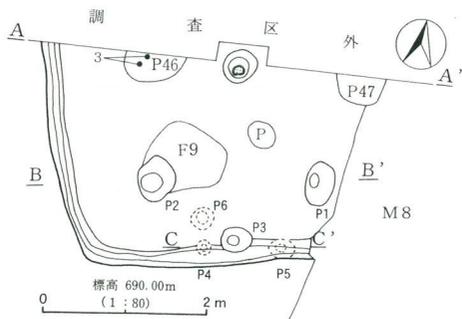
- H70 (W H16) 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミス、炭化物を少量含む。
  2. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂少量、炭化物を少量含む。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
締まりあり。(貼床)



第39図 H70号住居址

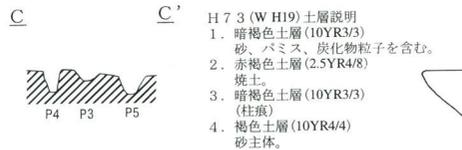
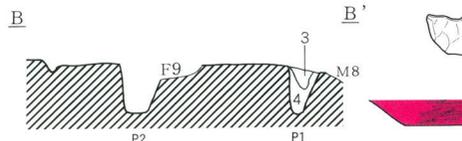
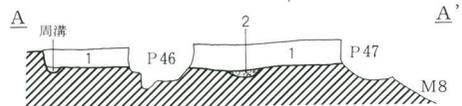
第24表 INP X H70号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(9.8)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。 口縁に穿孔あり。	口縁1/8 回転実測	1層
		(4.5)	外 ミガキ 赤色塗彩	外 5YR6/6 (橙)			
2	弥生鉢	(15.0)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	1層
		(4.6)	外 ミガキ 赤色塗彩	外 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)			
3	弥生鉢	(6.0)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	堀方 2層
		(4.4)	外 ミガキ 赤色塗彩	外 10R4/6 (赤) 底 7.5YR7/4 (にぶい橙)			
4	弥生鉢	(7.4)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	堀方
		(3.0)	外 ミガキ 赤色塗彩 底部剝落	外 10R5/8 (赤)			
5	弥生甕	10.0	内 ミガキ	内 7.5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/1 完全実測	No.1 2層
		(10.3)	外 下端ヘラナデ (柎目) → 体部ミガキ 底部ナデ	外 7.5YR7/4 (にぶい橙)			
6	弥生甕	(7.2)	内 ミガキ	内 7.5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部5/12 回転実測	1層
		(3.6)	外 下端ヘラナデ (柎目) 底部ヘラナデ	外 7.5YR5/3 (にぶい橙)			
7	弥生甕	(17.8)	内 ミガキ	内 10YR4/2 (灰黄褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	1層
		(3.1)	外 口唇部縄文 口縁縄文→ヘラ描波状文 体部櫛描波状文	外 7.5YR6/3 (にぶい橙)			
8	弥生壺	-	内 ヘラナデ	内 10YR8/3 (浅黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/1 完全実測	2層
		5.0	外 ミガキ 底部ミガキ	外 7.5YR7/4 (にぶい橙)			
9	弥生蓋	-	内 ナデ	内 7.5YR6/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	破片実測 水鳥か	2層
		(3.3)	外 ナデ ヘラナデ	外 7.5YR7/4 (にぶい橙)			
10	土製紡錘車	-	内 ナデ	内 10YR6/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	1/3 破片実測	1層
		-	外 ヘラナデ (柎目) → ミガキ	外			

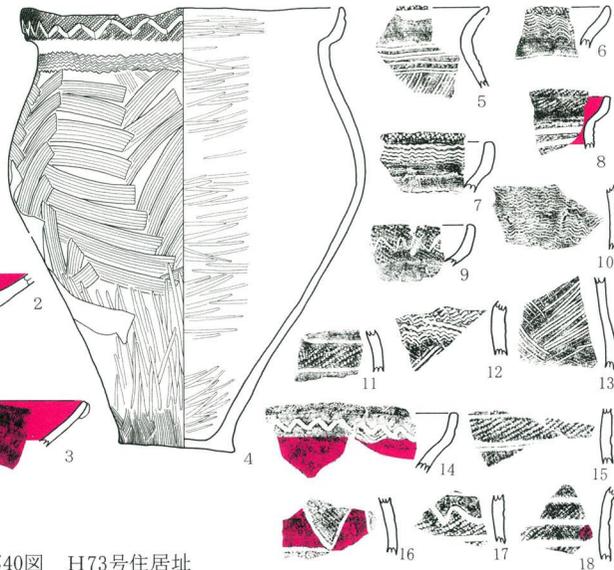


完掘 (南より)

炉 (南より)



- H73 (W H19) 土層説明
1. 暗褐色土層(10YR3/3)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
  2. 赤褐色土層(2.5YR4/8)  
焼土。
  3. 暗褐色土層(10YR3/3)  
(柱痕)
  4. 褐色土層(10YR4/4)  
砂主体。



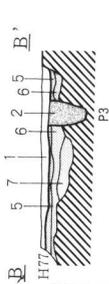
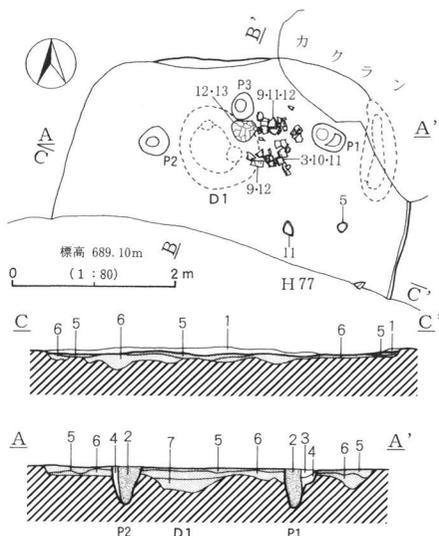
第40図 H73号住居址

第25表 INP X H73号住居址出土遺物一覧表

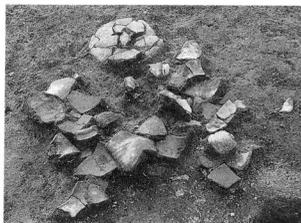
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	手捏土器 杯	5.0 -	内 ナデ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	完形品 完全実測	P2
			外 ナデ	外 10YR6/2 (灰黄褐)			
2	弥生鉢	(7.4) (2.1)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	
			外 ミガキ 赤色塗彩	外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 底 10YR7/4 (にぶい黄橙)			
3	弥生杯	(12.0) -	内 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 口縁部に突起あり。	
			外 ミガキ 赤色塗彩	外 2.5YR4/8 (赤褐)			
4	弥生甕	(19.8) 7.1 27.1	内 ミガキ	内 10YR8/4 (浅黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁～体部1/2 底部完形 完全実測	No.1 No.2
			外 ヘラナデ(楕目) →ミガキ 口縁縄文→ヘラ描山形文	外 10YR7/3 (にぶい黄橙)			
			頸部櫛波状文(6本) 体部櫛波斜走文(縦位羽状)				

第26表 INP X H79号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生甕	(25.4) -	内 ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁～体部1/4 回転実測	I区カクラン
			外 ミガキ 口唇部縄文 体部櫛波状文(4本)	外 7.5YR7/4 (にぶい橙)			
2	弥生甕	(25.2) -	内 ヘラナデ(楕目) →ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	I区
			外 ヘラナデ(楕目) 口唇部縄文 頸部櫛波状文(8本) 体部櫛波斜走文(縦位羽状)	外 7.5YR7/4 (にぶい橙)			
3	弥生甕	(20.6) -	内 ヘラナデ(楕目) →ミガキ	内 10YR6/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/5 回転実測	No.4 I区
			外 口唇部縄文 口縁部櫛波状文(6～8本) 体部櫛波斜走文(縦位羽状)	外 10YR5/2 (灰黄褐)			
4	弥生甕	(17.6) -	内 ヘラナデ(楕目) →ミガキ	内 7.5YR6/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	I区
			外 ヘラナデ(楕目) →ミガキ 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描山形文	外 7.5YR5/2 (灰褐)			
5	弥生甕	12.0 -	内 ヘラナデ(楕目) →ミガキ	内 7.5YR8/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁完形 完全実測	No.5
			外 口唇部縄文 頸部櫛波横線文(6本) 体部櫛波斜走文(6本)	外 5YR6/3 (にぶい橙)			
6	弥生甕	(6.8) -	内 ミガキ	内 7.5YR4/1 (褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/6 回転実測	IV区
			外 ミガキ	外 7.5YR1.7/1 (黒)			
7	弥生甕	5.3 -	内 ヘラナデ(楕目) →ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 焼成前穿孔一孔 完全実測	I区
			外 ヘラナデ(楕目) →ミガキ	外 10YR7/4 (にぶい黄橙)			
8	弥生 台付甕	8.8 -	内 ナデ	内 2.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	検出
			外 ココナデ	外 2.5YR6/4 (にぶい橙)			



完掘 (南より)



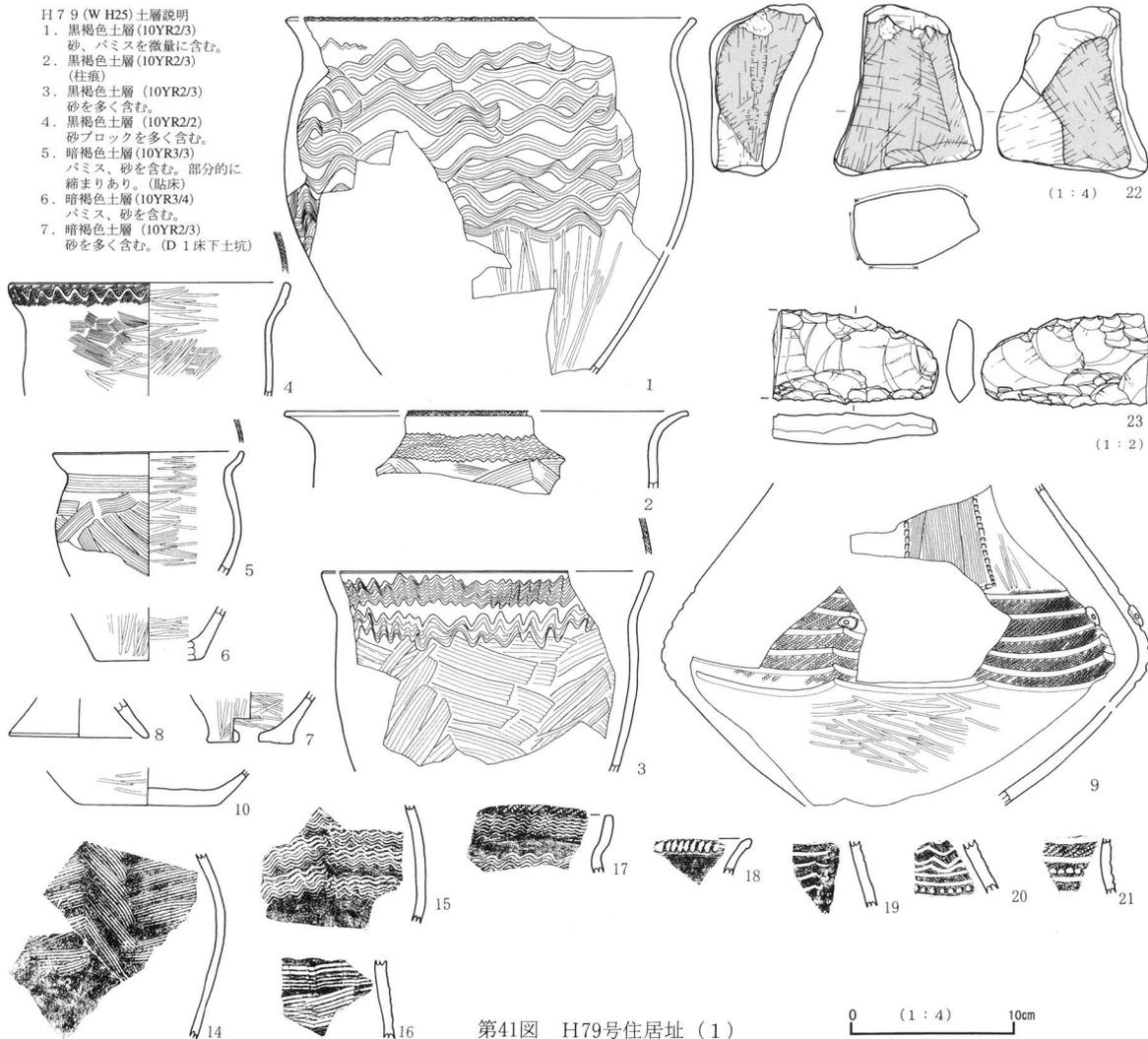
遺物出土状況 (東より)



堀方 (南より)

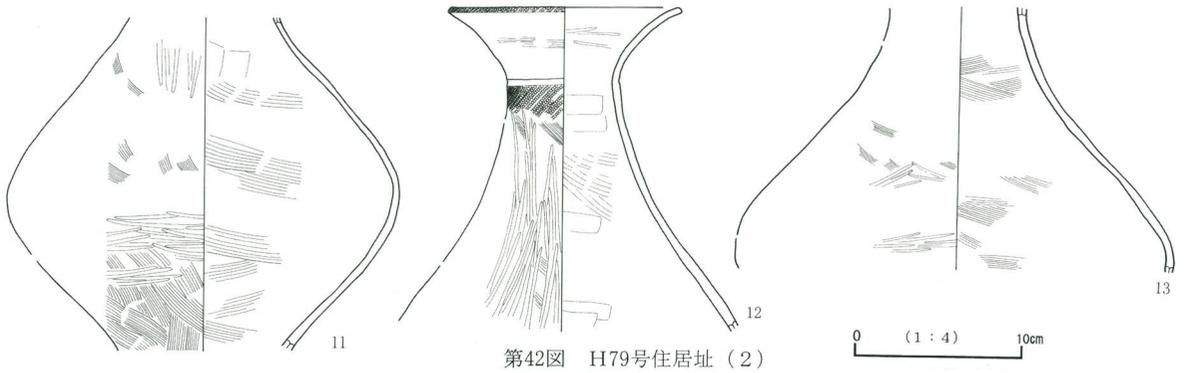
H79 (W H25) 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、パミスを微量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を多く含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂ブロックを多く含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) パミス、砂を含む。部分的に締まりあり。(貼床)
6. 暗褐色土層 (10YR3/4) パミス、砂を含む。
7. 暗褐色土層 (10YR2/3) 砂を多く含む。(D 1床下土坑)



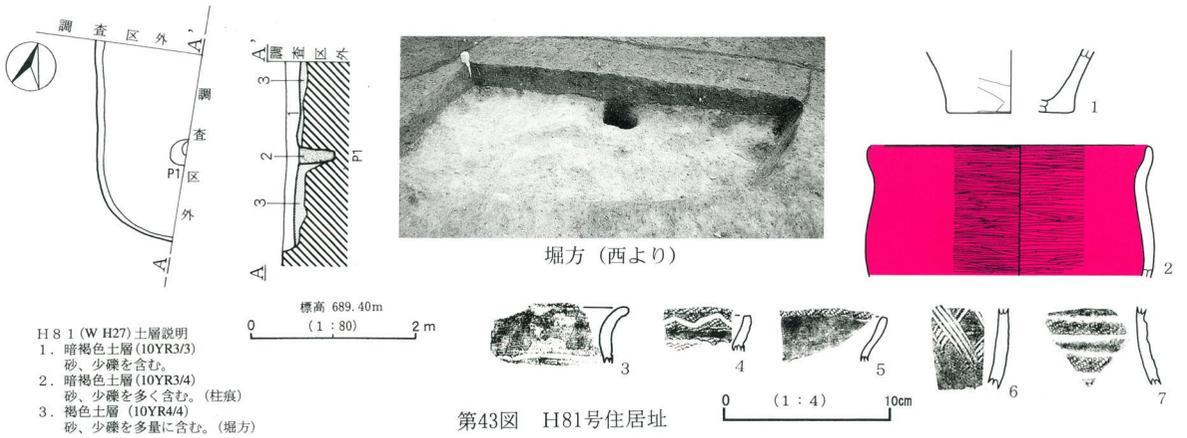
第41図 H79号住居址 (1)

0 (1:4) 10cm



第42図 H79号住居址(2)

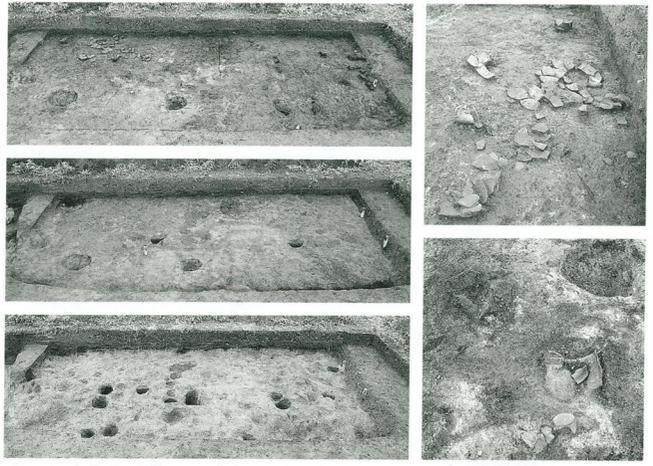
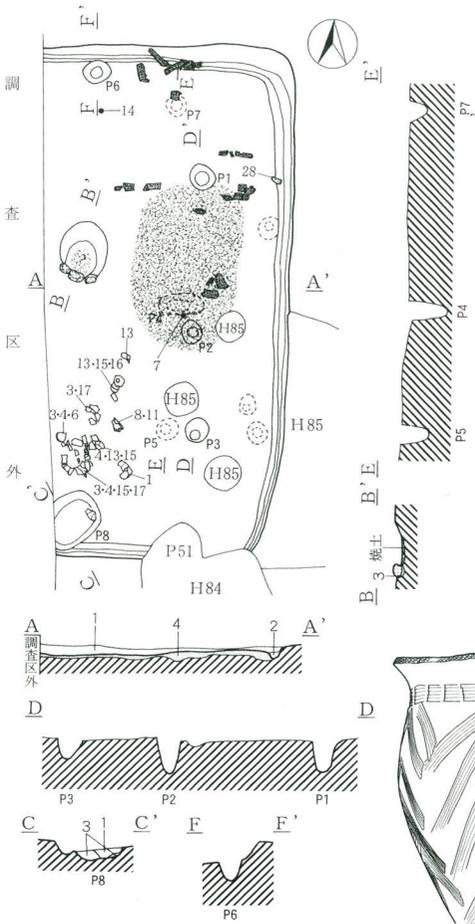
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
9	弥生壺	- (20.1)	内外 ヘラナデ(楕目) ヘラミガキ 上半部描垂文→刺突文 中央縄文→ヘラ描連弧文 凹形浮文貼付 沈線に赤色顔料残る。	内 10YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	体部 1/4 回転実測 外面下部赤色顔料付着	No.2 No.3 I区 IV区
10	弥生壺	- (8.8) (2.4)	内外 剥落 ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/4 回転実測	No.4
11	弥生壺	- (20.4)	内外 ヘラナデ(楕目) ヘラナデ(楕目)→ミガキ	内 10YR3/1 (黒褐) 外 10YR6/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	体部 4/5 完全実測	No.2・4・6 I区 T78
12	弥生壺	14.3 (19.7)	内外 ヘラナデ(楕目)→口縁ミガキ ヘラナデ(楕目)→ミガキ 口唇部縄文 頸部縄文→頸部ヘラ描横線文	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁→頸部完形 完全実測	No.1・2・3
13	弥生壺	- (16.1)	内外 ヘラナデ(楕目) ヘラナデ(楕目)→ミガキ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	頸部～体部完形 完全実測	No.1
22	紙石	107.0	93.0	69.0	600.0	砂岩。比較的大型の紙石。	III区
23	二次加工剥片	29.0	52.0	9.0	17.8	安山岩。左側欠損、刃部縁辺整形加工直接、器体加工直接、器種の特定が難しい。	IV区



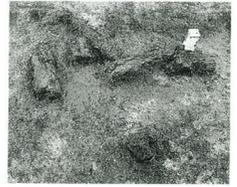
第43図 H81号住居址

第27表 INP X H81号住居址出土遺物一覧表

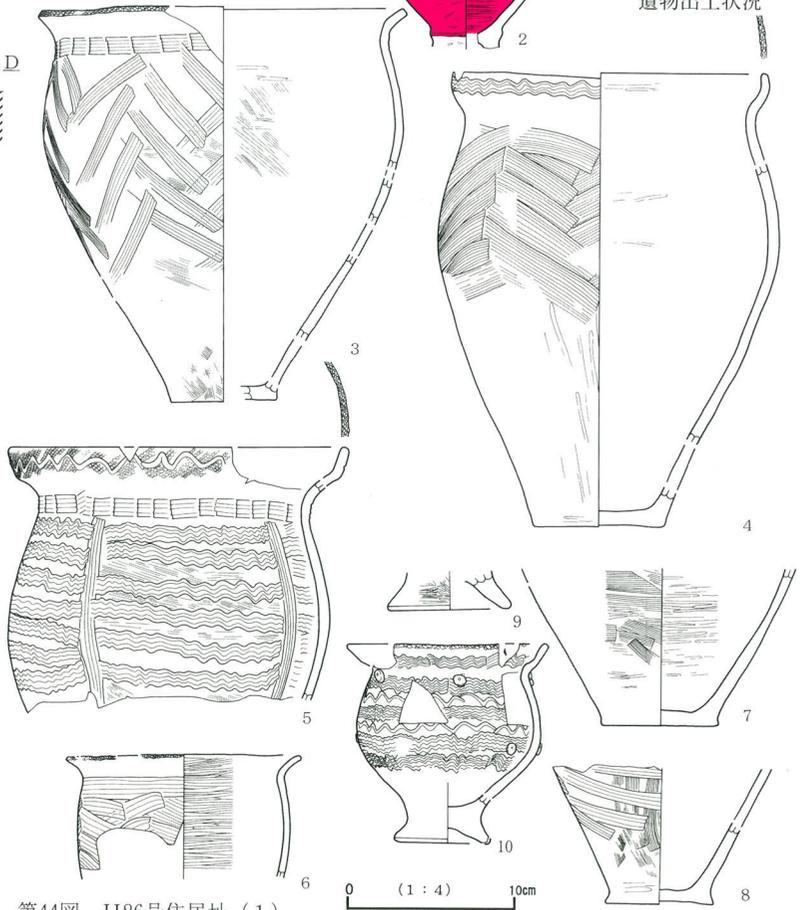
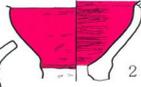
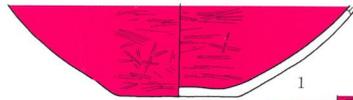
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 甕	- (7.8) (3.9)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 10YR5/4 (にぶい黄褐) 外 10YR5/3 (にぶい黄褐)	細長石多く、細石英含む。	底部 1/12 回転実測	
2	弥生 鉢	(17.0) (8.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/8 回転実測	



上から遺物出土状況 完掘 堀方（東より）

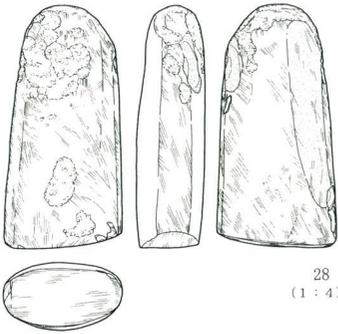


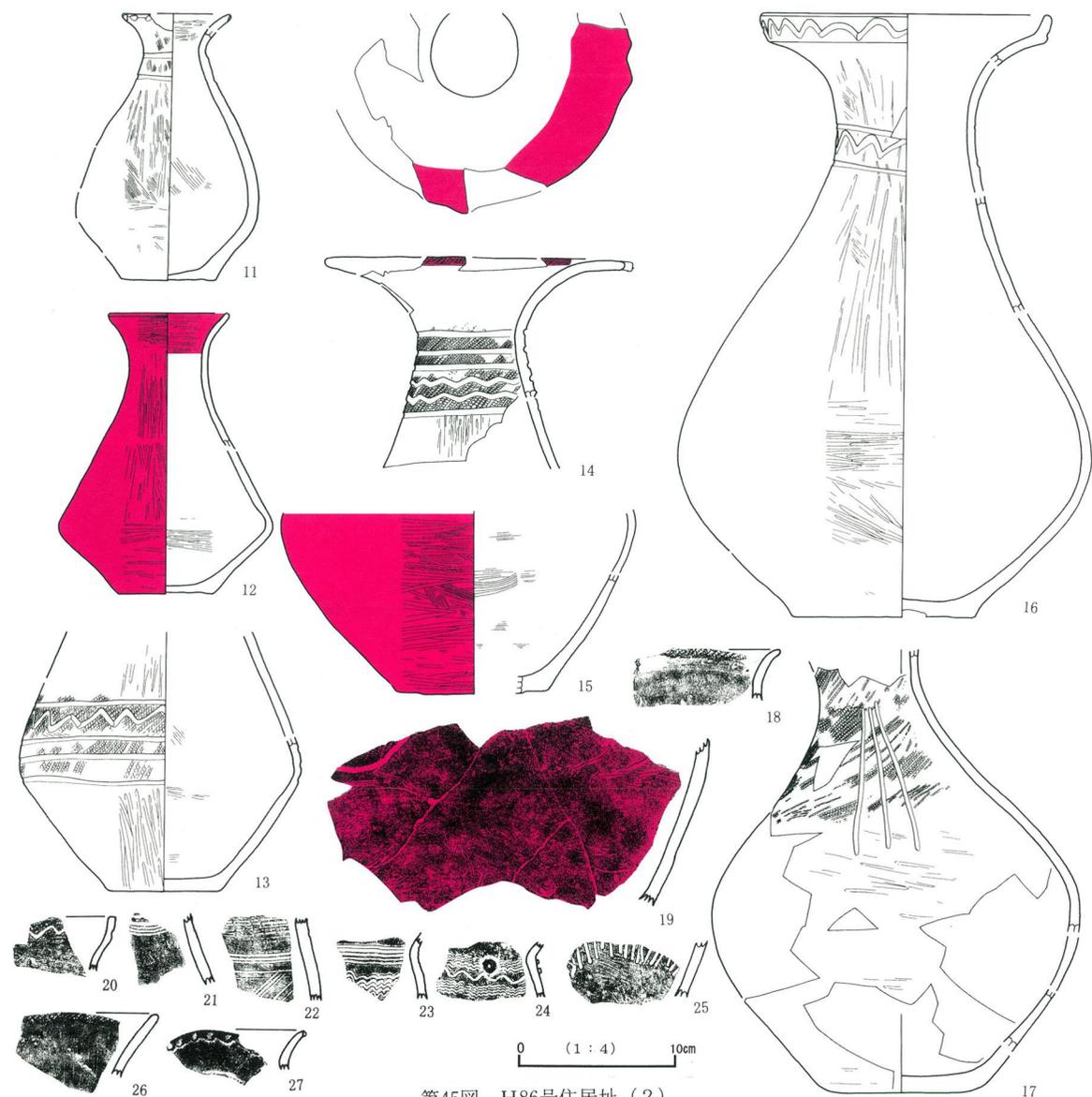
遺物出土状況



第44図 H86号住居址（1）

- H86 (W H32) 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、小礫、炭化物片を多く含む。
  2. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂、小礫を多く含む。
  3. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂を多量に含む。
  4. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫を多く含む。(堀方)





第45図 H86号住居址(2)

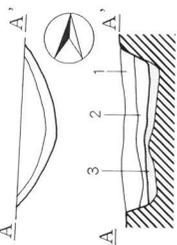
第28表 INP X H 86号住居址出土遺物一覽表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	7.6 (5.7)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 10R3/4 (赤褐) 外 2.5YR4/6 (赤褐) 底 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石多く、細石英粒子含む。	底部 3/4 完全実測	No.6
2	弥生高杯	-	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/6 (赤褐) 外 2.5YR4/6 (赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	回転実測	検出
3	弥生甕	22.5 6.4 24.2	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ(椀目)→ミガキ 外 口唇部縄文→頸部櫛描状文→体部櫛描羽状文 内 口縁ヨコナデ 胴下部ヘラナデ(椀目)	内 10YR5/2 (灰黄褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 2/3 完全実測	No.4 No.7 No.8 II区床
4	弥生甕	(19.1) 8.0 18.0	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ(椀目)→ミガキ 外 口唇部縄文 口縁櫛描状文 体部櫛描羽状文 体下半→ミガキ	内 10YR5/2 (灰黄褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/1 完全実測	No.5 No.7 No.8 II区床
5	弥生甕	(20.8) - (15.5)	内 ヘラナデ(椀目)→ミガキ 外 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描波状文 頸部櫛描状文 体部櫛描縦線文→櫛描波状文	内 5YR6/8 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石多く、細石英粒子含む。	口縁 1/2 完全実測	No.10 I区床
6	弥生甕	(14.4) - (7.6)	内 ミガキ 外 口唇部縄文 頸部櫛描横線文(5本) 体部櫛描縦波状文	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/3 回転実測	No.8

7	弥生 甕	- 7.2 (9.6)	内 外	ミガキ ヘラナデ (楕目) → 胴下部・底部ミガキ	内 外	5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	No.10 Ⅱ区床
8	弥生 甕	- 6.6 (8.3)	内 外	剥離 ヘラナデ (楕目) → ナデ → 胴斜走文 底部ヘラナデ	内 外	7.5YR5/6 (明褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	No.2 Ⅱ区床
9	弥生 台付甕	(7.6) (2.3)	内 外	脚部ナデ ミガキ	内 外	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	体部 1/4 回転実測	検出
10	弥生 台付甕	(12.4) (5.9) 12.2	内 外	ナデ → ミガキ 脚部 → ナデ 口唇部縄文 口縁部縹波状文 体部縹波状文 → ヘラ縹波状文 → 貼付文 脚部ミガキ	内 外	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 完全実測	Ⅱ区床
11	弥生 壺	(7.1) 6.2 (17.4)	内 外	ヘラナデ (楕目) 口縁部ミガキ ヘラナデ (楕目) → ミガキ 頭部ヘラ縹波状文 口唇部押圧痕 底部ミガキ	内 外	10YR5/3 (にぶい黄橙) 10YR6/2 (灰黄橙)	細長石粒多く、細石英含む。	底部完形 完全実測	No.2 Ⅱ区床 H85 検出
12	弥生 壺	(7.9) (18.5) (6.1)	内 外	胴部ヘラナデ (楕目) 口縁ミガキ 赤色塗彩 ミガキ 赤色塗彩 底部ナデ	内 外 底	7.5YR6/3 (にぶい橙) 2.5YR4/6 (赤褐) 7.5YR6/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/2 回転実測	Ⅱ区床
13	弥生 壺	- 7.4 (17.0)	内 外	ヘラナデ (楕目) 剥離 胴中位縄文 → ヘラ縹波状文 → ヘラ楕山形文 胴上部・胴下部・底部ミガキ	内 外	10YR7/3 (にぶい黄橙) 7.5YR7/2 (明褐灰)	細石英・細長石粒子含む。 1 ~ 2mm 大白色粒子含む。	底部完形 完全実測	No.1 No.3 No.5 ? Ⅰ区床 Ⅱ区床
14	弥生 壺	(19.4) - (13.9)	内 外	胴部ヘラナデ (楕目) 赤色塗彩 口縁ヘラナデ (楕目) ナデ 口唇部縄文 → ヘラ縹波状文 → ヘラ縹波状文 → ミガキ	内 外	7.5YR7/4 (にぶい橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙) 口縁 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 3/8 完全実測 二山の突起あり	No.11 Ⅰ区床
15	弥生 壺	- (9.8) (12.0)	内 外	ヘラナデ (楕目) ヘラナデ (楕目) → ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 外	10YR7/2 (にぶい黄橙) 2.5Y5/2 (灰赤)	細長石粒多く、細石英粒子含む。	底部 1/2 完全実測	Ⅱ区床 No.3 No.5 No.7
16	弥生 壺	19.0 (11.8) (39.5)	内 外	ナデ ヘラナデ (楕目) ヘラナデ (楕目) → ミガキ → 口縁部ヘラ楕山形文 → 頭部ヘラ縹波状文 → ヘラ楕山形文	内 外	7.5YR1.7/1 (黒) 2.5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/2 完全実測	No.3 Ⅱ区床
17	弥生 壺	- (10.6) (29.1)	内 外	ナデ 体部上半縄文 → ヘラ縹波状文 (3本) 体部下半ミガキ	内 外	10YR3/1 (黒褐) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部 2/3 完全実測	No.4 No.7 Ⅱ区床
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考			出土位置
28	石椁	149.0	72.0	42.0	800.0	変質緑岩。刃部欠損・研磨、器体研磨、破断面に磨り面。			No.12

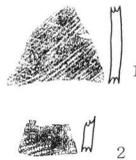
第29表 INP X H 92号住居址出土物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整		色調		胎土	残存・備考	出土位置
1	須臾器 長頸壺	(8.6) - (1.0)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	内 外	2.5Y4/1 (黄灰) 7.5YR6/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 混人品 回転実測	
2	弥生 注口土器	7.8 - (7.2)	内 外	ヘラナデ ミガキ	内 外	10YR6/3 (にぶい黄橙) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁完形 完全実測	No.3
3	弥生 甕	- 5.1 (6.1)	内 外	ヘラナデ (楕目) → ミガキ ミガキ	内 外	7.5YR4/1 (褐灰) 7.5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	No.2
4	弥生 壺	15.1 - (12.0)	内 外	ヘラナデ → ミガキ 口唇部縄文 頭部縹波状文 (5本) ヘラ縹波状文	内 外	10YR7/6 (橙) 10YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁完形 完全実測	No.1
5	弥生 壺	(15.8) - (7.1)	内 外	ヘラナデ (楕目) 剥離 口唇部・口縁部縄文 頭部ハケナデ (楕目)	内 外	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/3 回転実測	
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考			出土位置
11	打製石斧	58.0	51.0	9.0	38.7	安山岩。刃部欠損、刃部縁辺整形加工直接、器体加工直接。			
12	二次加工剥片	84.0	44.0	21.0	71.1	チャート。刃部縁辺整形加工直接、器体加工直接。			Ⅳ区
13	擦切石器	34.4	46.7	18.3	25.0	安山岩。横方向磨耗痕、器体右側叩き折り。			



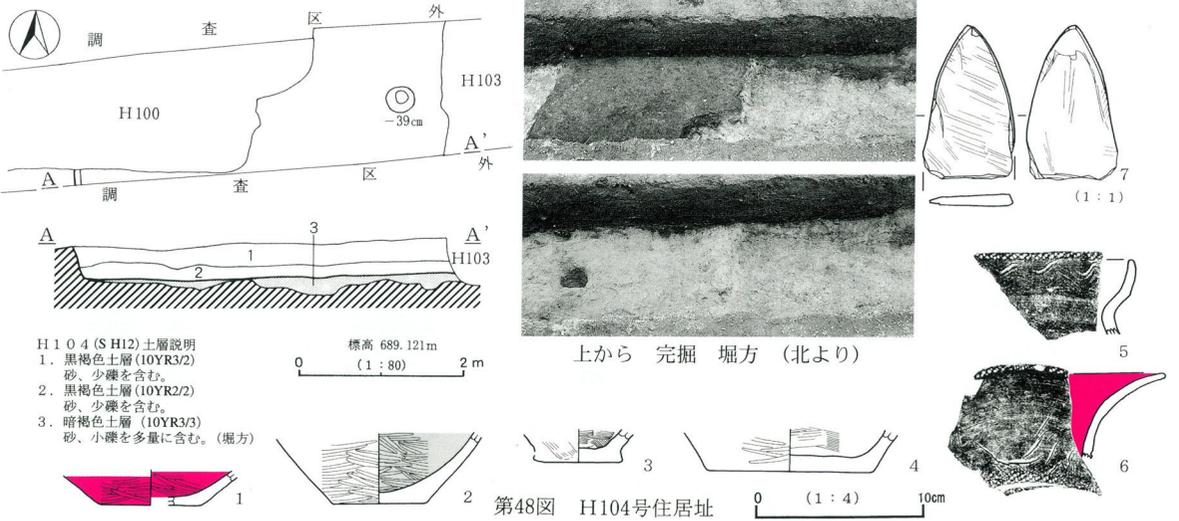
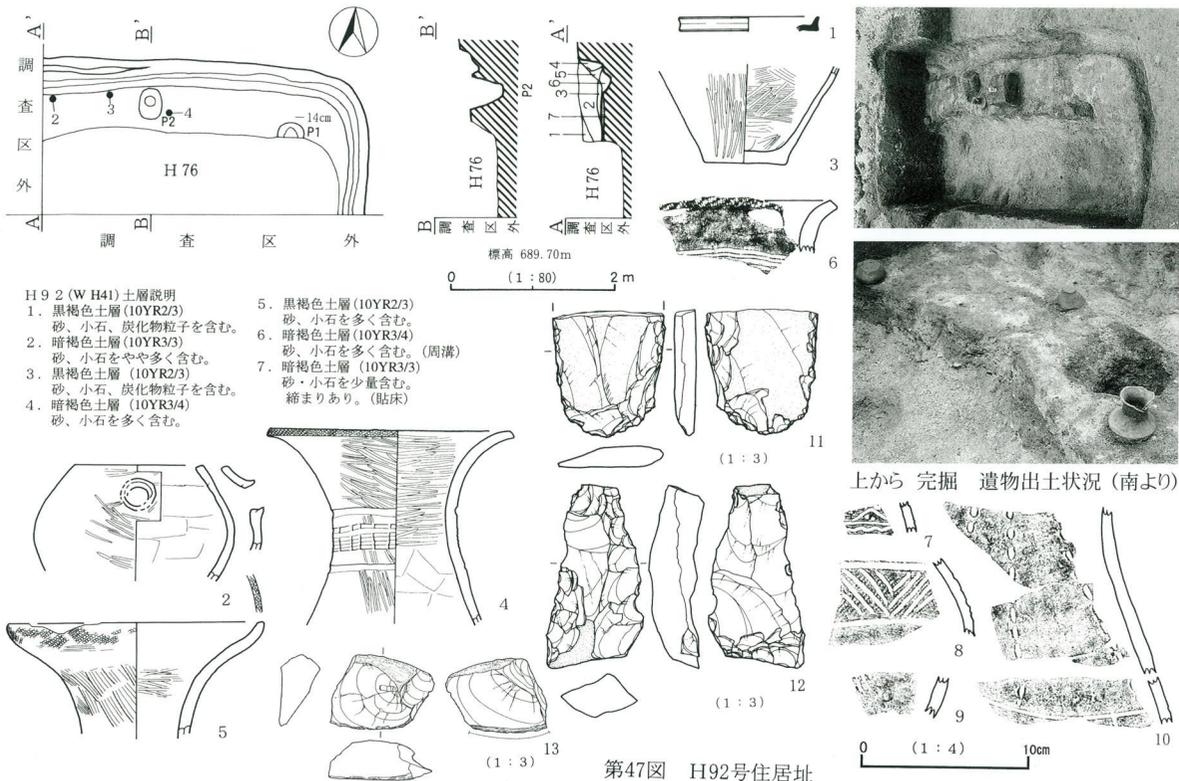
H 9 4 (S H2) 土層説明  
 1. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
 砂、小礫を含む。  
 2. 褐色土層 (10YR4/4)  
 砂を多量に含む。  
 3. 褐色土層 (10YR4/4)  
 砂、小礫を多量に含む。

標高 688.684m  
 0 1 2 m  
 (1 : 80)



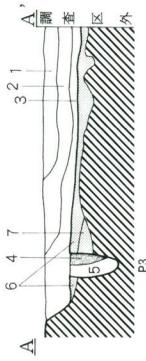
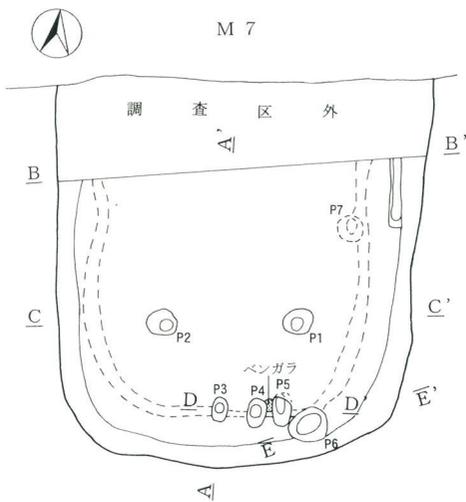
完掘 (東より)

第46図 H94号住居址



第30表 INP X H104号住居址出土遺物一覧表

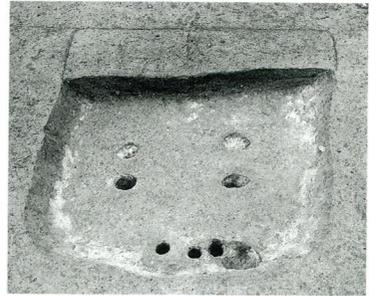
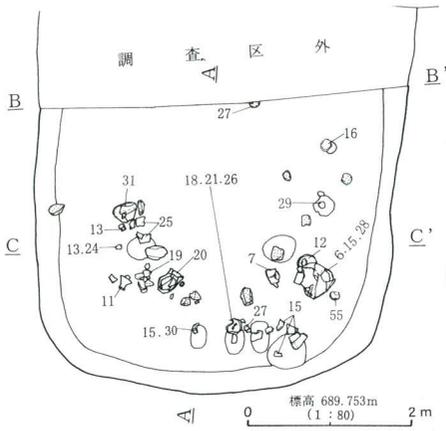
番号	器種	法量	成形・調整				色調		胎土	残存・備考	出土位置
			内	外	調整	調整	内	外			
1	弥生鉢	- (6.0)	内 ミガキ 外 ミガキ	赤色塗彩 赤色塗彩			内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR6/4 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測		
2	弥生鉢	- (5.6) (4.3)	内 ミガキ 外 ミガキ	黒色塗彩 赤色塗彩			内 10YR3/2 (黒褐) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細長石粒子多く、細石英粒子含む。 1・2mm 大赤色粒子含む。	底部1/2 回転実測	堀方	
3	弥生甕	5.4 (2.0)	内 ヘラナデ (柎目) 外 ヘラナデ (柎目)				内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR4/1 (褐灰)	細長石粒子多く、細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	堀方	
4	弥生壺	- (10.2) (2.6)	内 ミガキ 外 ミガキ				内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部1/4 回転実測	堀方	
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考				出土位置	
7	磨製石鏃未製品	23.5	14.0	2.0	1.0	緑色片岩				堀方	



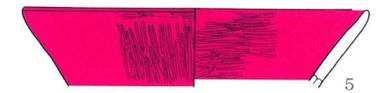
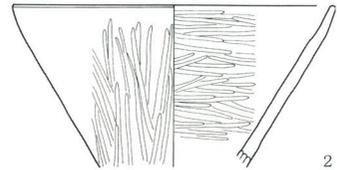
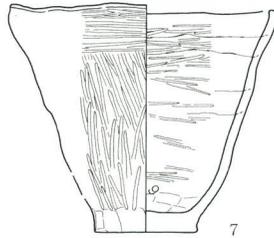
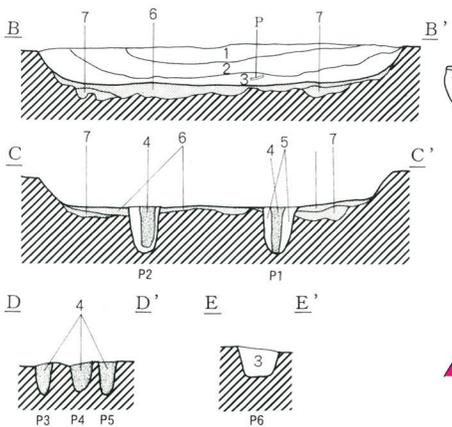
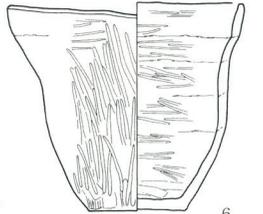
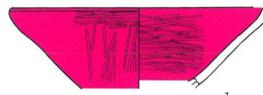
遺物出土状況 (西より)



遺物出土状況 (東より)



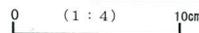
完掘 (南より)

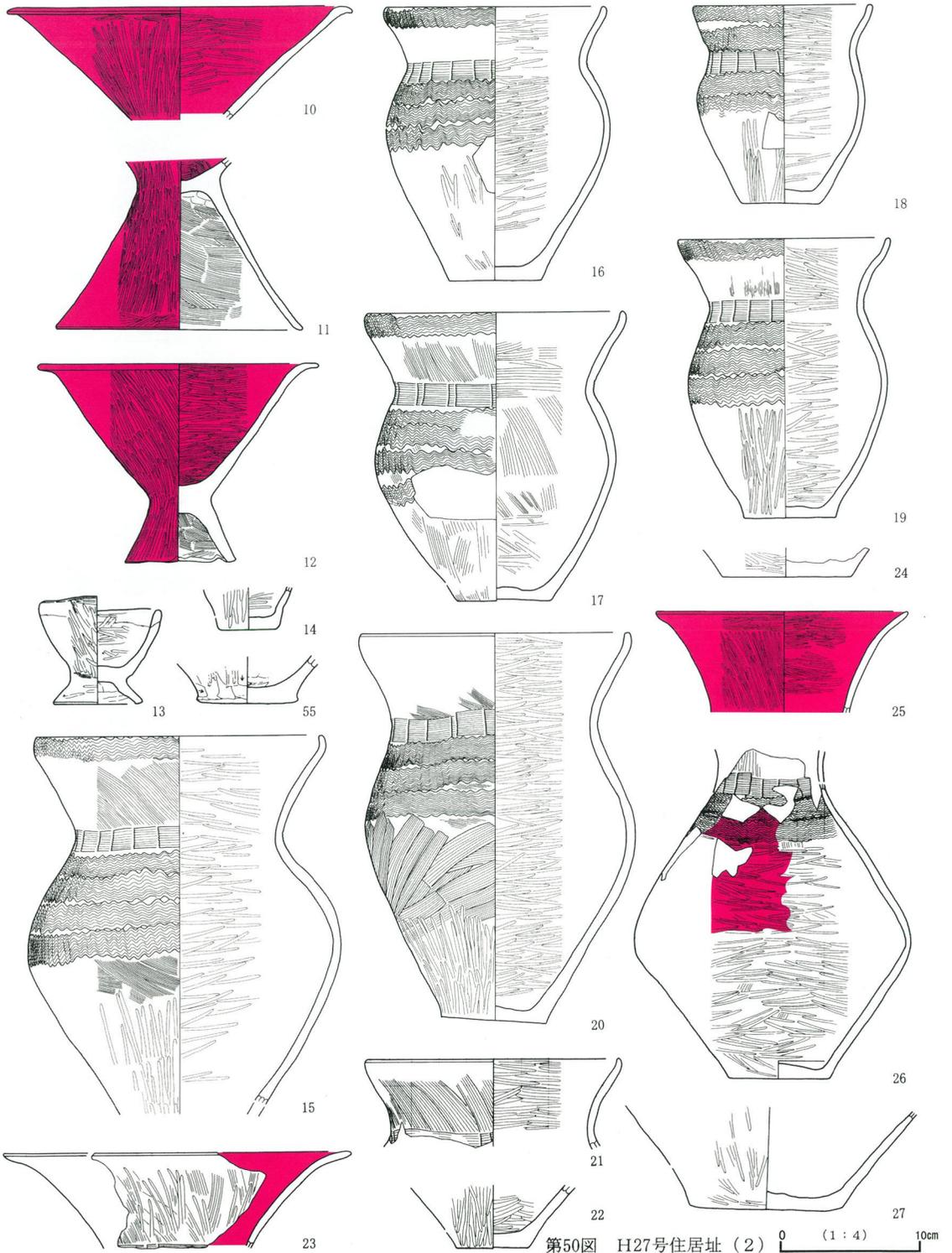


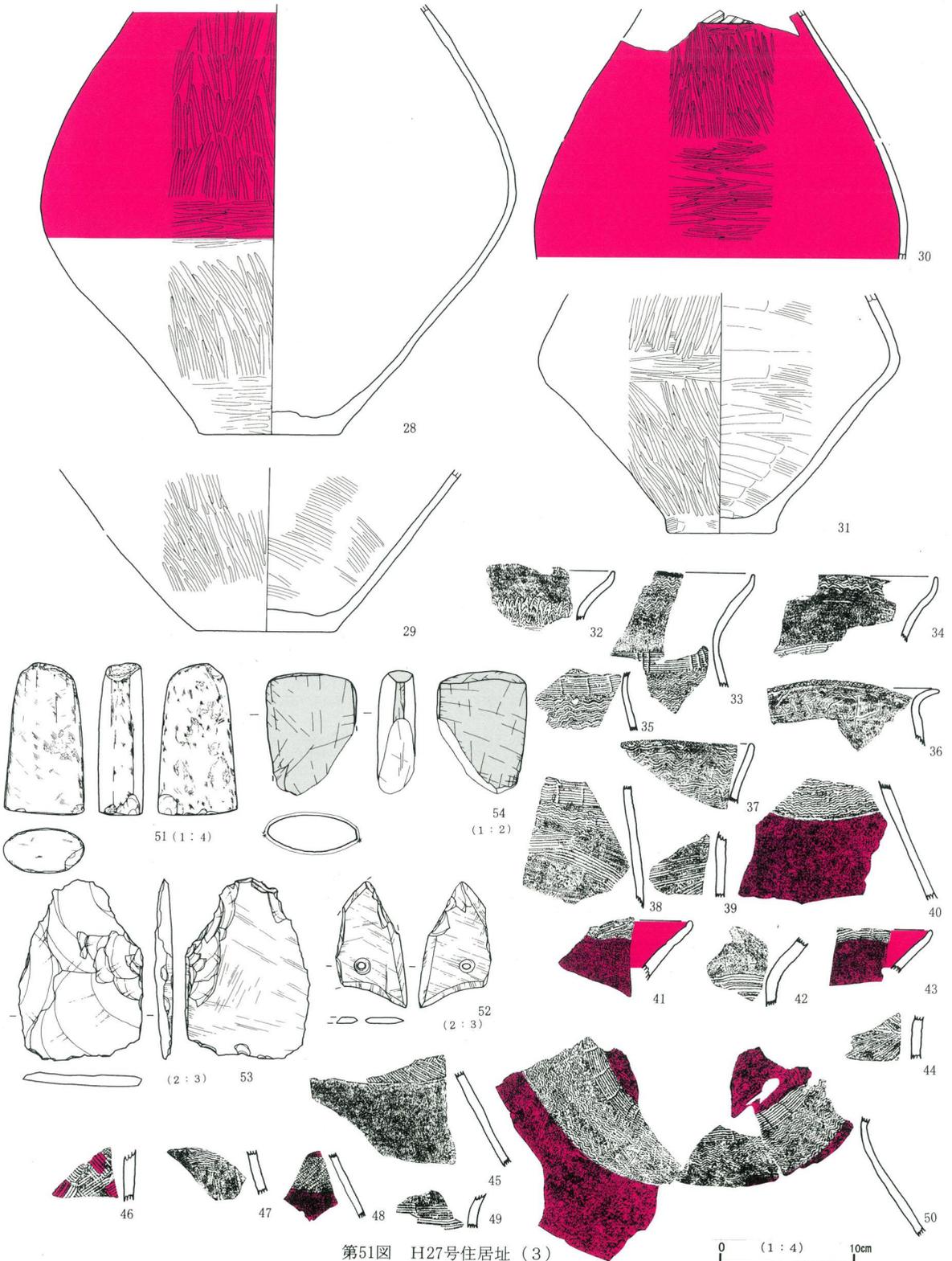
H27 土層説明

1. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
2層より黒色強い。砂、小石を含む。
2. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
砂、小石を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂を多量に含み、小石を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
(柱痕)
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を多量に含む。(ピット堀方)
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、小石を多く含む。
7. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂に黒褐色土を含む。

第49図 H27号住居址 (1)





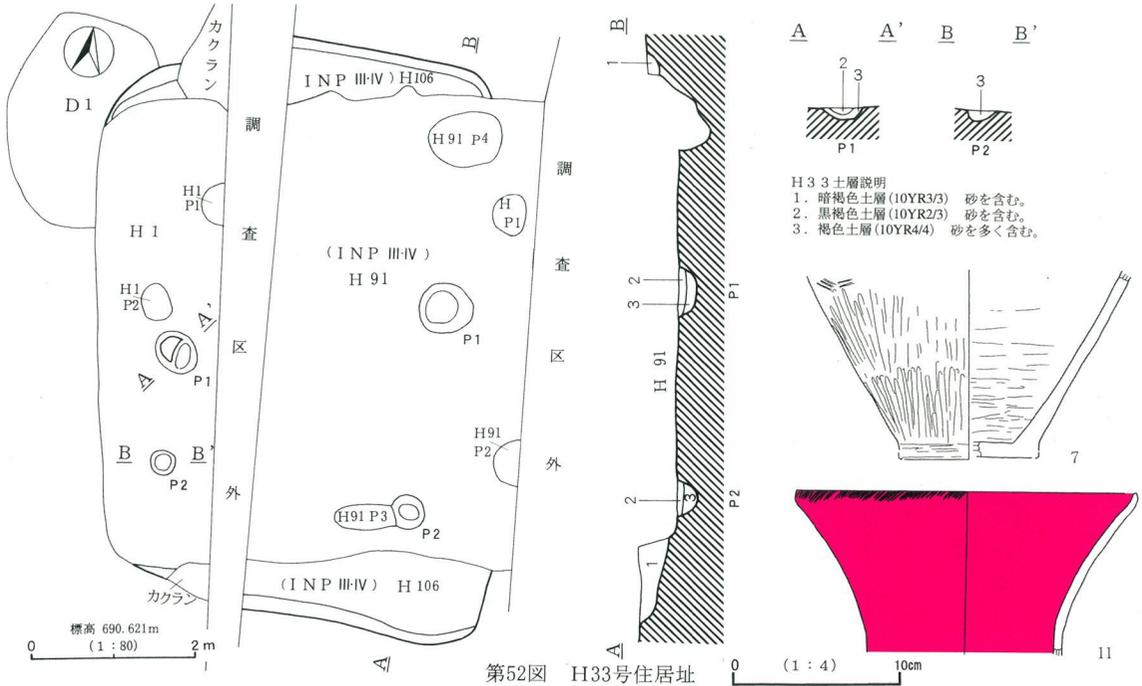


第51图 H27号住居址 (3)

第31表 INP X H 27号住居址出土遺物一覧表

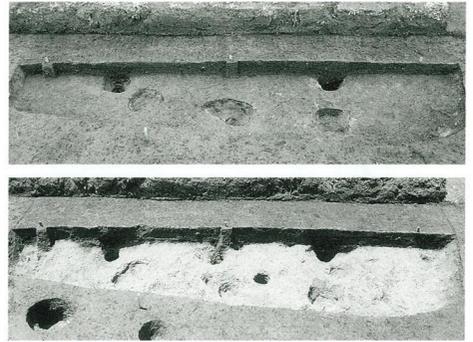
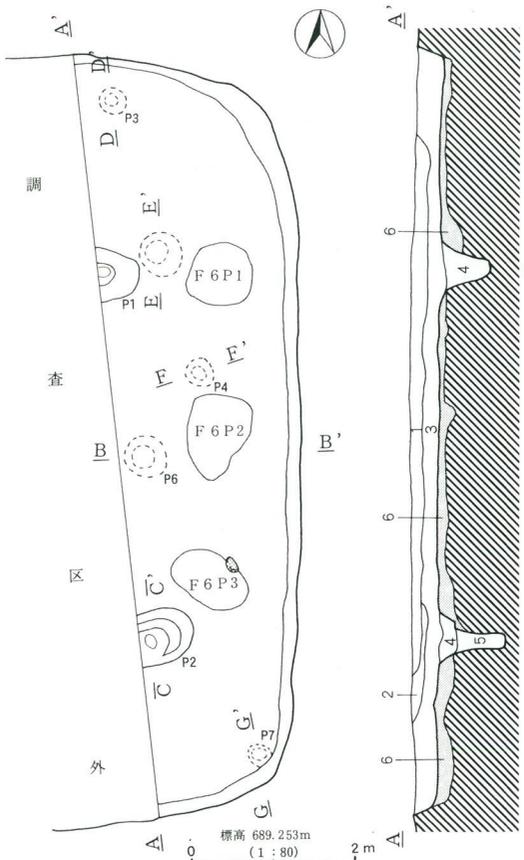
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(16.8) - (5.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3 回転実測	Ⅲ区2・3層 A19
2	弥生鉢	(19.8) - (10.0)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。 1mm大砂粒少し含む。	口縁1/2 回転実測	Ⅱ区2層
3	弥生鉢	(22.4) - (7.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	Ⅱ区1・2・3層
4	弥生鉢か高杯	(23.0) - (3.9)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/6 回転実測	Ⅱ区2・3層
5	弥生壺	(21.2) - (4.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。 1～2mm大白色・赤色粒子含む。	口縁1/8 回転実測	Ⅱ区3層
6	弥生鉢	14.5 5.9 12.8	内 ヘラナデ→ミガキ 底部ヘラナデ 外 ヘラナデ→ミガキ 底部ナデ	内 7.5YR5/3 (にぶい橙) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	ほぼ完形 器形不整形 完全実測	No.5
7	弥生鉢	16.2 6.3 14.0	内 ヘラナデ→ミガキ 底部ヘラナデ 外 ヘラナデ→ミガキ 底部ナデ	内 5YR5/2 (灰褐) 外 5YR4/1 (褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	4/5 器形不整形 完全実測	No.7 Ⅱ区2・3層
8	弥生無頸壺	(12.4) - (2.9)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R3/6 (暗赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 口縁に内孔3あり 回転実測	Ⅱ区1・2層
9	弥生壺	(6.0) - (2.8)	内 ヘラナデ (楕目) 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ナデ	内 7.5YR6/4 (にぶい黄橙) 外 10R4/6 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	底部1/4 回転実測	Ⅱ区1層
10	弥生高杯	(25.2) - (8.3)	内 ミガキ 赤色塗彩 (落ちる) 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R5/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。 まれに1～2mm大赤色粒子含む。	口縁1/6 回転実測	Ⅲ区3層
11	弥生高杯	- 18.0 (12.6)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ (楕目) 外 ミガキ 赤色塗彩	内 杯部10R4/8 (赤) 脚部5YR4/6 (赤灰) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子、1mm大砂粒含む。	脚部完形 4が杯部か? 完全実測	No.15
12	弥生高杯	20.5 - (14.5)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ (楕目) 外 ミガキ 赤色塗彩 塗彩は変色 口縁外面比をうける。	内 10R4/8 (赤) 外 5YR7/8 (橙) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子、1mm大砂粒含む。	杯部ほぼ完形 脚部欠損後再利用 完全実測	No.4
13	弥生高杯	9.0 6.5 7.9	内 杯部ミガキ (楕) 脚部ナデ 外 ミガキ (楕)	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙) 10YR1.7/1 (黒)	細石英・細長石・細砂粒子含む。	ほぼ完形 完全実測	No.17 No.18
14	弥生甕	- 4.2 (3.1)	内 ミガキ 外 ミガキ 底部ナデ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	検出
15	弥生甕	21.3 - (27.7)	内 ミガキ 外 口縁ヘラナデ (楕目) 口縁上部ヨコナデ→櫛描波状文 (9本) →頸部櫛描波状文 (9本、一連止) →胴上部櫛描波状文 (9本) 4段→胴部ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子多く含む。 1～2mm大白色粒子多く含む。	底部欠損 完全実測	No.5 No.8 No.12 Ⅱ区トレンチ Ⅱ区1・2・3層 Ⅲ区2・3層
16	弥生甕	16.2 (6.6) 20.0	内 ミガキ 外 口縁部ヨコナデ→胴上部櫛描波状文 (9本) 頸部櫛描波状文 (9本、一連止) →胴上半櫛描波状文 (9本) 3段→ミガキ 底部ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm大の長石・石英粒子多く含む。	口縁完形 底部1/2 完全実測	No.2 Ⅱ区1・2・3層 Ⅱ区トレンチ
17	弥生甕	19.0 (6.8) 21.1	内 ヘラナデ (楕目) 中位下ミガキ 底部ナデ 外 ヘラナデ (楕目) →口縁上ヨコナデ→櫛描波状文 (8本) 頸部櫛描波状文 (2連止) 胴上部櫛描波状文 底部ナデ	内 7.5YR5/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、まれに 1～2mm大砂粒含む。	3/4 完全実測	Ⅱ区1・2・3層 検出
18	弥生小型甕	13.1 5.6 14.5	内 ミガキ 口縁部櫛描波状文 (2段) 外 頸部櫛描波状文 (10本一連止) →胴上部櫛描波状文 (10本) 2段→下部ミガキ (楕) 底部ナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	4/5 完全実測	No.6 No.11 Ⅱ区トレンチ Ⅱ区2層 Ⅲ区3層
19	弥生甕	15.5 6.7 20.4	内 ミガキ 外 口縁部ヨコナデ→胴部櫛描波状文 (8本) → 頸部櫛描波状文 (10本、一連止) →胴上半櫛描波状文 胴下部ミガキ 底部未調整	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子、まれに 1～2mm大砂粒含む。	4/5 完全実測	No.14
20	弥生甕	19.9 7.7 28.4	内 ミガキ 外 口縁ナデ→口縁上部ヨコナデ 頸部櫛描波状文 (12本1連止) 胴上部櫛描波状文 (3段、13本) 胴中部櫛描斜走文 胴下部ミガキ 底部ナデ	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	細長石・細石英粒子多く含む。	頸部～底部完形 口縁2/3 完全実測	No.13 Ⅲ区1・2・3層
21	弥生甕	(18.8) - (6.4)	内 ミガキ 口縁部ヘラナデ (楕目) 外 ヘラナデ (楕目) →口縁ヨコナデ 頸部櫛描波状文	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3 回転実測	No.11 Ⅱ区2層
22	弥生甕	- 5.2 (4.6)	内 ミガキ 外 ミガキ 底部ヘラナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR1.7/1 (黒)	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	Ⅱ区2層
23	弥生壺	(25.4) - (7.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ヨコナデ ヘラナデ (楕目) →ミガキ 頸部櫛描波状文	内 10R4/8 (赤) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/5 回転実測	Ⅲ区3層
24	弥生壺	- 9.4 (2.1)	内 剥落 外 ミガキ 底部ヘラナデ	内 外	細長石・細石英粒子、2mm大白色 ・1mm大赤色粒子多く含む。	底部1/2 完全実測	No.17 Ⅱ区トレンチ
25	弥生壺	18.4 - (7.4)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	口縁3/4 完全実測	No.19 No.20 Ⅲ区2層
26	弥生壺	7.2 - (24.1)	内 口縁部ヘラナデ (楕目) →ミガキ 胴部ナデ 外 頸部櫛描波状文 (11本2段) 櫛描波状文 (11本1連止) ヘラナデ (楕目) →ミガキ 底部ミガキ	内 7.5YR8/4 (浅黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR1.7/1 (黒)	細長石・細石英粒子含む。	頸部～底部 ほぼ完形 部分的に赤色塗彩あり。 完全実測	No.11 Ⅱ区トレンチ
27	弥生壺	11.1 - (7.5)	内 剥落 外 ミガキ 底部ヘラナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子、まれに 1mm大白色・赤色粒子含む。	底部完形 完全実測	No.1 No.10
28	弥生壺	10.8 - (33.1)	内 剥落 外 ミガキ 赤色塗彩 胴下半ミガキ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 2.5YR4/8 (赤褐) 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子、～3mm大 白色・赤色粒子含む。	体部～底部完形 完全実測	No.5 Ⅱ区2層
29	弥生壺	10.6 - (12.5)	内 ヘラナデ (楕目) 外 ミガキ 底部ヘラナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英1～3mm大 白色・赤色粒子含む。	底部完形 完全実測	No.3
30	弥生壺	- - (19.1)	内 剥落 外 ミガキ 赤色塗彩 頸部ヘラ横溝状文	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	体部1/2 完全実測	No.12 Ⅱ区トレンチ Ⅲ区3層
31	弥生壺	- 8.3 (18.4)	内 ヘラナデ (楕目) 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ	内 10YR7/6 (橙) 外 10YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子1mm大砂粒含む。	体部～底部完形 完全実測	No.21

番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
51	石槌	116.0	60.0	34.0	430.0	変質輝緑岩。刃部欠損・研磨、器体加工研磨、破断面に磨り面。	II区サブトレンチ
52	磨製石鏃	36.0	20.5	2.0	1.7	両側欠損	II区1層
53	扁平片刃石斧断片	50.0	34.0	5.0	10.6	蛇紋岩。刃部欠損・研磨、器体研磨、剥片状の断片。	II区3層
54	砥石	(46.0)	34.0	14.0	28.3	砂岩	検出



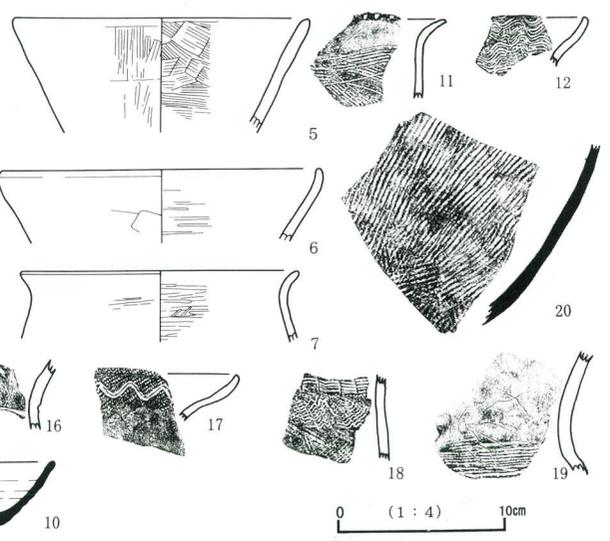
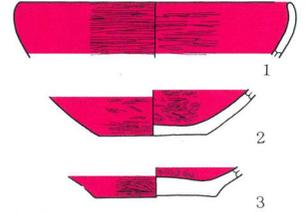
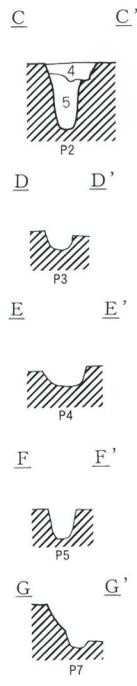
第32表 INP X H34号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(16.6)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	0.5mm 大長石・細石英粒子含む。	口縁1/6 回転実測	P1
		(3.4)	外 ミガキ 赤色塗彩	外 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)			
2	弥生鉢	(6.6)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5R4/8 (赤)	0.5mm 大長石粒子多く、細石英粒子含む。	底部1/4 回転実測	I区
		(2.8)	外 ミガキ 赤色塗彩 底部剥落不明	外 7.5R3/6 (暗赤)			
3	弥生鉢	7.4	内 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5R4/4 (にぶい赤)	細長石・細石英粒子含む。	底部3/4 完全実測	T92
		(1.8)	外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ 赤色塗彩	外 7.5R4/4 (にぶい赤)			
4	弥生高杯	(14.3)	内 ミガキ 赤色塗彩(剥落)	内 2.5YR4/6 (赤褐)	1mm 大砂粒、細石英・細長石含む。	口縁1/4 回転実測	I区
		(6.0)	外 ミガキ 赤色塗彩(剥落)	外 10R4/8 (赤)			
5	弥生甌?	(18.2)	内 ヘラナデ(榎目)	内 7.5YR6/3 (にぶい褐)	0.5mm 大砂粒、細長石・細石英含む。	口縁1/4 回転実測	I区
		(7.0)	外 ヘラナデ(榎目) →ヨコナデ→下部ミガキ	外 7.5YR6/3 (にぶい褐)			
6	弥生甌	(19.6)	内 ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	I区
		(4.5)	外 ナデ	外 7.5YR6/4 (にぶい橙)			
7	弥生深鉢	(17.1)	内 ミガキ	内 7.5R2/2 (極暗赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8 回転実測	堀方
		(4.4)	外 ナデ ミガキ	外 2.5YR4/2 (灰赤)			
8	弥生甌	(15.0)	内 ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石含む。	口縁1/8 回転実測	検出
		(4.2)	外 ヨコナデ 口縁部縄文 頸部~胸部縞波状文	外 10YR5/1 (褐灰)			
9	灰釉皿	(7.0)	内 ロクロナデ→施種(ハケ)	内 5Y7/2 (灰白)	緻密。	底部1/12 回転実測 ※角高台 混入品	検出
		(1.6)	外 右回転ヘラケズリ→高台	外 2.5Y7/3 (浅黄)			
10	須置器杯	(13.4)	内 ロクロナデ	内 10YR6/1 (褐灰)	1mm 大砂粒、細石英・細長石粒子含む。	底部3/8 回転実測	I区
		(6.8)	外 ロクロナデ→底部回転系切り	外 10YR6/1 (褐灰)			
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
21	大型磨製石鏃	(30.0)	21.0	2.5	2.1	緑色片岩。上下欠損	I区



上から 完掘 (東より) 堀方 (東より)

- H34 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、小礫を多く含む。
  2. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫を多く含む。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、少礫を多く含む。
  4. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、小礫を含む。
  5. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫を多量に含む。
  6. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫を多量に含む。



0 (1:4) 10cm

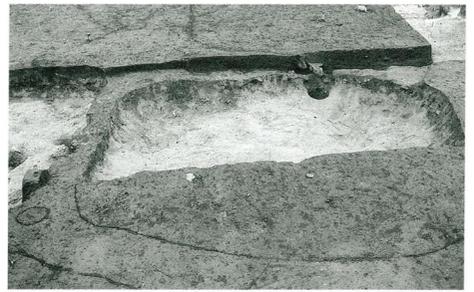
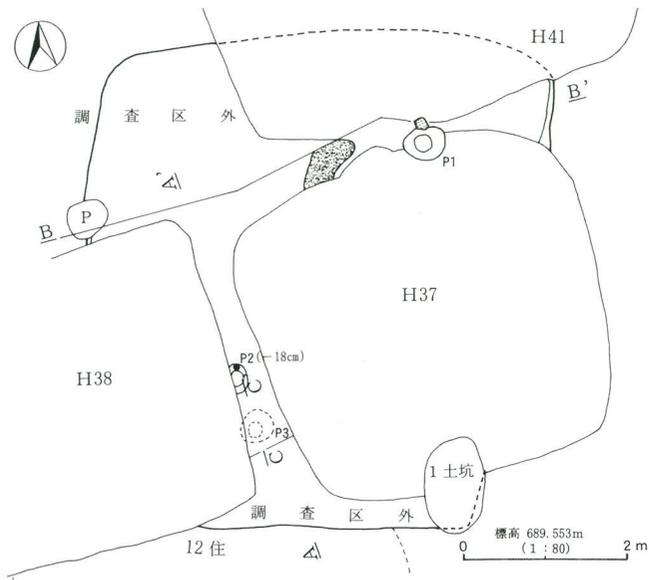
第53図 H34号住居址

第33表 INP X H 39号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存備考	出土位置
1	弥生鉢か高杯	(16.9) - (3.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 剥落する 外 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/8 (赤褐) 外 2.5YR4/8 (赤褐)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁1/8 回転実測 突起付く	
2	弥生鉢か高杯	(15.8) - (3.6)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5R3/6 (暗赤) 外 7.5R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測 突起付く。	
3	弥生高杯	-	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 杯部大半剥落 脚部 7.5YR5/3 (にぶい褐) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	脚部1/1 完全実測 上端部スリ面あり。 器台として再利用か?	T16
4	弥生甕	(13.7) - (8.7)	内 ミガキ 外 口縁櫛描波状文 貼付文 体部ヘラ描斜走文→貼付文 頸部櫛描籐状文 下部ミガキ	内 7.5YR5/4 (にぶい褐) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	胴部1/1 完全実測	T15
5	弥生甕	(13.9) - (8.3)	内 ミガキ 外 口縁ココナデ 頸部櫛描籐状文 (9本、1連止) 胴上部櫛描波状文	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/2・6/4 (灰褐・にぶい橙)	径1mm以下の黒色粒子、細石英・細長石粒子含む。	口縁一部・頸部 1/4	検出
6	弥生甕	(4.8) - (6.3)	内 ミガキ 外 櫛描波状文 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 回転実測	T16
7	弥生台付甕	(5.0) - (4.2)	内 体部ミガキ 脚部ナデ 外 ヘラ描「コ」字重文 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 完全実測	
8	弥生甕	(5.9) - (2.3)	内 ミガキ 外 ヘラナデ (柁目) ミガキ	内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部3/4 回転実測	T15
9	弥生壺	(19.0) - (6.5)	内 ミガキ ヘラナデ (柁目) 外 口唇部縄文 頸部ヘラ描横線文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	T15
10	弥生壺	-	内 ミガキ 赤色塗彩わずかに残る 外 ミガキ 赤色塗彩 口唇部縄文	内 7.5YR5/4 (にぶい褐) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測 熟うけて垂む	堀方
11	弥生壺	(15.4) - (3.2)	内 ココナデ 外 ミガキ 文 口唇部縄文	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石含む。	口縁2/11	堀方
12	須恵器有台杯	11.0 7.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切後 右回転ヘラケズリ→高台	内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR4/1 (褐灰)	まれに1mm大砂粒、細石英・細長石粒子含む。	底部1/1 完全実測 高台底面磨耗 H37のものか?混入品	検出

第34表 INP X H 48号住居址出土遺物一覧表

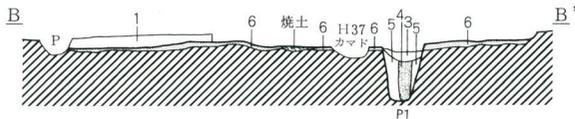
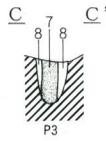
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存備考	出土位置
1	弥生鉢	(10.9) - (2.1)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	I区1層
2	弥生鉢	(5.6) - (3.3)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 2.5YR4/6 (赤褐) 外 2.5YR3/4 (暗赤褐) 底部黒	細石英・細長石粒子、まれに1mm大赤・白色粒子含む。	底部1/4 回転実測	I区2層
3	弥生鉢	(6.0) - (2.1)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ (剥落)	内 2.5YR4/6 (赤褐) 外 2.5YR4/8 (赤褐) 底 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	床
4	弥生鉢	(6.6) - (1.6)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 10R5/8 (赤) 外 10R5/6 (赤) 底 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	I区2層
5	弥生高杯	(27.6) - (2.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	I層 IV区2層
6	弥生鉢	(14.9) - (5.3)	内 ヘラナデ (柁目) →ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	IV区床
7	弥生甕	(7.0) - (2.9) 孔 (1.2)	内 ミガキ 外 ヘラナデ (柁目) →ナデ	内 7.5YR4/2 (灰褐) 外 7.5YR5/1 (褐灰)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	底部1/2 回転実測 焼成前穿孔 一孔	II区2層
8	弥生台付甕	(5.0) - (4.0)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 脚 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/1 回転実測	II区2層
9	弥生甕	(6.0) - (3.0)	内 胴部ミガキ 底部ナデ 外 ミガキ 底部未調整	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/1 完全実測	V区2層



完掘 (南より)

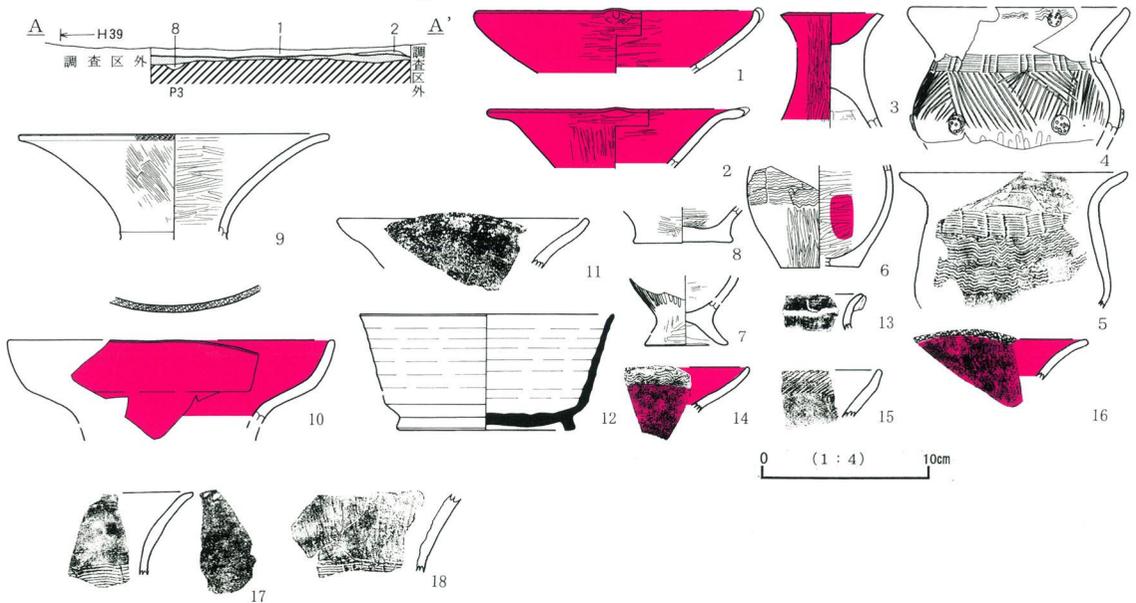


堀方 (南より)

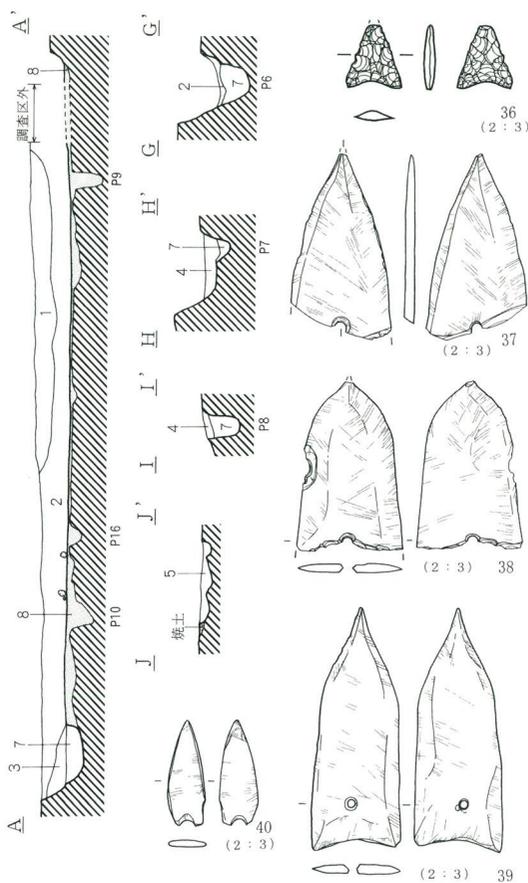
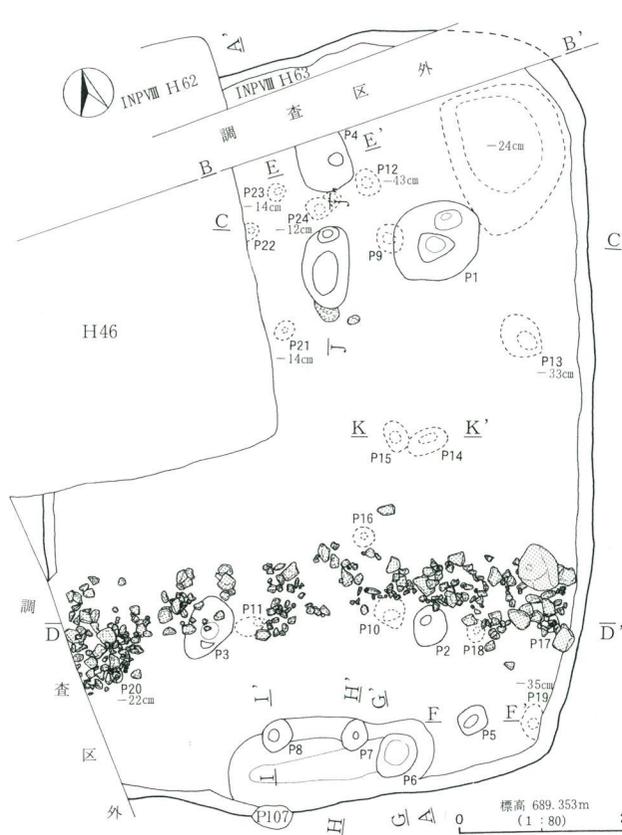


H39 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
バミス、砂を微量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
バミス、砂を微量に含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂が多量に混入。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂が多量に混入。(柱痕)
5. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂が多量に混入。(ピット堀方)
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂が多量に混入。(貼床)
7. 褐色土層 (10YR4/4)  
(柱痕) (P3、12号住ビットか?)
8. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)  
砂主体。(P3、12号住ビットか?)

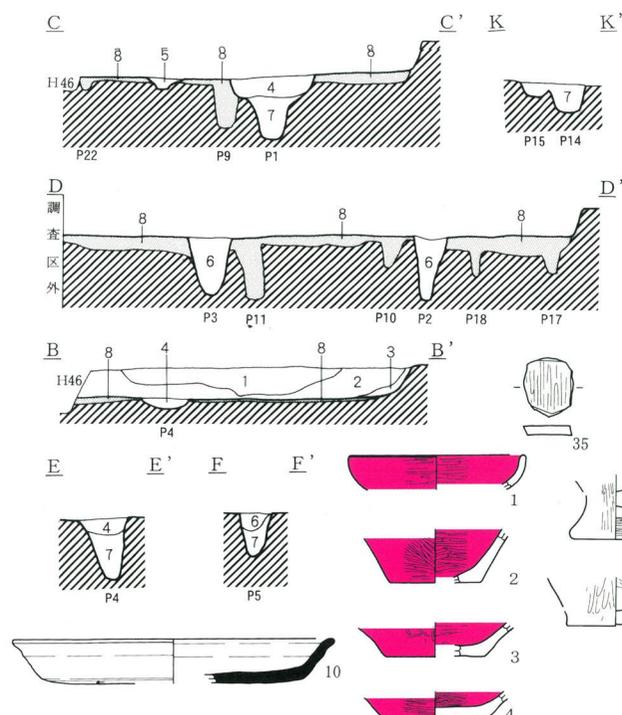


第54図 H39号住居址

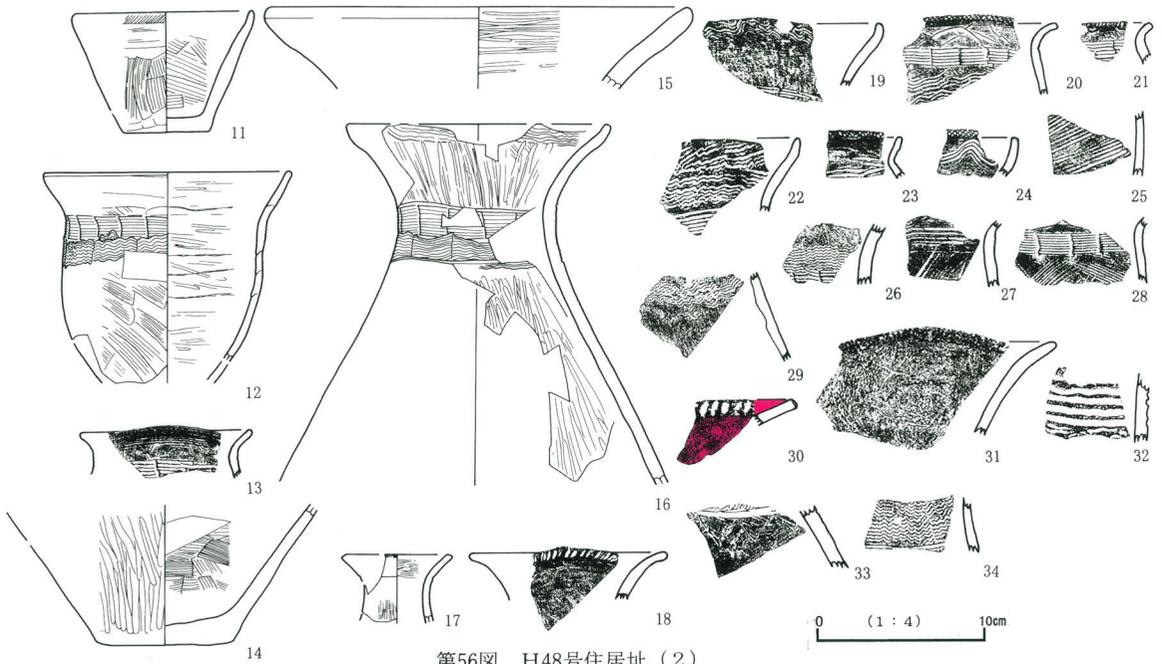


完掘 (東より)

- H48 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を多くみ、小石を含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂を多く含む。
  4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
  5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼土粒を含む。
  6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を多く含む。
  7. 褐色土層 (10YR4/6) 砂を多量に含む。
  8. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。

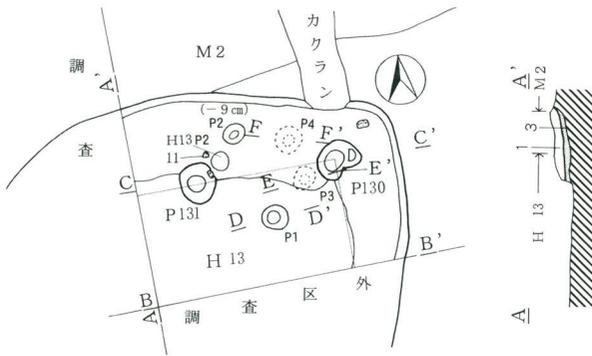


第55図 H48号住居址 (1)



第56図 H48号住居址（2）

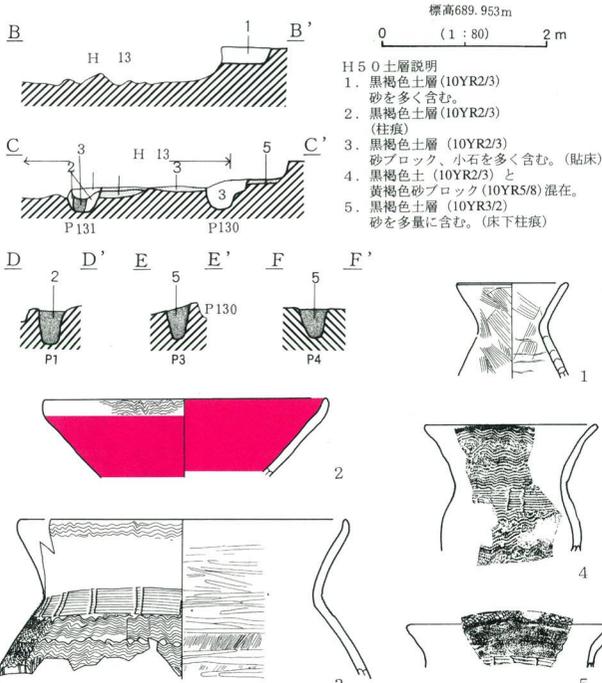
10	須恵器 高杯	(19.6) - (2.7)	内 ロコナデ 外 ロコナデ→右回転ヘラケズリ	内 2.5Y5/1 (黄灰) 外 2.5Y4/1 (黄灰)	細石英・細長石粒子, 0.5mm 大 砂粒含む。	口縁 1/4 回転実測	検出
11	弥生 鉢	(11.2) 5.2 7.4	内 ヘラナデ (極目) 外 ヘラナデ (極目) →口縁コナデ→口縁櫛描斜走文 底部ヘラナデ	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙) 黒	細石英・細長石粒子含む。 まれに 2mm 大白色粒子含む。	底部 1/1 完全実測	IV区 2層
12	弥生 甕	15.2 - (12.9)	内 ヘラナデ (極目) →ミガキ 外 ヘラナデ (極目) →頸部櫛描籬状文 櫛描波状文	内 7.5YR5/3 (にぶい褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子, まれに 1~2mm 大白色粒子含む。	口縁 1/1 完全実測	V区 2層 V区床
13	弥生 甕	(10.7) - (3.0)	内 ミガキ 外 コナデ 頸部櫛描籬状文 (単位不明、1 連止)	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細石英・細長石含む。	口縁 1/5	I区 2層
14	弥生 壺	- 8.4 (8.6)	内 ヘラナデ (極目) ナデ 外 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子, まれに 1~2mm 大赤色粒子含む。	底部 7/8 回転実測	IV区 2層
15	土師器 壺	(26.2) - (5.0)	内 ヘラナデ (極目) →ミガキ 外 コナデ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子, 2mm 大 赤色, 白色粒子含む。	口縁 1/8 回転実測	I層
16	弥生 壺	(16.2) - (22.1)	内 ヘラナデ (極目) →口縁ミガキ 外 口縁櫛描波状文 頸部櫛描籬状文 (9 本、一連止) →ヘラ描平行線文→口縁・胴部ミガキ	内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子, まれに 1mm 大白色・赤色粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	V区床 IV区 2層
17	弥生 壺	(6.8) - (4.2)	内 ナデ→口縁ミガキ 外 口唇部縄文 口縁部コナデ ナデ→胴部ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子, まれに 1mm~2mm 大白色粒子含む。	頸部 3/4 完全実測	IV区 1層
18	弥生 壺	(12.2) - (2.9)	内 ミガキ 外 ミガキ 口唇部 刻目	内 10YR4/1 (褐灰) 外 10YR4/1 (褐灰)	径 1mm 以下の黒色粒子, 細石英 ・細長石含む。	口縁 1/8	検出
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	ε	備考	出土位置
36	凹基石鏡	14.8	12.9	2.7	0.3	黒曜石。刃部縁辺整形加工押圧剥離。器体加工押圧剥離。	検出
37	磨製石鏡	42.0	23.0	2.5	2.9	脚欠損。粘板岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工。研磨穿孔。	IV区 2層
38	磨製石鏡	38.5	24.5	2.0	3.6	脚欠損。緑色片岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。穿孔。	床
39	磨製石鏡	56.0	20.0	2.0	3.3	緑色片岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。穿孔。	IV区床
40	磨製石鏡	24.0	9.0	1.5	0.5	緑色片岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。	床



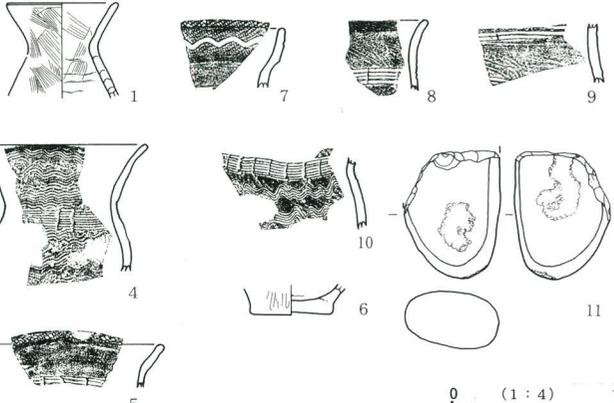
完掘 (南より)



堀方 (南より)



H50 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 砂を多く含む。  
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 (柱痕)  
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 砂ブロック、小石を多く含む。(貼床)  
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) と  
 黄褐色砂ブロック (10YR5/8) 混在。  
 5. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
 砂を多量に含む。(床下柱痕)

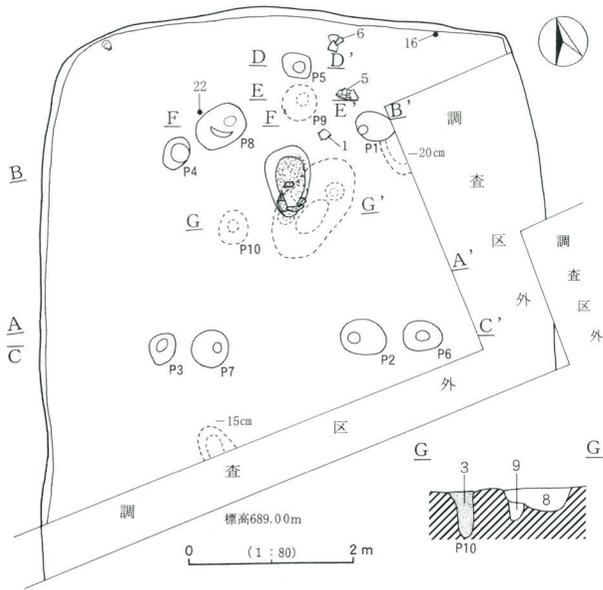


第57図 H50号住居址

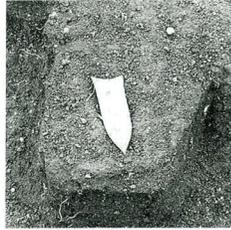
0 (1:4) 10cm

第35表 INP X H50号住居址出土遺物一覧表

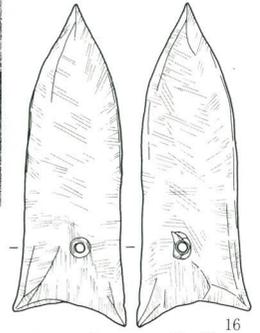
番号	器種	法量	成形・調整		色調		胎土	残存・備考	出土位置
			内	外	内	外			
1	弥生 壺	6.8 - (5.8)	内 外	ヘラナデ (柁目) ヘラナデ (柁目)	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石、細石英赤色粒子含む。	口縁 1/1 完全実測	H13 カマド堀方	
2	弥生 鉢	(17.4) - (4.8)	内 外	ミガキ 赤色塗彩 口縁櫛描波状文 体部ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 10YR4/8 (赤) 口縁 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細長石、細石英赤色粒子含む。	口縁 1/12 回転実測	T31	
3	弥生 甕	(20.2) - (9.8)	内 外	ヘラナデ (柁目) → ミガキ 口縁櫛描波状文 1 段 頸部櫛描波状文 体部櫛描波状文 体部中央櫛描斜走文	内 5R5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR3/2 (暗赤褐)	細長石、細石英赤色粒子含む。	口縁 1/5 回転実測	H13 1区	
4	弥生 甕	(10.5) - (7.7)	内 外	ミガキ 口縁部櫛描波状文 (8本1組) 頸部櫛描波状文 (2連止、9本1組) 胸部櫛描波状文 (単位不明)	内 7.5YR5/1 (褐灰) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	径1mm以下の長石、細石英含む。	口縁 1/8 外面磨滅	I区	
5	弥生 甕	(12.7) - (2.6)	内 外	ミガキ ヨコナデ 口唇部踵文 頸部櫛描波状文 (1連止)	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	径1mm大長石、赤褐色粒子、 細石英含む。	口縁 1/6	I区	
6	弥生 甕	- 5.0 (1.8)	内 外	ナデ ミガキ 底部ナデ	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細長石、細石英赤色粒子含む。	底部 1/1 完全実測	I区	
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重	備考		出土位置	
11	敲打石	(78.0)	59.0	35.0	242.0			No.2	



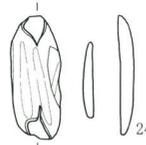
完掘 (南より)



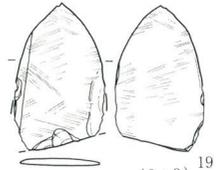
磨製石鉄 (南より)



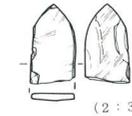
(2:3) 16



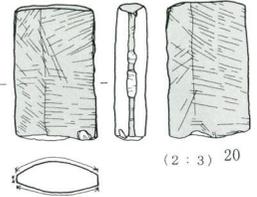
(1:1) 24



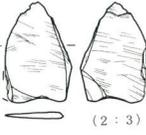
(2:3) 19



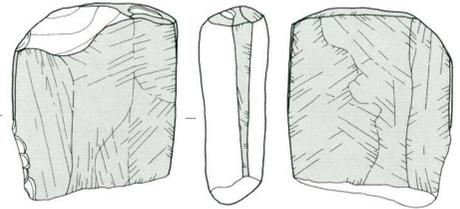
(2:3) 17



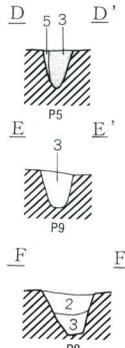
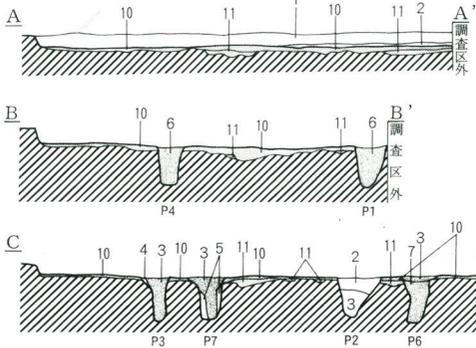
(2:3) 20



(2:3) 18

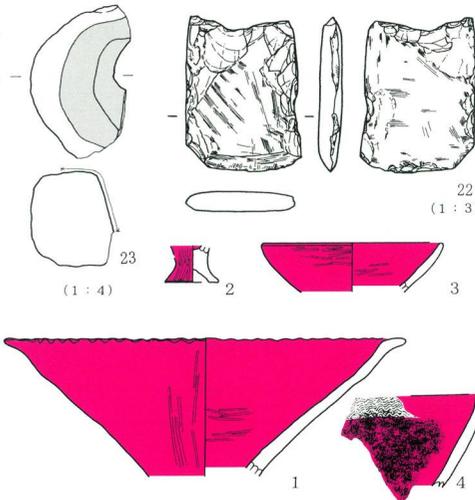


(1:2) 21



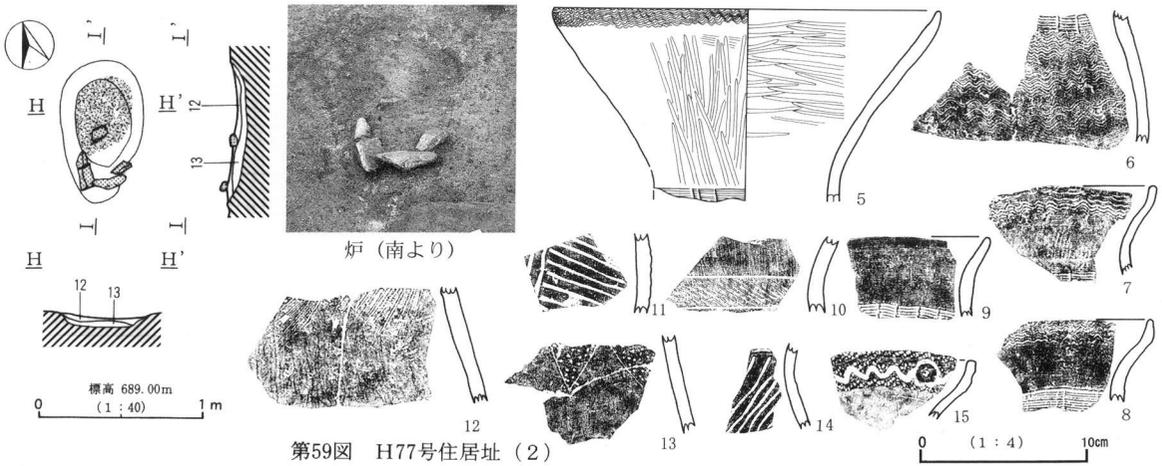
H 7 7 (W H23) 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
パミスを微量にふくみ、砂を少し含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
パミス、砂を少し含む、炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(柱痕)
4. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂が多量に混入。
5. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂が多量に混入。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
(柱痕)
7. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
(柱痕)
8. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂ブロック、パミス、小石を多量に含む。
9. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
縮まりなし。
10. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
縮まりあり。(粘床)
11. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂が多量に混入。
12. 褐色土層 (7.5YR4/3)  
焼土粒子を含む。
13. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を少量含む。



0 (1:4) 10cm

第58図 H77号住居址 (1)

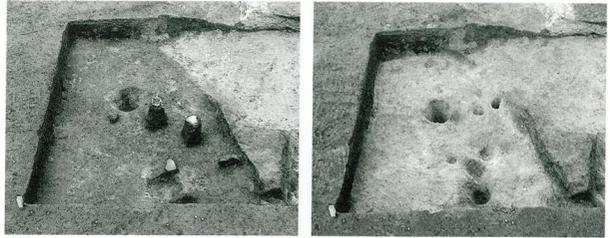
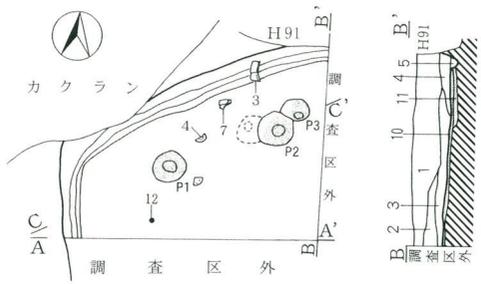


第36表 INP X H77号住居址出土遺物一覽表

番号	器種	法量	成 形・調 整				色 調		胎 土	残 存・備 考	出土位置
1	弥生 高杯	(24.6) - (8.5)	内	ミガキ	赤色塗彩	内	10R4/4 (赤褐)	1mm大長石粒子、細石英粒子 含む。	口縁1/4 回転実測	No.7 I区1・2層	
2	弥生 高杯 ミニチュア	3.3 (2.2)	内	ナデ	赤色塗彩	内	7.5R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	胴部完形 完全実測	IV区廻方	
3	弥生 鉢	(11.2) - (3.0)	内	ミガキ	赤色塗彩	内	7.5R3/6 (暗赤)	細長石多く、細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	IV区1層	
5	弥生 壺	23.9 - (11.8)	内	ミガキ		内	10YR7/3 (にぶい橙)	1mm大長石粒子、細石英粒子 含む。	口縁完形 完全実測	No.5 I区2層	
16	大形磨製石鏃未製品	74.0	中	2.6	2.5	6.2	粘板岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。穿孔。			No.1	
17	磨製石鏃	18.0	中	10.0	2.0	0.4	粘板岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。			III区1層	
18	磨製石鏃	23.0	中	15.0	2.0	0.7	粘板岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。			P3	
19	磨製石鏃未製品	33.0	中	21.0	1.5	1.6	凝灰岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。			IV区2層	
20	砥石	(42.0)	中	25.0	10.0	13.2	砂岩			床	
21	砥石	(61.0)	中	50.0	22.0	78.9	砂岩			I区1層	
22	扁平片刃石斧	71.0	中	53.0	10.0	64.0	緑色岩類。刃部欠損、器体研磨。			No.3	
23	凹石	94.0	中	(62.0)	58.0	93.5	軽石			IV区1層	
24	土玉	9.0	中	8.0	7.0	0.9				I区廻方	

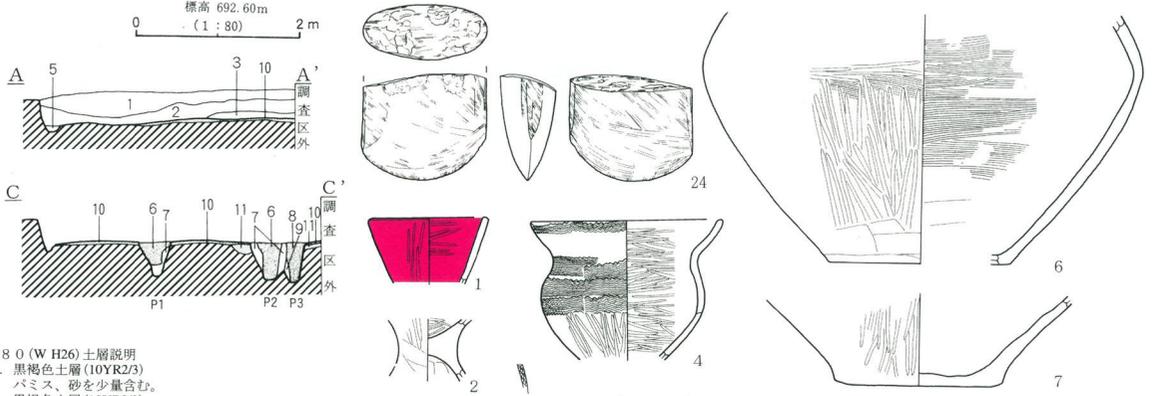
第37表 INP X H80号住居址出土遺物一覽表

番号	器種	法量	成 形・調 整				色 調		胎 土	残 存・備 考	出土位置
1	弥生 杯	7.4 - (4.0)	内	ミガキ	赤色塗彩	内	10R4/8 (赤)	細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	廻方	
2	弥生 台付甕	- (4.0)	内	杯部ミガキ	胴部ナデ	内	2.5YR4/1 (赤灰)	細石英・細長石粒子含む。	頸部 完全実測	No.5	
3	弥生 甕	(19.2) - (16.8)	内	ヘラナデ (楕目) →ミガキ		内	10YR3/1 (黒褐)	細石英・細長石粒子含む。	1/2 器内が薄い。 回転実測	No.1	
4	弥生 甕	11.8 - (8.6)	内	ミガキ	赤色顔料付着	内	7.5YR5/4 (にぶい褐)	細長石多く、細石英含む。	口縁2/3 完全実測	No.4	
5	弥生 甕	7.9 - (4.3)	内	ナデ		内	7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部4/5 完全実測	1層	
6	弥生 壺	(11.2) (15.3)	内	ヘラナデ (楕目)		内	10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石を多く含む。	底部1/4 回転実測	P2 トレンチ	
7	弥生 壺	(10.3) (5.7)	内	剥落 ミガキ		内	7.5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子、3mm大 粒子含む。	底部2/3 完全実測	No.2	
8	弥生 甕	(18.0) (9.0)	内	ミガキ		内	7.5YR3/1 (黒褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	1層	
24	石鏃	66.0	中	76.0	33.0	235.0	変質輝綠岩。刃部縁状痕・研磨、器体研磨、破断面に磨り面。			トレンチ	



完掘 (東より)

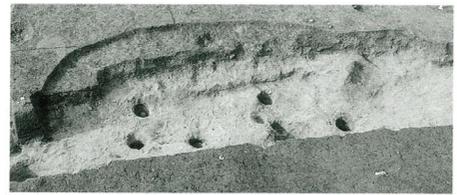
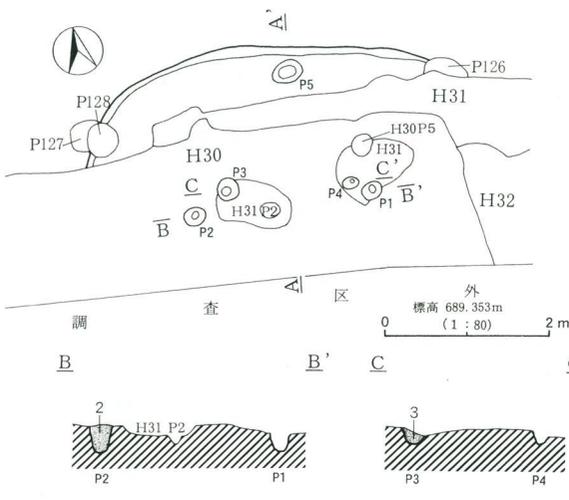
堀方 (東より)



- H80 (W H26) 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) パミス、砂を少量含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2) パミス、砂を少量含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/3) パミス、砂を少量含む。
  4. 黒色土層 (10YR2/1) パミスを微量に含む。
  5. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂、パミスを含む。(周溝)
  6. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)
  7. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂ブロックが多量に混入。
  8. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)
  9. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂ブロックが多量に混入。
  10. 黒褐色土層 (10YR2/2) やや締まりあり。(貼床)
  11. 褐色土層 (10YR4/4) 砂ブロックを含む。

第60図 H80号住居址

H80号住居址は、北側にカクランがあるためプランが充分に把握できていない。4・8の甕から後期としたが、3の甕、6の壺などは弥生中期であり、またプランと柱穴の位置も一致していない。弥生中期の住居址があるところにH80号住居址が重複して構築されたものと思われるが、詳細は不明である。



完掘 (南より)

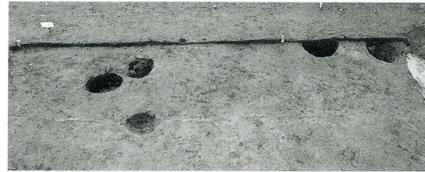
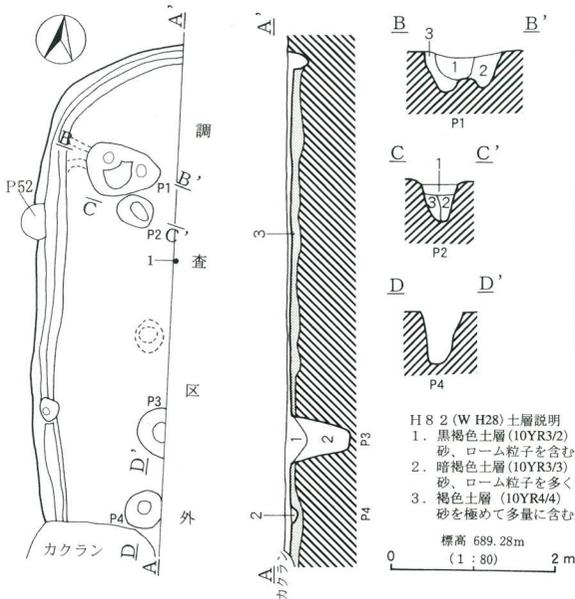


堀方 (南より)

- H 5 5 土層説明
1. 黒色土層 (10YR1.7/1) 砂を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR3/2) (柱痕) (P 2、P 5)
  3. 黒褐色土層 (10YR3/3) (柱痕) (P 3)
  4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂を多く含む。(貼床)

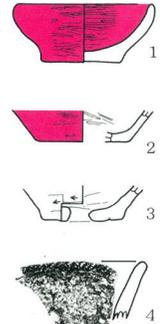


第61図 H55号住居址



上から 完掘 堀方 (西より)

- H 8 2 (W H28) 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂、ローム粒子を含む。
  2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂、ローム粒子を多く含む。
  3. 褐色土層 (10YR4/4) 砂を極めて多量に含む。(ピット堀方)



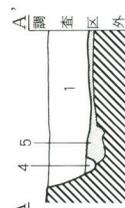
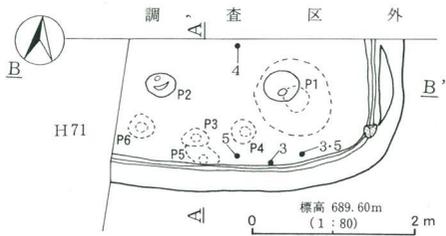
0 (1:4) 10cm

標高 689.28m (1:80) 2m

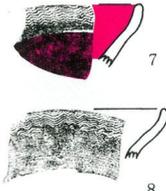
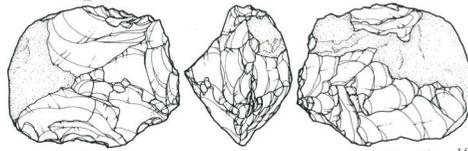
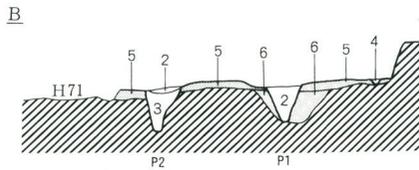
第62図 H82号住居址

第38表 INP X H82号住居址出土物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	8.2 4.8 3.6	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤) 底 10R5/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	完全実測	No.1
2	弥生鉢	(5.8) (2.0)	内 ミガキ 赤色塗彩? 外 ミガキ 赤色塗彩 底 ミガキ 赤色塗彩?	内 10YR6/6 (明黄褐) 外 2.5YR5/2 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/6 回転実測	P3
3	弥生甗	(5.0) (2.2) 孔 1.2	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR6/4 (橙) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/2 回転実測	P1

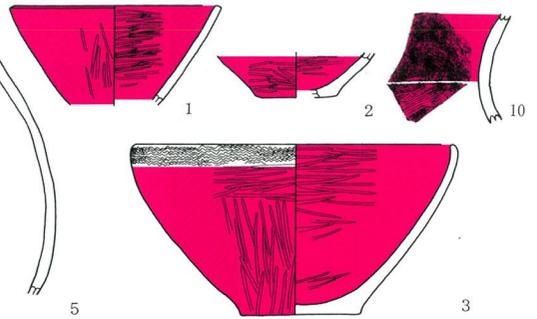
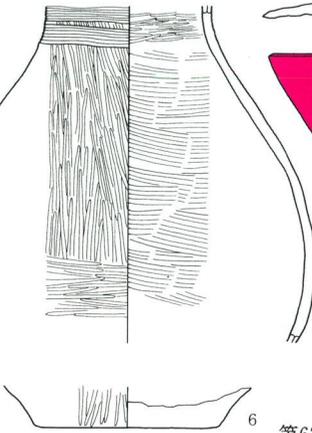
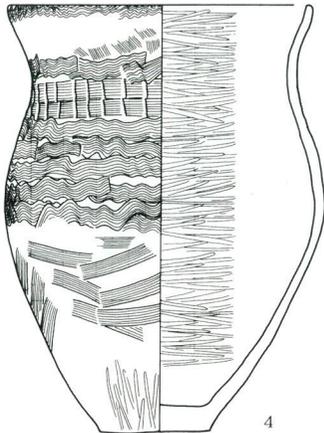
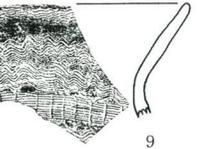
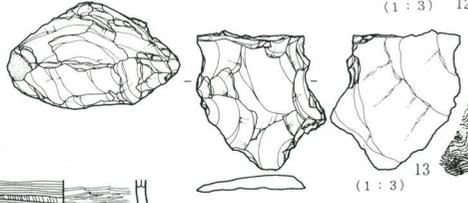
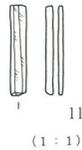


完掘 (南より)



H 8 8 (W H34) 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)  
砂主体。
4. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。(周溝)
5. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂を含み、炭化物粒子を少量含む。  
締まりあり。(貼床)
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を少量含む。やや締まる。

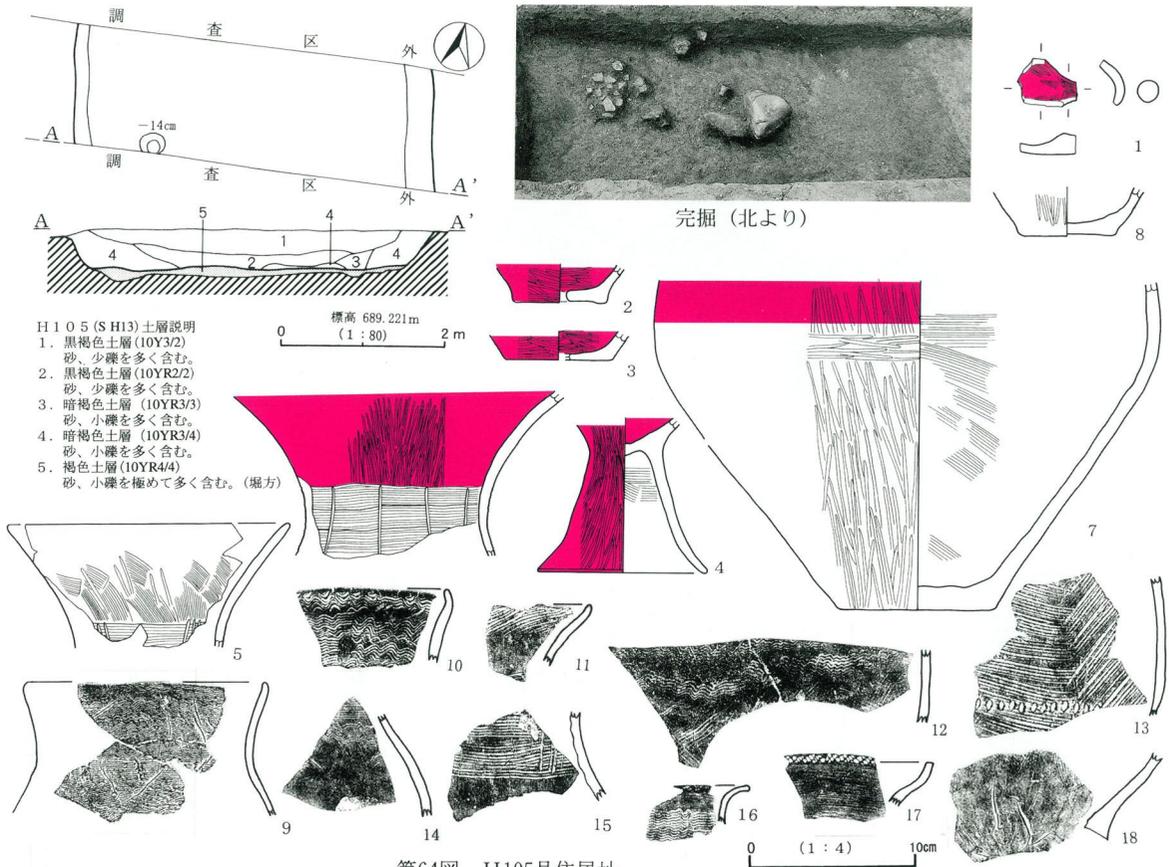


第63図 H88号住居址

0 (1:4) 10cm

第39表 INP X H 88 号住居址出土物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生鉢	(13.0)	内 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子、0.5mm 大赤色粒子含む。	口縁 1/8 回転実測	
		(6.1)	外 ミガキ 赤色塗彩	外 5YR3/6 (暗赤褐) 底 5YR2/1 (黒褐)			
2	弥生鉢	(5.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 2.5YR4/6 (赤褐) 外 10R4/6 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/4 回転実測	
		(2.7)					
3	弥生鉢	20.1	内 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 3/4 底部完形 完全実測	No.1 No.2 下層
		7.3	外 ミガキ 赤色塗彩 口縁上部柳描波状文 底部ミガキ	外 10R4/6 (赤) 底 7.5YR7/4 (にぶい橙)			
4	弥生甕	18.7	内 ミガキ	内 5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子多く含む。	ほぼ完形 完全実測	No.4
		6.6	外 口縁上部柳描波状文(7本) → 頸部柳描波状文(7本1連止) 頸上部 胴上半柳描波状文 胴下部柳描斜走文 胴下部ミガキ 底部ナデ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR6/6 (橙)			
5	弥生壺	-	内 ヘラナデ(榎目) → ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細長石粒子、1mm 大赤色粒子含む。	頸部~体部 2/3 回転実測	No.1 No.3
		(20.6)	外 ミガキ 頸部横描線文 (5本)	外 10YR7/4 (にぶい黄橙)			
6	弥生壺	(11.2)	内 剥落	内 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。 1mm 大赤色粒子含む。	底部 4/5 回転実測	
		(2.5)	外 ミガキ	外 7.5YR6/4 (にぶい橙)			
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
11	管玉	14.0	2.5	2.5	0.1	碧玉。緑色凝灰岩。研磨。	
12	礫核石器	65.0	79.0	46.0	238.0	安山岩。器体加工直接。縁辺に潰れ痕あり。石核とは断定できない。	
13	剥片	64.0	59.0	7.0	27.5	安山岩。裏面剥落。明確な加工なし。比熱でもろくなっている。	下層



第64図 H105号住居址

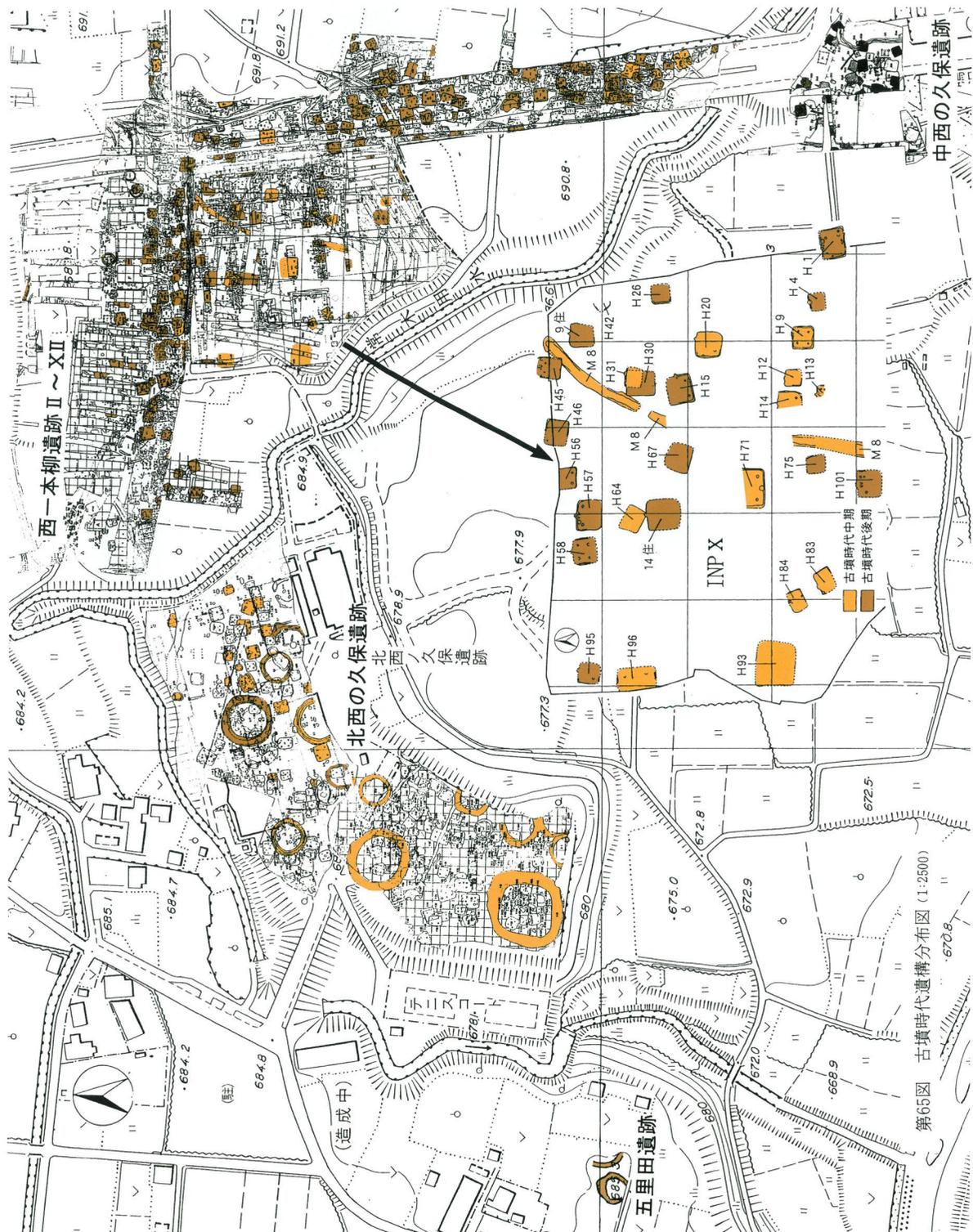
第40表 INP X H105号住居址出土遺物一覽表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 匙	長さ3.7 幅3.0 厚土底部0.6 軸1.3	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 厚さ匙部0.6 厚さ軸部1.3	外 2.5YR4/8 (赤褐)	細長石・細石英粒子含む。		3層
2	弥生 甌	(5.8) (2.4)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 2.5YR4/8 (赤褐) 外 7.5R4/6 (赤) 底 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部1/2 回転実測	1層
3	弥生 甌	(6.6) (1.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 口縁コナチ 体部ヘラケズリ 底部ミガキ	内 10R4/4 (赤褐) 外 10R4/8 (赤)	細～0.5mm 大石英、長石粒子 含む。	底部1/3 回転実測	1層
4	弥生 高杯	10.4 (9.5)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 5YR6/6 (橙) 外 2.5YR4/6 (赤褐)	1mm 大石英粒子多く、細長石粒子 含む。	脚部ほぼ完形 完全実測	2層
5	弥生 壺	(17.2) - (7.6)	内 ミガキ ヘラナデ (柾目) →ミガキ 頭部櫛描横線文 ヘラ描垂下文 (T'字文)	内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。 1mm 大赤色粒子含む。	口縁1/5 回転実測	1層
6	弥生 壺	- (10.2)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 頭部櫛描横線文 ヘラ描垂下文 (T'字文)	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/4 (赤褐) 頸 7.5YR7/4 (にぶい橙)	1mm 大石英粒子多く、細長石粒子 含む。	頸部1/2 回転実測	1層
7	弥生 壺	- 9.7 (20.1)	内 ヘラナデ (柾目) 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5R4/6 (赤) 下部7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英 1mm 大赤色粒子 含む。	底部完形 完全実測	1層 2層
8	弥生 甕	- 5.9 (3.0)	内 剥落 外 ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)	細石英・細長石含む。	底部完形 完全実測	2層
9	弥生 甕	(15.0) (8.2)	内 ミガキ 外 櫛描波状文 櫛描簾状文 (2連止1本)	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石含む。	口縁1/4 回転実測	1層 2層

### 3. 古墳中期

H 9・H12・H13・H14・H20・H31・H64・H71・H83・H84・H93・H96

古墳中期の竪穴住居址は12棟検出された。カマドの有無は調査区域外で不明であるが、土器様相からはH64はカマドを伴わず、H71は北側未調査であるがカマドを伴うであろう。他の住居址はカマドを伴っている。

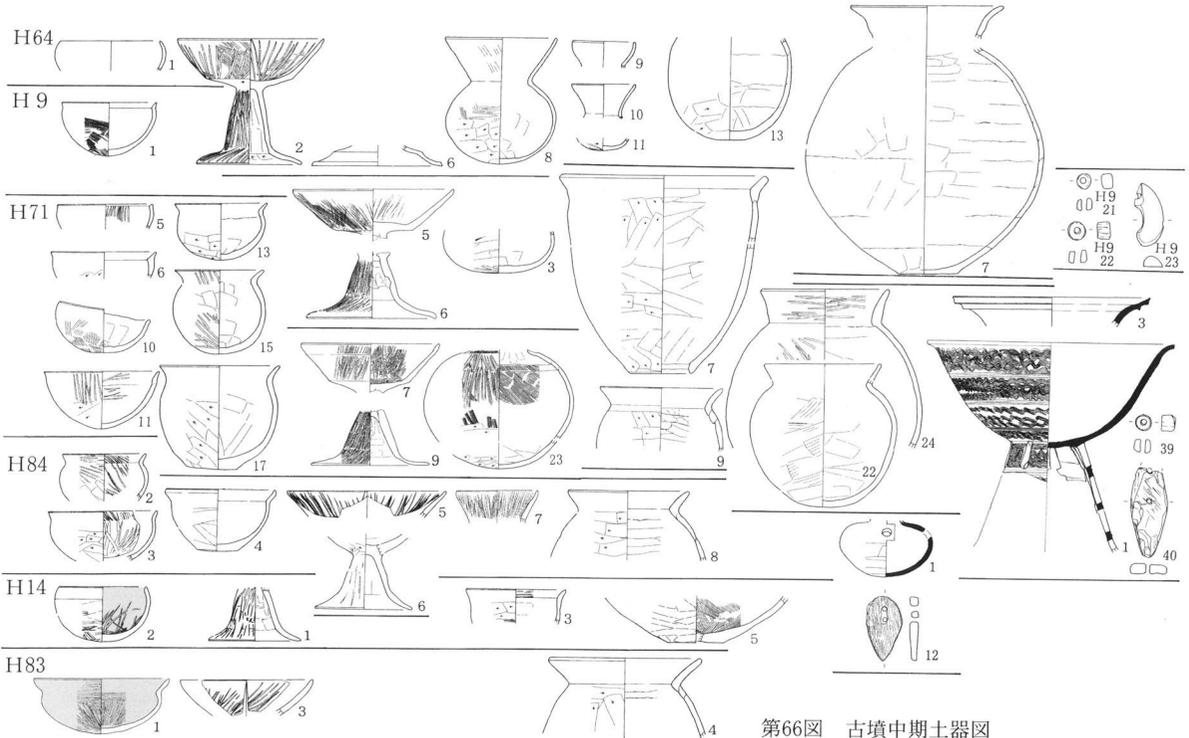


第65図 古墳時代遺構分布図 (1:2500)

現在遺跡周辺で調査された古墳中期の住居址数は42棟である。北西の久保遺跡の住居址はカマドを伴っておらず、西一本柳遺跡Ⅱ～Ⅸはカマド伴うもの伴わないもの両者がみられる。

本遺跡	西一本柳遺跡Ⅱ～Ⅸ	北西の久保遺跡	五里田遺跡	合計
11	11	20	0	42

出土遺物には土師器・須恵器・石製模造品(剣形・勾玉)・白玉・砥石がある。土師器は杯・碗、高杯、小型丸底壺、壺、甕、甑がある。H64の長脚高杯や小型丸底壺を多く共伴する土器群は北西の久保遺跡と同期であろう。また南北に検出されたM8号溝址も同期であろう。H71からは須恵器の器台が出土し、長野県では長野市本村東沖遺跡(1993、『本村東沖』)、丸子町井戸下遺跡(1995、『上田小県誌』)の竪穴住居址内より出土する。本村東沖遺跡は古墳中期末、井戸下遺跡は古墳後期にあたるもので、H71の須恵器器台は5C後半に位置づけられるもので、住居址出土の器台としては県内では最古といえる。この器台は高杯形器台Aで、台部は深く内湾し、端部付近で外反し曲げられている。端面の加工はされていない。外面の施文は波状文を巡らせ、2本の凹線の間凸線を作り出し、波状文→凸線で全面構成される。脚端部は欠損し、不明である。脚部には台形の透かし窓を縦方向一列に穿っている。共伴する土師器は口縁が内稜を持って外傾する杯・碗の器形が少なく、高杯は短脚化し、小型丸底壺が減少するなど、古墳中期5C後半の様相を持つ。また石製模造品・白玉が出土している。剣形品の形態は篠原祐一(1997『祭祀考古学』創刊号)によれば4段階に分類し、C. 断面台形を呈し、鐮の表現が形骸化し稜となるもの(5C中葉～5C末葉)、D. 長方形を呈し板状のもの(5C末葉～6C前葉)としており、H71.40はCに近く、H84.12はDに分類され5C～6C前葉にといえるであろう。M8号溝址の剣形品は鐮があり、H71住居址より前段階のB段階であろう。これも土器とほぼ一致している。



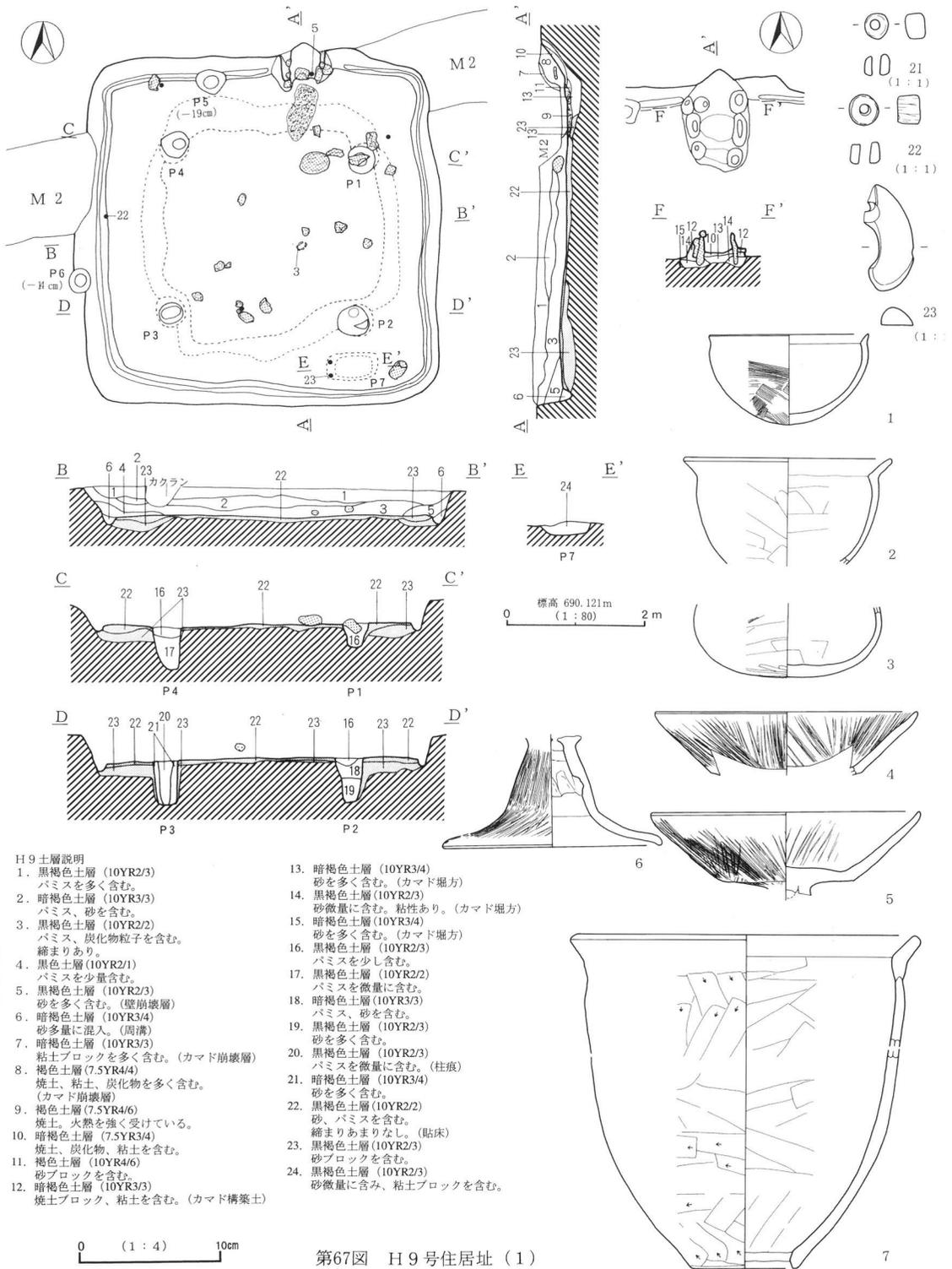
第66図 古墳中期土器図

4. 古墳後期 H1・H4・H15・H26・H30・H42・H45・H46・H56・H57・H58・H67・H75・H95・H101

古墳後期の竪穴住居址は15棟調査した。土器様相から位置付けをしてみる。

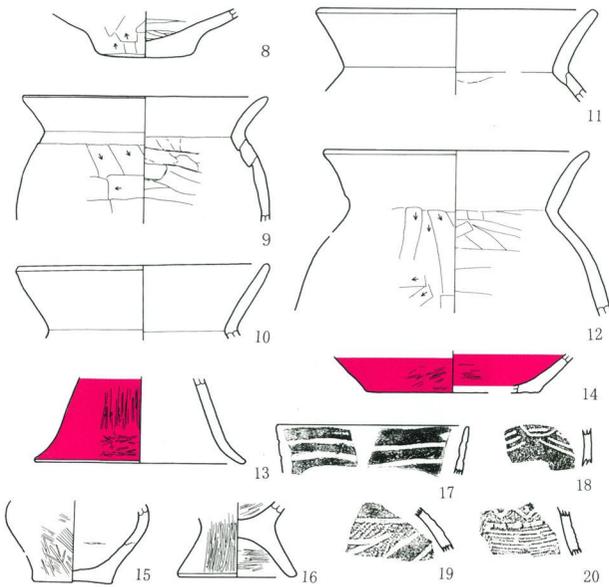
- I H4・H30
- II H1・H15・H42・H45・H57・H58・H67
- III H46・H95・H56・H101・H75

長野市の榎田遺跡(1999 長野県埋蔵文化財センター『榎田遺跡』)の古墳後期の分類に準拠するとI群は5C末～6C前葉に、II群は6C中頃から後半に、III群は7C代が充てられる。H26は遺物がなく不明である。



H9土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
パミスを多く含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
パミス、砂を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
パミス、炭化物粒子を含む。  
縮まりあり。
4. 黒色土層 (10YR2/1)  
パミスを少量含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を多く含む。(壁崩壊層)
6. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂多量に混入。(周溝)
7. 暗褐色土層 (10YR3/3)
8. 褐色土層 (7.5YR4/4)  
粘土、粘土、炭化物を多く含む。  
(カマド崩壊層)
9. 褐色土層 (7.5YR4/6)  
粘土、火熱を強く受けている。
10. 暗褐色土層 (7.5YR3/4)  
粘土、炭化物、粘土を含む。
11. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂ブロックを含む。
12. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
焼土ブロック、粘土を含む。(カマド構築土)
13. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。(カマド堀方)
14. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂微量を含む。粘性あり。(カマド堀方)
15. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。(カマド堀方)
16. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
パミスを少し含む。
17. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
パミスを微量に含む。
18. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
パミス、砂を含む。
19. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を多く含む。
20. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
パミスを微量に含む。(柱痕)
21. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。
22. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、パミスを含む。  
縮まりあまりなし。(貼床)
23. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂ブロックを含む。
24. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂微量に含み、粘土ブロックを含む。



完掘 (南より)



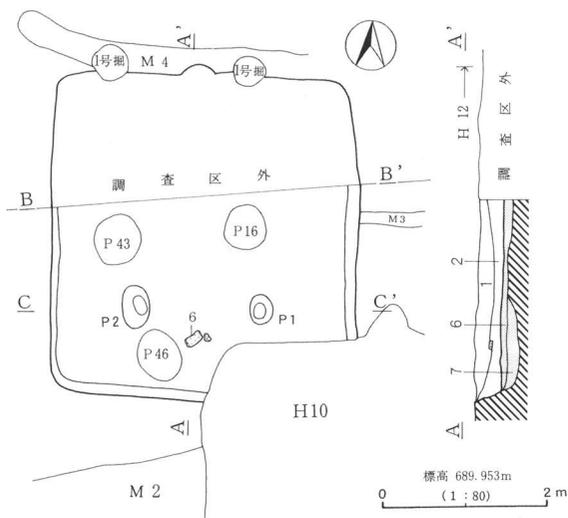
カマド 完掘 (南より)

第68図 H9号住居址(2)

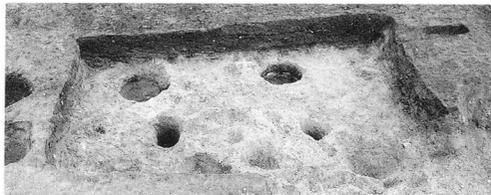
0 (1:4) 10cm

第41表 INP X H9号住居址出土遺物一覧表

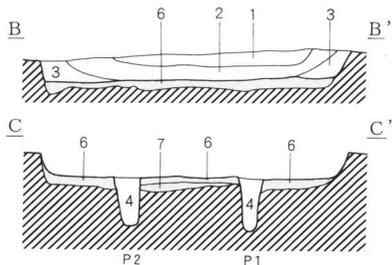
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(11.6) - 6.6	内 ナデ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ ヘラナデ	内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	まれに1mm大砂粒含む。 細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	Ⅱ区1層 Ⅱ区2層 Ⅲ区
2	土師器 鉢	(13.2) - (7.7)	内 ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラナデ	内 2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR1.7/1 (赤黒)	1mm大砂粒含む、細長石、 細石英粒子含む。	口縁5/12 回転実測	Ⅲ区1層 Ⅲ区2層
3	土師器 小型丸底壺	- (5.3)	内 ヘラナデ ナデ 外 ヘラケズリ ヘラミガキ ヘラナデ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	まれに0.5mm大砂粒、 細長石・細石英粒子含む。	底部 回転実測	No.7
4	土師器 高杯	(19.1) - (4.7)	内 ヨコナデ 暗文 外 ヨコナデ 暗文	内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細長石粒子多く含む。	口縁1/3 回転実測	Ⅳ区2層 Ⅳ区3層
5	土師器 高杯	19.6 (24.4)	内 ヨコナデ 暗文 外 ヨコナデ 暗文	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	杯部1/1 完全実測	カマド No.8
6	土師器 高杯 (脚)	15.8 (8.0)	内 ヘラケズリ ヨコナデ 外 暗文	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部3/4 完全実測	床 Ⅱ区2層 Ⅱ区3層 Ⅱ区堀方 Ⅲ区
7	土師器 甌	(24.6) (8.0) (24.4)	内 ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	1mm大砂粒多く含む。 細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 底部3/8 孔径3.5 回転実測	Ⅳ区2層 Ⅱ区1層 Ⅲ区
8	土師器 甕 (底)	- (6.1) (3.1)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR4/4 (にぶい赤褐) 外 5YR4/4 (にぶい赤褐)	1mm大砂粒多く含む。 細長石・細石英粒子含む。	底部1/2 回転実測	Ⅲ区2層
9	土師器 甕	(15.0) - (7.7)	内 体部ナデ→口縁ヨコナデ 外 体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	1mm大砂粒多く含む。 細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	カマド Ⅰ区1層
10	土師器 壺	(15.5) - (4.6)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	1mm大砂粒多く含む。 細長石・細石英粒子含む。	口縁7/12 回転実測	M2 Ⅱ区1層 Ⅳ区3層
11	土師器 壺	(17.2) - (5.7)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	1mm大砂粒多く含む。 細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3 回転実測	Ⅱ区1層 Ⅱ区3層 Ⅳ区1層
12	土師器 甕	15.7 (10.0)	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 5YR5/2 (灰褐)	1mm大砂粒多く含む。 細長石・細石英粒子含む。	口縁3/4 完全実測	Ⅱ区堀方 Ⅱ区3層
13	弥生 高杯 (脚)	- (12.9) (5.2)	内 ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 5YR6/6 (橙) 外 7.5R4/6 (赤)	1mm大砂粒、細石英粒子 含む。	底部1/3 回転実測	Ⅱ区1層 Ⅲ区2層 Ⅲ区1層
14	弥生 鉢	- (10.6) (2.4)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5R4/6 (赤) 外 2.5YR4/8 (赤褐) 底 5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/6 回転実測	Ⅱ区1層
15	弥生 壺	4.8 (4.9)	内 ナデ 外 ヘラナデ (縦目) ナデ ヘラミガキ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	Ⅲ区堀方 Ⅳ区1層
16	弥生 台付甕	7.3 (4.6)	内 杯部ナデ→ミガキ 脚部→ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR7/3 (にぶい黄橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部1/1 完全実測	検出
17	縄文 鉢	(10.6) (2.9)	内 ミガキ ヘラ揃平行線文 外 ミガキ ヘラ揃平行線文	内 10YR3/1 (黒褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英含む。	口縁1/8	Ⅲ区1層



完掘 (南より)



堀方 (南より)

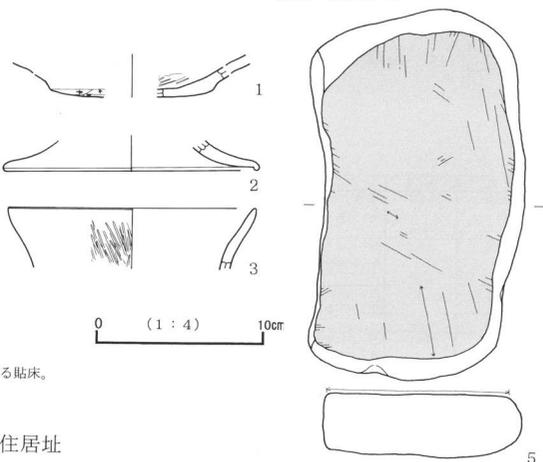


H12土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
小石を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)  
砂主体。

5. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂主体。
6. 黒褐色土 (10YR2/3) と  
褐色土 (10YR4/4) シルト質土による粘床。
7. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。

第69図 H12号住居址

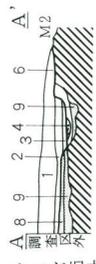
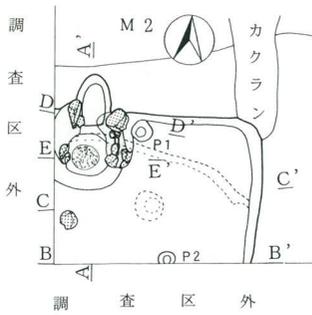


第42表 INP X H12号住居址出土遺物一覧表

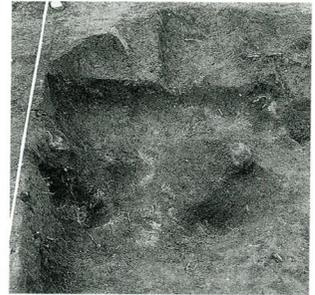
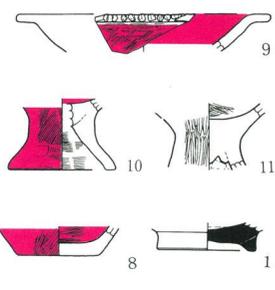
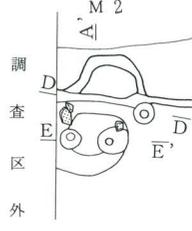
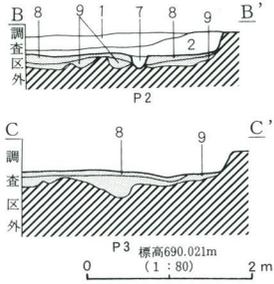
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 高杯	(6.8) (2.6)	内 ナデ ヘラミガキ 外 体部ナデ→底部手持ヘラケズリ	内 2.5Y6/6 (橙) 外 2.5Y6/6 (橙)	～1mm大砂粒、細長石・ 細石英粒子含む。	杯底部1/4 回転実測	Ⅱ区
2	土師器 高杯	(14.6) (1.9)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/12 回転実測	Ⅲ区1層
3	土師器 甕	(15.2) (3.8)	内 ヘラ (榎目) ナデ 外 ナデ ヘラナデ (榎目) →ミガキ	内 7.5YR4/2 (灰褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8 回転実測	Ⅱ区トレンチ
4	弥生 土板	3.3 3.1 0.6	内 ヘラナデ (榎目) 外 櫛描波状文 ミガキ	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR7/6 (橙)	極細長石・石英粒子含む。	完形	検出
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重	備考	出土位置
5	砥石	235.0	131.0	39.0	2100.0	砂岩。裏面とも擦痕あり。	No.1

第43表 INP X H13号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 有台杯	(6.0) (1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部切り離し→回転ヘラケズリ→高台	内 2.5Y6/3 (にぶい黄) 外 2.5Y7/2 (灰黄)	細長石・細石英粒子、 まれに0.5～1mm大砂粒含む。	底部1/2 混入品	検出
2	須恵器 甕	(30.0) (5.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ タタキ	内 2.5Y7/2 (灰黄) 外 2.5Y6/2 (灰黄)	細長石・細石英粒子、 まれに0.5～1mm大砂粒含む。	口縁1/6 混入品	検出
3	土師器 鉢	(16.6) (2.5)	内 ミガキ→黒色処理 外 ヨコナデ→ミガキ	内 10YR2/2 (黒褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8	Ⅳ区堀方
4	土師器 甕	(14.4) (4.2)	内 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 外 ヘラナデ (榎目) 口縁ヨコナデ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子、1mm大 砂粒含む。	口縁1/8	Ⅰ区堀方
5	土師器 甕	(12.0) (3.3)	内 口縁ヨコナデ 胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子、1mm大 赤色砂粒含む。	口縁1/8	Ⅰ区トレンチ

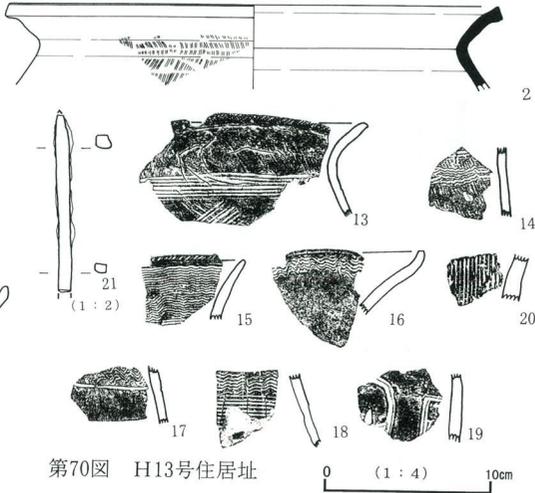
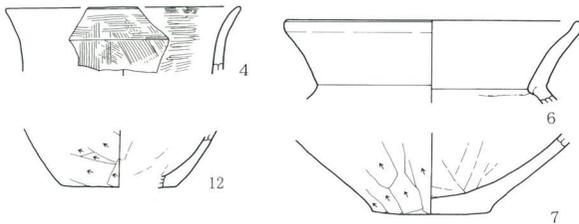


完掘 (南より)



カマド堀方 (南より)

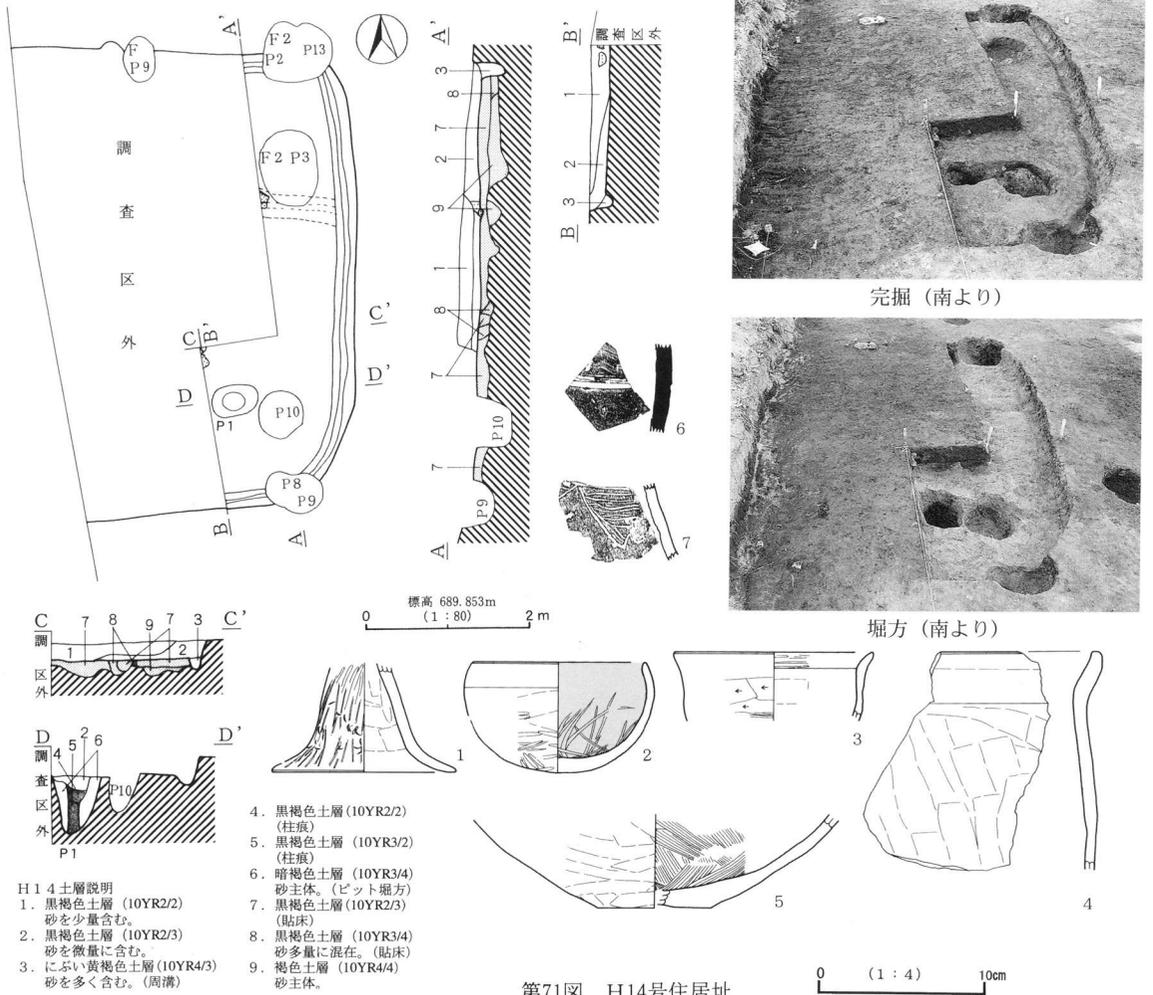
- H13 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂を多量に含み、小石を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、小石を含む。
  3. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3)  
(カマド崩壊層)
  4. 赤褐色土層 (5YR4/6)  
焼土。
  5. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)  
焼質土。(カマド構築土)
  6. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3)  
(カマド堀方)
  7. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(柱痕)
  8. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
細砂ブロックを含む。(貼床)
  9. 黒褐色土 (10YR2/3) と  
黄褐色砂ブロック (10YR5/8) 混在



第70図 H13号住居址

0 (1:4) 10cm

番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	径	備考	出土位置
6	土師器 壺	(18.0) - (5.1)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ			内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	口縁 1/8 検出
7	土師器 甕	(7.2) (5.0)	内 ヘラナデ 外 胴部~底部ヘラケズリ			内 7.5YR6/4 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	底部 2/3 I区堀方
8	弥生 鉢	(5.0) (1.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部はミガキのみ			内 10R4/8 (赤) 外 10R5/6 (赤) 底 7.5YR7/3 (にぶい橙)	底部 1/2 I区トレンチ
9	弥生 鉢	(15.6) (2.3)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 口唇部にヘラ状工具による刻み			内 10YR5/8 (赤) 外 10YR5/8 (赤)	口縁 1/8 I区トレンチ
10	弥生 台付鉢	(6.6) (4.4)	内 胴部ミガキ→赤色塗彩 脚部ヘラナデ (極目) 外 ヘラナデ (極目) 裾部ナデ 赤色塗彩			内 脚 5YR5/2 (灰褐) 胴部 2.5YR4/2 (灰赤) 外 10R4/4 (赤褐)	底部 1/4 カマド
11	弥生 台付甕	(4.1)	内 胴部ヘラナデ→ミガキ 脚部ヘラナデ 外 ミガキ			内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	頸部完形 IV区堀方
12	土師器 甕	(7.0) (3.5)	内 ヘラナデ 外 胴~底部ヘラケズリ			内 2.5YR3/2 (暗赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	底部 1/4 検出 H50 I区
21	軸	<5.4.0>	4.0	4.0	3.3	鉄製品	IV区 出土位置



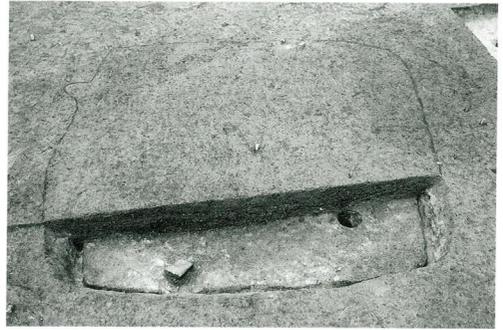
第71図 H14号住居址

第41表 INP X H14号住居址出土遺物一覧表

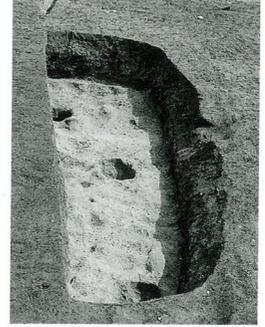
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 高杯	(11.2) (6.7)	内 ヘラナデ 胴部ナデ 外 ミガキ 胴部ナデ→暗文 爪形文	内 2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細長石・細石英粒子。まれに1mm大粒子含む。	底部1/2	II区
2	土師器 鉢	(10.7) 6.8	内 口縁ヨコナデ 体部ナデ→暗文→黒色処理 外 口縁ヨコナデ 体部ナデ→まばらなミガキ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/6 (橙)	細長石・細石英粒子。1mm大砂粒少し含む。	口縁1/4	H13 II区 II区 P1
3	土師器 鉢	(12.2) (4.2)	内 口縁ヨコナデ→ミガキ 体部ナデ 外 口縁ヨコナデ 胴部ヘラクスリ→わずかにミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	1mm大長石・石英粒子含む。	口縁1/8	検出
4	土師器 甗	(27.2) (9.8)	内 口縁ヨコナデ 胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ 胴部ナデ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8 口唇部へラ(柱目)痕跡	検出
5	土師器 甗	(7.0) (5.7)	内 ヘラナデ (柱目) 外 胴部→底部 ヘラナデ ナデ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子。1~3mm大砂粒含む。	底部1/3	II区

第45表 INP X H20号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(14.8) (3.4)	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁ヨコナデ→ミガキ 底部ヘラクスリ→ミガキ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	トレンチ
2	土師器 杯	(12.2) 5.8	内 ナデ→放射状暗文 外 ヘラクスリ→ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	1/2 回転実測	トレンチ III区
3	土師器 杯	(12.2) (3.4)	内 暗文 外 放射状暗文	内 2.5YR5/8 (明赤褐) 外 2.5YR5/8 (明赤褐)	細長石粒子。~1mm大赤色粒子含む。	口縁1/5 回転実測	III区
4	土師器 鉢	(21.2) (8.0)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	~1mm大砂粒含む。	1/3 回転実測	III区トレンチ

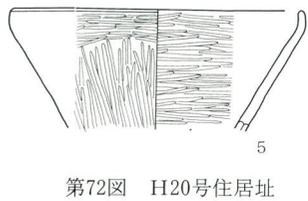
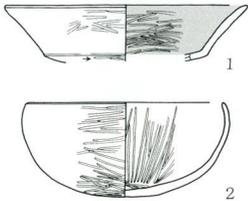
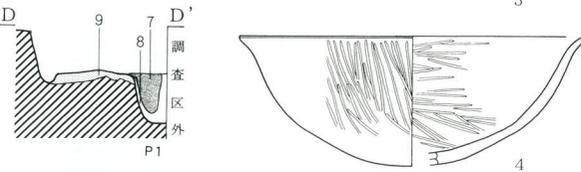
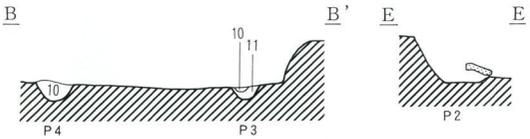
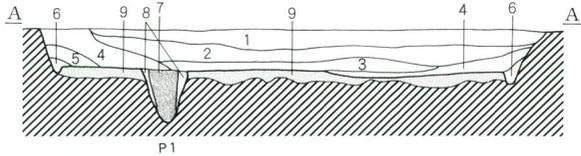
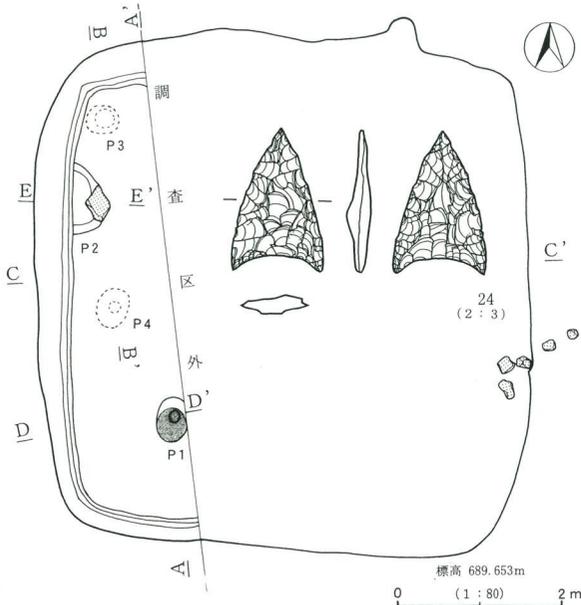


完掘 (西より)

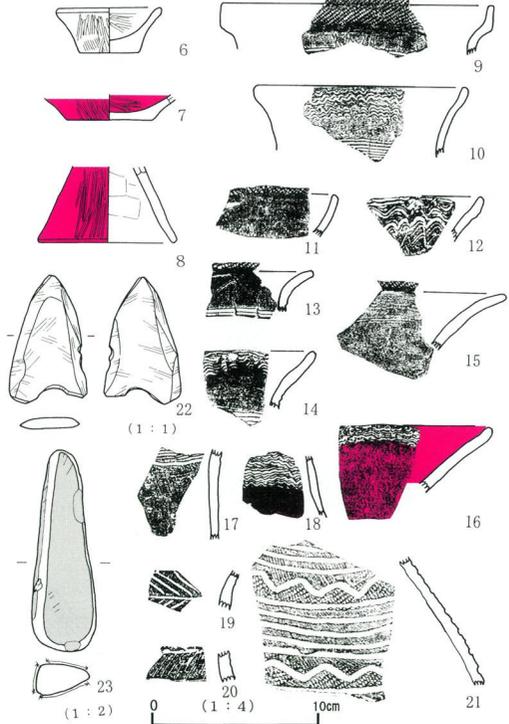


堀方 (北より)

- H20土層説明
1. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
砂、小石を含む。
  2. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
1層より小石多い。
  3. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
炭化物を多量に含み、黒色強い。
  4. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を多量に含む。
  5. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
砂、小石を多く含む。
  6. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂を多く含む。
  7. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
(柱痕)
  8. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂主体。(ピット堀方)
  9. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
(堀方)
  10. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂主体。
  11. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。



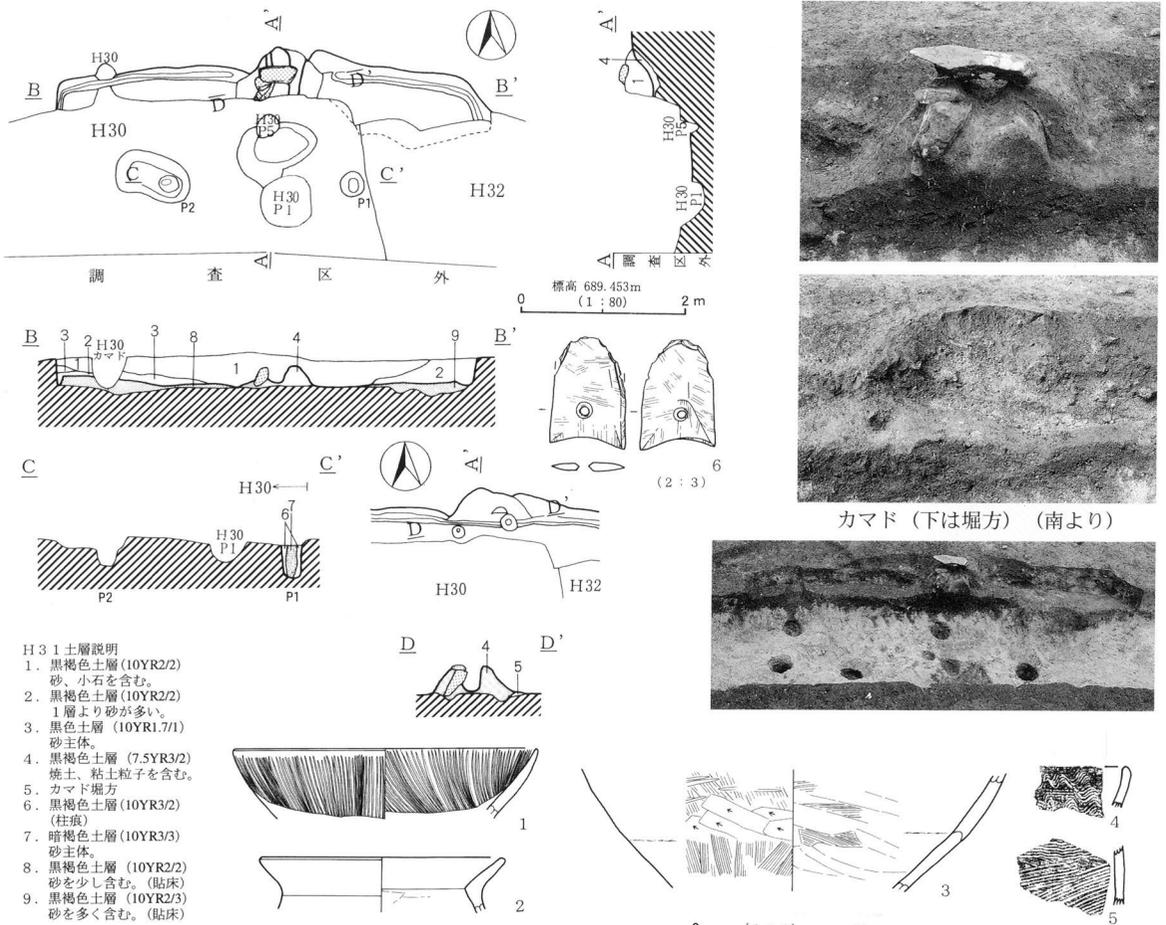
第72図 H20号住居址



5	弥生? 甕	18.0 (7.4)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	Ⅲ区
6	弥生 杯	(6.6) (3.6) 2.8	内 ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 赤色顔料付着	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	1/3 回転実測	Ⅲ区地方
7	弥生 鉢	(5.2) (1.6)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部剥落	内 7.5R4/8 (赤) 外 10R5/8 (赤) 地 5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部 2/3 回転実測	Ⅳ区 3層
8	弥生 高杯	(8.6) (4.7)	内 ヘラナデ (楕目) 外 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 10R4/8 (赤)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測	トレンチ
9	弥生 甕	(16.8) -	内 ミガキ 外 ヨコナデ 口唇部・口縁部縄文 頸部櫛溝横線文 (単位不明)	内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石、径 1mm 以下の 黒色粒子含む。	口縁 1/10	Ⅲ区
10	弥生 甕	(13.6) -	内 ミガキ 外 ヨコナデ 口縁部櫛溝波状文 (4本1組) 頸部櫛溝横線文 (1連止・単位不明)	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細石英、径 1mm 以下の長石・赤褐色粒子含む。	口縁 1/8	Ⅳ区 3層
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
22	磨製石鏡	20.0	12.0	2.0	0.5	未成品。粘板岩。刃部縁辺整形加工・器体加工研磨。	検出
23	ミガキ石	61.0	20.0	9.5	15.2		Ⅳ区 1層
24	凹基盤	33.0	21.1	5.8	2.2	珪質頁岩。刃部縁辺整形加工押圧剥離、器体加工押圧剥離。	Ⅳ区 2層

第41表 INP X H 31号住居址出土遺物一覧表

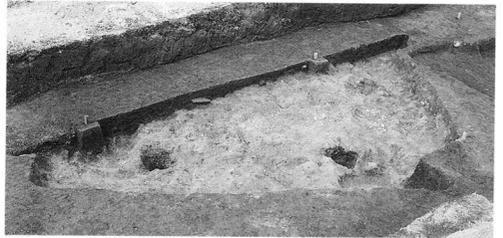
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 高杯	(18.6) -	内 ヨコナデ→暗文 外 ヨコナデ→暗文	内 2.5YR5/8 (明赤褐) 外 5YR6/8 (橙)	細長石・細石英粒子、0.5mm 大 砂粒含む。	口縁 1/4	I区
2	土師器 甕	(15.0) -	内 口縁ヨコナデ 胸部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ	内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子、0.5mm 大 砂粒含む。	口縁 1/3	地方
3	土師器 甕	(7.0)	内 ヘラナデ (楕目) ヘラナデ 外 ヘラナデ (楕目) ミガキ ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR4/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部付近 3/5	カマド
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
6	磨製石鏡	25.5	17.5	2.0	1.5	緑色片岩。刃部縁辺整形加工・器体加工研磨。	P2



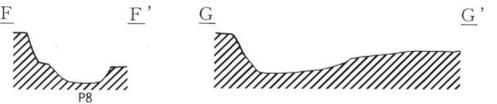
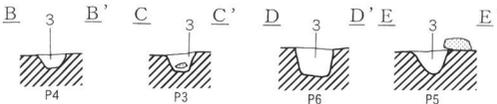
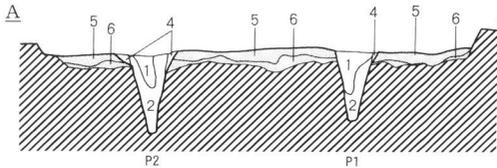
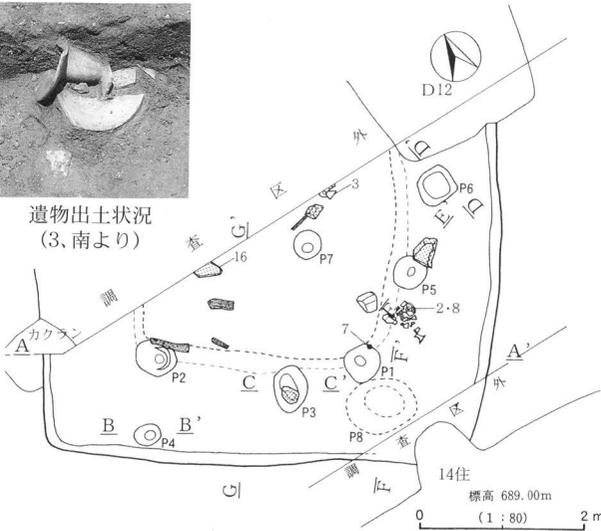
- H31土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より砂が多い。
  3. 黒色土層 (10YR1.7/1) 砂主体。
  4. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 粘土、粘土粒子を含む。
  5. カマド堀方 (柱痕)
  6. 黒褐色土層 (10YR3/2) (柱痕)
  7. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
  8. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂を少し含む。(貼床)
  9. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を多く含む。(貼床)



遺物出土状況  
(3, 南より)

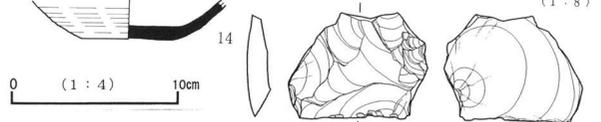
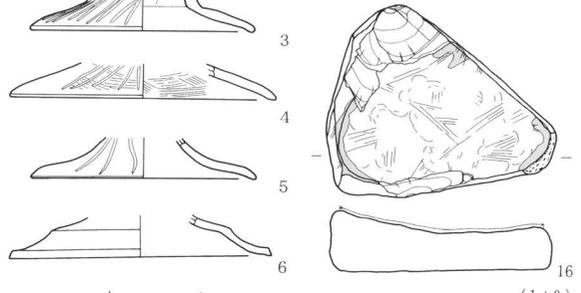
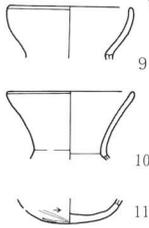
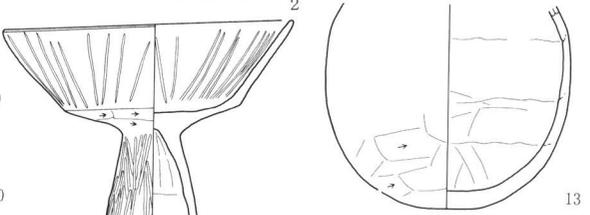
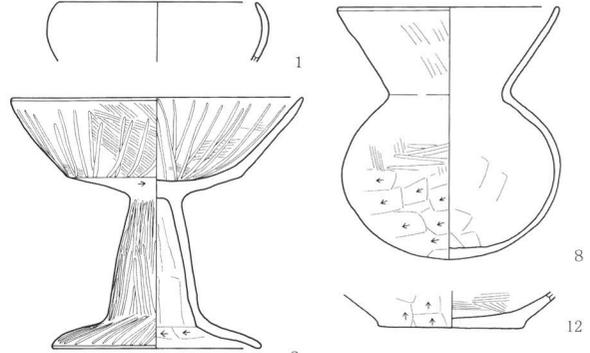
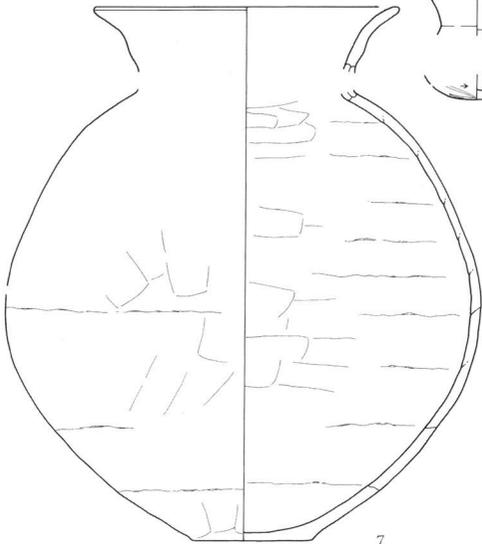


上から 完掘 堀方 (南西より)



H 6 4 (W H9) 土層説明

- 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を少量含む。
- 2. 明赤褐色土層 (10YR3/4)  
砂主体。
- 3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂を含む。
- 4. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を少量含む。
- 5. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
締まりあり。(貼床)
- 6. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。



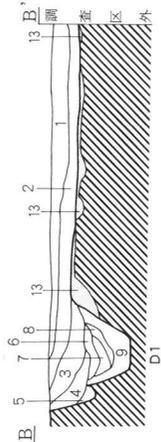
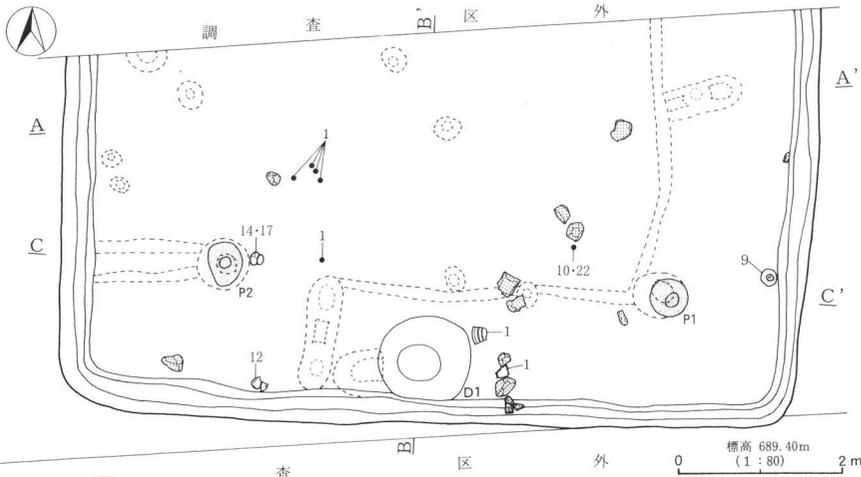
第74図 H64号住居址

第47表 INP X H 64号住居址出土遺物一覧表

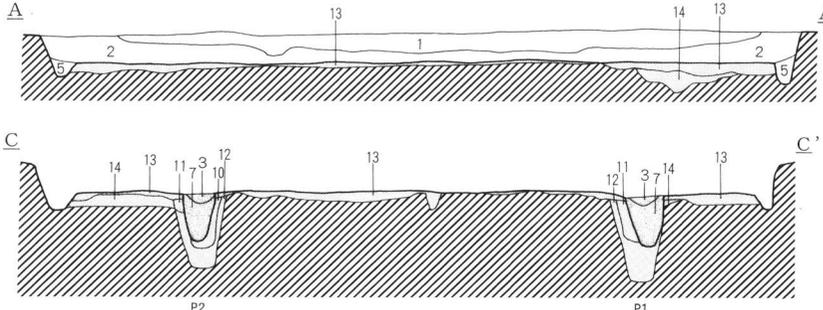
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整	色 調		胎 土	残 存 ・ 備 考	出土位置
				内	外			
1	土師器 杯	(12.2) - (3.7)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8 回転実測		
2	土師器 高杯	17.9 12.8 15.4	内 杯部ヘラナデ (柱目) → 暗文 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 杯部ヘラナデ (柱目) → 暗文 杯底部ヘラケズリ 脚部・裾部暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子、1mm 大 砂粒含む。	ほぼ完形 完全実測	No.1	
3	土師器 高杯	17.8 13.8 15.2	内 杯部暗文 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 杯部ヨコナデ → 暗文 杯底部ヘラケズリ 脚部ミガキ 暗文	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・0.5mm 大長石粒子、 1 ~ 2mm 大砂粒含む。	口縁3/4 脚部2/3 完全実測	No.3	
4	土師器 高杯	(16.2) - (2.1)	内 ヘラナデ (柱目) 外 ヘラナデ (柱目) → ミガキ	内 7.5YR6/8 (橙) 外 7.5YR6/8 (橙)	0.5mm 大石英・長石粒子、1mm 大 砂粒含む。	脚部1/6 回転実測		
5	土師器 高杯	- (13.8) (2.5)	内 ヨコナデ 外 ナデ → 暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	脚部1/6 回転実測		
6	土師器 高杯	- (16.0) (2.5)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 7.5YR5/6 (明褐) 外 7.5YR5/6 (明褐)	0.5mm 大石英・長石粒子含む。	脚部1/6 回転実測		
7	土師器 壺	(18.6) 7.4 (33.0)	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ ヘラナデ	内 2.5YR6/8 (橙) 外 2.5YR6/8 (橙)	細石英・0.5mm 大長石粒子、 1 ~ 2mm 大砂粒含む。	体部2/3 底部完形 完全実測	No.2	
8	土師器 小型丸底 壺	13.7 - 15.5	内 ヘラナデ 口縁ヘラナデ (柱目) → ヨコナデ 体部上半ヘラナデ (柱目) → ヨコナデ 下半ヘラケズリ → 中位わずかにミガキ	内 5YR6/8 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	0.5 ~ 1mm 大長石・細石英粒子 含む。	ほぼ完形 完全実測	No.1	
9	土師器 小型丸底 壺	- (7.8) (3.2)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/2 回転実測		
10	土師器 小型丸底 壺	(7.8) - (4.2)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。 まれに1mm 大砂粒含む。	口縁1/4 回転実測		
11	土師器 小型丸底 壺	- - (1.6)	内 ナデ 外 ヘラケズリ → ミガキ	内 7.5YR5/6 (明褐) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測		
12	土師器 壺	8.9 (2.3)	内 ヘラナデ (柱目) → ナデ 外 ヘラケズリ 底部ヘラナデ	内 10YR4/2 (灰黄褐) 外 10YR4/2 (灰黄褐)	細石英・細長石粒子含む。 まれに1mm 大砂粒含む。	底部完形 完全実測		
13	土師器 甕	- - (12.5)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	0.5 ~ 1mm 大長石・細石英粒子 含む。1mm 大砂粒含む。	底部完形 完全実測		
14	須恵器 杯	(5.8) - (2.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 10YR7/2 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子、1mm 大 砂粒含む。	底部1/2 混入品 火だすき 回転実測		
番号	種 類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重	備 考		出土位置
15	櫛切石器	33.3	42.5	9.5	12.7	安山岩。下部欠損。刃部横方向磨耗痕。		
16	台石	236.0	283.0	75.0	5590.0	安山岩。		No.4

第48表 INP X H 71号住居址出土遺物一覧表

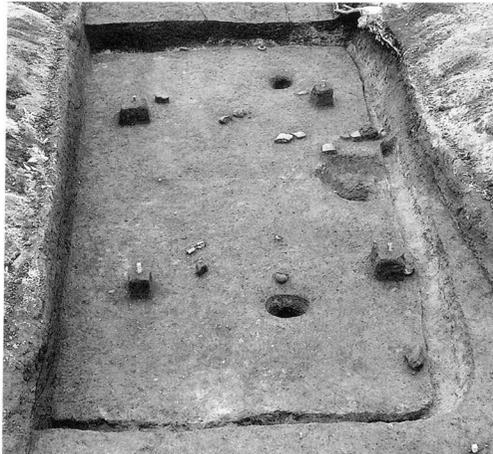
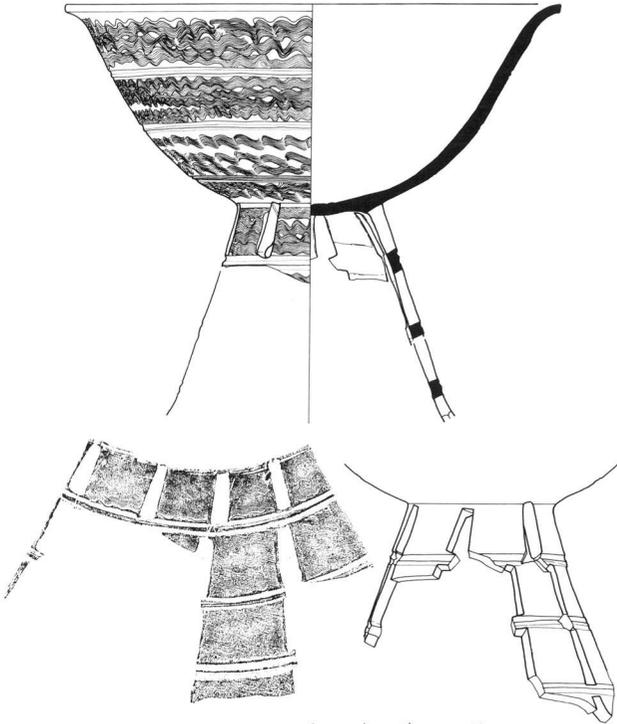
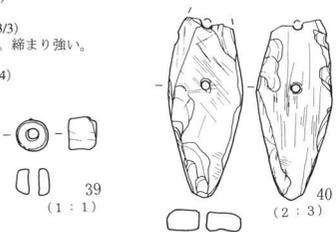
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整	色 調		胎 土	残 存 ・ 備 考	出土位置
				内	外			
1	須恵器 器台	30.2 (25.1)	内 杯部ロクロナデ 自然釉付着 脚部ナデ 外 櫛描波状文 → ヘラ描平行線文 → 櫛描波状文 (交互に施文) 脚部すかし	内 N4/ (白) 外 N3/ (暗灰) 断 10R4/2 (灰赤)	1mm 大白色粒子少量含む。	口縁1/2 完全実測	No.4・5・6・7 I区1層	
2	須恵器 甕	(28.0) (3.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 自然釉付着	内 5Y7/2 (灰白) 断 2.5YR5/2 (灰赤) 外 N2/ (黒)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	I区1層	
3	須恵器 甕	(24.2) (3.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 内外自然釉付着	内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙) 断 2.5YR5/3 (にぶい赤褐)	細長石含む。 緻密。	口縁1/8 回転実測	II区1層	
4	須恵器 甕	(16.4) (4.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 胴下端ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	内 10YR6/2 (灰黄褐) 外 10YR6/2 (灰黄褐) 断 5YR5/2 (灰褐)	細石英0.5mm 大長石粒子多く 含む。	底部1/7 回転実測	II区2層	
5	土師器 杯	(11.6) - (3.1)	内 暗文 外 ナデ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁1/5 回転実測	I区1層	
6	土師器 鉢	(12.8) - (3.2)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ → ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。 1mm 大砂粒含む。	口縁1/5 回転実測	I区1層	
7	土師器 高杯	(17.0) - (6.1)	内 ミガキ (暗文様) 外 ミガキ (暗文様) 杯下部ナデ	内 5YR5/8 (明赤褐) 外 5YR4/8 (赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/3 回転実測	I区床	
8	土師器 高杯	(15.8) - (4.2)	内 ミガキ (暗文様) 外 ミガキ (暗文様)	内 5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	I区2層	
9	土師器 高杯	- 14.4 (6.8)	内 ヘラナデ 裾部ヨコナデ 外 ミガキ (暗文様)	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/8 (明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	脚部完形 完全実測	No.2	
10	土師器 鉢	11.5 - 5.3	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ → ヘラナデ (柱目)	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子、 1mm 大砂粒含む。	ほぼ完形品 完全実測	No.3 D1 II区2層	
11	土師器 鉢	(14.0) - (7.0)	内 ミガキ 外 ヘラケズリ → 暗文	内 5YR4/6 (赤褐) 外 5YR4/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁1/4 回転実測	IV区ベルト	



- H 7 1 (W H17) 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
  2. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
  4. 灰褐色土層 (7.5YR4/2)  
粘土を多く含む。
  5. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。(周溝)
  6. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂を多く含む。
  7. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。
  8. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を含む。
  9. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂を多く含む。
  10. 褐色土層 (10YR4/6) 砂と  
黒褐色 (10YR2/3) 土の互層。



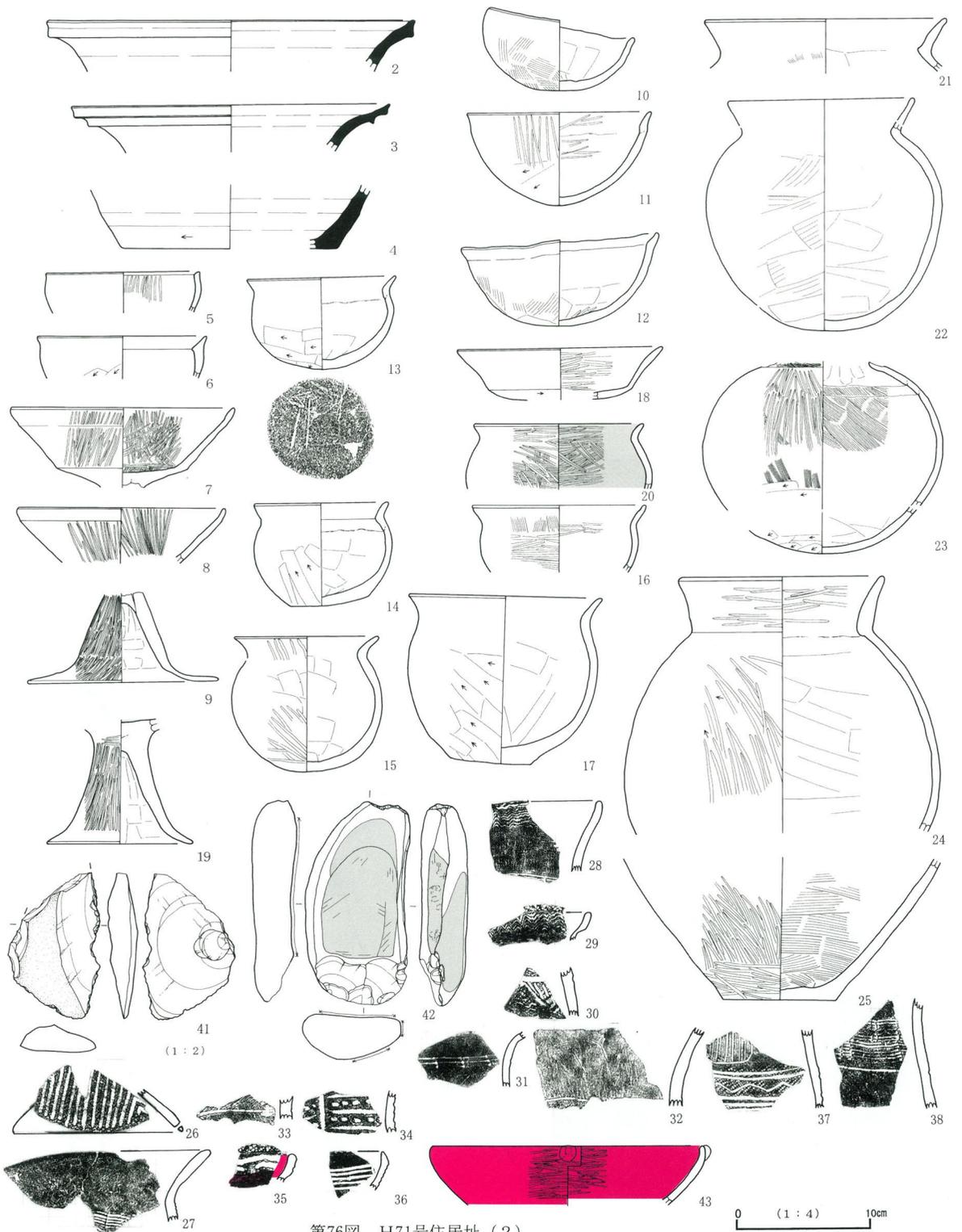
11. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を含む。
12. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂主体。
13. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
炭化物粒子を含む。縮まり強い。  
(貼床)
14. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。



遺物出土状況 (西より)

第75図 H71号住居址 (1)

0 (1:4) 10cm 1

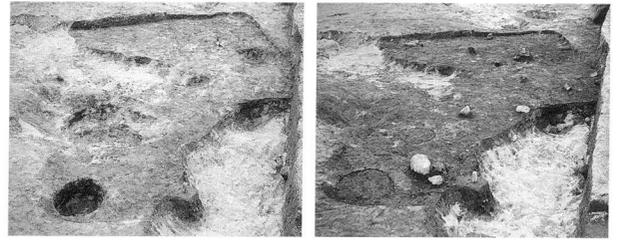
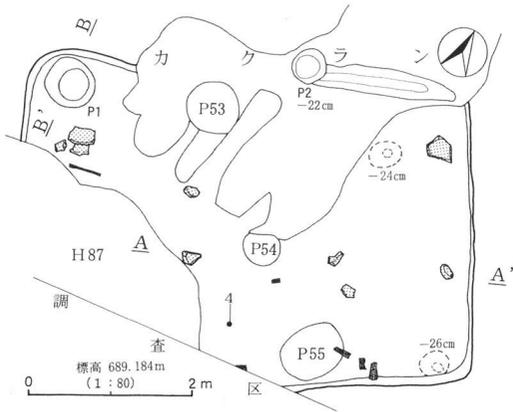


第76图 H71号住居址 (2)

12	土師器 鉢	15.1 - 6.5	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ→ミガキ 外 口縁ヨコナデ ヘラナデ (柀目)	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子、1mm 大砂粒含む。	完形品 扁平 完全実測	No.9 II区床
13	土師器 鉢	11.2 - 6.9	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ ヘラナデ (柀目) ヘラケズリ	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	0.5mm 大石英・長石粒子含む。	4/5 ヘラ記号あり 完全実測	床 堀方 I区2層
14	土師器 鉢	10.2 5.8 7.8	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ→ナデ 外 口縁ヨコナデ ヘラナデ (柀目) 底部ヘラケズリ	内 5YR5/2 (灰褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	0.5mm 大石英・長石粒子含む。 まれに3mm 大砂粒含む。	完形 完全実測	No.8
15	土師器 鉢	10.9 - 10.3	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→ミガキ (暗文様) 体部ヘラナデ→ミガキ	内 7.5YR5/6 (明褐) 外 7.5YR5/2 (灰褐) 7.5YR1.7/1 (黒)	細石英多く、細長石粒子含む。	2/3 完全実測	II区1・2層 II区床
16	土師器 鉢	(13.2) - (5.1)	内 ミガキ 外 ヘラナデ (柀目) →ミガキ	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁1/6 回転実測	II区2層
17	土師器 小型甕	14.6 6.2 12.7	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→体・底部ヘラケズリ	内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm 大石英・長石粒子、1mm 大砂粒含む。	完形 完全実測	No.8
18	土師器 杯	(15.6) - (3.9)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁1/4 回転実測	I区1層
19	土師器 高杯	- (11.0) (9.5)	内 杯部ミガキ 黒色処理 脚部ヘラナデ 裾部ヨコナデ 外 ミガキ 裾部ヨコナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	脚部1/2 回転実測	I区1層 ベルト
20	土師器 鉢	(12.8) - (5.0)	内 口縁ヨコナデ→ミガキ 黒色処理 外 口縁ヨコナデ→ヘラナデ (柀目) →ミガキ	内 2.5YR1.7/1 (黒) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁1/4 回転実測	ベルト
21	土師器 甕	(18.4) - (4.0)	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ ヘラナデ (柀目)	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。 0.5mm 大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	I区1層
22	土師器 甕	(14.0) - (17.6)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ (弱い柀目)	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子、1~3mm 大砂粒含む。	頸部~底部3/4 底部にヘラ記号 完全実測	No.3 ベルト II区1・2層 II区堀方 I区床
23	土師器 壺	- (14.8)	内 頸部指頭圧痕 体部ヘラナデ (柀目) ヘラナデ 外 頸部ヘラナデ (柀目) 体上部ヘラナデ (柀目) →ミガキ 体下部ヘラナデ (柀目) →ヘラケズリ	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	頸部~底部1/4 回転実測	床 II区堀方 II区1・2層 IV区堀方
24	土師器 壺	(15.8) - (19.5)	内 口縁ミガキ 体部ヘラナデ 外 口縁 ミガキ 体部ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm 大砂粒含む。	口縁~体部1/4 回転実測	II区1・2層 ベルト
25	土師器 甕	(8.6) (10.9)	内 ヘラナデ (柀目) 外 ミガキ 底部ヘラナデ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 回転実測	I区1層 II区1層
26	弥生 蓋	(12.8) - (3.3)	内 ミガキ 赤色顔料付着 外 縄文→ヘラ描線文 孔(2ヶ)	内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	II区1層 H16検出
43	弥生 鉢	(20.8) - (4.5)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
39	白玉	5.0	10.0	4.0	0.15	滑石。孔径1.5mm。	2層
40	石製模造品	42.5	17.0	5.0	5.1	滑石。基部欠損。穿孔裏より。	II区2層
41	使用痕のある剥片	55.0	35.0	9.0	17.3	安山岩。被熱なし。上部欠損。刃部刃こぼれ。	I区
42	砥石	154.0	78.0	34.0	496.0	砂岩。	No.11

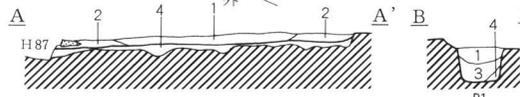
第49表 INP X H 83号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(16.6) (14.6) (6.8)	内 ミガキ 黒色処理 内面一部剥落 外 ミガキ 黒色処理	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR1.7/1 (黒)			細長石粒子含む。	底部1/8 回転実測	I区検出
2	土師器 高杯?	-	内 ナデ→暗文 外 ナデ→暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)			細石英・細長石粒子含む。	破片実測	II区
3	土師器 高杯?	(16.2) - (4.4)	内 ナデ→暗文 外 ナデ→暗文	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)			細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	床
4	土師器 甕	(18.5) - (10.0)	内 口縁ヨコナデ 体部ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ→ナデ	内 5YR7/6 (橙) 外 5YR7/6 (橙)			0.5mm 大石英・長石砂粒 含む。	口縁1/6 回転実測	No.1
5	土師器 甕	- (8.6) (4.5)	内 ナデ ミガキ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR5/4 (にぶい褐) 外 5YR4/2 (灰褐)			細石英・細長石粒子含む。	底部1/5 回転実測	検出
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置		
6	打製石斧	64.0	52.0	15.0	71.9	安山岩。刃部欠損。刃部縁辺整形加工直接、器体加工直接、刃部断片。	P1		

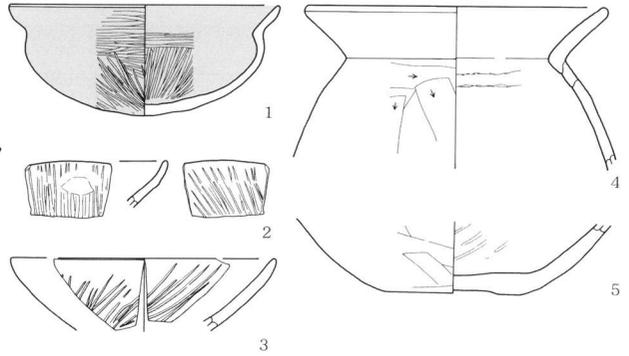
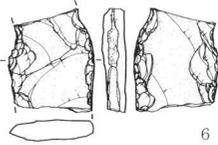


完掘 (西より)

遺物出土状況 (西より)



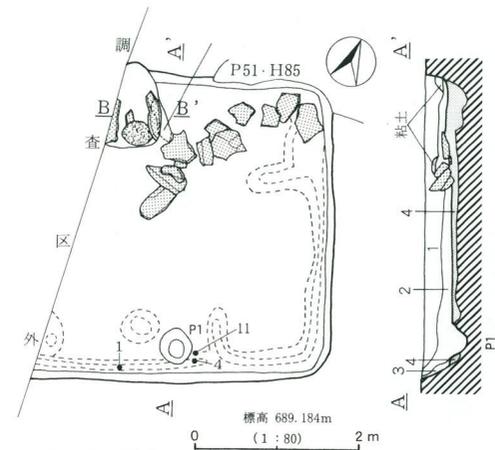
- H83 (W H29) 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂、少礫を含む。
  2. 褐色土層 (10YR4/4) 砂、少礫を多量に含む。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂、少礫を多く含む。
  4. 褐色土層 (10YR4/6) 砂、黒褐色土混在。



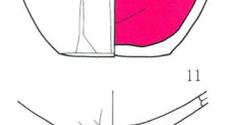
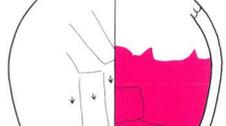
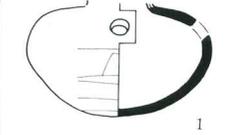
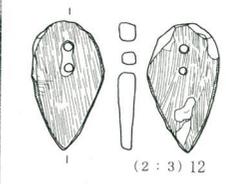
第77図 H83号住居址

第50表 INP X H84号住居址出土遺物一覧表

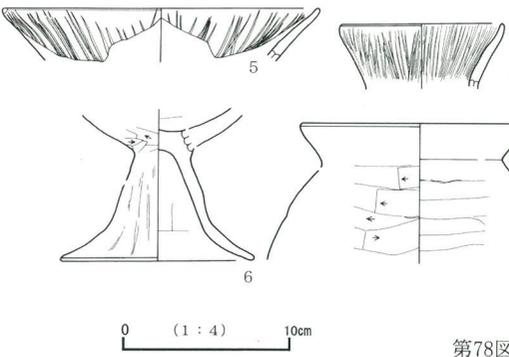
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 はそう	- (6.9)	内 ナデ 外 回転ヘラケズリ→ナデ 肩部自然軸付着	内 10YR1.7/1 (黒) 外 5Y3/1 (オリーブ黒)	緻密。	体部 1/1 完全実測 孔径 1.2	No.1
2	土師器 杯	(10.2) (5.8)	内 ナデ→暗文 外 体部ヘラケズリ→暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	0.5mm 大石英・長石砂粒含む。	口縁 5/16 回転実測	床 I区 II区 1層
3	土師器 杯	(13.2) (6.1)	内 ナデ 暗文 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 2.5YR5/8 (明赤褐) 外 2.5YR5/8 (明赤褐)	1mm 大赤色粒子含む。 緻密。	口縁 1/8 回転実測	堀方
4	土師器 鉢	(13.6) 4.9 7.6	内 ナデ 外 口縁ナデ→底部ヘラケズリ ナデ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	0.5mm 大石英、細長石粒子。 ~2mm 大赤色粒子含む。	底部 1/1 完全実測	No.2
5	土師器 高杯	(19.4) (3.2)	内 ナデ→暗文 外 ナデ→暗文	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	1mm 大赤色粒子含む。 緻密。	口縁 1/4 回転実測	床
6	土師器 高杯	(11.8) (9.3)	内 杯部ヘラナデ 脚部ナデ→ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 杯部ヘラケズリ→脚部ナデ→暗文	内 杯 5YR6/6 (橙) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	0.5mm 大石英、細長石粒子。 ~2mm 大赤色粒子含む。	底部 1/3 完全実測	II区
7	土師器 小型丸底 壺	(10.0) (4.0)	内 ヨコナデ→暗文 外 ヨコナデ→暗文	内 5YR6/8 (橙) 外 5YR6/8 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/3 回転実測	床
8	土師器 甕	14.7 (8.6)	内 口縁ヨコナデ 体部ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR3/2 (暗赤褐)	0.5mm 大長石・石英粒子多く 含む。	底部 7/8 完全実測	I区 床 堀方
9	土師器 甕	- 6.0 (5.5)	内 ナデ 外 ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	内 5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm 大長石・石英粒子多く 含む。	底部 1/2 完全実測	床
10	土師器 甕	(4.8) (3.6)	内 ヘラケズリ 外 ヘラケズリ ナデ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR4/4 (にぶい赤褐)	0.5mm 大石英、細長石粒子 含む。	底部 1/3 回転実測	堀方
11	土師器 壺	(6.8) (1.9)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5Y4/2 (灰赤) 外 10YR6/1 (褐灰)	0.5mm 大長石・石英粒子多く 含む。	底部 1/2 回転実測	No.3
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重	備考	出土位置
12	石製模造品	2.9	1.6	4.0	2.7	滑石。穿孔は裏から。剣形。	II区 1層



- H84 (W H30) 土層説明
- 1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂、少礫を多く含む。
  - 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂、少礫を含む。
  - 3. 褐色土層 (10YR4/4) 砂、少礫を含む。
  - 4. 褐色土層 (10YR4/6) 砂を多量に含む。(掘方)

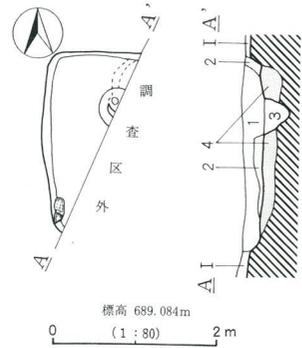


上から 礫出土状況 完掘 (南より)

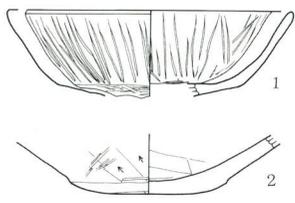


0 (1:4) 10cm

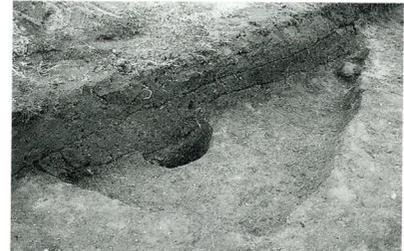
第78図 H84号住居址



- H93 (S H1) 土層説明
- I層 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム、2次堆積層
  - 1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂、小礫を多く含む。
  - 2. 褐色土層 (10YR4/4) 砂を多量に含む。
  - 3. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂を多量に含む。
  - 4. 褐色土層 (10YR4/6) I層の砂を極めて多量に含む。



第79図 H93号住居址

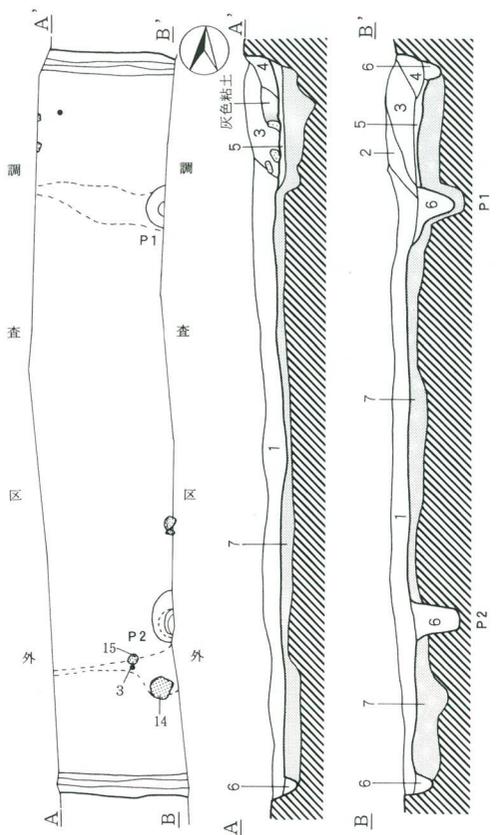


完掘 (北より)

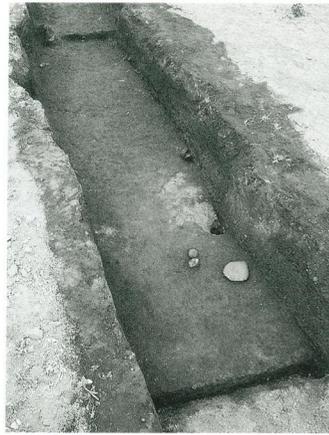
0 (1:4) 10cm

第51表 INP X H93号住居址出土遺物一覧表

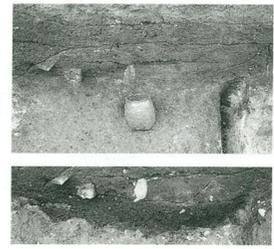
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 高杯	(17.5) (5.3)	内外 ナデー暗文	内 5YR6/8 (橙) 外 2.5YR6/8 (橙)	細石英・細長石粒子、1mm大 赤色粒子含む。	口縁1/8 回転実測	掘方
2	土師器 甕	(9.5) (3.6)	内外 ヘラナデ ヘラケズリーミガキ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR6/4 (にぶい黄橙)	1mm大石英粒子含む。	底部1/2 回転実測	



- H96 (S H4) 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、小礫を多く含む。
  2. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫を多量に含む。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、小礫を多く含む。
  4. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小礫を多く含む。
  5. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小礫を含む。(カマド場方)
  6. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、小礫を多く含む。
  7. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂、小礫を極めて多量に含む。(堀方)



完掘 (南より)

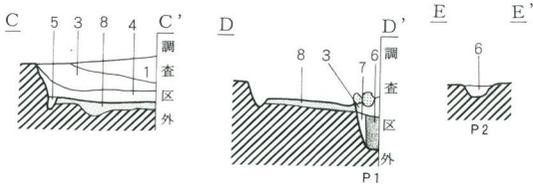
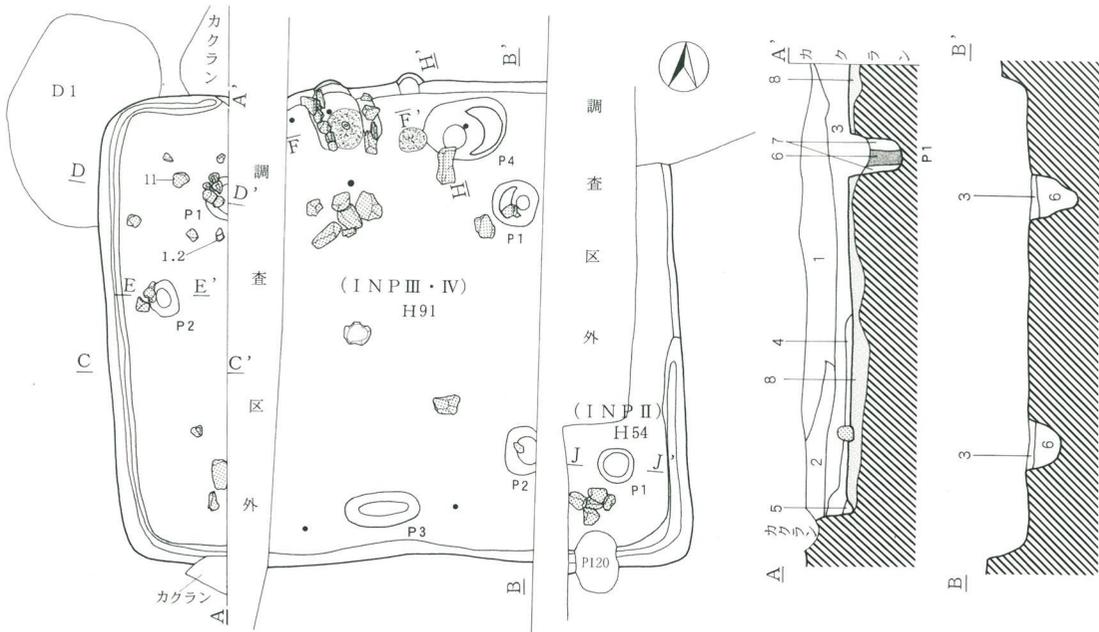


上から カマド カマドセク (東より)



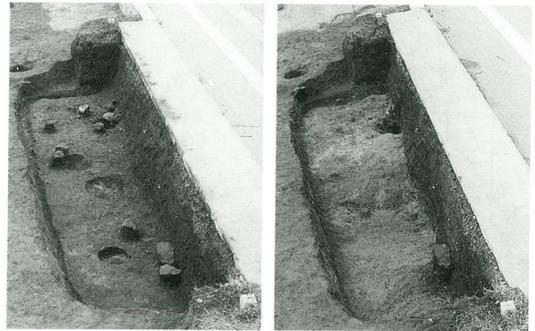
第80図 H96号住居址

※H96 遺物一覧表は、P99 にあります。



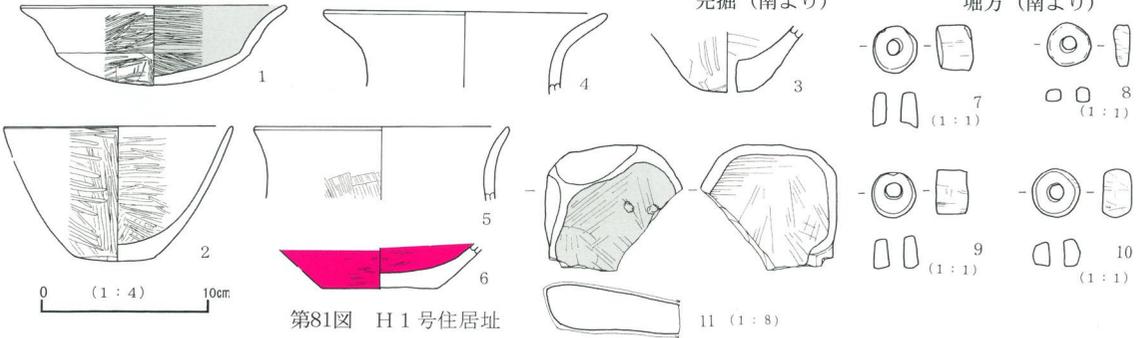
H1 土層説明

- 1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂、小石を多く含む。
- 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
- 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、小石を含む。
- 4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を多量に含み、小石を含む。
- 5. 暗褐色土層 (10YR3/4) (周溝)
- 6. 暗褐色土層 (10YR3/3) (柱状)
- 7. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂、小石を多く含む。(ピット堀方)
- 8. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂、小石が多量に混在。(貼床)



完掘 (南より)

堀方 (南より)



第81図 H1号住居址

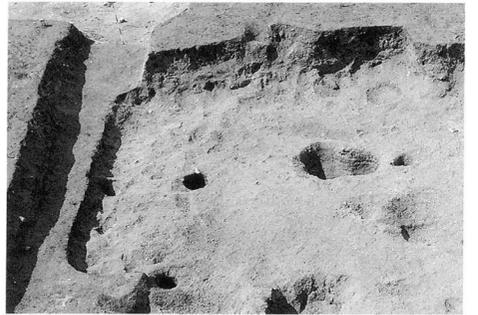
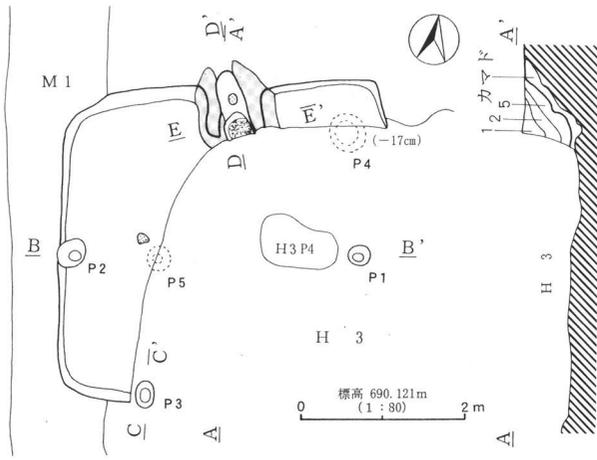
第52表 INP X H1号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(16.2) (11.8) 4.9	内 ミガキ 黒色亀理 外 底部手持ちヘラケズリ→全体ミガキ	内 7.5YR17/1 (黒) 外 7.5YR5/3 (にぶい橙)	~2mm 長石粒子多く含み、細石英粒子含む。	全体1/4残 回転実測	No.1 IV区4層
2	土師器 鉢	(14.0) 4.9 8.3	内 ミガキ 外 体・底部ヘラケズリ→ミガキ	内 7.5YR6/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石粒子多く含み、細石英粒子多く含む。	全体1/2残 完全実測	No.1 IV区4層

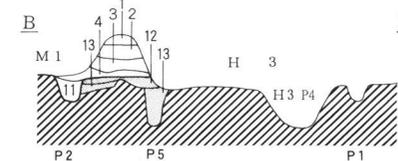
3	土師器	(1.0) (5.4)	内 ヘラナデ	内 10YR1.7/1 (黒) 外 10YR6/4 (にぶい黄橙)	細長石粒子、細石英粒子含む。	底部1/2残存 回転実測 外部に沈線あり 一孔	Ⅲ区
4	甌 土師器 甕	(4.1) (17.4) (5.0)	外 ヘラケズリ ナデ 内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	内 7.5YR5/8 (明褐) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/6 回転実測	Ⅲ区
5	土師器 甕	(15.6) (4.6)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラナデ (柱目)	内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR4/6 (赤褐)	細長石・細石英粒子多く含む。	口縁1/4 回転実測	Ⅳ区4層
6	弥生 鉢	(7.0) (3.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/8 (赤褐) 外 2.5YR4/8 (赤褐) (底部橙5YR6/6)	細長石粒子多く、細石英粒子 含む。	底部完形 完全実測	Ⅳ区4層
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
7	白玉	7.0	7.0	6.0	0.4	孔径2.0mm	Ⅳ区
8	白玉	6.5	7.0	2.0	0.2	孔径2.5mm	Ⅲ区
9	白玉	6.5	6.5	5.0	0.3	孔径2.5mm	床下
10	白玉	8.0	7.0	4.0	0.4	孔径2.5mm	P1
11	台石	<153.0>	167.0	65.0	1960.0	安山岩	No.2

第53表 INP X H4号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(13.0) (4.3)	内 ミガキ 黒色処理 外 ヘラミガキ	内 10YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・1mm大赤色粒子含む。	口縁部1/6 回転実測	堀方
2	土師器 甕	(7.6) (11.0)	内 ヘラナデ→ナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR6/8 (橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	1mm大の砂粒多く、細長石、細石英含む。	底部1/3 回転実測	カマド Ⅲ区 Ⅳ区

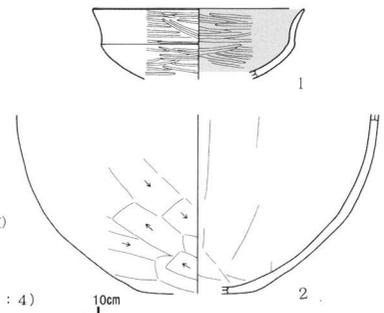
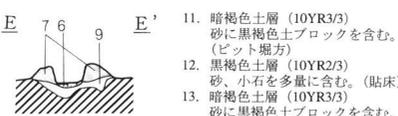
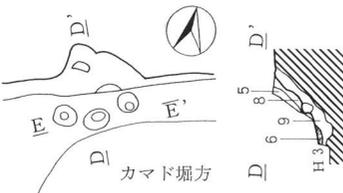


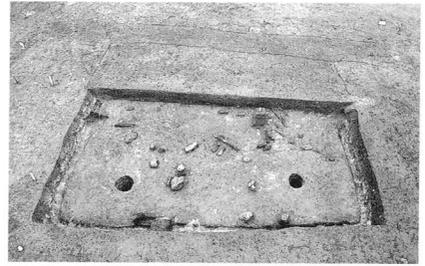
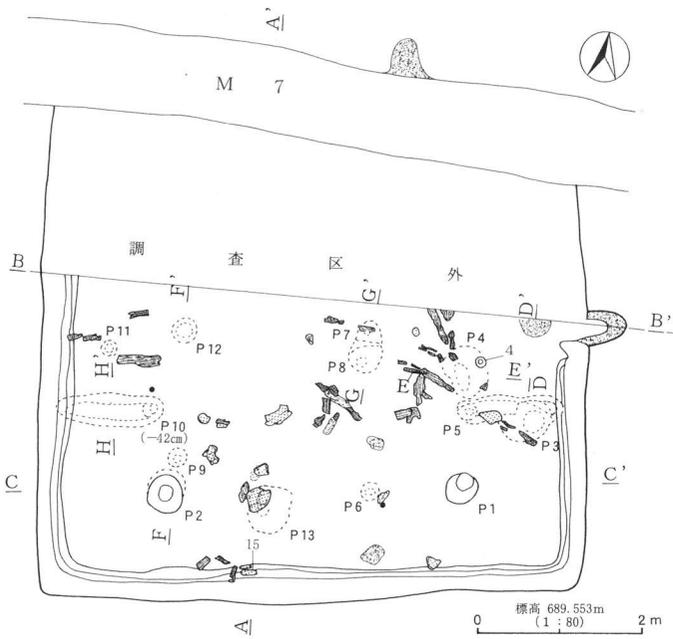
上から 完掘 堀方 (南より)



- H4土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、小石を多量に含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。
  4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石をわずかに含む。
  5. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 粘土、焼土ブロックを多量に含む。(カマド崩壊層)
  6. 赤褐色土層 (5YR4/6) 焼土。
  7. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 粘土。(カマド構築土)
  8. 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 焼土ブロック、粘土ブロックを含む。(煙道)
  9. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 粘土を含む。(カマド堀方)
  10. 黒褐色土層 (10R2/3) (柱痕)
  11. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂に黒褐色土ブロックを含む。(ピット堀方)
  12. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂、小石を多量に含む。(貼床)
  13. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂に黒褐色土ブロックを含む。

第82図 H4号住居址





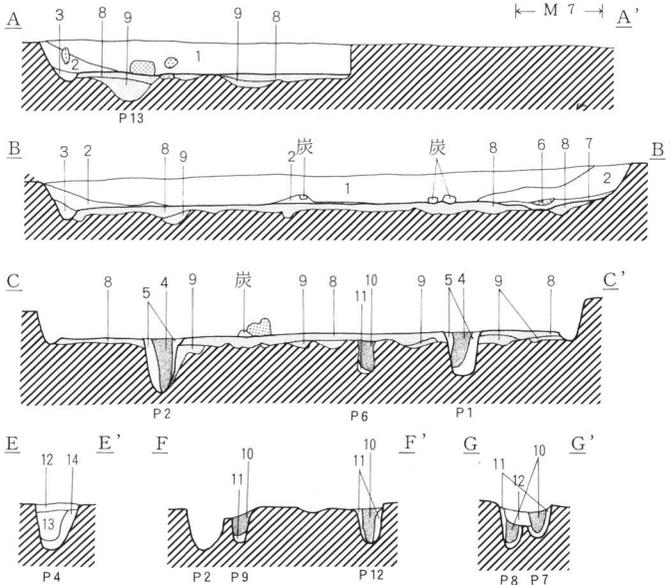
完掘 (南より)



遺物出土状況(上から 南より 西より 東より)



堀方 (南より)



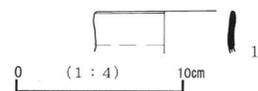
H15 土層説明

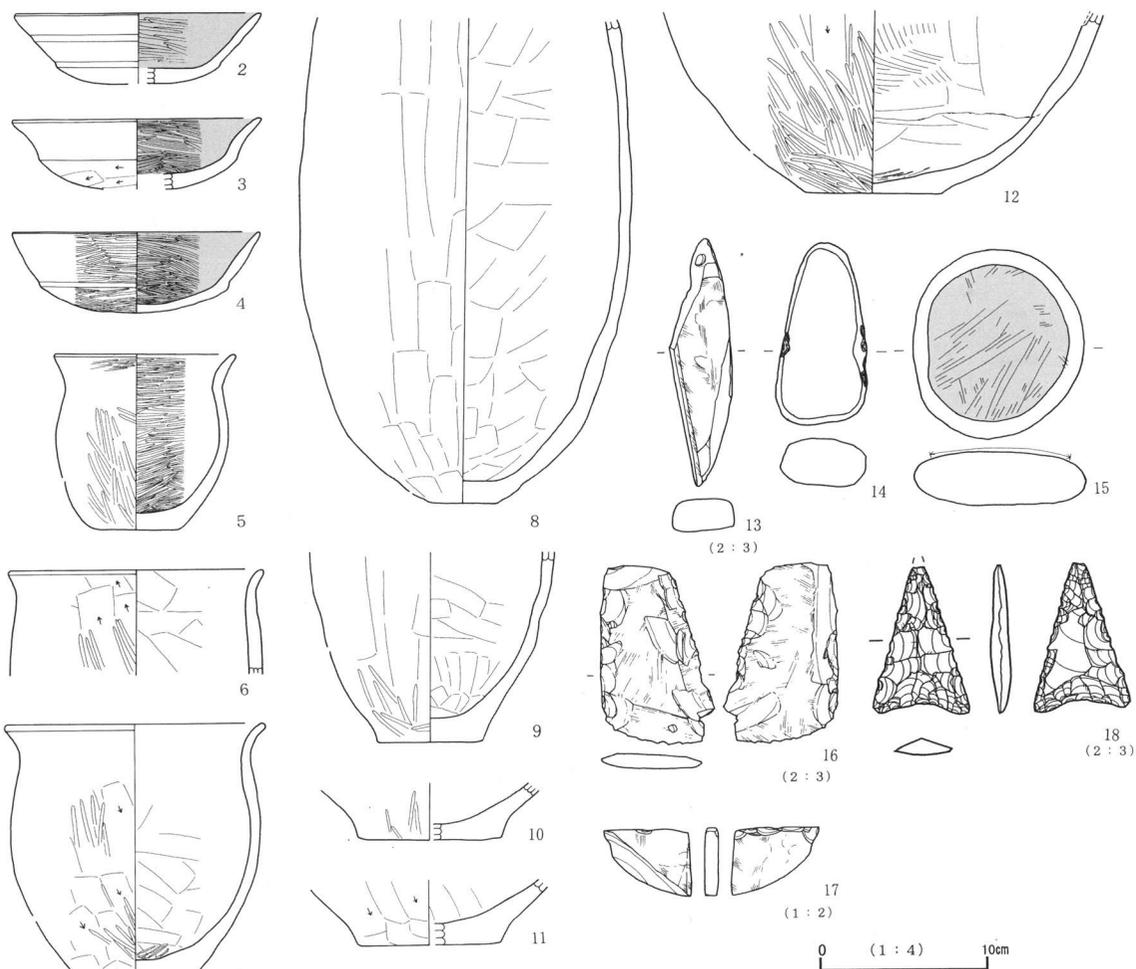
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を多量に含む。
2. 黒色土層 (10YR2/1) 一層より黒色強い。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) (周溝)
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱痕)
5. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。(ピット堀方)
6. 明褐色土層 (7.5YR5/6) 焼土。
7. 灰褐色土層 (7.5YR4/2) 粘土粒子を含む。(カマド堀方)
8. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂、小石を含む。(貼土)
9. 黄褐色土層 (10YR5/6) 黒褐色土ブロック (10YR2/2) を含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3) (床下柱痕)
11. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。(床下ピット)
12. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂を多量に含む。
13. 黒褐色土層 (10YR2/3) 焼土ブロックを含む。(P4)
14. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂と黒褐色土を含む。(P4)

第83図 H15号住居址 (1)



カマド堀方



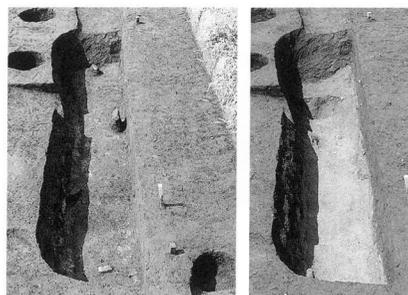
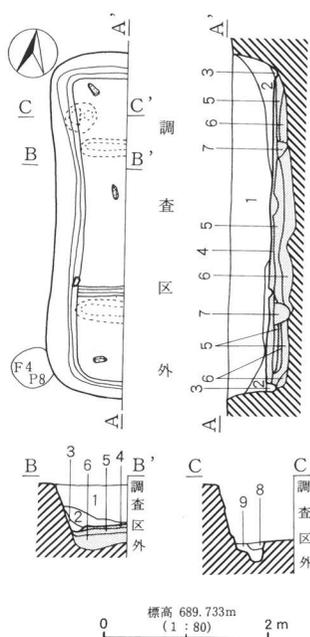


第84図 H15号住居址（2）

第54表 INP X H15号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 壺	(8.6) - (2.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR4/1 (灰) 外 2.5Y5/1 (黄灰)	細石英・細石英粒子含む。まれに 1mm 大砂粒含む。	口縁部 1/4 回転実測	Ⅱ区 1層
2	土師器 杯	(15.0) (9.8) (4.3)	内 ミガキ 黒色処理 外 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ→ミガキ?	内 10YR1.7/1 (黒) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子。まれに 1mm 大砂粒含む。	口縁～底部 1/3 内外面器面剥落	I区 1層
3	土師器 杯	15.1 12.0 (4.3)	内 ミガキ 黒色処理 外 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ	内 10YR1.7/1 (黒) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子。まれに 1mm 大砂粒含む。	口縁～底部 3/4 完全実測	I区 1層
4	土師器 杯	15.1 11.4 5.0	内 ミガキ 黒色処理 ペンガラ付着 外 口縁ヨコナデ→ミガキ 底部ヘラケズリ	内 5YR5/6 (黒) 外 5YR5/8 (明赤褐)	細長石・細石英粒子。まれに 1mm 大砂粒含む。	完形品 完全実測	No.1
5	土師器 小型甕 (鉢)	(11.0) 5.3 10.8	内 ミガキ 黒色処理? 外 口縁ヨコナデ ヘラケズリ→底部ミガキ	内 5YR3/2 (暗赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。 まれに 2mm 大砂粒含む。	口縁～体部 1/2 底部完形 完全実測	I区 1層 No.1?
6	土師器 小型甕	(15.6) (6.5)	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ ヘラケズリ→ミガキ	内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR6/6 (橙)	0.5mm 大長石・石英粒子。 まれに 3mm 大砂粒含む。	口縁部 1/4 回転実測	I区 1層
7	土師器 甕	(15.9) 6.4 16.0	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 底面一部ミガキ 黒色処理? 外 口縁ヨコナデ ヘラケズリ→ミガキ	内 5YR3/1 (黒褐色) 外 5YR5/6 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。 まれに 3～5mm 大砂粒含む。	口縁 1/3 底部完形 完全実測	I区 1層 トレンチ
8	土師器 甕	4.3 (29.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	内 7.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR6/6 (橙)	細石英多く、細長石含む。 まれに 3mm 大砂粒含む。	3/4	
9	土師器 甕	6.4 (11.7)	内 ヘラナデ 底部指頭ナデ? 外 ヘラナデ→ミガキ 底部ヘラケズリ→ミガキ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。 まれに 3～5mm 大砂粒含む。	底部完形 完全実測	I区 1層
10	土師器 甕	- (8.7) (3.5)	内 ナデ 外 ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。 まれに 1～3mm 大砂粒含む。	底部 1/4 回転実測	I区 1層 トレンチ

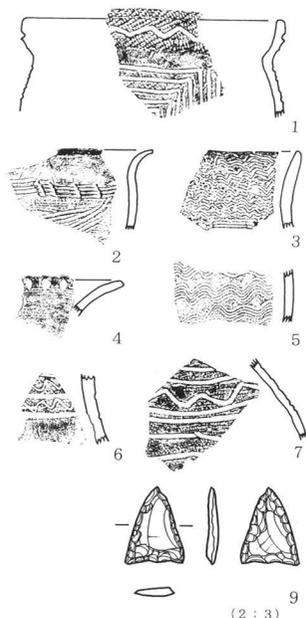
11	土師器 甕	- (8.6) (4.0)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR3/1 (黒褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。 まれに5mm大砂粒含む。	底部1/4 回転実測	I区2層
12	土師器 甕	- 8.4 (11.2)	内 ヘラナデ(柱目) ナデ 底部一部ミガキ 外 ヘラナデ→ミガキ	内 5YR3/2 (暗赤褐) 外 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子、3mm大 砂粒少量含む。	体部3/4 底部完存 完全実測	II区1層
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
13	石製模造品	57.0	14.0	7.0	7.7	未製品。滑石。	検出
14	編物石	111.0	55.0	30.0	266.0	安山岩。	I区1層
15	台石	232.0	210.0	66.0	5120.0	安山岩。	No.6
16	磨製石鏃未製品	41.0	26.0	3.5	4.4	粘板岩。	II区2層
17	扁平片刃石斧	21.0	27.0	4.0	0.1	緑色片岩。刃部欠損、刃部研磨、器体研磨、基部断片。	II区1層
18	凹基鏃	34.3	21.9	4.8	2.5	頁岩。刃部縁辺整形加工押圧、器体加工押圧。	検出



完掘 (南より)

堀方 (南より)

- H26土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を多く含む。
  2. 黒色土層 (10YR7/1)  
砂、小石を含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(周溝)
  4. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
砂を少量含み、小石を含む。(貼床)
  5. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂主体。
  6. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を多量に含む。
  7. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂細ブロックを含む。(間仕切溝)
  8. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
(床下柱痕)
  9. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂主体。(床下ピット)



第85図 H26号住居址

第55表 INP X H26号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 甕	(16.2) (5.9)	内 ミガキ 外 ヨコナデ 口唇部縄文 口縁部縄文 胴部縄文 ヘラ描「コ」の字重む文	内 5YR5/2 (灰褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石含む。	口縁1/8	E区 H26 検出
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
8	編物石	132.0	73.0	34.0	478.0	多孔質安山岩。	No.2
9	凹基鏃	17.9	13.4	3.0	0.6	安山岩。刃部縁辺整形加工押圧、器体加工押圧。	検出

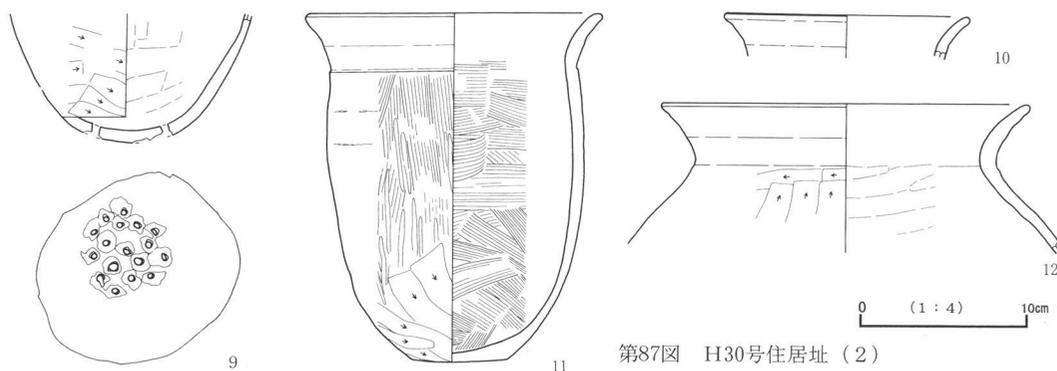
第56表 INP X H42号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 鉢	(20.2) (16.8) (4.9)	内 ミガキ 黒色処理 外 口縁ナデ→底部ヘラケズリ→全体ミガキ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子、0.5mm～ 1mm大砂粒含む。	口縁1/16 回転実測	検出
2	土師器 壺	(19.6) (11.2)	内 口縁ヨコナデ 全体ミガキ 外 口縁ナデ→全体ミガキ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細長石多く、細石英含む。	口縁1/4 回転実測	

第57表 INP X H46号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 短頸壺	(9.3) (3.3)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ (自然釉付着)	内 2.5Y5/1 (黄灰) 外 2.5Y3/1 (黒褐)	細石英・細長石粒子、細黒色 粒子含む。	口縁1/8 回転実測 口縁頸部内湾	I区
2	土師器 甕	(21.6) (20.1)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ ミガキ	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1～2mm大 砂粒含む。まれに5mm大小石含む。	口縁1/1 回転実測	No.1
3	土師器 小型甕	(13.8) (8.0)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大 砂粒を極少含む。緻密。	口縁1/4 回転実測	II区
4	土師器 小型甕	(6.0) (9.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR3/1 (黒褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子、1mm大 砂粒含む。	底部1/4 回転実測	II区



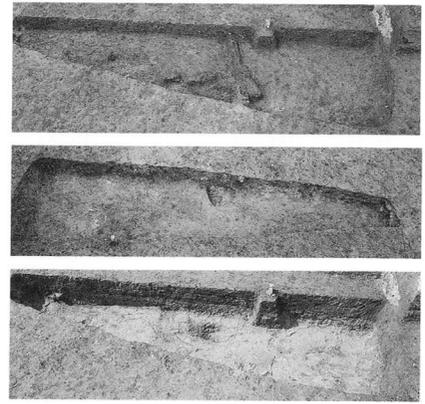
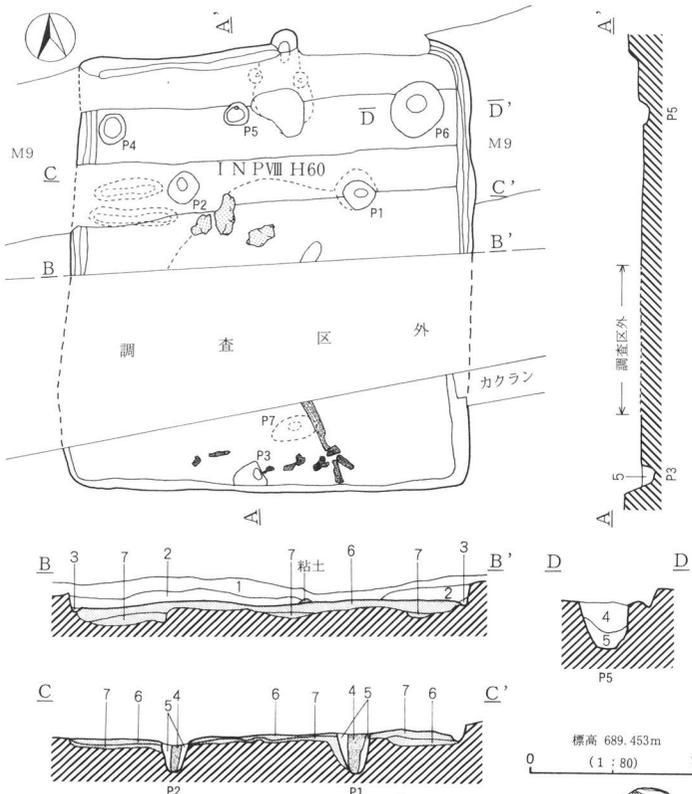


第87図 H30号住居址(2)

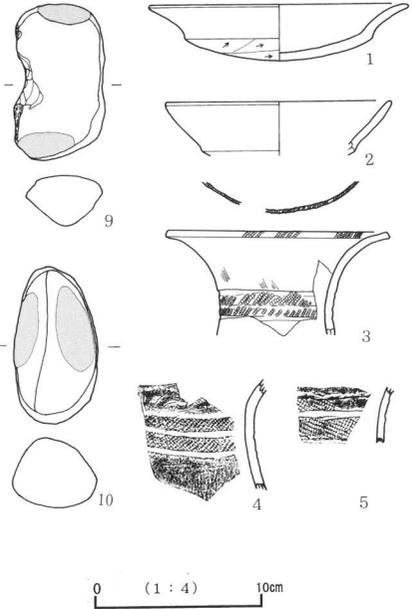
第58表 INP X H30号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(12.4) (10.3) (4.0)	内 ナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ	内 5YR5/8 (明赤褐) 外 5YR5/8 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4	IV区
2	土師器 杯	13.4 11.6 5.3	内 口縁ヨコナデ ミガキ 底部ヘラケズリ 外 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁3/4	カマド Ⅲ区2層
3	土師器 杯	(13.5) (13.3) (5.5)	内 口縁ヨコナデ 底部ヘラナデ(極目) 外 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/3 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁2/3 底部に焼成後の 穿孔あり。孔径0.3cm	I区 IV区 IV区地方
4	土師器 杯	(14.6) (11.8) (4.2)	内 ナデ 口縁ヨコナデ 暗文→黒色処理か? 外 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ→黒色処理?	内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3	I区地方
5	土師器 高杯	(18.0) -	内 ヨコナデ→暗文 外 ヨコナデ→暗文	内 2.5YR5/8 (明赤褐) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4	I区地方
6	土師器 甌	(17.4) -	内 口縁ヨコナデ 胴部ヘラナデ ナデ 外 口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。 1mm大砂粒含む。	口縁1/4	I区 IV区地方
7	土師器 甕	6.6 (2.7)	内 ナデ→ミガキ 外 胴→底部ヘラケズリ→ミガキ	内 5YR5/4 (にぶい褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	0.1mm大長石・石英粒子、まれに ~3mm大赤色粒子含む。	底部完形	I区地方
8	土師器 甕	8.4 (6.1)	内 ヘラナデ ナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ 底部ヘラケズリ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。 1~2mm大砂粒含む。	底部2/3	I区 Ⅲ区2層 IV区
9	土師器 甌	- (7.9)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR4/8 (赤褐) 外 2.5YR6/8 (赤褐)	細長石・細石英粒子含む。 ~2mm大赤色粒子含む。	底部完形 多孔 底部に焼成前の穿孔 (外→内方向) 孔径0.4~0.6cm	I区地方No.5 IV区 IV区地方
10	土師器 甕	(15.0) -	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	内 7.5YR5/3 (にぶい褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。 1mm大砂粒含む。	口縁1/4	カマド Ⅲ区2層
11	土師器 甕	18.1 5.8 21.4	内 口縁ヨコナデ 胴部ヘラナデ(極目) 外 胴部ヘラナデ(極目) ミガキ→下半~底部ヘラケズリ ミガキ→口縁ヨコナデ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (にぶい赤褐) 5YR4/3 (にぶい赤褐)	細長石・細石英粒子含む。 1mm大砂粒含む。	口縁3/4	No.1
12	土師器 甕	(22.6) -	内 口縁ヨコナデ 胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	0.5mm大長石・石英粒子、1mm大 砂粒少し含む。	口縁1/4	I区 IV区
13	弥生 甕	(10.8) -	内 ミガキ 外 ヘラナデ 口唇部縄文 口縁部縄文 ヘラ描山形文2条 頸部櫛形状文(1連止、5本1組)	内 10YR5/4 (にぶい黄橙) 外 10YR6/3 (にぶい黄橙)	細長石・細石英含む。	口縁1/8	検出
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	径	備考	出土位置
17	石製模造品	3.1	1.75	4.0	2.5	剣形。片岩。	II区地方
18	刀子	(77.0)	13.0	5.0	8.3	鉄製品。	IV区





上から 遺物出土状況 完掘 堀方(南より・北より・南より)



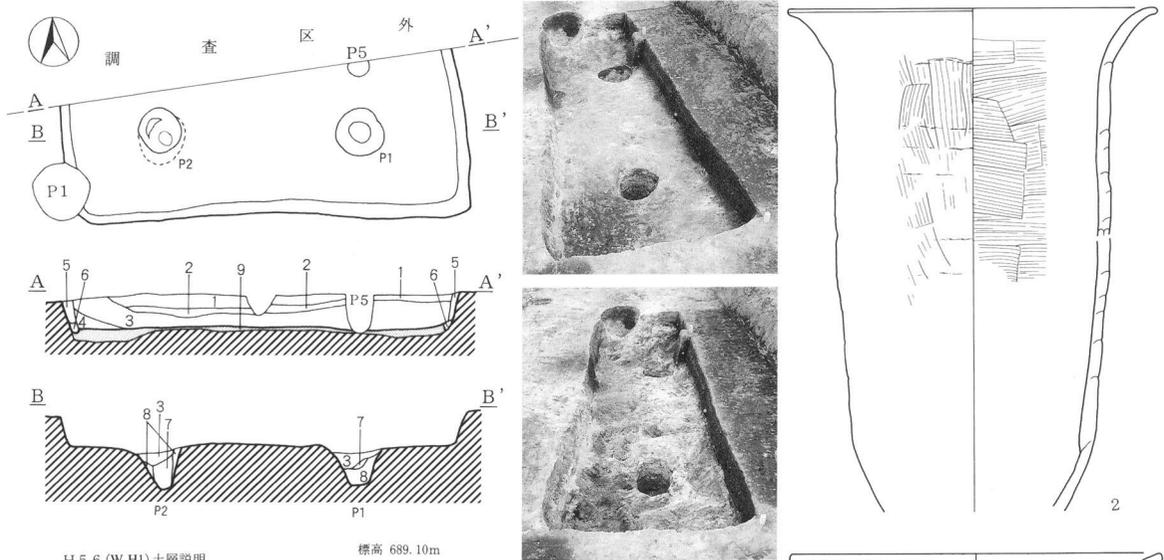
H45 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、小石を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
0.5mm大の小石を含み、わずかに砂を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(周溝)
4. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(柱痕)
5. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂を多く含む。(ピット堀方)
6. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小石を多く含む。(貼床)
7. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4)  
砂主体。

第90図 H45号住居址

第59表 INP X H45号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(16.0) - (3.5)	内 ナデ 外 ヨコナデ ヘラケズリ	内 7.5YR4/2 (灰褐) 外 7.5YR2/1 (黒)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	
2	土師器 杯	(14.0) - (3.3)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 7.5YR2/1 (黒) 外 7.5YR3/2 (黒褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	
3	弥生 壺	- -	内 ヘラナデ (柱目) 外 ヘラナデ (柱目) 口唇部縄文 頸部ヘラ描横線文 縄文	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/2 回転実測	検出
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	ε	備考	出土位置
6	編物石	83.0	46.0	25.0	154.0	安山岩	
7	編物石	86.0	57.0	26.0	142.0	多孔質安山岩	
8	編物石	94.0	45.0	22.0	150.0	砂岩	
9	編物石	96.0	56.0	32.0	226.0	安山岩	
10	編物石	96.0	51.0	43.0	264.0	安山岩	



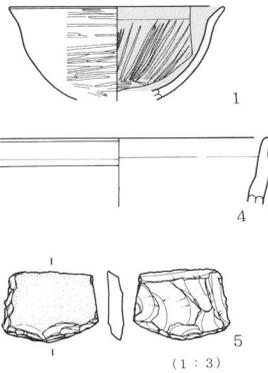
H56 (W H1)土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3)  
砂、パミス、炭化物を含む。
2. 褐色土層(7.5YR4/3)  
灰、焼土を多く含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/3)  
砂、パミス、灰、焼土、炭化物を含む。
4. 暗褐色土層(10YR3/4)  
砂、炭化物を含む。
5. 暗褐色土層(10YR3/4)  
砂多く、パミスを含む。
6. 黒褐色土層(10YR2/3)  
砂を含む。
7. にぶい黄褐色土層(10YR5/4)  
砂層。
8. 褐色土層(10YR4/4)  
砂主体。
9. 褐色土層(10YR4/4)  
砂主体。(貼床)

標高 689.10m  
0 2m  
(1:80)

上から完掘 堀方(東より)

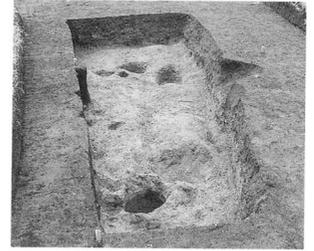
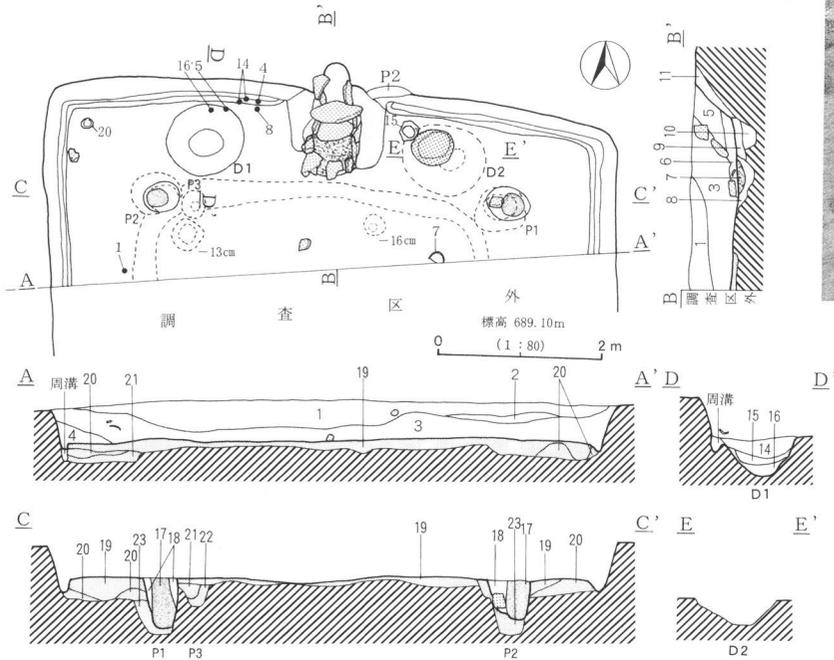
0 10cm  
(1:4)



第91図 H56号住居址

第60表 INP X H56号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(13.2) (5.7)	内 暗文 黒色処理 外 ミガキ	内 5YR1.7/1 (黒) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	
2	土師器 甕	(22.6) (31.0)	内 ヘラナデ(極目) 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ(極目)	内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	~0.5mm大石英・長石粒子含む。	胴部1/3 回転実測	
3	土師器 甕	(22.8) (29.5)	内 ナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	~0.5mm大石英・長石粒子2mm大 赤色粒子含む。	胴部1/3 回転実測	
4	土師器 壺	(18.6) (3.9)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 7.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	~0.5mm大石英・細長石粒子 含む。	口縁1/12 回転実測	
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
5	打製石斧	33.0	44.0	6.0	15.8	緑色岩類。上部右側欠損。刃部磨耗痕、刃部縁辺整形加工直接、刃部断片。	堀方



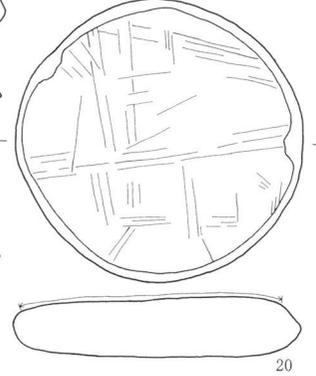
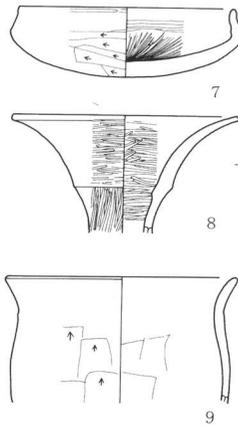
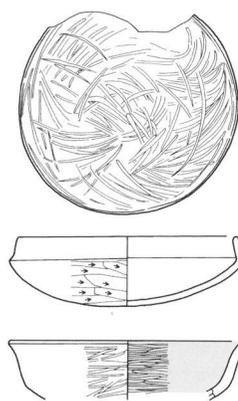
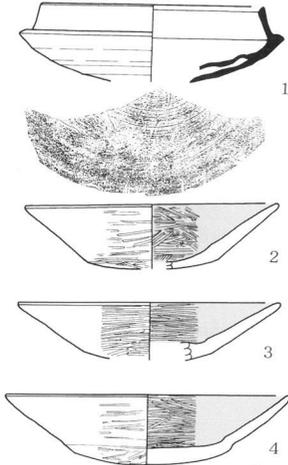
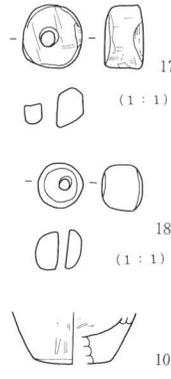
上から完掘 堀方 (西より 東より)



遺物出土状況 (南より)

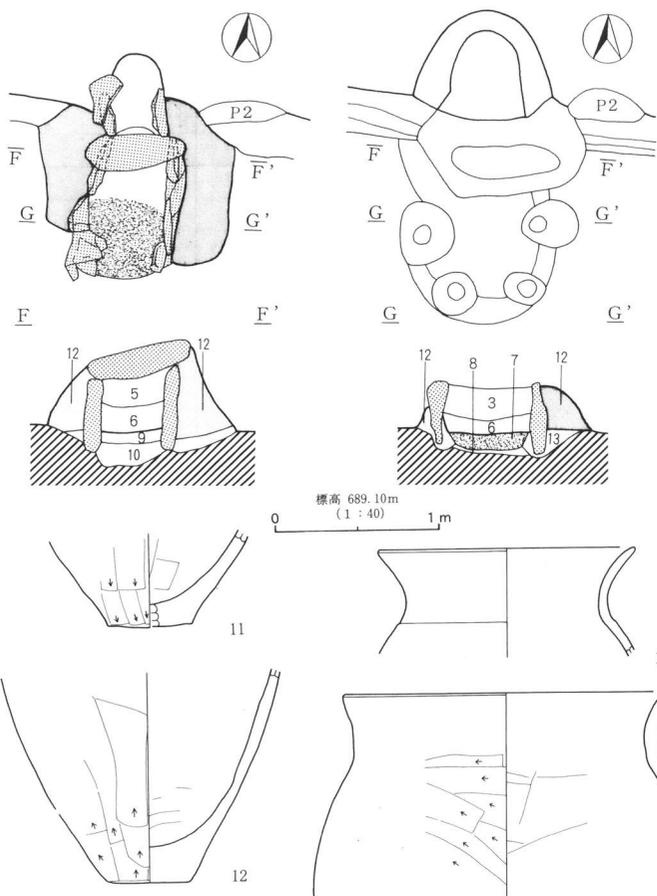
H57 (W H2) 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ローム粒子、パミス、炭化物粒子を含む。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)  
粘土を多量に含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
ローム粒子、パミス、焼土、炭化物粒子を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を少量含む。
5. 暗褐色土層 (7.5YR3/3)  
焼土、灰、炭化物を含む。
6. 暗赤褐色土層 (2.5YR3/4)  
焼土、灰を多量に含む。
7. 赤褐色土層 (5YR4/8)  
焼土。
8. 暗赤褐色土層 (5YR3/6)  
焼土粒子を多量に含む。
9. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、炭化物粒子を少し含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、炭化物粒子、焼土粒子を含む。  
(カマド堀方)
11. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
パミス、焼土粒子を少量含む。
12. 灰褐色土層 (7.5YR4/2)  
粘土混じる。
13. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
焼土、炭化物粒子を微量に含む。
14. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、炭化物を含む。
15. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂主体。
16. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。
17. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
(柱痕)
18. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、パミスを多量に含む。(ピット堀方)
19. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、ロームを多く含む、締まりあり。(貼床)
20. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂、ロームを多量に含む、締まりあり。(貼床)
21. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、ロームを多く含む。
22. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂、ロームを多く含む。
23. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、ローム粒子を少し含む。

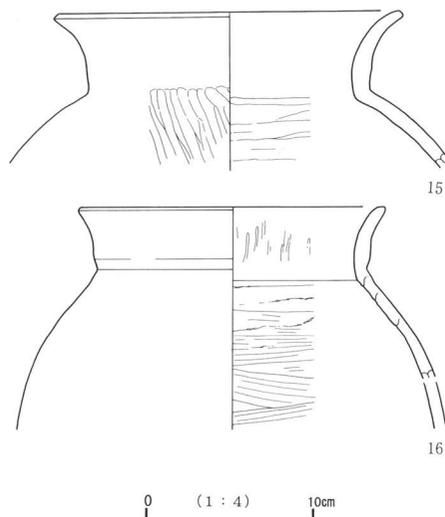


第91図 H57号住居址 (1)

0 (1:4) 10cm



カマド (南より)



第93図 H57号住居址(2)

第61表 INP X H57号住居址出土物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	(13.6) (16.2) (4.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部右回転ヘラケズリ	内 N5/ (灰) 外 N5/ (灰)	1mm 大砂粒含む。	口縁 1/6 回転実測 底部ヘラ記号	No.9
2	土師器 杯	(14.2) (6.8) (4.0)	内 ミガキ 黒色処理 外 ミガキ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/5 回転実測	I区堀方
3	土師器 杯	(16.1) (10.3) (3.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 ミガキ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 10YR7/6 (明黄褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	I区1層 I区2層
4	土師器 杯	17.4 10.1 4.3	内 ミガキ 黒色処理 外 口縁ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子。1mm 大 白色・赤色粒子含む。	口縁 11/12 完全実測	No.1
5	土師器 杯	13.4 14.5 4.3	内 ミガキ 黒色処理か? 外 口縁コナデ→底部手持ヘラケズリ 黒色処理?	内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。 まれに 1mm、2mm 大赤色粒子含む。	口縁 3/4 完全実測	No.4
6	土師器 杯	(14.7) - (3.6)	内 ミガキ 黒色処理 外 口縁コナデ→底部ヘラケズリ→全体ミガキ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/8 回転実測	III区1層
7	土師器 杯	(13.4) (14.3) 4.3	内 ミガキ 外 口縁コナデ→底部手持ヘラケズリ	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	~1mm 大石英・長石粒子、1mm 大 砂、7mm 大白色粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	No.8
8	土師器 はそう	14.0 - (7.2)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR6/8 (橙) 外 7.5YR6/8 (橙)	細石英・細長石粒子含む。 まれに 1mm 大粒子含む。	口縁 15/16 完全実測	No.6
9	土師器 小型甕	(14.2) - (7.7)	内 ナデ ヘラナデ 外 体部ヘラケズリ→口縁コナデ ナデ	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	0.5mm 大石英粒子多く、細長石粒子、 1mm 大砂粒含む。	頸部 1/4 回転実測	I区2層
10	土師器 甕?	- (4.8) (3.1)	内 ナデ ミガキ 外 ヘラケズリ ミガキ	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、0.5mm 大 赤色・白色粒子含む。	底部 1/3 回転実測	I区1層
11	土師器 甕	- (5.2) (5.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 10YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。 1~2mm 大赤色粒子含む。	底部 1/3 回転実測	II区1層

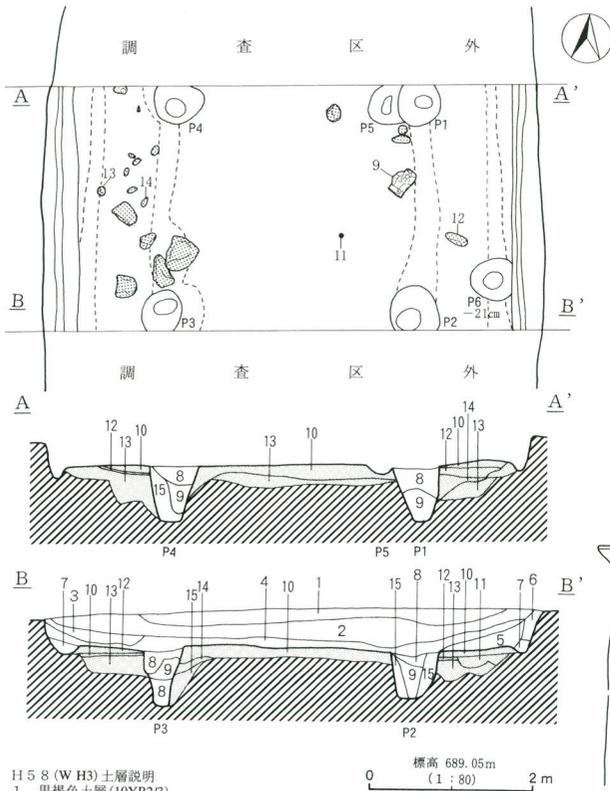
12	土師器 甕	- 5.1 (12.9)	内 外	ヘラナデ ヘラケズリ	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子、1～2mm 大砂粒含む。	底部 1/1 完全実測	I区1層 I区2層
13	土師器 壺?	(15.8) (6.7)	内 外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	内 7.5YR6/8 (橙) 外 7.5YR6/8 (橙)	0.5mm 大石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	I区2層
14	土師器 甕	(20.0) -	内 外	口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	0.5mm 大石英・長石粒子、 2～3mm 大赤色粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	No.2
15	土師器 壺	(21.4) -	内 外	口縁ミガキ 体部ナデ 口縁ミガキ (剥落) 体部ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	0.5mm 大石英・長石粒子、 2～3mm 大赤色粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	No.7 カマド D1
16	土師器 壺	(18.8) -	内 外	口縁ミガキ 体部ヘラナデ (榫目) 器面剥離	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	0.5mm 大石英・長石粒子、 2～3mm 大赤色粒子含む。	首部 1/3 回転実測	No.5
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考		出土位置
17	白玉	10.0	9.0	10.5	0.79	滑石。		
18	土製丸玉	70.5	7.0	6.0	0.35	孔径 1.5mm		II区2層
19	石製模造品	4.8	2.2	4.0	7.1	滑石。穿孔表から裏。		II区2層
20	台石	173.0	176.0	38.0	1960.0	安山岩。裏面にも擦痕あり。		No.9

第 62 表 INP X H 58 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整				色 調	胎 土	残 存 ・ 備 考	出土位置
1	須恵器 高杯	- -	内 外	ロクロナデ 自然軸付着 ロクロナデ 自然軸付着 スカシ孔 (2ヶ所)	内 2.5GY3/1 (暗オリーブ灰) 外 N2/ (黒)	細石英・細長石含む。	杯底部～脚部 1/2 回転実測	検出		
2	須恵器 甕	(16.2) (4.3)	内 外	ヘラナデ 胴下端回転ヘラケズリ 底部ヘラナデ 自然軸付着	内 N5/ (灰) 外 N2/ (黒)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/3 回転実測	検出		
3	土師器 杯	(15.2) (9.4) (3.7)	内 外	ミガキ 黒色処理? 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ 黒色処理?	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	H3		
4	土師器 杯	(14.6) (10.2) (3.8)	内 外	ナデ 黒色処理? 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ 黒色処理?	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	H3 堀方		
5	土師器 杯	(15.0) (11.2) (4.1)	内 外	ナデ 黒色処理? 口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ	内 10YR3/2 (黒褐) 外 10YR5/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	H3 堀方		
6	土師器 高杯	- (7.2) (5.2)	内 外	ヘラケズリ→裾部ヨコナデ ミガキ	内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	細石英・細長石含む。	脚部 2/3 完全実測	検出		
7	土師器 甕	(7.4) (5.8)	内 外	ヘラナデ (榫目) ヘラケズリ ミガキ	内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR4/3 (褐)	細石英・細長石粒子含む。 1・2mm 大赤色粒子含む。	底部 1/4 ⑨の底部か 回転実測	No.8		
8	土師器 甕	(13.8) (7.6) (11.4)	内 外	ヘラナデ 口縁ヨコナデ ヘラケズリ 口縁ヨコナデ	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR5/3 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。 1～2mm 大赤色粒子含む。	1/4 回転実測			
9	土師器 甕	(20.5) -	内 外	ヘラナデ (榫目) 体部上半ヘラナデ (榫目) 下半ヘラケズリわずかにミガキ 口縁ヨコナデ	内 7.5YR4/3 (褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。 1～2mm 大赤色粒子含む。	底部欠損 完全実測	No.1		
10	弥生 蓋	(7.2) -	内 外	ミガキ 赤色塗彩 ミガキ 赤色塗彩 穿孔 (2ヶ)	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/2 回転実測			
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考		出土位置		
11	土製丸玉	6.5	6.0	5.0	0.19	孔径 1.5mm。				
12	敲打石	213.0	74.0	66.0	2000.0	安山岩。		No.1		
13	凹石	99.0	77.0	46.0	143.0	軽石。		No.2		
14	凹石	121.0	81.0	65.0	250.0	軽石。		No.3		

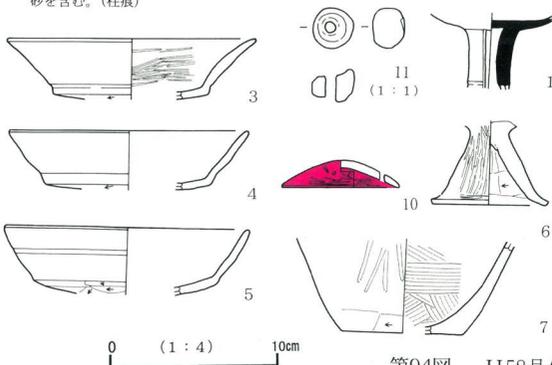
第 63 表 INP X H 67 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整				色 調	胎 土	残 存 ・ 備 考	出土位置
1	土師器 杯	(14.4) (10.5) (3.9)	内 外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ→底部手持ヘラケズリ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。 まれに 2mm 大砂粒含む。	口縁 1/8 回転実測			
2	土師器 甕	(4.2) (1.8) 孔 (0.6)	内 外	ナデ ヘラナデ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/3 回転実測			
3	弥生? 台付甕	(8.4) (4.5)	内 外	脚部ヘラケズリ ヘラナデ ミガキ→下端ヘラナデ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石含む。	底部 3/8 回転実測			
4	土師器 甕	(17.0) -	内 外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	内 5YR6/6 (橙) 外 7.5YR3/2 (黒褐)	0.5mm 大石英・長石粒含む。	口縁 1/8 回転実測			



H58 (W H3) 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミス、炭化物粒子を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、パミス多く、炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミス多く、炭化物粒子を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、パミス多く、炭化物粒子を含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
4層より砂を多く含む。
6. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂を少量含む。
7. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
6層より砂を多く含む。
8. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂、パミス多い。(柱痕)
9. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂を含む。(柱痕)
10. 褐色土層 (10YR4/6)  
10YR2/2 土ブロック混じる。  
北側は粘土を含む。(貼床)
11. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂を含む。
12. 褐色土層 (10YR4/4)  
暗褐色・褐色土ブロック混在。  
縮まり強い。(貼床)
13. 暗褐色土層 (10YR4/3)  
暗褐色土、褐色土ブロック混在。
14. 褐色土層 (10YR4/6)  
ロームブロック主体。
15. 黄褐色土層 (10YR5/6)  
砂主体。



第94図 H58号住居址



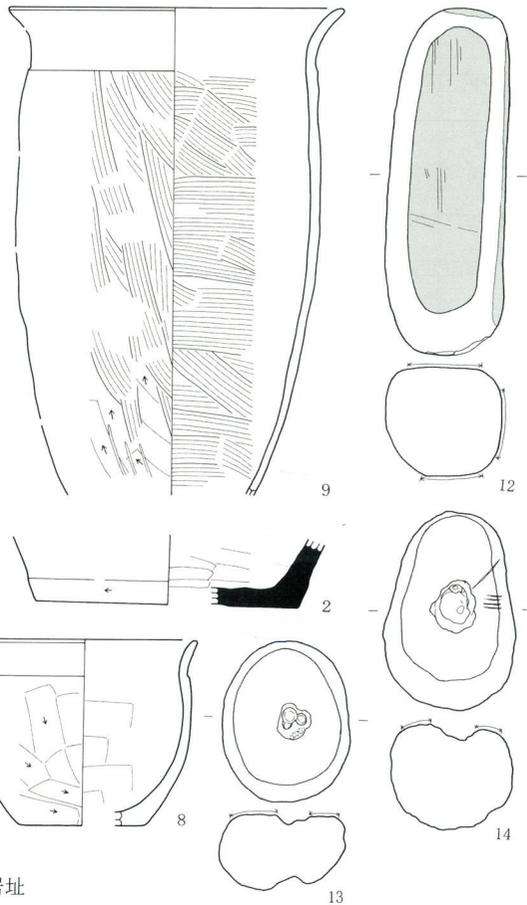
完掘 (東より)



遺物出土状況 (西より)

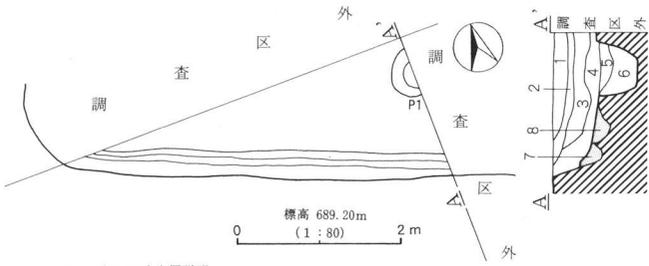


礫出土状況 (西より)



第64表 INP X H75号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整				色調		胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 甕	(25.0) (6.4)	内口縁ヨコナデ 外口縁ヨコナデ	体部ヘラナデ 体部ヘラケズリ		内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)		細石英・細長石粒子含む。 0.5mm 大の粒子も含む。	口縁 1/6 回転実測		
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	径	備考				出土位置	
2	楔切石器	27.8	54.8	7.1	10.2	砂岩。対部横方向磨耗痕、磨耗面が器体中央深く入る。					

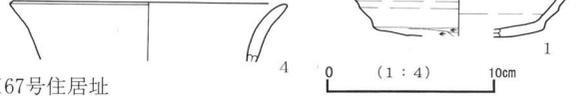
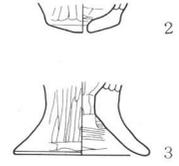


H 6 7 (W H13) 土層説明

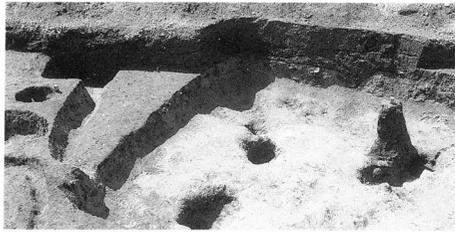
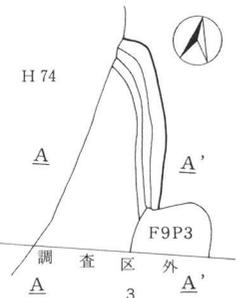
1. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂、パミスをやや多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミスを少量含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、パミスを多く含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂、パミスを多く含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、パミス、炭化物を含む。
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂、パミスを含む。
7. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂主体。
8. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。



完掘 (東より)



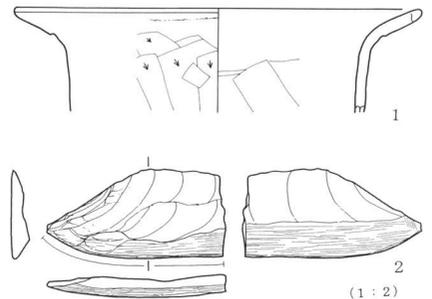
第95図 H67号住居址



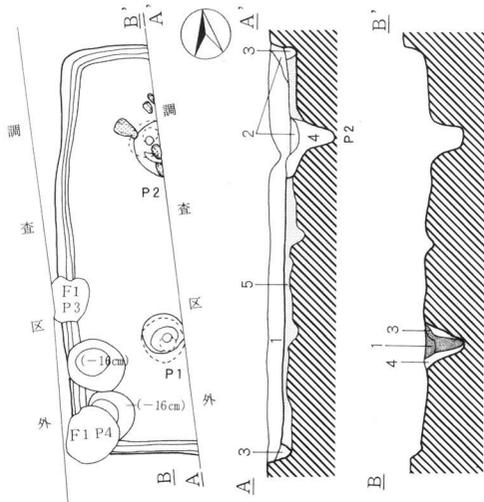
完掘 (北より)

H 7 5 (W H21) 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、小石、炭化物粒子を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂ブロックを含む。(貼床)



第96図 H75号住居址

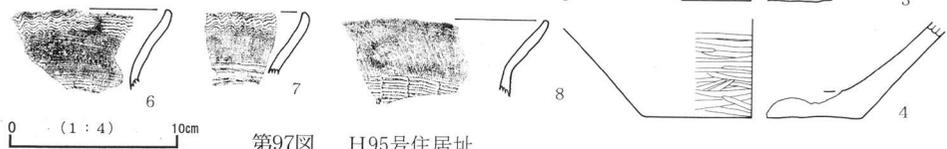
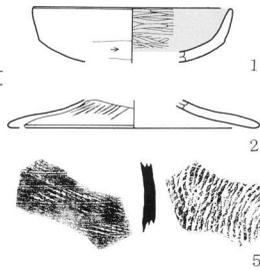


H 9 5 (S H3) 土層説明

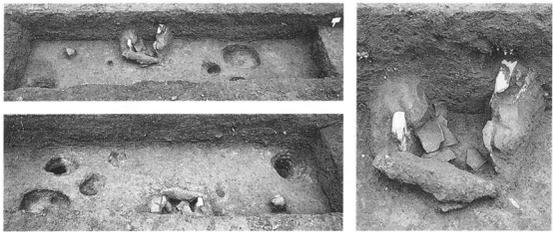
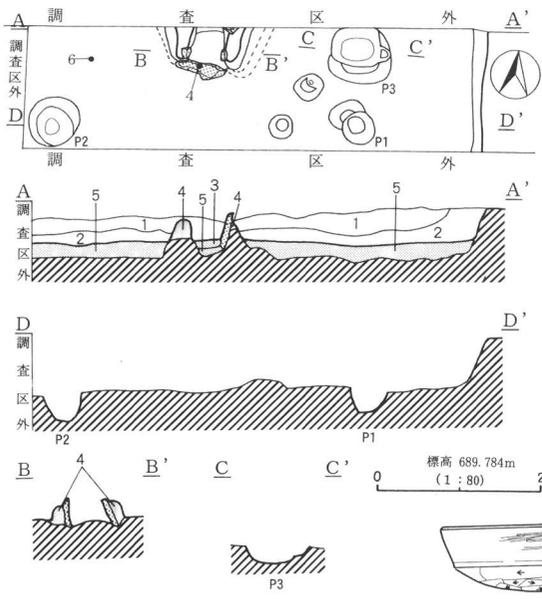
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、小礫を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
砂、小礫を含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
砂、小礫を多く含む。(柱痕と周溝)
4. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫を多量に含む。
5. 褐色土層 (10YR4/4)  
砂、小礫を多量に含む。(堀方)



完掘 (南・西より)

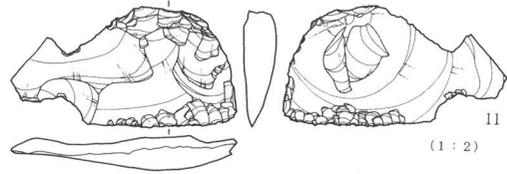


第97図 H95号住居址

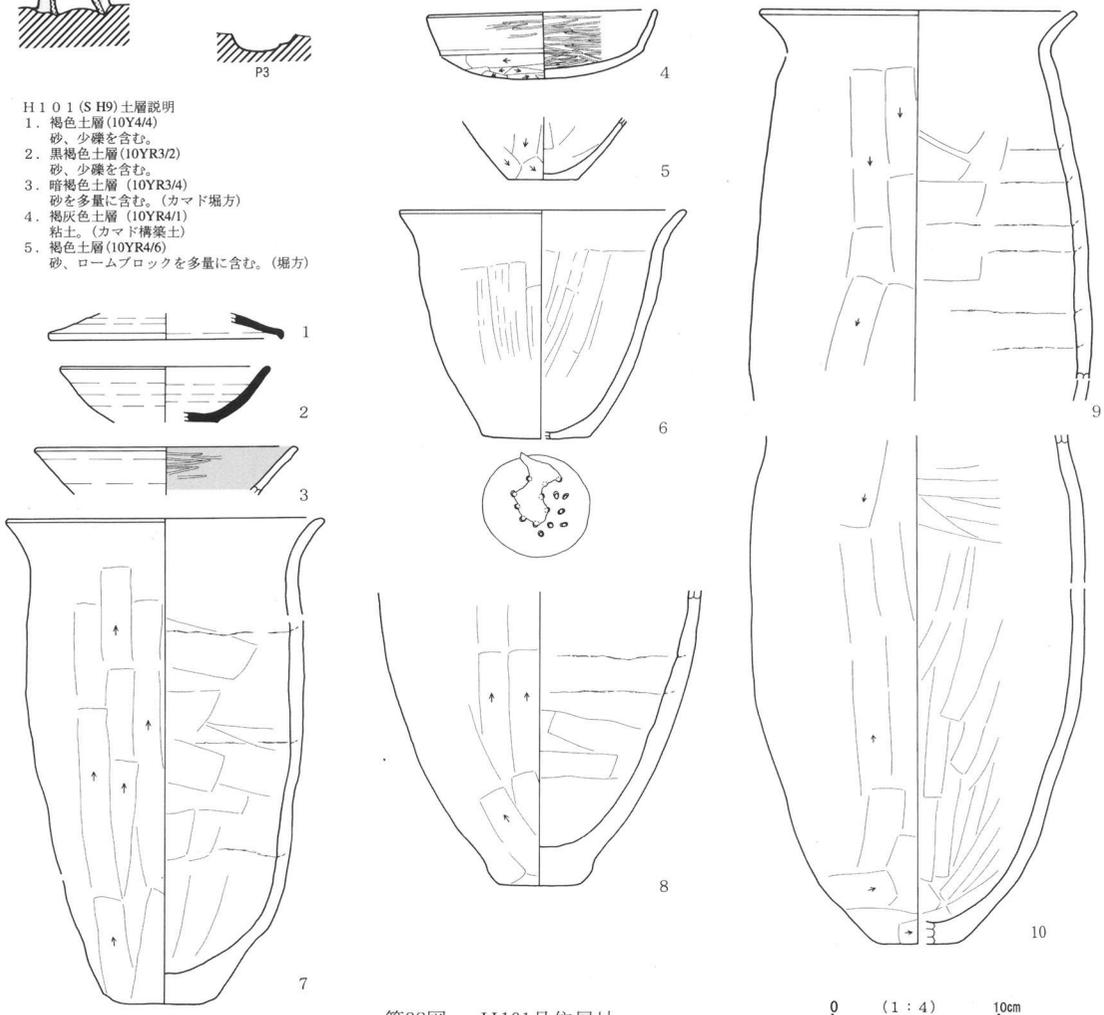


完掘 (南より・北より)

カマド (南より)



- H101 (S H9) 土層説明
1. 褐色土層 (10Y4/4)  
砂、少礫を含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
砂、少礫を含む。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
砂を多量に含む。(カマド堀方)
  4. 褐灰色土層 (10YR4/1)  
粘土。(カマド構築土)
  5. 褐色土層 (10YR4/6)  
砂、ロームブロックを多量に含む。(堀方)



第98図 H101号住居址

0 (1:4) 10cm

第 65 表 INP X H 95 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整	色 調	胎 土	残 存 ・ 備 考	出土位置
1	土師器 杯	(12.2) (11.3) (3.3)	内 ミガキ 黒色処理 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR6/6 (橙)	細長石多く、細石英粒子含む。 1・3mm 大赤色粒子含む。	口縁 1/12 回転実測	
2	土師器 高杯	(15.3) (1.7)	内 脚部ナデ 外 ナデ→暗文	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。 1・3mm 大赤色粒子含む。	底部 1/8 回転実測	
3	弥生 甕	(10.0) (6.8)	内 ナデ 外 ナデ	内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	0.5mm 大細石英・細長石・赤色粒子含む。	底部 1/2 回転実測	堀方
4	弥生 壺	(13.4) (6.0)	内 ナデ 外 ミガキ	内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	0.5mm 大細石英・細長石・赤色粒子含む。	底部 1/8 回転実測	P.3

第 66 表 INP X H 96 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整	色 調	胎 土	残 存 ・ 備 考	出土位置
1	土師器 杯	(15.2) (12.1) 4.1	内 ミガキ 黒色処理 外 口縁ナデ→底部手持ヘラケズリ→ミガキ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英、～1mm 大長石粒子含む。	口縁 1/12 回転実測	
2	土師器 杯	(13.3) (10.4) (4.2)	内 ミガキ 外 口縁ナデ→底部手持ヘラケズリ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR4/1 (褐灰)	細石英、1mm 大長石粒子含む。 1～3mm 大赤色粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	
3	土師器 杯	12.8 9.1 4.0	内 口縁ヨコナデ ナデ 外 口縁ナデ→底部手持ヘラケズリ ミガキ	内 7.5YR6/8 (橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細長石 1mm 大石英粒子含む。	ほぼ完形 完全実測	No.1
4	土師器 高杯	(17.0) (4.9)	内 ナデ 暗文 外 ナデ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	0.5mm 大石英・赤色粒子、 細長石粒子多く含む。	口縁 1/8 回転実測	
5	土師器 瓶	(8.8) (7.2)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 10YR5/3 (にぶい黄褐) 外 10YR6/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子、1mm 大 赤色粒子含む。	底部 1/8 回転実測	
6	土師器 甕	(17.6) (20.0)	内 ヘラナデ ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子、1～3mm 大 赤色粒子含む。	胴部 1/1 完全実測	No.4
7	土師器 甕	5.0 (2.6)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5YR4/2 (灰赤) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子、1～3mm 大 赤色粒子含む。	底部 7/8 完全実測	カマド周辺
8	土師器 甕	6.0 (4.6)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子、1～3mm 大 赤色粒子含む。	底部 3/4 完全実測	
9	土師器 甕	(24.4) (8.5)	内 ミガキ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5YR6/8 (橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子、1mm 大 赤色粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	
10	弥生 高杯	-	内 脚部ナデ ヘラナデ (柀目) 外 ミガキ 赤色塗彩	脚 10YR4/2 (灰黄褐) 外 7.5YR4/6 (褐)	細石英・細長石粒子、2～3mm 大 赤色粒子含む。	脚部 完全実測	
番号	種 類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備 考	出土位置
14	台石	265.0	253.0	50.0	6000.0	安山岩	No.2
15	スリ石	127.0	108.0	78.0	1400.0	安山岩	No.3

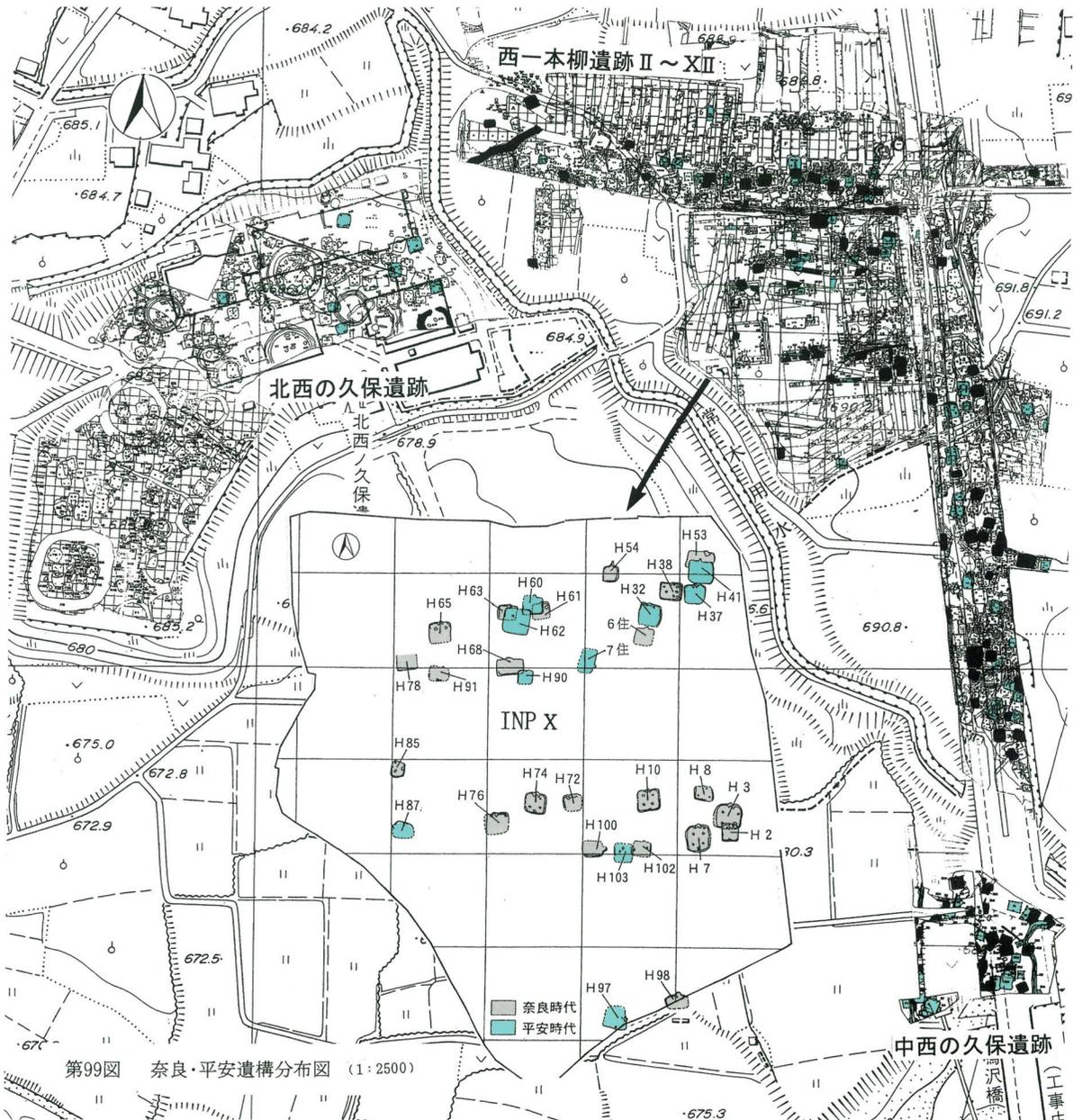
第 67 表 INP X H 101 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整	色 調	胎 土	残 存 ・ 備 考	出土位置
1	須恵器 蓋	(14.0) (1.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR6/1 (灰) 外 5YR6/1 (灰)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/7 回転実測 混入品 火だすき	
2	須恵器 杯	(12.8) (6.4) (3.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 5Y7/2 (灰白) 外 5Y7/2 (灰白)	細長石・細石英粒子含む。 1・3mm 大砂粒含む。	1/6 回転実測 混入品 火だすき	
3	土師器 碗	(16.0) (2.9)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石粒子 0.5mm 大赤色粒子 含む。	口縁 1/6 混入品 回転実測	
4	土師器 杯	(14.1) (12.4) 4.1	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ→ミガキ 底部ヘラケズリ	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子、1mm 大 赤色粒子含む。	口縁 1/2 底部完形 完全実測	No.2
5	土師器 甕	(4.2) (3.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	0.5mm 大長石、赤色粒子、細石英 粒子含む。	底部 1/3 回転実測 混入品	
6	土師器 甕	17.5 6.5 14.0	内 ヘラナデ (柀目) 口縁ヨコナデ 外 ヘラナデ (柀目) 口縁ヨコナデ	内 7.5YR5/4 (にぶい褐) 外 10YR6/4 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子、1mm 大 砂粒、赤色粒子含む。	底部僅かに欠損 焼成前穿孔多孔 完全実測	No.1
7	土師器 甕	(19.4) (6.8) (29.8)	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 ヘラケズリ 口縁ヨコナデ	内 2.5YR5/6 (明褐) 外 5YR6/6 (橙)	細石英 1mm 大長石粒子、赤色粒子 多く含む。	2/3 回転実測	カマド
8	土師器 甕	4.9 (18.0)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5YR4/6 (赤褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子、3～5mm 大 赤色粒子含む。	体部 1/3 底部完形 回転実測	床
9	土師器 甕	(19.4) (24.0)	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 ヘラケズリ 口縁ヨコナデ	内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子、1～3mm 大 赤色粒子少し含む。	口縁～体部 3/4 完全実測	カマド
10	土師器 甕	(5.2) (31.2)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子、1～3mm 大 赤色粒子含む。	体部～底部 1/3 回転実測	カマド
番号	種 類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備 考	出土位置
11	削器	36.0	69.0	10.0	18.9	チャート。刃部縁辺整形加工押圧。	床

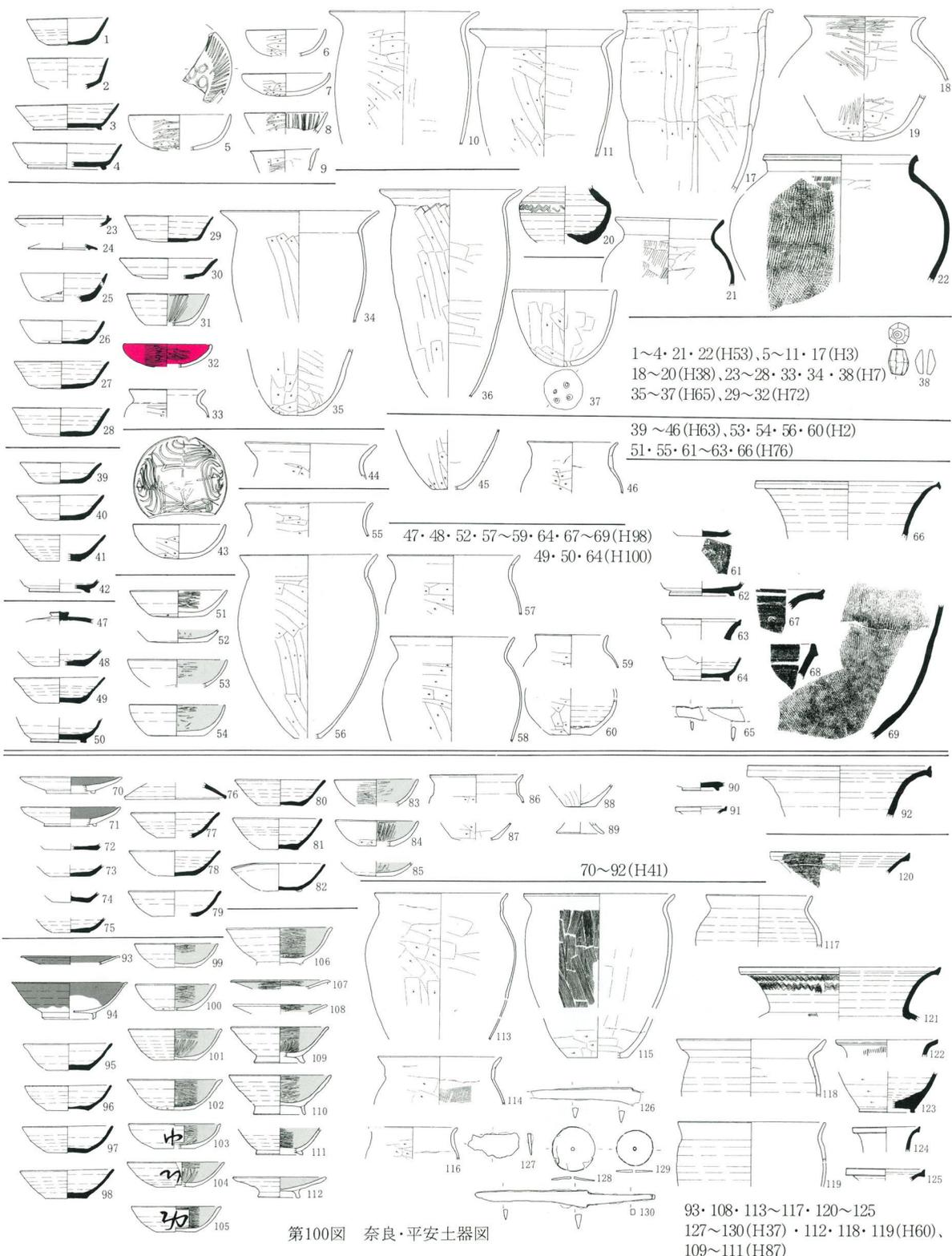
5. 奈良 H2・H3・H7・H8・H10・H38・H53・H54・H61・H63・H65  
 ・H68・H72・H74・H76・H78・H85・H91・H98・H100・H102

奈良時代の竪穴住居址は21棟を数える。H68は1の須恵器杯から奈良にしたが、白玉・長胴甕からは古墳時代の可能性もある。遺物の多い住居址を『西一本柳遺跡Ⅷ』の奈良時代の土器分類にしたがい4分類してみる。

- I. H3・H53・H38・H61・H74 土師器甕が武蔵甕で口縁が「く」形を呈し、強く外反または外傾。土師器杯に畿内系暗文が施される。須恵器杯は回転ヘラ切り離し・須恵器有台杯を伴う。口径の小さいものあり。
- II. H7・H65・H10・H72 土師器甕の武蔵甕口縁の外傾度がわずかに弱まる。須恵器杯類にシャープさが無い。
- III. H54・H63・H76・H85 土師器の武蔵甕の口縁の外傾度がさらに弱まる。土師器杯は黒色処理される。須恵器に回転糸切り離しが加わる。



第99図 奈良・平安遺構分布図 (1:2500)



第100图 奈良・平安土器图

#### IV. H2・H78・H98・H100

土師器甕にやや「コ」の字形を呈すものが含まれる。土師器杯は平底で、内面黒色処理される。  
須恵器杯は底部回転糸切りが主体となる。

#### 6. 平安 H32・H37・H41・H60・H62・H87・H90・H97・H103

平安時代の竪穴住居址は9棟である。H32は奈良末ないし平安の初頭であろうか。またH60→H62(新)、H41→H37に重複がある。H41, 17・18の灰釉陶器皿は厚手で角高台が付き、内面施釉されトチンの後が残る。黒笹14号窯式で9C中頃であろうか。H41を切るH37, 11の灰釉陶器碗は大型の深い碗形で、口縁端部が外反し、高台は三日月形を呈する。釉は垂れているためハケか漬け掛けかは明確ではない。またH37, 10の灰釉陶器皿は口縁端部の残存で高台は不明であるが薄手で、口縁端部が外反している。これらは東濃の光ヶ丘窯式にみられ、10C中葉以降に置かれている。H37は多数の須恵器・土師器が出土している。土師器甕はロクロ甕が主体を占め、杯・碗・皿は内面ミガキ処理され、数量が多く、墨書が多い。鉄製品の刀子や紡錘車が伴出する。H32・H60・H41の3棟以外の土器はほぼH37と同期の10c代で、7棟は同時期の住居址とみられる。

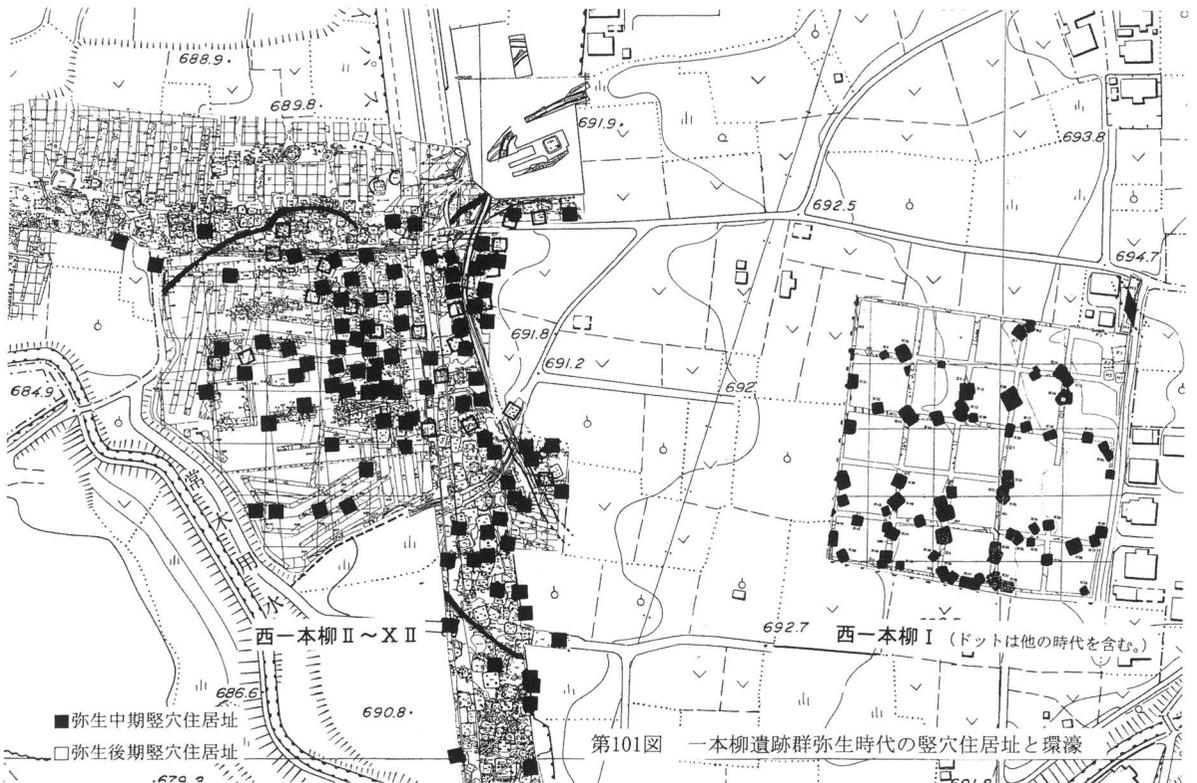
### 第2節 単独ピット

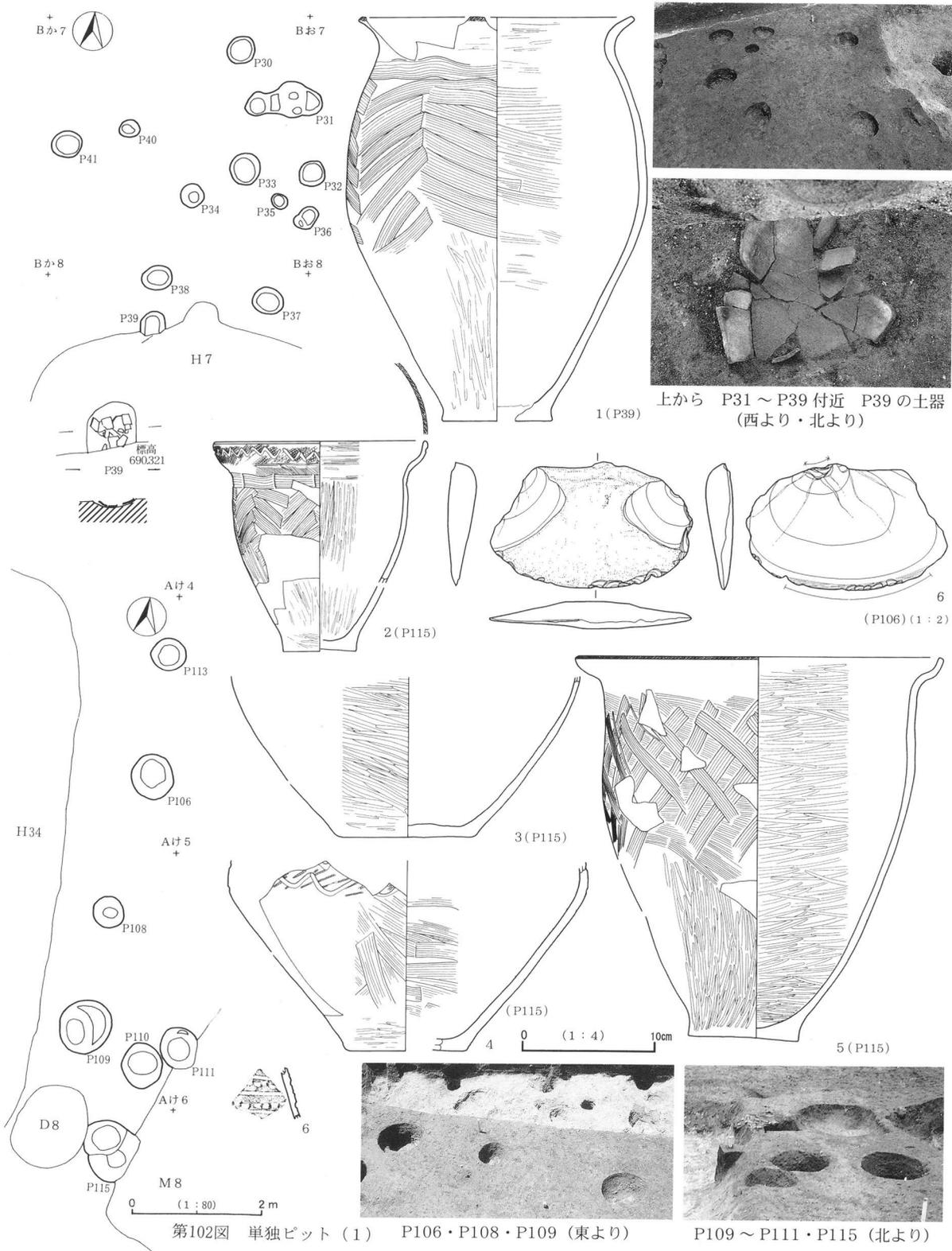
単独ピットは186個検出された。Bお8グリットのP39は浅いため住居址の範囲が捉えられなかったが、弥生時代中期の住居址の炉址であろうか。焼土は認められなかった。またAけ6グリットのP115は4個体の弥生土器がつつぶれて出土している。単独ピットは集中カ所があり、本遺跡の東地区では7カ所程確認される。また基礎部分という限られた調査であるため、掘立柱建物址になるものも多く含まれているであろう。

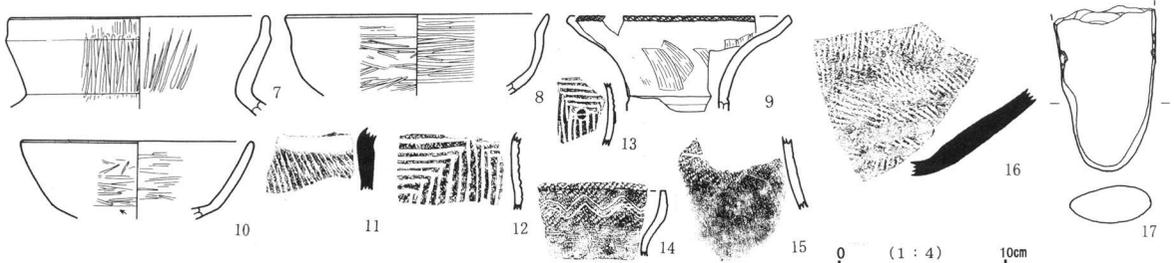
### 第3節 土坑

19基の土坑が検出され、出土遺物や新旧関係から時代の推測されるものは、10基である。

弥生中期以前-D19、弥生中期-D2・D3・D5・D6・D18、奈良・平安-D7・D13・D17、中世-D15  
D9は明確な遺物はないが井戸址であろうか、平安の住居址を切っている溝を切って構築されている。







第103図 単独ピット (2)

第68表 INP X E区単独ピット出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 甕	(21.0) (8.4) (31.2)	内 ナデ ヘラナデ (柾目) →ミガキ 外 口縁ナデ→ミガキ 口唇部縄文 頸部縞縞状文 体部縞縞状文 体下部ミガキ	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR5/6 (明褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/1 回転実測 底部は焼成後せん孔か?	P39
2	弥生 甕	(16.2) (5.6) (16.2)	内 ヘラナデ (柾目) →ミガキ 外 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描山形文 体部縞縞状文→ミガキ 頸部縞縞状文	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 3/8 回転実測	P115 上面 Ⅲ区検出
3	弥生 壺	- 10.6 (12.4)	内 表面剥落 外 ミガキ	内 5YR4/2 (灰褐) 外 5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/1 完全実測	P115 上面 V区1層下部
4	弥生 壺	- 8.6 (14.6)	内 ヘラナデ (柾目) 外 胴中位縄文→ヘラ描山形文 胴下半ヘラナデ (柾目) 底部付近ミガキ 底部ミガキ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部 3/4 完全実測	P115 上面 Ⅲ区検出
5	弥生 甕	28.5 8.5 29.5	内 ミガキ 外 ヘラナデ (柾目) →ミガキ 口唇部縄文 体部縞縞斜走文 (格子)	内 5YR3/1 (黒褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	2/3 完全実測	P115 上面 V区1・2層
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	径	備考	出土位置
6	掘切石器	49.0	77.7	10.8	42.3	ホルンフェルス。刃部横方向磨耗痕+刃こぼれ、器体上辺単発加工。	P106
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
7	土師器 甕	(16.0) (6.1)	内 ナデ→ミガキ 外 ミガキ	内 5YR5/2 (灰褐) 外 5YR4/4 (にぶい赤褐) 5YR2/1 (黒褐)	細石英・細長石粒子 1mm 大 砂粒含む。	口縁 1/4 回転実測	P11
8	土師器 杯	(16.1) (4.9)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ→体~底部手持ヘラケズリ →全体ミガキ	内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 5YR6/6 (橙)	口縁 1/8 回転実測	口縁 1/8 回転実測	P27
9	弥生 壺	(13.8) (5.8)	内 ミガキ 外 ヘラナデ (柾目) 口唇部縄文 頸部ヘラ描平行線文	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR7/6 (橙)	径 1mm 以下の長石・黒色粒子・ 赤色粒子・石英含む。	口縁 1/3	P71
10	土師器 杯	(14.2) (4.7)	内 ミガキ 外 底部ヘラケズリ 口縁ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/12 回転実測	P108
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	径	備考	出土位置
17	副物石	(10.1)	5.8	2.3	172.0	安山岩。	P96

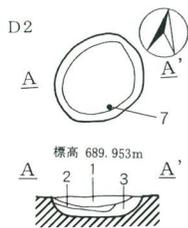
## 第4節 溝址

16本の溝址が検出された。出土遺物、重複関係などから時代の推測されるものは8本ある。

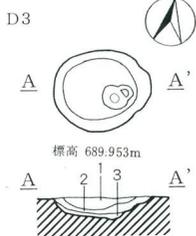
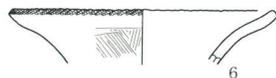
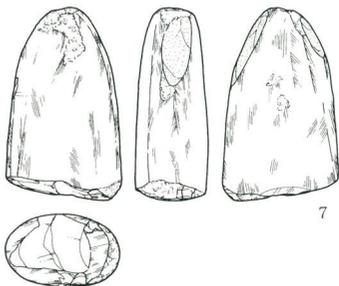
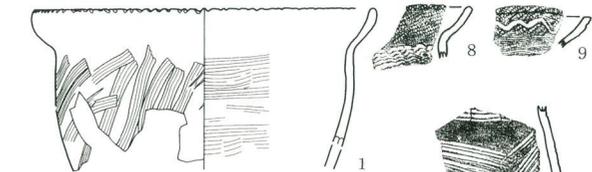
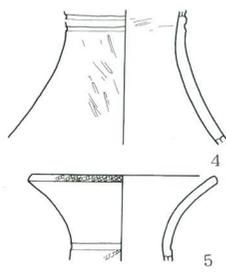
弥生中期—M5・M6・M12、古墳中期 M—8、奈良・平安—M1・M2・M3・M15

M12号溝址は西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅸで検出されていた弥生中期の土器を多量に出土するV字形の溝の延長であり、弥生中期の住居址を囲むように円形に巡っている。環濠の形態が少しではあるが明確になった。M12号溝址の出土遺物は壺の胴中位に施文され、口縁端部は水平に近く延びる。甕の口縁は強く短く外反しており、弥生時代中期後半の様相を持ち、H86の土器に近く、本遺跡では古相に次ぐ一群である。

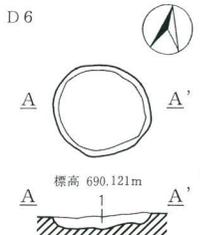
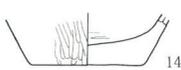
M8号溝址は古墳中期の土器を多量に出土する溝で、本遺跡の北Aえ1から始まり、Eい9まで南北方向に81m 検出された。幅最大3.6m深さ最大107cmを測り、南に低くなっている。出土遺物は土師器の小型丸底壺、長脚の高杯、有段口縁の壺、鉢、小杯、甕がある。剣形の石製模造品は稜をもつものである。また混入品として縄文後期浅鉢や弥生中後期の土器と磨製石鏃・打製石鏃を出土している。本調査の古墳中期前半 H64・H9の住居址と同時期の土器群である。また西隣の北西の久保遺跡の古墳中期前半の住居址に近い時期である。



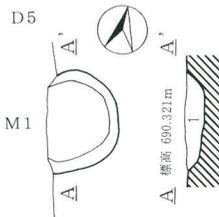
D2 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
 砂、小石を含む。  
 2. 炭化物層  
 3. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
 砂、小石を含む。



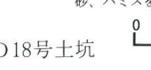
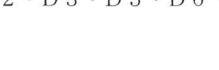
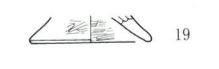
D3 土層説明  
 1. 黒色土層 (10YR1.7/1)  
 砂、小石を含む。  
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
 砂、小石を多く含む。  
 3. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
 砂、小石を多く含む。



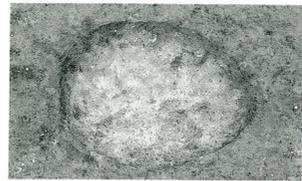
D6 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
 砂、小石を含む。



D5 土層説明  
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
 灰、炭化物ブロック混入、  
 焼土粒子含む。



D2 完掘 (南より)



D3 完掘 (南より)



D5 完掘 (南より)



D6 完掘 (南より)



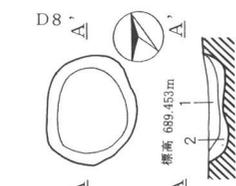
D18 完掘 (西より)

D18 (W D9) 土層説明  
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
 砂、バミスを含む。

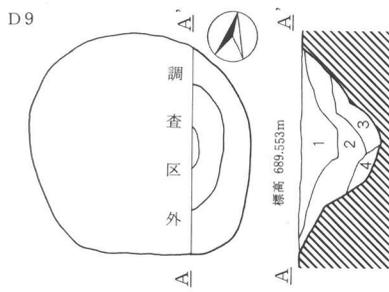
0 (1:80) 2m

0 (1:4) 10cm

第104図 D2・D3・D5・D6・D18号土坑



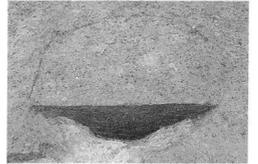
D8 土層説明  
 1. 暗褐色土層(10YR3/3)  
 砂を多く含む。  
 2. 褐色土層(10YR4/4)  
 砂を多量に含む。



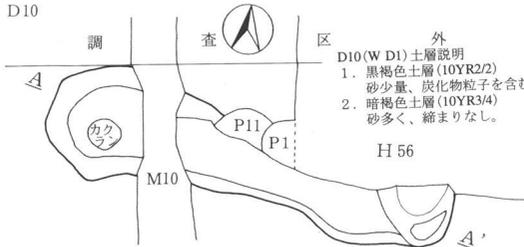
D9 土層説明  
 1. 黒褐色土層(10YR2/3)  
 砂、小石を多量に含む。  
 2. 黒褐色土層(10YR2/2)  
 砂を層状に含む。  
 3. 黒褐色土層(10YR2/2)  
 2層より黒色強い。  
 4. 褐色土層(10YR4/4)  
 砂主体。



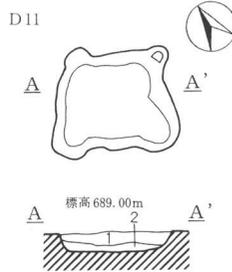
D8 完掘(東より)



D9 完掘(東より)



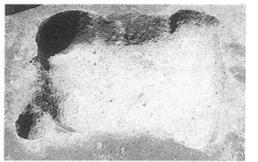
D10(W D1) 土層説明  
 1. 黒褐色土層(10YR2/2)  
 砂少量、炭化物粒子を含む。  
 2. 暗褐色土層(10YR3/4)  
 砂多く、縮まりなし。



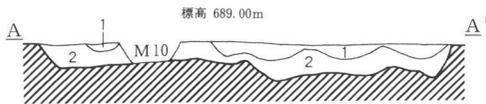
D11(W D2) 土層説明  
 1. 暗褐色土層(10YR3/3)  
 砂、パミス多く、炭化物粒子を含む。  
 2. 暗褐色土層(10YR3/4)  
 砂主体、暗褐色土を含む。



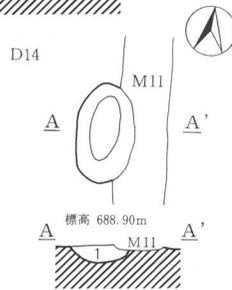
D10 完掘(西より)



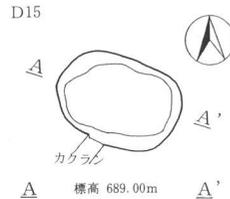
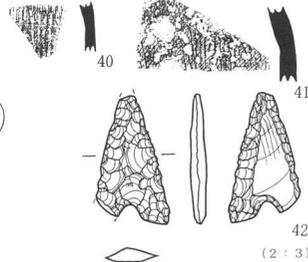
D11 完掘(北より)



D12(W D3) 土層説明  
 1. 黒褐色土層(10YR2/3)  
 砂、炭化物粒子を含む。



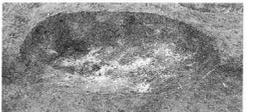
D14(W D5) 土層説明  
 1. 黒褐色土層(10YR2/3)  
 砂、パミスを含む。



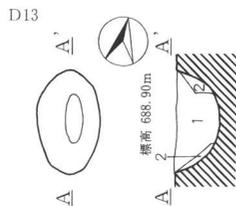
D15(W D6) 土層説明  
 1. 黒褐色土層(10YR2/3)  
 砂、パミスを含む。  
 2. 黒褐色土層(10YR2/2)  
 砂を多く含む。  
 3. 黒褐色土層(10YR2/2)  
 砂、パミスを含む。



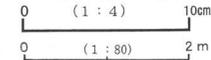
D13 完掘(東より)



D14 完掘(東より)



D13(W D4) 土層説明  
 1. 暗褐色土層(10YR3/4)  
 砂多く、礫10cm大を少量含む。  
 2. 褐色土層(10YR4/4)  
 砂主体、暗褐色土を含む。



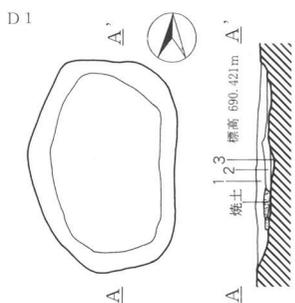
第105図 D8~D15号土坑



D15 完掘(西より)

第69表 INP X D2・D3・D5・D6・D11・D13・D15号土坑出土遺物一覧表

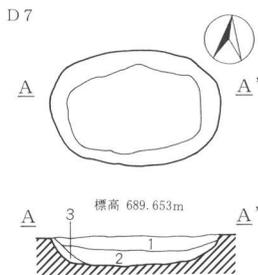
番号	器種	法量	成 形・調 整	色 調	胎 土	残 存・備 考	出土位置
1	弥生 甕	11.0 (9.9)	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ(柁目) 外 ナデ→口唇部刻み目 体部脚描斜走文	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/2 完全実測	D2
2	弥生 台付甕	5.5 (3.8)	内 杯部ナデ 脚部ナデ 外 ミガキ	内 7.5YR7/4 (橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部3/4 完全実測	D2
3	弥生 壺	(14.2) (5.0)	内 ヨコナデ→ミガキ 外 ヘラナデ→ミガキ赤色顔料付着 口唇部縄文	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3 回転実測	D2
4	弥生 壺	-	内 体部ナデ→口縁部ミガキ 外 頭部ヘラ描平線文 ヘラナデ ミガキ	内 7.5YR4/2 (灰褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	首部1/1 完全実測	D2



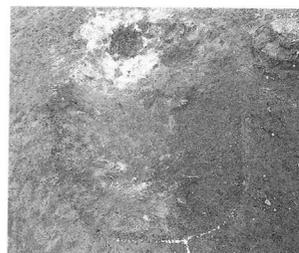
D 1 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 砂を含む。  
 2. 炭化物粒子を多量に含み、一部焼土あり。



D 4 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
 砂、小石を含む。  
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
 砂を多量に含む。



D 7 土層説明  
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
 小礫を含む。  
 2. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
 小礫を含む。  
 3. 褐色土層 (10YR4/4)  
 小礫、砂を多量に含む。



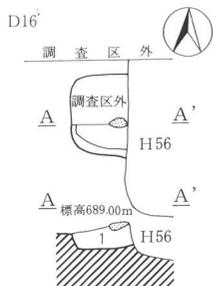
D1 完掘 (南より)



D4 完掘 (南より)

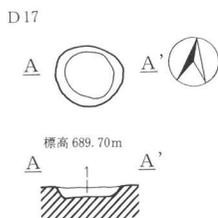


D7 完掘 (南より)

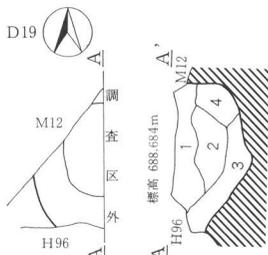
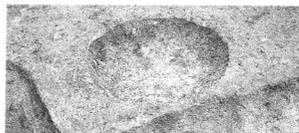


D16 (W D7) 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
 砂、パミスを含む。

D17 (W D8) 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 砂、小石を少量含む。



D17 完掘 (南より)



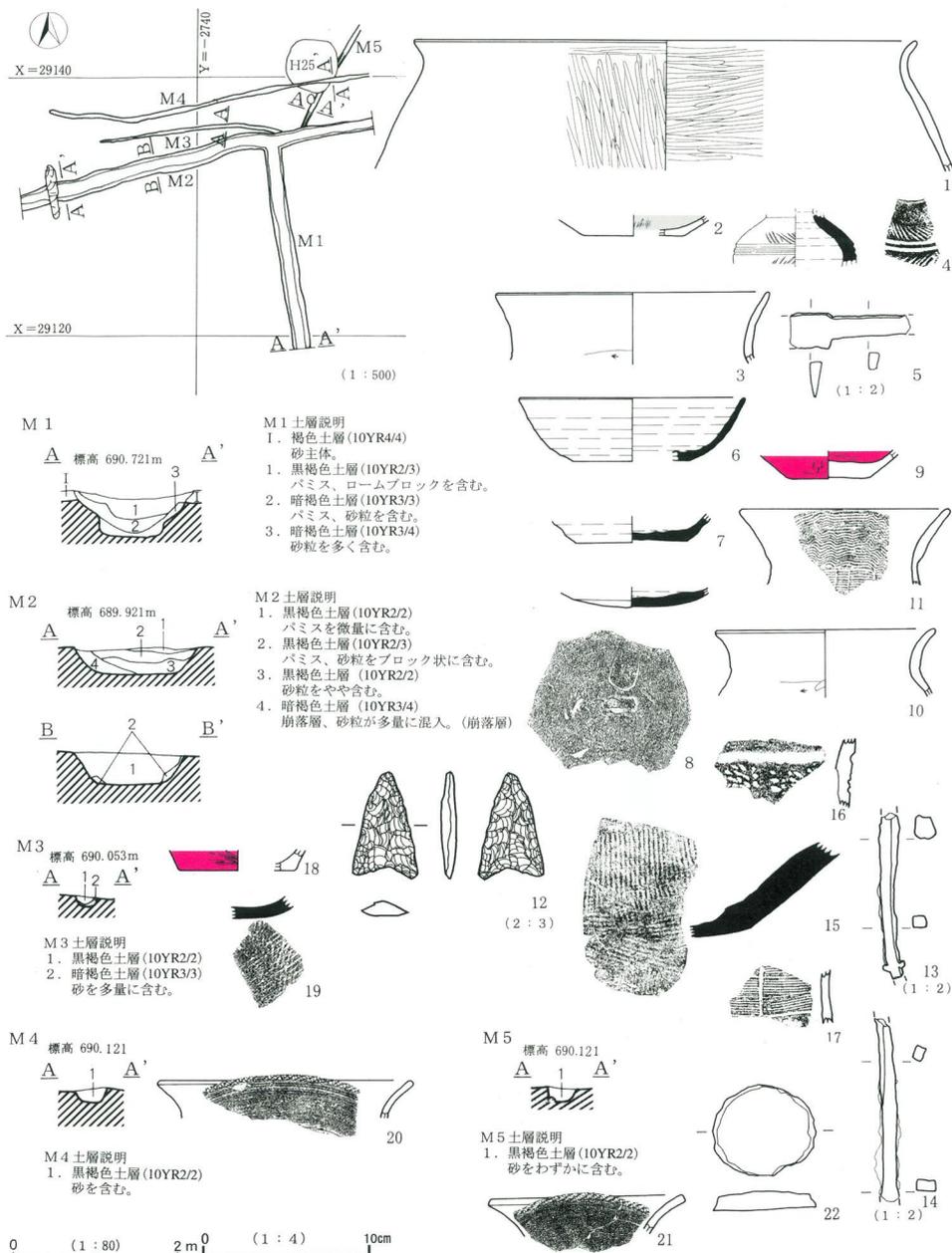
D19 (S D1) 土層説明  
 1. 褐色土層 (10YR4/4)  
 砂、小礫を含む。  
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
 砂、少礫を含む。  
 3. 褐色土層 (10YR4/6)  
 砂、小礫を多量に含む。  
 4. 黒褐色土層 (10YR3/2)  
 砂、小礫を多量に含む。



D19 完掘 (南より)

第106図 D 1・D 4・D 7・D16・D17・D19号土坑

番号	器種	法量	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	α	備考	出土位置
5	弥生 壺	(11.6)	-	内 ミガキ 外 ヘラナデ→ミガキ 口唇部縄文	内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR5/3 (にぶい黄)	610.0	変質輝緑岩。完形。器体研磨、破断面に磨り面。	D2 No.1
6	弥生 壺	(16.4)	(3.3)	内 ヨコナデ→ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) ナデ→口縁ヨコナデ→口唇部縄文	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)		細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/3 回転実測
7	石碇	119.0	71.0	43.0				D2 No.1
14	弥生 甕	(6.8)	(3.2)	内 ナデ ミガキ 外 ミガキ 底部ナデ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/2 (灰褐)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/3 回転実測
19	弥生 高杯	(7.4)	(1.6)	内 ヘラナデ (楕目) →ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測
20	弥生 甕	(9.0)	(1.9)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 10YR5/2 (灰黄褐) 外 7.5YR6/6 (橙)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測
21	弥生 甕	9.6	(2.4)	内 ミガキ 外 ヘラナデ (楕目) →ミガキ	内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR5/4 (にぶい黄)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/1 完全実測
22	弥生 壺	(10.6)	(3.9)	内 ナデ 外 ミガキ 底部ナデ	内 10YR3/1 (黒褐) 外 10YR5/4 (にぶい黄褐)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測
32	弥生 鉢	(16.4)	(2.5)	内 ミガキ 赤色陰彩 外 ミガキ 赤色陰彩	内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)		細長石・細石英粒子含む。	底部 1/16 回転実測
42	凹基礎	29.9	16.5	3.7	1.5		黒曜石。刃部縁辺整形加工押圧剥離。器体加工押圧剥離。	D11
43	土師器 杯	(7.0)	(1.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 10YR1.7/1 (黒) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)		細長石・細石英粒子含む。	残存・備考 D13
44	青磁 碗	-	-	-	-		緻密。 断 10YR6/1 (褐灰)	破片 断面実測



M1 完掘 (北より)



M1 セクション (北より)



M2 完掘 (東より)



M3 完掘 (東より)



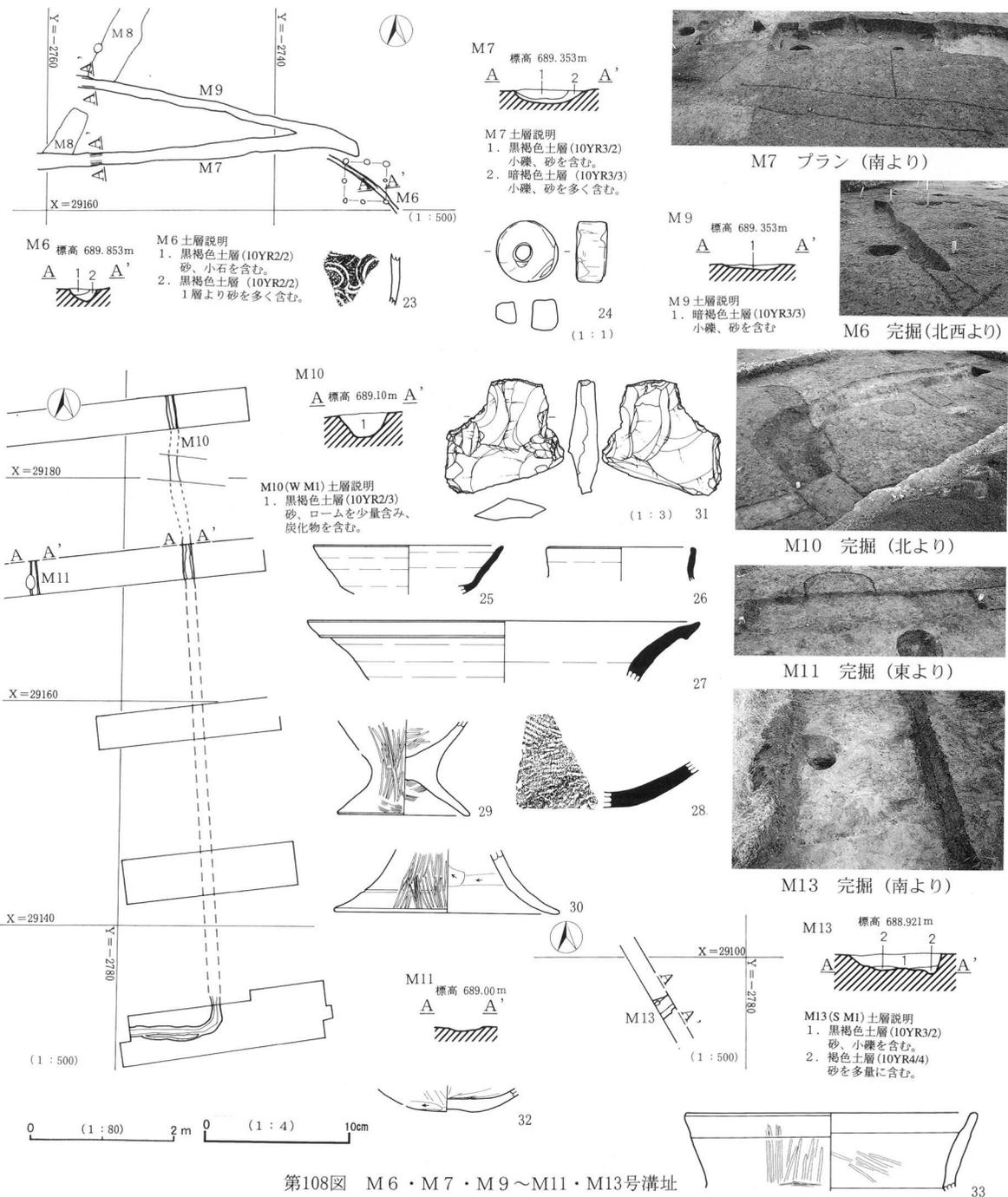
M5 完掘 (北より)

第107図 M1～M5号溝址

1～5(M1)、6～17(M2)、18・19(M3)  
20(M4)、21・22(M5)

第70表 INP X 1～7・9～16号溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生 甕	(30.8) (8.0)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR5/4 (にぶい褐) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒含む。	口縁1/8 回転実測	M1
2	土師器 杯	(6.0) (1.3)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデー底部回転糸切り	内 10YR17/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石粒子1mm 大砂粒含む。	底部1/6 回転実測	M1
3	土師器 甕	(16.8) (4.4)	内 口縁コナデ 外 口縁コナデー体部ヘラケズリ	内 7.5YR4/4 (褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測 武蔵豊	M1
4	須恵器 はそう	(3.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 肩部へラ扁平線文 上下に刺突文	内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	径1mm以下の長石・石英含む。	破片 肩部に自然継付着。	M1 検出

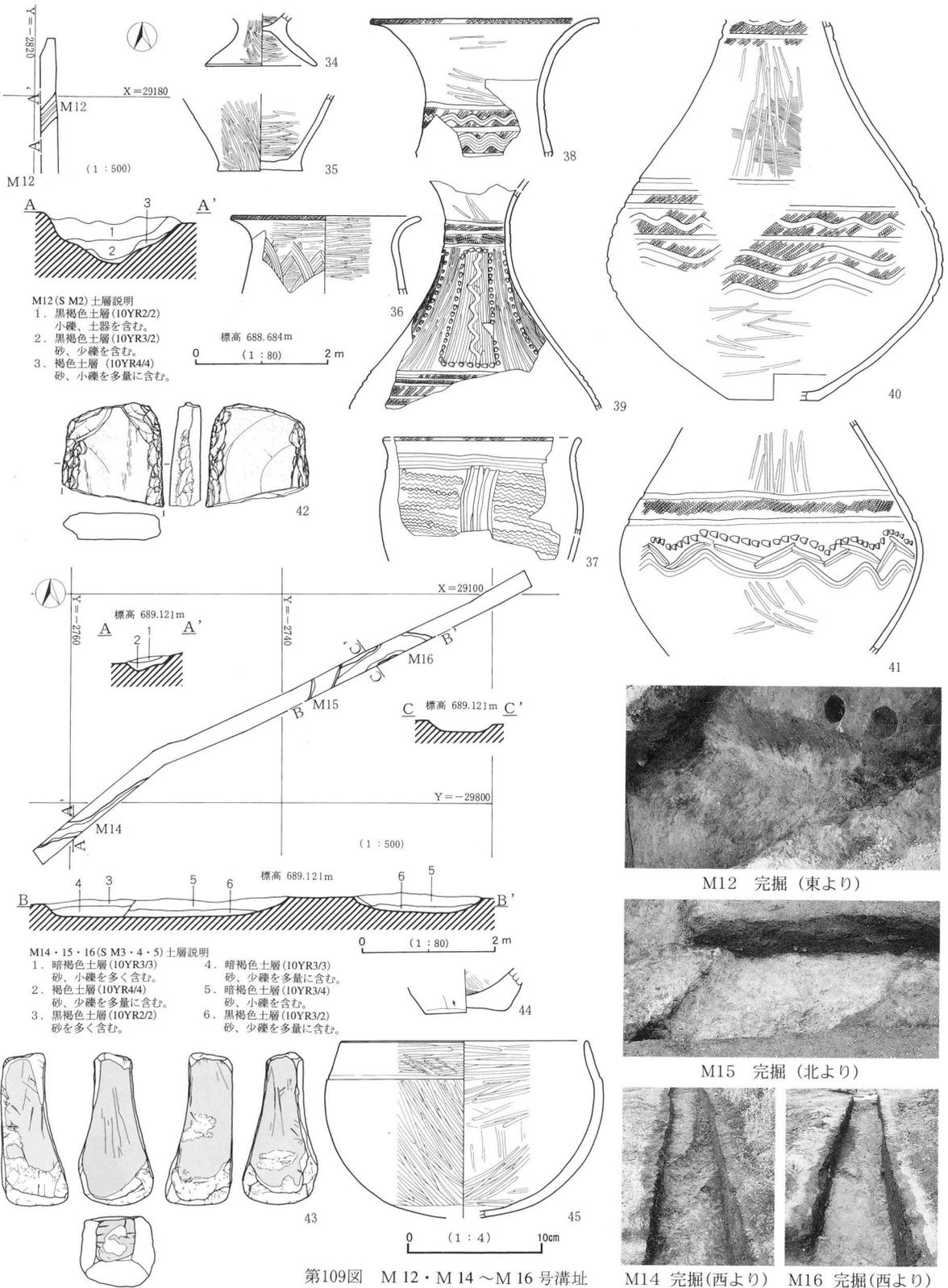


第70表 INP X 1～7・9～16号溝址出土遺物一覧表

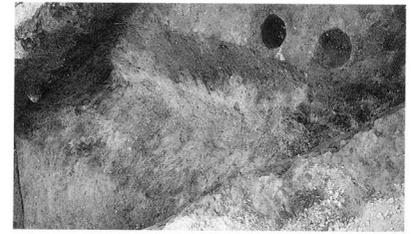
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置
5	刀子	37.0	10.0	3.0	2.9	鉄製品。	M1
6	須臾器 杯	(15.0) (7.6) (4.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転系切り			色調 内 2.5Y5/1 (黄灰) 外 2.5Y7/2 (灰黄)	M2
7	須臾器 杯	(7.4) (1.8)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部右回転系切り			色調 内 2.5Y7/2 (灰黄) 外 2.5Y7/2 (灰黄)	M2
8	須臾器 杯	7.9 (1.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り ナデ			色調 内 2.5Y7/1 (灰白) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙)	M2

備考欄詳細:  
 胎土: 細石英 0.5mm 大長石粒子含む。  
 残存・備考: 底部 1/3 回転実測 (M2); 底部 1/2 回転実測 火だすき内外 (M2); 底部 7/8 完全実測 ヘラ記号 (M2)

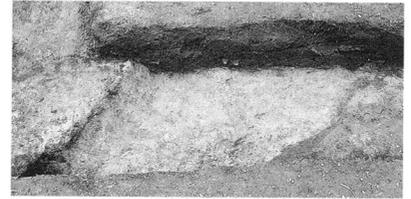
9	弥生鉢	(5.4) (1.9)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/8 (赤) 外 2.5YR5/6 (明赤褐) 底 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部 3/4 回転実測	M 2		
10	土師器 小型甕	(14.6) -	内 口縁ココナデ 外 口縁ココナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測 武蔵遺	M 2		
11	弥生甕	(13.0) -	内 ミガキ 外 口縁部櫛波状文 (単位 5 本) 頸部櫛波状文 (2 連止?)	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英含む。	口縁 1/7	M 2		
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置		
12	凹基石	24.9	15.0	3.6	1.1	黒曜石。刃部縁辺整形加工押圧剥離。器体加工押圧剥離。	M 2		
13	鉄線	(51.0)	5.0	6.0	3.9	鉄製品。	M 2		
14	鉄製軸	(56.0)	6.0	4.0	4.7	鉄製品。	M 2		
番号	器種	法量	成形・調整			色調	胎土	残存・備考	出土位置
18	弥生壺	(7.8) (1.4)	内 剥離 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 5YR5/8 (明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部 1/8 回転実測	M 3		
20	弥生甕	(16.9) -	内 ミガキ 外 ナデ→口唇部縄文 頸部櫛波状文?	内 5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	M 4 検出		
21	弥生壺	(13.0) -	内 ミガキ 外 口唇部縄文 口縁ミガキ	内 7.5YR5/4 (にぶい褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/6	M 5		
22	弥生土板	縦 6.0 横 6.8 厚 1.2	内 ナデ 外 ナデ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	ほぼ完存 二次利用	M 5 検出		
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置		
24	白玉	10.5	11.0	5.5	0.99	滑石製。孔径 3.0mm。	M 7 検出		
番号	器種	法量	成形・調整			色調	胎土	残存・備考	出土位置
25	須恵器 杯	(13.4) -	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙)	細石英・細長石、1～2mm 大 砂粒含む。	口縁 1/6 回転実測	M 10 トレンチ W 5 地点		
26	須恵器 短頸壺	(10.6) -	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 自然軸付着	内 N6/ (灰) 外 N3/ (暗灰)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/7 回転実測	M 10 W 5 地点		
27	須恵器 甕	(27.6) -	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 7.5YR5/1 (褐灰) 外 7.5YR5/2 (灰褐) 断 5YR5/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/8 回転実測	M 10 W 5 地点		
28	須恵器 甕	- (4.2)	内 ナデ 外 平行タタキ	内 5YR4/1 (褐灰) 外 5YR4/2 (灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	断面実測	M 10 W 5 地点		
29	弥生 台付甕	- 9.3 (6.7)	内 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ	内 胴 7.5YR6/4 (にぶい橙) 脚 5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	胴部 3/4 完全実測	M 10 トレンチ W 5 地点		
30	土師器 高杯	(15.8) (4.5)	内 ヘラケズリ→ナデ 外 ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	緻密。	胴部 1/6 回転実測	M 10 トレンチ W 5 地点		
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置		
31	二次加工剥片	61.0	62.0	15.0	48.7	安山岩。器体加工直接。	M 10 トレンチ W 5 地点		
番号	器種	法量	成形・調整			色調	胎土	残存・備考	出土位置
32	土師器 小型丸底 壺	- (1.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5YR6/8 (橙) 外 2.5YR5/3 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	完全実測	M 11 2 層		
33	土師器 壺	(20.6) -	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細石英～1mm 大長石粒子含む。	口縁 1/8 回転実測	M 13		
34	弥生 台付甕	- (8.4) (4.0)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 胴 7.5YR5/1 (褐灰) 脚 7.5YR5/6 (橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	底部 1/4 回転実測	M 12 上層		
35	弥生 甕	- 6.5 (5.9)	内 ミガキ 外 ミガキ 底部ミガキ	内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR3/1 (黒褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	M 12 上層		
36	弥生 甕	(14.4) -	内 ミガキ 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 櫛波斜走文 口唇部縄文	内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/3 回転実測	M 12		
37	弥生 甕	(15.2) -	内 ミガキ 外 口唇部縄文 頸部櫛波状文 胴上部 櫛波状文 櫛波垂下文	内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	M 12		
38	弥生 壺	(17.4) -	内 ミガキ 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 口唇部縄文 頸部縄文→ヘラ描横線文 ヘラ描波状文	内 7.5YR4/5 (褐灰) 外 7.5YR5/8 (にぶい褐)	細石英～5mm 大長石粒子含む。	口縁 1/12 回転実測	M 12		
39	土師器 壺	- (17.8)	内 ヘラナデ (榎目) 外 ヘラナデ (榎目) →ミガキ 頸部縄文→ ヘラ描平行横線文 胴上部懸垂文 胴中位縄文 ヘラ描平行線文	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁 2/3 回転実測	M 12 上層		
40	弥生 壺	- (6.8) (29.0)	内 ナデ 外 ミガキ 胴部・胴中位縄文→ヘラ描横線文→ ヘラ描波状文	内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR7/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	胴部～底部 1/4 回転実測	M 12 1 層 上層		
41	弥生 壺	- (17.8)	内 ナデ 外 ミガキ 胴中位縄文 ヘラ描横線文 ヘラによる列点文 ヘラ描山形文 ヘラ描波状文	内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細長石・細石英粒子含む。	体部 1/2 回転実測	M 12		
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考	出土位置		
42	打製石斧	79.0	77.0	21.0	209.0	安山岩。刃部使用痕欠損。刃部縁辺整形加工直接。器体加工直接。大形の打製石斧基部断片。	M 12		
43	砥石	11.6	5.7	5.3	352.0	凝灰岩。	M 15		
番号	器種	法量	成形・調整			色調	胎土	残存・備考	出土位置
44	土師器 甕	- (6.2) (3.2)	内 ヘラナデ (榎目) 外 ヘラケズリ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子、1～3mm 大赤色粒子含む。	底部 1/2 回転実測 底部木炭痕→拓本	M 16		
45	土師器 鉢	(18.6) (11.0) (13.4)	内 ミガキ→黒色処理? 外 ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	M 16		



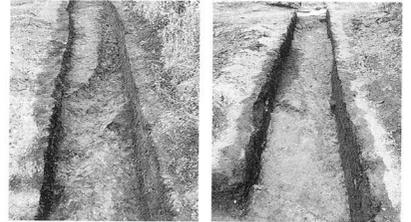
第109図 M12・M14～M16号溝址



M12 完掘(東より)

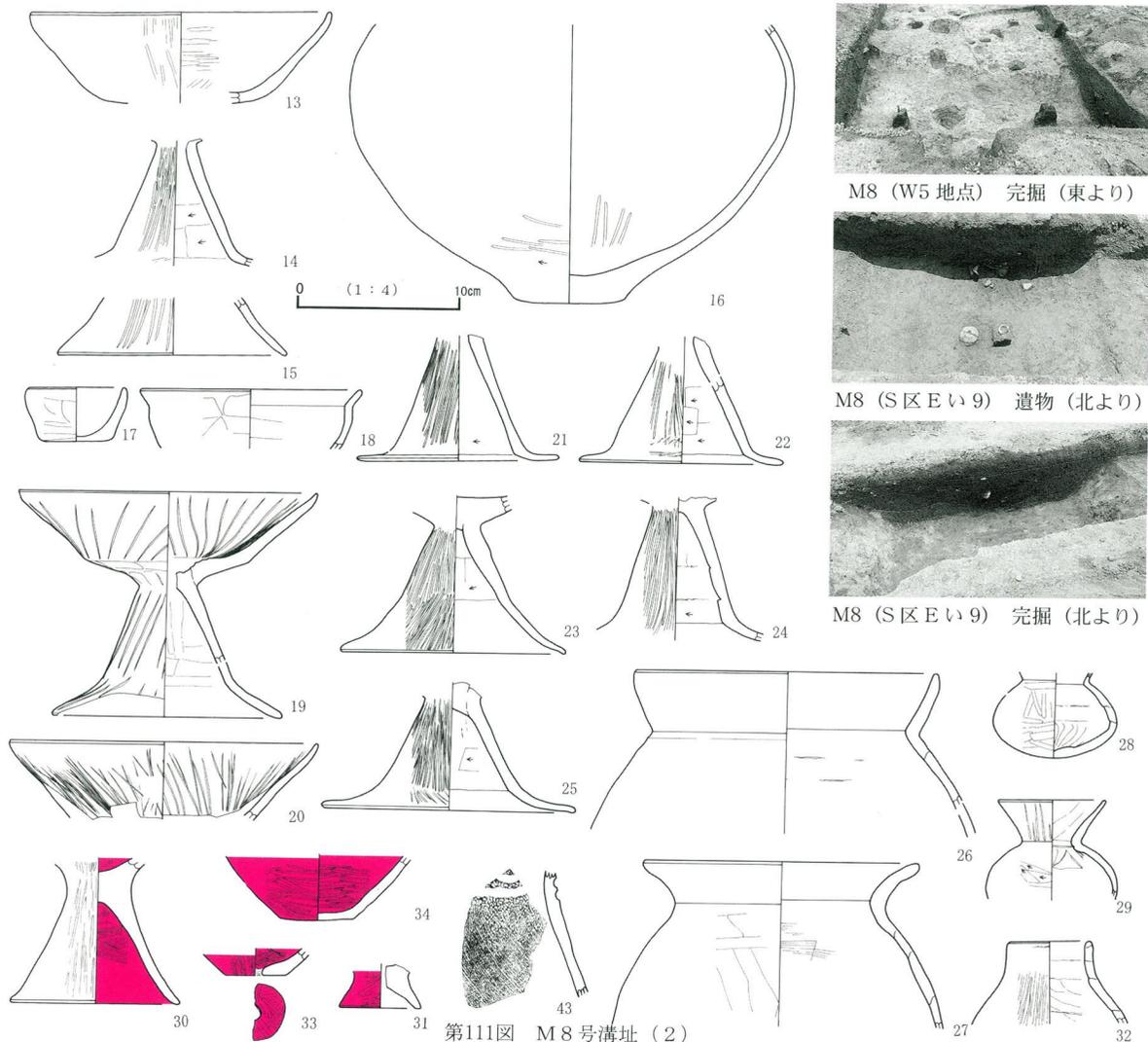


M15 完掘(北より)



M14 完掘(西より) M16 完掘(西より)





第111図 M8号溝址(2)

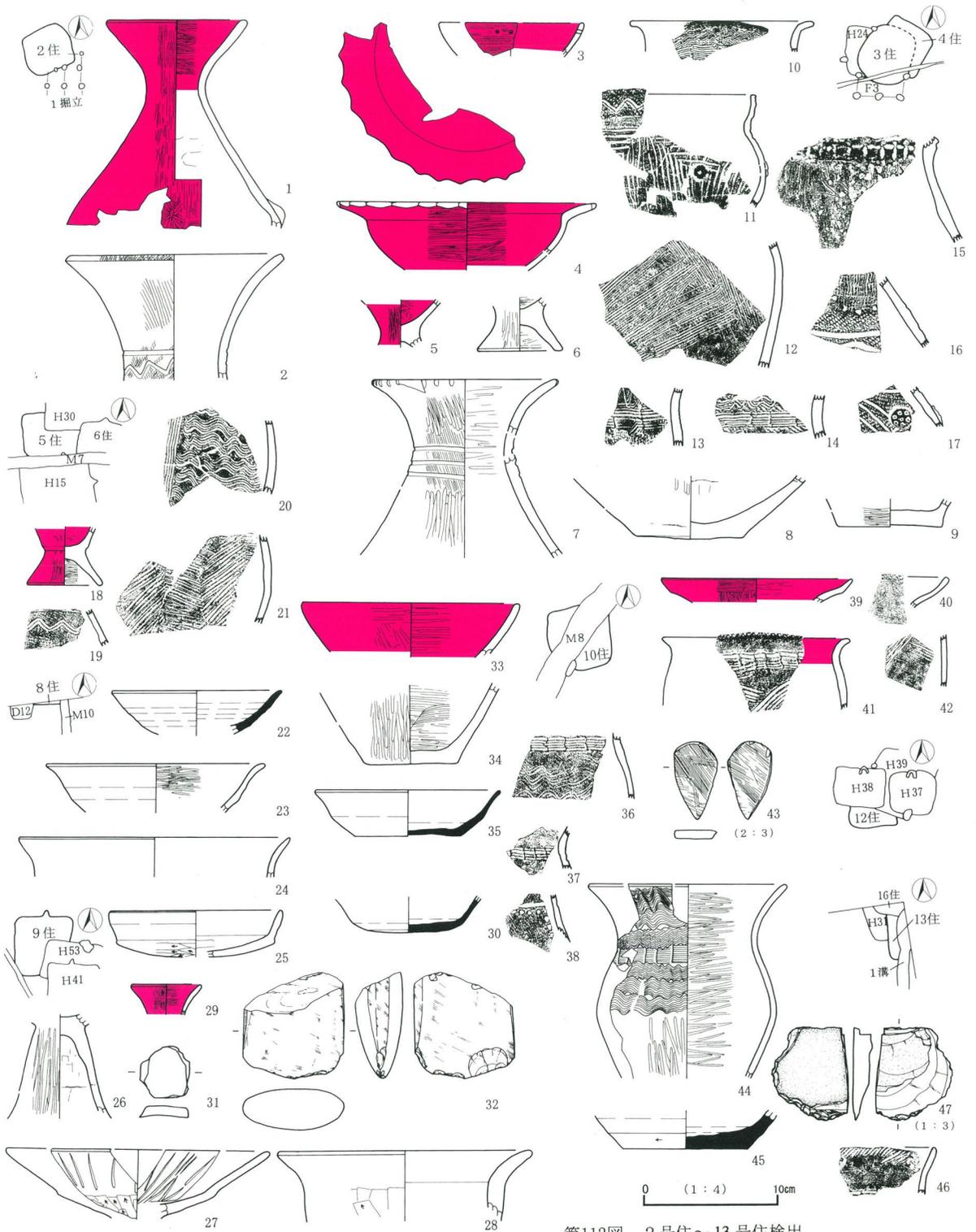
第71表 INP X 8号溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 鉢	(10.2) (7.3) (10.0)	内 口縁ヨコナデ→暗文 体部ナデ 外 体底部ヘラケズリ 体部上半ヨコナデ 口縁ヨコナデ→暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子、1mm・2mm 赤色粒子含む	口縁 1/2 回転実測	IV区 1層
2	土師器 鉢	-	内 ナデ 外 体部上半ヨコナデ→下半ヘラケズリ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm 大細石英・細長石粒子 含む。1mm 大砂粒含む。	体部 1/3 回転実測	V区 1層
3	土師器 小型丸底 壺	11.2 - (13.2)	内 口縁ヨコナデ→暗文 体部ナデ 外 体部下半ヘラケズリ 口縁ヨコナデ→暗文 脚上部ミガキ	内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	0.5mm 大石英・長石粒子多く 含む。	口縁 1/3 完全実測	III区
4	土師器 小型丸底 壺	11.8 - (14.2)	内 体部ナデ 口縁ヨコナデ→暗文 外 体底部ヘラケズリ→ 口縁へ体上部ヨコナデ 暗文	内 5YR6/8 (橙) 外 5YR6/8 (橙)	0.5mm 大の石英・長石粒子 1mm 大砂粒含む。	口縁完存 完全実測	No.2
5	土師器 壺	18.9 - (17.8)	内 口縁ミガキ 体部ヘラナデ (椀目) 外 口縁ナデ→ミガキ 体部ヘラケズリ→ヘラナデ ミガキ	内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR6/2 (灰褐)	0.5mm 大細石英・細長石粒子 含む。1mm 大砂粒含む。	口縁完存 完全実測	IV区 1層 V区 1層
6	土師器 高杯	17.3 14.0 14.4	内 杯部ヘラナデ (椀目) ナデ→口縁部ヨコナデ みこみ部ミガキ 杯部ヘラナデ (椀目) →口縁部ヨコナデ 杯底部ヘラケズリ 脚部ナデ→ミガキ 杯部ヨコナデ→暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子 1mm 大 砂粒含む。	完形 完全実測	V区 1層 No.3
7	土師器 高杯	17.9 14.6 15.2	内 杯部ナデ→暗文 脚部ヘラケズリ ナデ 裾部ヨコナデ 外 杯部ナデ、口縁ヨコナデ→暗文 杯底部ヘラケズリ 脚柱部ナデ 裾部ヨコナデ→暗文	内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子 1mm 大 砂粒含む。	底部 3/4 完全実測	V区 1層 No.2

8	土師器 高杯	17.8 11.2 14.5	内 杯部ナデ→暗文 脚部ヘラケズリ ナデ 裾部ヨコナデ 外 杯部口縁ヨコナデ→杯底部ヘラケズリ 脚部ヘラナデ 裾部ヨコナデ →わずかに暗文	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子1mm大 砂粒含む。	口縁1/3 完全実測、	I区 検出	
9	土師器 特殊高杯	22.4 16.6 15.6	内 杯部ナデ 口縁ヨコナデ→暗文 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 杯部口縁ヨコナデ 杯底部ヘラケズリ 脚部ナデ 裾部ヨコナデ→暗文	内 5YR6/8 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子1mm大 砂粒含む。	ほぼ完全 相麻に3%底に0.5mm前後の孔有り (径2cm)。完全実測	V区1層 No.1	
10	土師器 甕	- 6.4 (3.4)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子1mm大 砂粒含む。	底部完存 完全実測 内面鉄分付着	V区1層	
11	土師器 甕	(16.0)  (3.2)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm大細石英・細長石粒子 含む。1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	III区	
12	土師器 壺	- - (17.9)	内 ナデ 外 胴上部ヘラナデ 胴下部→底部ヘラケズリ	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm大細石英・細長石粒子 、1mm大砂粒含む。	底部3/4 完全実測	III区	
13	土師器 高杯	(19.0) - (5.7)	内 ナデ 外 ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR7/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。 1mm大砂粒含む。	口縁1/2 回転実測	W5地点 1層	
14	土師器 高杯	- - (8.0)	内 ヘラケズリ 外 ミガキ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	回転実測	W5地点 1層	
15	土師器 高杯	- (14.4) (3.6)	内 ナデ 外 ミガキ	内 5YR4/ (にぶい赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	脚部1/4 回転実測	W5地点 1層	
16	土師器 壺	- (6.8) (7.5)	内 ミガキ 外 ミガキ 底 ナデ	内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。 1mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測	W5地点 1層	
17	ミニチュア 小杯	(6.0) (4.2) 3.4	内 ナデ 外 ナデ 底 ナデ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 回転実測	S・Eい9	
18	土師器 杯	(14.0) - (3.7)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	内 10YR6/4 (にぶい黄褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	0.5mm大石英・長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	S・Eい9	
19	土師器 高杯	18.8 (14.5) 14.2	内 杯部ナデ→暗文 脚部ヘラナデ 裾部ヨコナデ 外 ナデ→暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子1～2mm 大赤色・白色粒子含む。	口縁7/8 完全実測	S・Eい9	
20	土師器 高杯	(19.4) - (4.9)	内 ナデ→暗文 外 ナデ→暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子1mm大、 少量赤色・白色粒子含む。	口縁1/3 回転実測	S・Eい9 2層	
21	土師器 高杯	- (12.7) (7.9)	内 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 脚柱暗文 裾部ヨコナデ	内 7.5YR5/6 (明褐) 外 7.5YR5/6 (明褐)	細石英・細長石粒子1mm大、 少量赤色・白色粒子含む。	底部3/16 完全実測	S・Eい9	
22	土師器 高杯	- (12.8) (8.0)	内 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 ナデ→暗文	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	1mm大、少量赤色・白色粒子 含む。	底部 回転実測	S・Eい9	
23	土師器 高杯	- 14.2 (9.8)	内 杯部暗文 脚部ヘラケズリ 外 裾部ヨコナデ 暗文	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子1mm大、 少量赤色・白色粒子含む。	底部1/2 完全実測 脚内面布圧痕	S・Eい9	
24	土師器 高杯	- - -	内 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 暗文	内 7.5YR4/2 (灰褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子1mm大、 少量赤色・白色粒子含む。	脚 完全実測	S・Eい9	
25	土師器 高杯	- (16.0) (8.0)	内 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ 外 暗文	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	細石英・細長石粒子1mm大、 少量赤色・白色粒子含む。	底部1/12 回転実測	S・Eい9	
26	土師器 甕	(18.2) - (10.2)	内 口縁ヨコナデ 体部ナデ 外 体部ナデ→口縁ヨコナデ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	0.5mm～1mm大石英・長石粒子 含む。	口縁1/6 回転実測	S・Eい9 2層	
27	土師器 甕	(17.4) - (10.4)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ (榎目) 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR3/1 (黒褐)	0.5mm～1mm大石英・長石粒子 含む。	口縁1/6 回転実測	S・Eい9 2層	
28	土師器 小型丸底 壺	- - (5.4)	内 ナデ 下半しぼり込み 外 ヘラナデ→ミガキ?	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	体部1/2 完全実測	S・Eい9	
29	土師器 小型丸底 壺	(7.8) - (6.3)	内 口縁ヨコナデ 上半しぼり込み 外 口縁・体部ナデ→体部下半ヘラケズリ 口縁暗文	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	S・Eい9	
30	弥生 高杯	- 10.6 (9.2)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ (榎目) →ミガキ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/8 (赤) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙) 10R5/8 (赤)	0.5mm大石英・長石粒子含む。	底部1/1 完全実測	No.1	
31	弥生 高杯	(5.2) (2.8)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ナデ 外 頭部ヘラケズリ 脚部ミガキ	内 杯 10R5/6 (赤) 脚 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。 1mm大赤色粒子含む。	底部1/4 回転実測	III区	
32	弥生 壺	(5.4) - (5.2)	内 ナデ 部分的にベンガラ付着 外 ミガキ	内 7.5YR8/4 (浅黄橙) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	V区1層	
33	弥生 甕	(3.8) (1.7)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR2/3 (極暗赤褐)	細長石粒子多く、細石英粒子 含む。	底部1/2 回転実測	W5地点 M2 2層	
34	弥生 鉢	- 4.5 (4.2)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底 ヘラケズリ ミガキ	内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤) 底 7.5YR4/1 (褐灰)	細石英・細長石粒子、1mm大 砂粒含む。	底部完全 完全実測	W5地点 1層	
番号	種類	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	g	備考		出土位置
35	磨製石鏃	33.0	22.0	2.5	1.7	片岩。		検出
36	磨製石鏃	13.0	19.0	2.0	0.5	左脚。上部欠損。粘板岩。刃部縁辺整形加工・器体加工研磨。		V区1層
37	扁平片刃再加工	53.0	27.0	6.0	9.1	頁岩。刃部縁辺整形加工直接。器体加工直接。		V区1層
38	平基鏃	15.2	14.0	3.4	0.5	黒曜石。刃部縁辺整形加工押圧。器体加工押圧+研磨。		2層
39	石製模造品	37.0	13.0	4.0	2.3	滑石。		IV区1層

## 第5節 範囲確認のみの住居址

破壊される基礎部分の発掘調査をしたが、検出時にプランのみ確認した住居址がある。調査区外のため本調査はできなかったが、遺物が出土し、ほぼ時代が推測可能な住居址上面の出土遺物を掲載した。



第112図 2号住～13号住検出

第72表 INP X 2号住～13号住出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			色調		胎土	残存・備考	出土位置
1	弥生壺	10.6 - (15.6)	内 体部ナデ→口縁ミガキ 口縁赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 胴中に突起あり			内 10R4/6 (赤) 7.5YR5/2 (灰褐) 外 10R4/8 (赤)		細長石・細石英粒子含む。	口縁3/4 完全実測	2号住検出
2	弥生壺	(16.2) - (8.9)	内 ナデ 外 ヘラナデ (柎目) →口唇部縄文 頸部縄文→ヘラ描平行線文 ヘラ描山形線文			内 10YR6/2 (灰黄褐) 外 7.5YR7/6 (橙)		細長石・細石英粒子含む。	口縁1/6 回転実測 拓本	2号住検出
3	弥生杯	(11.0) - (2.5)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 口縁に2孔あり			内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)		細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8 回転実測 孔0.2	3・4号住検出
4	弥生高杯	(19.5) - (5.1)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 口縁端部ヘラ調整により波形の端面			内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)		細長石・細石英粒子含む。 緻密。	口縁1/3 回転実測	3・4号住検出
5	弥生高杯	-	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩			内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤)		細長石・細石英粒子含む。	頸部1/1 完全実測	3・4号住 (T20)
6	弥生台付甕	- 9.4 (4.0)	内 杯部ミガキ 脚部ミガキ 外 ミガキ			内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)		細長石・細石英粒子含む。	底部1/2 完全実測	3・4号住検出
7	弥生壺	14.0 - (13.5)	内 ヘラナデ (柎目) →口縁ミガキ 外 ヘラナデ (柎目) →頸部ヘラ描平行線文 口縁部・体部ミガキ 口唇部刻み目			内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)		細長石・細石英粒子含む。 1mm大砂粒含む。	口縁3/4 完全実測	3・4号住検出
8	土師器壺	8.0 - (4.9)	内 ヘラナデ 外 体部ナデ→ミガキ 底部ヘラケズリ			内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/8 (橙)		細長石・細石英粒子含む。 3mm大砂粒含む。	底部1/2 完全実測	3・4号住 (T20)
9	弥生甕	7.8 - (2.1)	内 ミガキ 外 ミガキ			内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR5/6 (明褐)		細長石・細石英粒子含む。	底部1/1 完全実測	3・4号住検出
10	弥生甕	(13.8) - (2.3)	内 ミガキ 外 口縁 櫛描波状文 頸部 櫛描簾状文			内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)		径1mm以下の長石、赤褐色粒子、 石英含む。	口縁1/7	3・4号住検出
18	弥生高杯	(5.6) - (4.4)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ミガキ 外 ミガキ 赤色塗彩			内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 10R3/6 (暗赤)		細長石・細石英粒子含む。	頸部3/4 回転実測	5号住検出
22	須恵器杯	(12.8) - (3.3)	内 ロクロナデ 火だすき痕 外 ロクロナデ 火だすき痕			内 5Y5/1 (灰) 外 5Y5/1 (灰)		細長石・細石英粒子含む。 1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	8号住検出
23	土師器杯	(16.4) - (3.7)	内 ミガキ 外 ロクロナデ			内 5YR5/6 (明赤褐) 外 7.5YR7/6 (橙)		細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8 回転実測	8号住検出
24	土師器甕	(20.4) - (3.0)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ			内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)		細長石・細石英粒子含む。	口縁1/8 回転実測	8号住検出
25	土師器杯	(13.0) - (11.8) (3.5)	内 ヘラナデ ナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 底部手持ヘラケズリ			内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)		細長石・細石英粒子、1mm大 砂粒含む。	口縁1/4 回転実測	9号住検出 (T91)
26	土師器高杯脚	-	内 杯部ナデ 脚部ヘラケズリ 外 ミガキ			内 5YR5/8 (明赤褐) 外 5YR5/8 (明赤褐)		細長石・細石英粒子含む。	脚部1/1 完全実測	9号住検出
27	土師器高杯	(19.8) - (5.2)	内 ナデ 暗文 外 口縁ナデ 暗文 杯下部ヘラケズリ			内 5YR5/8 (明赤褐) 外 5YR5/8 (明赤褐)		細長石・細石英粒子、1～2mm大 砂粒まれに含む。	口縁1/12 回転実測	9号住検出
28	土師器甕	(19.2) - (5.3)	内 ナデ 外 口縁ナデ 体部ヘラケズリ			内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)		細長石・細石英粒子、1mm大 砂粒含む。	口縁1/8 回転実測	9号住検出
29	弥生壺	(5.4) - (2.3)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩			内 10YR3/3 (暗赤褐) 外 10R4/8 (赤)		細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	9号住検出
30	須恵器杯	- (6.2) (2.8)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部ヘラ切り→ナデ			内 2.5Y4/1 (黄灰) 外 2.5Y4/1 (黄灰)		細長石・～0.5mm大長石粒子。 2mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測	9号住検出
31	土師器土板	縦3.9 横3.7 厚0.7	内 ナデ 外 ヘラケズリ? (剥離)			内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)		細長石・細石英粒子、1～2mm大 砂粒含む。	破片実測 土師甕転用	9号住検出
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考			出土位置	
32	太形蛤刃石斧	80.0	76.0	31.0	280.0	変質輝緑岩。刃部刃こぼれ・研磨、輝体研磨、基部欠損。			9号住検出	
番号	器種	法量	成形・調整			色調		胎土	残存・備考	出土位置
33	弥生鉢	(16.4) - (4.1)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩			内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤)		細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	10号住検出
34	弥生甕	7.0 - (5.9)	内 ヘラナデ (柎目) ミガキ 外 ミガキ			内 7.5YR4/4 (褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)		細長石・細石英粒子、まれに 1mm大砂粒含む。	底部1/1 完全実測	10号住検出
35	須恵器杯	(14.0) - (7.9) 3.5	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部右回転糸切り			内 2.5Y7/2 (灰黄) 外 2.5Y7/2 (灰黄)		細長石・細石英粒子、0.5～2mm大 砂粒含む。	底部1/2 回転実測 火だすき	10号住 (T1) 検出
39	弥生壺	(14.4) - (1.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩			内 2.5YR3/1 (暗赤灰) 外 2.5YR2/1 (赤黒)		細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	12号住検出
40	弥生壺	-	内 口縁ミガキ 外 ナデ 口唇部縄文			内 7.5YR7/8 (黄橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい褐)		細長石・細石英粒子含む。	拓本	12号住検出
41	弥生甕	(14.0) - (5.3)	内 口縁部ミガキ 赤色塗彩 胴部ヘラナデ (柎目) 後ミガキ 外 ヨコナデ 口唇部縄文 頸部櫛描簾状文 (一連止、5本組) 胴部櫛描羽状文 (4本1組)			内 10R4/4・10YR7/4 (赤褐・にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)		細石英・細長石含む。	口縁1/6	12号住検出 (J12)
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考			出土位置	
43	石製模造品	22.0	12.0	2.0	0.7	剣形。片岩 (磨製石礫の可能性あり)			12号住検出	
番号	器種	法量	成形・調整			色調		胎土	残存・備考	出土位置
44	弥生甕	(15.0) - (14.6)	内 ミガキ 外 胴下部ミガキ 口縁・胴上部櫛描波状文 (9本) 頸部櫛描簾状文 (9本)			内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙) 5YR3/2 (暗赤褐)		細石英・細長石粒子、1mm大 粒子含む。	口縁～体部1/2 回転実測	13号住検出
45	須恵器壺	(9.4) - (2.9)	内 ロクロナデ 自然軸付着 外 ロクロナデ 体部下端回転ヘラケズリ 底部回転糸切り			内 5Y4/1 (灰) 外 5Y4/1 (灰) 5YR6/1 (褐灰)		細長石・細石英粒子含む。	底部1/6 回転実測	13号住検出
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考			出土位置	
47	二次加工剥片	52.0	43.0	11.0	32.3	凝灰岩。器体加工直接。			13号住検出	

## 第Ⅲ章 西一本柳遺跡 X 次調査より出土した弥生石器群の評価

### はじめに

本稿では西一本柳遺跡X次調査より出土した弥生石器群を、現状の研究成果を踏まえながら評価していきたいと思う。

西一本柳遺跡は佐久市を流れる湯川の右岸に位置し、近隣には著名な北西の久保遺跡、そして弥生箱清水期の銅釧の出土した五里田遺跡等、弥生集落が密集する。西一本柳遺跡と地続きであったであろうこれら遺跡一体は広大な平坦面を有し、湯川が形成した河岸段丘上にある。西一本柳遺跡の南側段丘下と北側に沖積地が控えており、おそらく西一本柳遺跡一帯の生産地はこれら沖積地であると推定される。

さて西一本柳は既にX次の調査を重ねており、特にIII次・IV次調査では遺跡の南北の範囲を確認できる調査がなされ、弥生中期後半の栗林式、弥生後期の箱清水式、古墳時代、古代と断続的ながらも集落は営まれている。中期においては石川編年(石川2002)の栗林2式新段階相当から3式まで、後期箱清水式は青木氏の松原遺跡編年(青木1998)の1～6期まで認められる。X次調査範囲の東側からは従来の調査区よりも比較的栗林期の住居跡が多く検出されているため、栗林期の集落の中心がここX次調査区の範囲に接している可能性がある。

なお、栗林期で注目されるのは、III・IV次調査で石川編年栗林式2式新段階から3式相当の土器が多量に出土するV字溝のM2溝が検出されたことであろう(森泉2003)。この溝の内側に栗林期の住居跡がまとまって検出されることから、この溝はいわゆる「環濠」と呼ばれるものに相当すると考えられる(森泉2003)。その後、VIII・IX次調査のM6溝、そして本調査のM12溝というように集落を囲う溝が断続的ながらも検出される(本報告の第110図参照)。

環濠集落としての評価は今後の課題になると思うが、西一本柳遺跡がこの佐久平の弥生中期栗林期において、他の集落より比較的大規模な居住域をもつ集落遺跡であることは動かしがたい。一方、後期箱清水式段階にも集落の南北を走る「環濠」に相当する溝が検出され、ちょうど中期栗林期の「環濠」で囲われ範囲の中央を切るように検出された。後期「環濠」の東端はI次調査のM1溝と考えられる。

このようにポイントとなる集落特徴を踏まえ、西一本柳遺跡の弥生石器を本稿では触れることにする。本稿ではX次遺跡出土石器を対象に検討を加えるが、必要がある場合は過去の調査の出土石器についても触れることにする。

西一本柳遺跡から出土した石器で特に評価すべき石器として上げられるのは、①打製石鏃、②磨製石鏃、③擦切石器、④太形蛤刃石斧・扁平片刃石斧等の磨製石斧、⑤管玉・勾玉、⑥有孔石剣の6点である。本稿ではこの重要な石器6点について主に検討を加え、評価を行う。

### 1. 器種ごとの評価

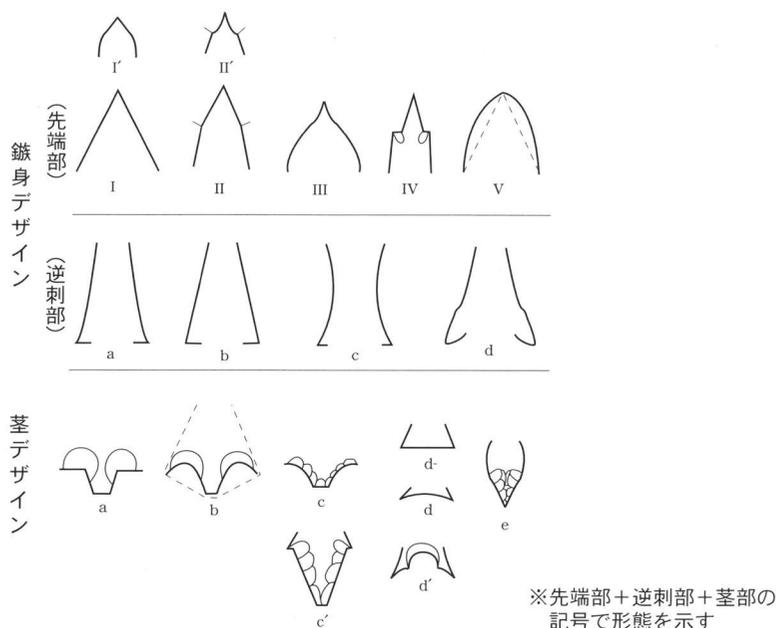
#### 打製石鏃(写真1～9)

本調査では、黒曜石製有茎鏃とその未成品が各1点、凹基鏃3点、平基鏃1点、石鏃未成品1点が出土した。他に頁岩・珪質頁岩・安山岩製の凹基鏃が各1点出土する。また縄文草創期に特徴的な黒曜石製の有舌尖頭器が1点出土した(W7検、写真5)。

#### ①黒曜石製の石鏃について

本調査で出土した有茎鏃は、いずれも最大長3cm前後の標準的なサイズであり、第113図の属性分類では鏃身デザインIb型に該当する。長野県内の弥生時代遺跡では一般的なデザインである。また、長身化した有茎鏃の未成品がII次調査のH59住居跡(時期不明)から1点出土し、長野市方面と同様、長身有茎鏃と2～3cm前後の一般的な有茎鏃の二者で構成される。中期栗林期は他石材を含めて、全体的に長身化傾向となることを確認している(馬場2003b)。

次に、産地分析の結果を見てみよう。沼津工業高等専門学校の望月明彦氏の分析結果と、筆者の器種分類の結果を統合した



第113図 石鎌の形態分類模式図

ものを第76表に示した。産地表記は全て望月氏に従っている。西一本柳遺跡の各調査次に共通して、諏訪星ヶ台群が原料の主体となる。これは弥生前期後半の佐久市東五里田遺跡、中期後半の佐久市後家山遺跡と同じ傾向であり、複数遺跡で確認できるこの傾向は、佐久平の黒曜石原産地利用の特徴として理解してもよいであろう。諏訪星ヶ台群の原石・石核は、いずれの遺跡も最大長2～3cm前後の小形品である。

一方で、筆者は、少量しか認められない産地にも注目している。なぜなら、ここには同一時期の遺跡差が認められるからである。佐久市根々井芝宮遺跡は、西一本柳遺跡より一段階古い石川編年栗林2式古段階を主体とする遺跡で、Y25住居跡の壺19にストックされた状態で出土した黒曜石には、諏訪星ヶ台群が多数を占めながらも、蓼科冷山群の原石8点と剥片5点が含まれていた。これほど蓼科冷山群の原石がまとまって出土した例はない。残念ながら他の遺構から出土した黒曜石の産地分析は行われていない。

また、後家山遺跡では、和田鷹山群の凹基鎌を始め、和田土屋橋北群・和田土屋橋西群・和田高松沢群の有茎鎌や凹基鎌が出土する。これら石鎌は、遺跡内での製作途中工程が認められないため、遺跡外から完成品の状態で持ち込まれた可能性が高い(馬場2004c)。

そして、西一本柳遺跡の少数産地としては、後家山遺跡と同様の和田鷹山群・和田土屋橋北群・和田土屋橋西群・和田土屋橋南群の石鎌・剥片・原石が出土する。西一本柳遺跡では先の遺跡と共通する産地が認められる一方、和田芙蓉ライト群と浅間山千ヶ滝群といういままで認められなかった二つの産地がある。浅間山千ヶ滝群の原石は夾雑物が多く、剥片石器の原料には適さない。この二つの産地がどのような意味をもつのか、今後の課題である。

このように、少数産地の構成で遺跡差が認められることを確認したが、同時に、器種と石材産地の結びつきでも大きな問題がある。それは、和田鷹山群が凹基鎌と結びつく実態であり、後家山遺跡では有茎鎌に和田鷹山群が認められず、凹基鎌のみに認められた。筆者は有茎鎌の発達する栗林期に、和田鷹山群のみ有茎鎌がない点を疑問に思い、これは縄文時代所産の可能性を考慮する必要があることを提起した。なぜこの問題を大きく取り上げるのかというと、有茎鎌と凹基鎌が弥生時代において共伴するか否かという問題は未だ解決しておらず、仮に原産地分析で有茎鎌と凹基鎌に産地を違えるという有意差が認められれば、原産地遺跡の時期を手がかりに有茎鎌と凹基鎌の時期を分離あるいは共伴をチェックできるからである。これを検討課題1としよう。

またここから派生するもう一つ重要な課題として、消費地遺跡の時期や器種組成を確認することで、「和田鷹山群」の広がりや時間幅を捉える必要性である。これは、黒曜石原石の採掘坑が確認された鷹山遺跡群そのものの評価にかかわることで、縄文時代から弥生時代において、「和田鷹山群」産出地である鷹山遺跡群どのように利用されたのかを明らかにすることである。



写真1 H7(和田土屋橋南)有茎鏃



写真2 H47(諏訪星ヶ台)凹基鏃



写真3 H49(和田土屋橋南)凹基鏃



写真4 M2(諏訪星ヶ台)凹基鏃

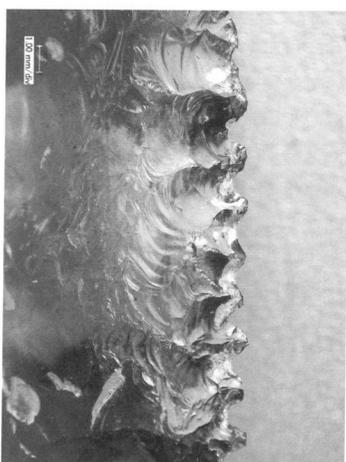


写真5 検出7(諏訪星ヶ台)有舌尖頭器



写真6 D11(諏訪星ヶ台)凹基鏃



写真7 M8(和田鷹山)平基鏃

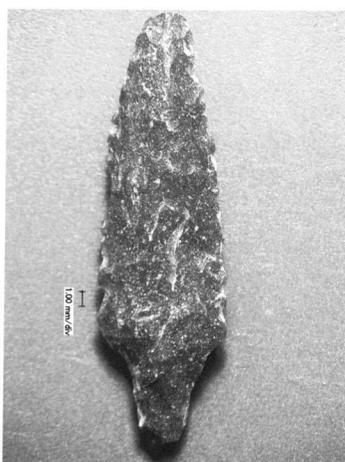


写真8 Ⅲ次調査(下呂石)

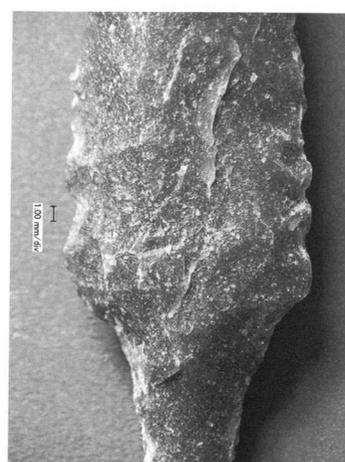


写真9 Ⅲ次調査(下呂石)

これを検討課題2する。

では、最初に、西一本柳遺跡の和田鷹山群の黒曜石製石器組成をみてみよう。西一本柳遺跡の場合、有茎鎌と凹基鎌（平基鎌含む）の産地が、諏訪星ヶ台群は有茎鎌9点：凹基鎌11点、和田鷹山群は有茎鎌2点：凹基鎌5点である。和田鷹山群の有茎鎌の初例であるが、2点（III・IV次H41住居跡、H93住居跡出土）とも第113図の鎌身デザインの逆刺がd型で、長野県域では縄文晩期全般におよぶ長野市宮崎遺跡（長野市教育委員会1988）や、縄文晩期後半（大洞C2～A'併行）を主体とする茅野市御社宮司遺跡（長野県教育委員会1982）で一般的にみられるデザインである。なお、これら二つの遺跡のほかに、佐野遺跡（大洞BC～C2古段階併行、樋口1967）では既に有茎鎌が顕著であり、凹基鎌・平基鎌等の無茎鎌から有茎鎌への石鎌デザインの変化が縄文晩期前半に起きていることを示す。

肝心の原産地遺跡である鷹山遺跡群では、晩期後半の水式の土器片が試掘で出土したのみで（山科ほか2003）、該当時期の採掘坑は未だ検出されていない。今後、複数の縄文晩期遺跡で和田鷹山群の有茎鎌の共伴例をチェックしていく必要があるが、西一本柳遺跡の和田鷹山群の有茎鎌2点は縄文晩期所産である可能性が高い。

では次に、黒曜石の原産地推定の結果を時期別にみてみよう。第77表は、長野県内において黒曜石産地推定分析が行われた遺跡のうち、全点あるいは全点に近い黒曜石を対象とした分析結果である。全て沼津工業高等専門学校の望月明彦氏による分析である。鷹山遺跡群の採掘坑の時期に該当する縄文後期中葉と、縄文晩期のデータがまだ存在しないものの、縄文時代前期から弥生後期にかけて、「諏訪星ヶ台群主体・和田鷹山群少数」という傾向は変わらない（第77表a）。少数であるのは和田土屋橋北群など和田峠付近の産出も同様である。注目すべきは、諏訪星ヶ台群と和田鷹山群の器種組成の違いで、諏訪星ヶ台群には石鎌等のツールのほかに、原石や石核（残核）が多数伴う。対比的に、和田鷹山群は、ツールのうち凹基鎌・平基鎌等の無茎鎌に偏り、原石はわずか1点、石核については現段階では確認すらされていない。

このデータに基づき、検討課題1を考えれば、和田鷹山群が凹基鎌・平基鎌等の無茎鎌に強く結びつくという実態があり、そして長野県域においては、無茎鎌の出土が縄文後期以前に顕著であるという点から、私は和田鷹山群の無茎鎌は縄文時代後期以前に帰属するものであると推定し、後家山遺跡等で弥生時代の中期・後期集落から出土する和田鷹山群の無茎鎌は縄文時代後期以前のものであると考える。

では、検討課題2に移ろう。縄文時代のなかでも和田鷹山群の無茎鎌の時期をさらに限定すれば、第77表cに示されたように、縄文前期末および中期に該当する三岳村小島遺跡（木曾、広田ほか2003）や朝日村熊久保遺跡（松本、樋口・小口・上條ほか2003）では和田鷹山群の無茎鎌は出土せず、中期後葉の唐草文系土器から後期初頭の称名寺式段階の木曾福島町板敷野遺跡（木曾、賛田ほか2003）で凹基鎌が1点出土する。つまり、和田鷹山群の石器は現段階では遡っても縄文後期の範囲に概ね収まる。鷹山遺跡群の1号採掘跡の時期は縄文後期中葉（加曾利B1式、安蒜・宮本ほか1999）であり、多少の時期幅は存在するものの、鷹山遺跡群側と分布側の遺跡の時期はほぼ一致する。

次に、第77表b・cが示すように、縄文前期から弥生後期にかけて木曾・松本・佐久・長野の長野県各地に広域に流通するのは今のところ諏訪星ヶ台群の原石および石核であり、和田鷹山群の原石等の流通はほとんど確認できない（注1）。この点を詳細に検討するためには、今後も多くの遺跡のデータを分析・吟味する必要があるため、今後の報告事例を待つことにしたい。

## ②下呂石製有茎鎌について

さて、西一本柳のIII次調査で出土した有茎鎌のなかに下呂石製有茎鎌が出土しており（写真8・9）、長野県内の有茎鎌を評価する上で必要な有茎鎌であるので、ここで触れておきたい。現在まで、下呂石製有茎鎌は上伊那郡箕輪町の箕輪遺跡（市川2002など）の他に、長野市松原遺跡で6点（町田勝則2000aなど）、飯田市恒川遺跡群で1点（佐々木・山下1968）と分布状態は散発的であるが、長野県内各地で下呂石製有茎鎌の出土が確認されている（馬場2003b）。西一本柳の事例は佐久地域の初の例であり、分布が長野県内一帯に広がっていることが改めて確認できる重要な事例である。

西一本柳遺跡出土の特徴は、第113図に示した鎌身デザインI' b型、茎デザインc型に相当し、長野市松原遺跡の黒曜石製有茎鎌の多数に見られる特徴と一致する。長野県内の黒曜石製有茎鎌にはない鎌身デザインV c型は栗林式分布圏の内部に入るとつれて数が少なくなる傾向にあり、松原遺跡の6点の中に1点確認できる。

長野県内において、いまだに下呂石製有茎鎌の素材を剥離した石核や剥片がまとまって出土した例がない以上、特定の場所による製作が推定される。現在、下呂石製有茎鎌のうちV c型の鎌身デザインに限っては、従来の長野県内の有茎鎌の系統関係にないデザインであるため、下呂石の産出地に程近く下呂石製長身有茎鎌未成品の出土する下島遺跡等で製作されている可能性が強いと推定する（馬場2003b）。

## 磨製石鏃（第114図・第115図、写真10～27）

西一本柳遺跡X次調査から出土した磨製石鏃の評価にあたって、大きく二つの問題点をまず提示しておきたい。一つは磨製石鏃の製作技術および製作工程の内容についてであり、もう一つは磨製石鏃のデザインについての問題である。

まず、磨製石鏃の製作技術および工程について検討したい。以前、飯田市恒川遺跡群の報告のなかで桜井弘人氏は磨製石鏃を粗割—剥離調整—研磨—穿孔の4工程に分類した（桜井1986）。研磨には「片面研磨・両面研磨・側面研磨・刃付け」の4種類があることを指摘する。桜井氏の提示する工程で西一本柳遺跡も基本的に製作が行われているが、恒川遺跡群には認められない技術や新たに明らかとなった工程も存在するので、その点に着眼しつつ説明する。

まず西一本柳遺跡の基本的な製作工程として、1. 素材準備工程—2. 素材分割工程—3. 剥離加工工程—4. 研磨加工工程—5. 抉り部研磨加工工程—6. 穿孔工程の6工程を設定し、それぞれ第一工程などと呼ぶことにする。第一工程の素材獲得工程とは、磨製石鏃の素材剥片をつくる母体となるブランク（加工された素材）段階である。第二工程の素材分割工程とは、ブランクから磨製石鏃の直接素材となる剥片をつくり出す工程で、折り取り加工や擦切加工で分割される。第三工程の剥離加工工程は素材の余分な箇所を押圧剥離等で調整する工程、第四工程の研磨加工は表裏・側面の厚みを整える工程で刃付けの加工もここに入る。第五工程の抉り部研磨工程とは、研磨加工は基部の抉り部に研磨が及んだ段階である。第六工程の穿孔工程は穿孔を行う工程である。

以上の6工程が西一本柳遺跡の基本的な工程作業であるが、この工程は次に説明するように、「I 素材の準備作業」、「II 磨製石鏃用素材の分割作業」、「III 二次加工と仕上げ作業」の大きく三つの作業段取りで行われていることが重要である。I・II・IIIのそれぞれで、素材の形状に応じ、加えられる加工の種類で違いがあるものの、このI・II・IIIの枠組みは西一本柳遺跡の磨製石鏃製作技法の構造として存在する。

### 【I 素材の準備作業】

#### 第一工程 素材準備工程（第114図—1・3・5～7）

この工程では、磨製石鏃の直接素材となる剥片は剥離されず、ブランクとなる素材を剥離することが行われる。したがって、6・7のように長形状の大形の剥片がまずこの段階で剥離されることになる。1の裏面上部には複数回のハンマー打撃痕が残り、この石器がブランクの素材となる母体であることを示す好例である。

ところで、直方体の剥片6・7のような剥片を作り出す方法として興味深い痕跡をもつ石器がある。それは3（写真10・11）であり、先端3mm程度の尖った工具を節理と節理の境界に挿し込み打撃して二つに分割しようと試みている剥片である。結局分割できなかった剥片であるが、写真10の上部が白く潰れているのはこの打撃を繰り返し行った結果である。このように素材獲得工程における打撃痕が5（写真12）や1にも認められた。

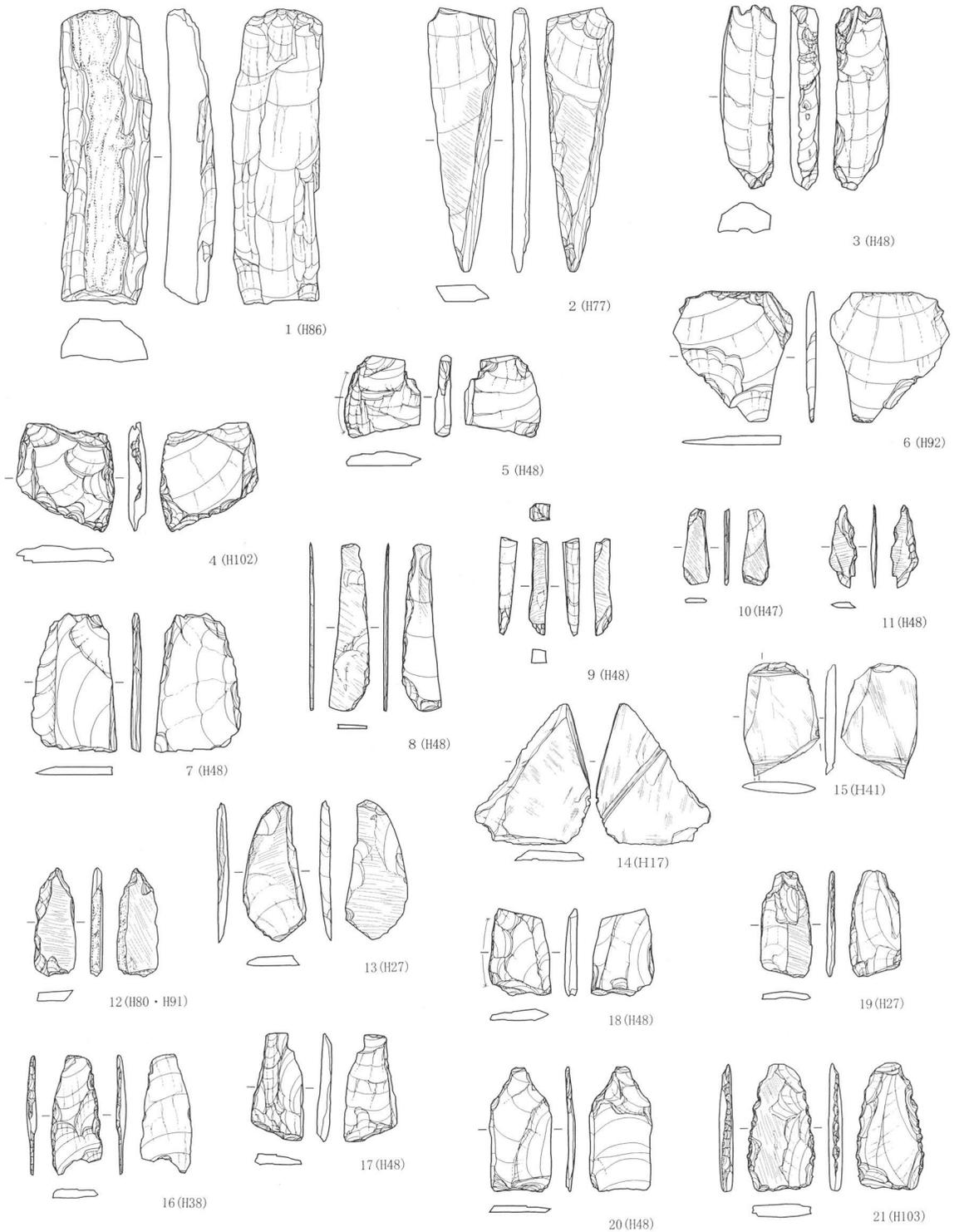
### 【II 磨製石鏃用素材の分割作業】

#### 第二工程 素材分割工程（第114—2・4・8～15）

まず、素材分割工程を検討するにあたり研磨加工の存在がポイントとなる。西一本柳遺跡の場合、研磨加工は①二等辺三角形の磨製石鏃のかたちを仕上げるための器体・抉り部に加えられる研磨、と②磨製石鏃用の素材剥片を分割する前の研磨、の二種類が認められる。つまり①は二等辺三角形形状にかたちを整える二次加工技術として、②は素材を分割する直前段階のブランク整形技術として存在しており、報告書による限り②の研磨加工は恒川遺跡群に認められない。実例を挙げると、2・8（写真13）・9（写真14）・10・13はブランク整形の技術としての研磨加工の例であり、これらは直方体状の素材剥片6・7に対し研磨を加え、折り取る、擦切など加工して分割した結果生じた剥片に相当する。

なお、ここで注目すべきは、後述する第四工程の研磨線状痕に比べ、一本一本の線が深く、そして太いことが挙げられ（写真13・写真14）、その違いは明瞭である（写真26・写真27）。第二工程の素材分割工程で使用されている砥石は「荒砥」に相当することが推定されるが、一方で第四工程の研磨加工工程の砥石は「仕上げ砥」に相当する砥石と推定される。西一本柳遺跡から実際出土した砥石には、弥生時代に一般的な砂岩製の「荒砥」しか確認できないが、「仕上げ砥」に相当するものが存在しないか、今後追究すべき課題である。

ところで先に触れた、分割に擦切が用いられることであるが、擦切加工の前に、14（写真17）のように先立って研磨加工が行われる場合と、4（写真15）のように直接擦切加工に入るものの二つの方法が認められる。また分割の形状も、14（写真17）のように扇形に分割する場合と、15（写真18）のように長方形に分割する二つの方法が認められる。素材剥片段階におい



第114図 磨製石鏃 実測図(1)

0 (1 : 2) 5 cm



写真10(第114図-3) H48



写真11(第114図-3) H48

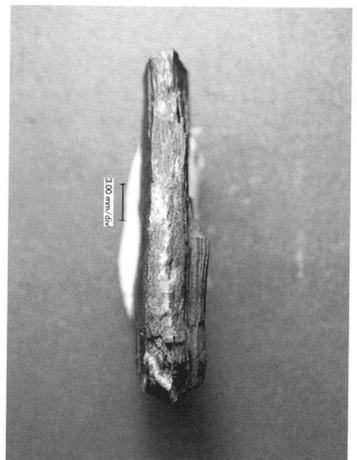


写真12(第114図-5) H48



写真13(第114図-8) H48

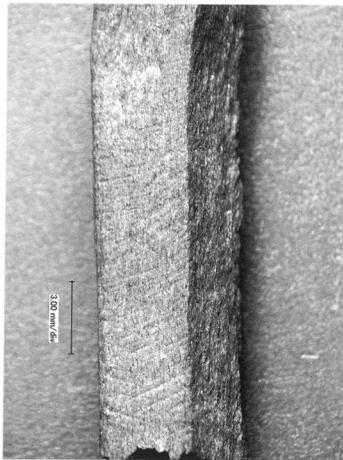


写真14(第114図-9) H48



写真15(第114図-4) H102

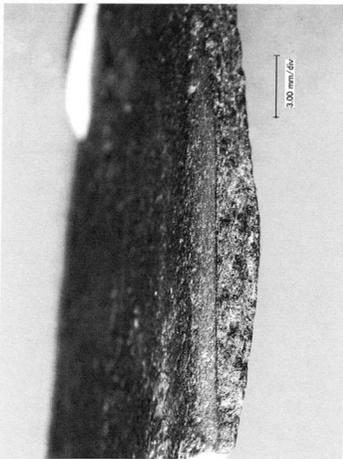


写真16(第115図-35) H66

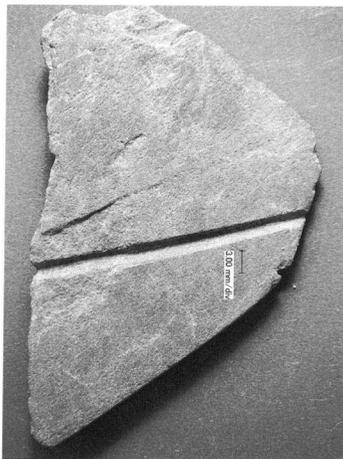
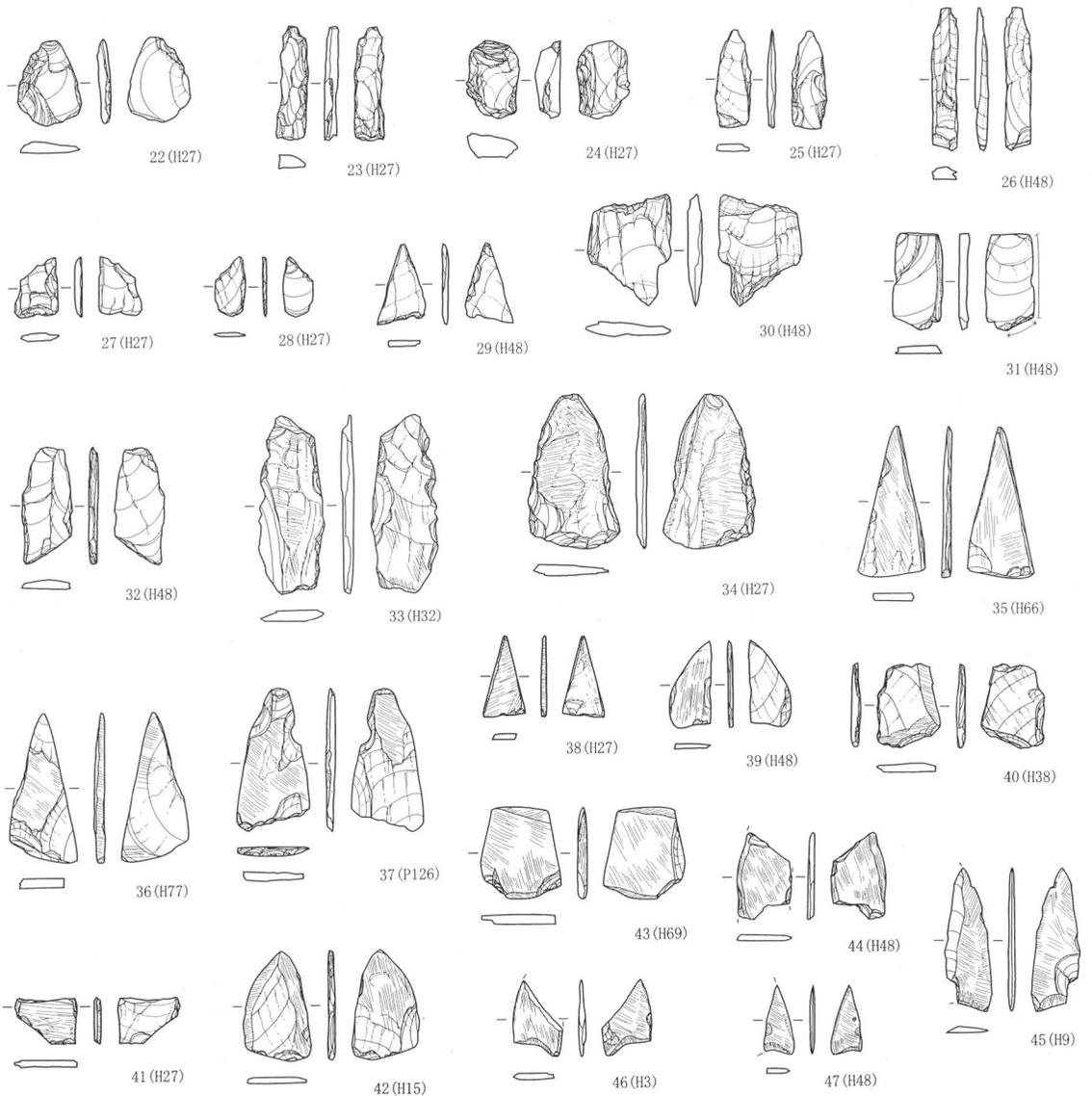


写真17(第114図-14) H17



写真18(第114図-15) H41



第115図 磨製石鏃 実測図(2)

ても施溝は34（写真16）のように明瞭である。磨製石鏃の素材分割に擦切加工が認められる長野県内例は、西一本柳遺跡の例を除いて今のところ確認されていない。

### 【III 二次加工と仕上げ作業】

#### 第三工程 剥離加工工程（第114図-16～21、第115図-22～30）

16（写真20）や21（写真19）に代表されるように、素材剥片の周囲の調整は押圧剥離で行われる。特徴としては、石材に片岩系を使用していることも影響して、粗雑な剥離痕という印象をまず受けるという点と、21（写真19）のように押圧具の先端が細い工具であるという特徴がある。実際どのように工具であるかは現段階では不明であるが、先の3（写真10・11）と同様に、先端の尖る工具を磨製石鏃製作に使用することが推定される。

また、この剥離加工工程は場合によっては加工されないこともあり、補助的な加工である点が重要である。35・36・38・39には押圧剥離痕が認められず、素材分割工程で得られた剥片から直接研磨加工に進んでいる実例である。

#### 第四工程 研磨加工工程（第115図-31～44）

研磨加工工程については桜井弘人氏の指摘のとおり、33・34のように表裏から研磨加工が行われる例と、31（写真21）・32（写真22）のように側面から研磨加工が行われている例が認められる。

これら表・側・裏の研磨加工に後続するものとして40～44が挙げられ、43の上辺には先端部の刃付け前段階の器体の厚みを整える加工が認められ、44は両側辺の刃付け加工、さらに一段階進んで42（写真24）のように先端部の刃付け段階というように進行する。このように器体を薄くしつつ、刃付けのための研磨加工が行われているものが後半段階の研磨加工に該当する。

なお、先の素材分割工程の箇所でも触れたが、本工程の研磨線状痕は「仕上げ砥」に相当すると推定される。砥石の使い分けが、「II 磨製石鏃用素材の分割作業」と「III 二次加工と仕上げ作業」で有意な関係として推定できる。

#### 第五工程 抉り部研磨加工（第115図-45・46）

前段階の研磨加工工程完了後に、抉り部を研磨で形成する加工が行われる。抉り部の形成には二つの方法があり、抉り部の端面が面取りされた状態の第32図-9（写真26）の例と、表裏とも傾斜をつけて抉り部が形成され、抉り部の表裏の境界が一本稜となる45（写真23）や第58図-16（写真27）の例がある。

#### 第六工程 穿孔工程（第115図-47）

47は穿孔途中段階で破損した実例である。両側穿孔で、穿孔具はやや先端の尖る工具である（写真25）。写真26・写真27の実例のように、穿孔径はおおよそ2mm～3mm程度である。

以上のように、西一本柳遺跡では、素材分割工程に擦切や研磨加工の採用など、特徴的な加工が認められた。また第二工程の素材分割工程と第四工程の研磨加工工程とでは、研磨用砥石の表面の粗さが異なることが研磨線状痕の痕跡から明らかとなり、工程で使用される道具立てに違いがあることが推定される。

### 擦切石器（写真28～30）

横長剥片の末端辺に横方向の線状痕と磨耗痕の認められる石器であり、磨製石鏃の素材分割のための施溝用道具と推定される石器である。

刃部の横幅は2mm程度である。西一本柳X次調査では10点の擦切石器が出土し、石材は頁岩・安山岩・ホルンフェルス・砂岩と多様な石材が使用されている。素材選択の特徴と刃部の位置は、横長剥片で末端に鋭角な縁辺をもつことである。二次加工には第16図-63・64のように刃部の反対側辺に直接打撃による連続的な潰し痕、そしてH10（図版26.54）・第102図-6のように大きく一撃で抉りを施す加工の二種類がある。いずれも擦切石器としての機能を発揮するための二次加工と推定される。擦切石器の使用対象となる磨製石鏃は、第114図-4・14・15・第115図-35（写真15～18）のような施溝による素材分割を行うものであり、溝幅が擦切石器とほぼ合致する。

なお、刃部磨耗痕の刃縁からの進入度は3～5mm程度（写真28・29）が一般的であるが、一点だけ10mm程度（写真30）とかなり深く磨耗痕が認められるものがある。10mmと深く施溝するものは磨製石鏃の施溝でも認められないため、この石器

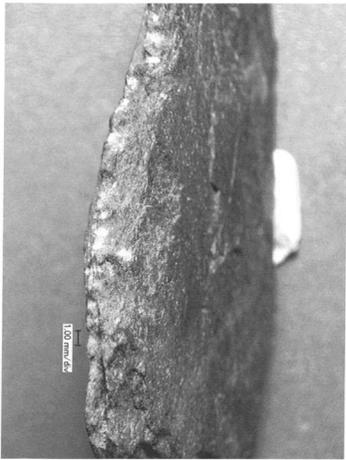


写真19(第114図-21) H103

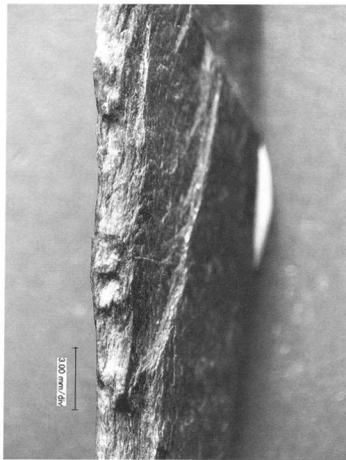


写真20(第114図-16) H38

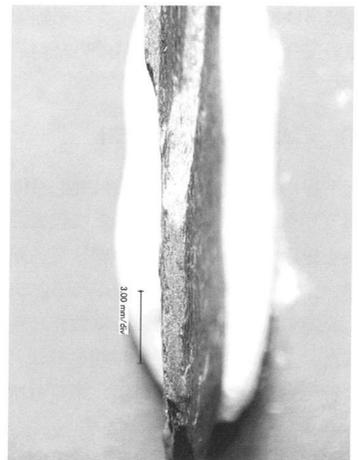


写真21(第115図-31) H48

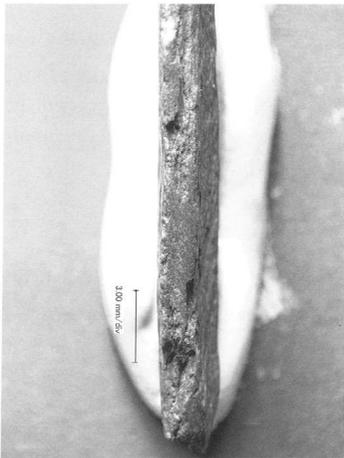


写真22(第115図-32) H48

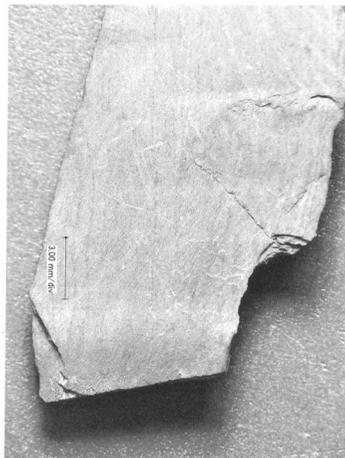


写真23(第115図-45) H9

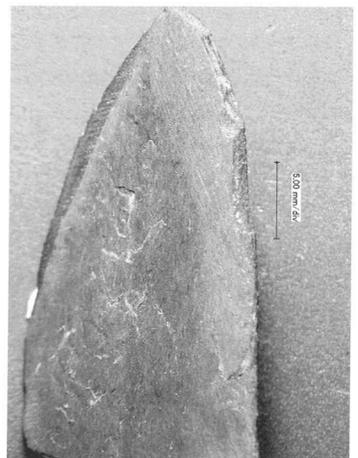


写真24(第115図-42) H15

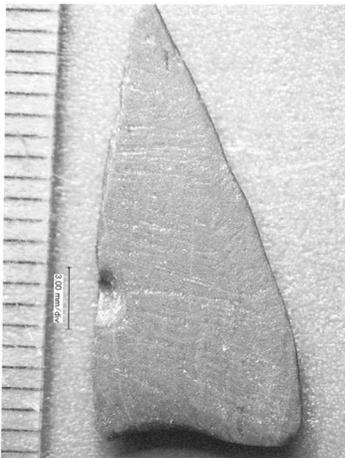


写真25(第115図-47) H48

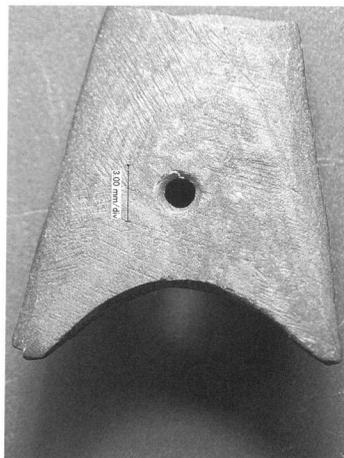


写真26(第32図-9) H47

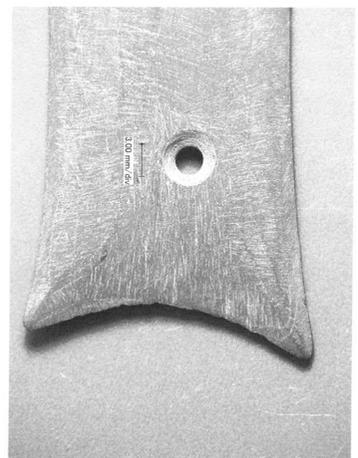


写真27(第58図-16) H77

に限っては他の擦切石器と対象が異なる可能性がある。

## 太形蛤刃石斧・扁平片刃石斧

X次調査で出土した太形蛤刃石斧は5点で、全て緑色岩類（町田1999a）の変質輝緑岩製である。また、太形蛤刃石斧断片を石鎚に転用したものが4点で、同じく全て変質輝緑岩製である。

扁平片刃石斧完成品は断片を含め、変質輝緑岩製1点、緑色片岩製1点、蛇紋岩製3点、砂質頁岩1点、緑色岩類製1点、砂岩製1点出土する。未成品は在地産の蛇紋岩製で1点、そして石斧未成品と推定される両面加工石器1点出土し、石材は在地産の蛇紋岩製である。

太形蛤刃石斧は長野盆地の榎田遺跡付近で製作されたものと推定される。石材の色調・質は榎田・松原両遺跡（町田1999・2000b）と合致し、また器体の丁寧な研磨整形、そして石斧基端から器体中央方向に向けての基部の整えるための剥離加工痕（第14図-57）、また幅・厚みの法量いずれをとっても「榎田型太形蛤刃石斧」（馬場2003a）に適合する属性である。法量についての統計分析結果を第116図・第117図に示した。完成品・破損品のうち、第14図-57・第23図-42は最大長が16cm前後で、榎田型太形蛤刃石斧の完成品仕上がり標準サイズ18cm前後よりやや短い。そして実際の石斧の観察からも研ぎ直しなどのメンテナンスが行われた痕跡が確認できる。これは使用が繰り返され、そのたび刃部のメンテナンスを繰り返すうちに短くなったものと推定することができる。

さて、この太形蛤刃石斧の長さについてはもう一つ重要な問題点がある。北信・中信の主要な遺跡の太形蛤刃石斧の法量を比較すると、長野市松原遺跡出土の太形蛤刃石斧のみが異様に短いことが見出せる（第116図）。松原の太形蛤刃石斧には形態的に明らかに研ぎ直しが行われたものが多数見受けられる（馬場2003a図3・馬場2004a第116図）。松原遺跡のものに比べると西一本柳遺跡から出土する太形蛤刃石斧はいまだ長さを保っている方である。この松原遺跡とそれ以外の遺跡の差異の背景には何があるのか、長野盆地における松原集落の性格・機能・意義に関わってくる材料となると考える。

なお、本調査で出土した太形蛤刃石斧と、その破損品が転用された石鎚全て変質輝緑岩製である。この傾向は佐久平のみならず少なくとも栗林式分布圏に共通する現象である。筆者は根々井芝宮遺跡・川原端遺跡・北西の久保遺跡等の佐久平弥生集落遺跡の太形蛤刃石斧を実見していないが、写真で確認する限り、多くの割合で佐久平にも変質輝緑岩製の太形蛤刃石斧が出土しているようである。

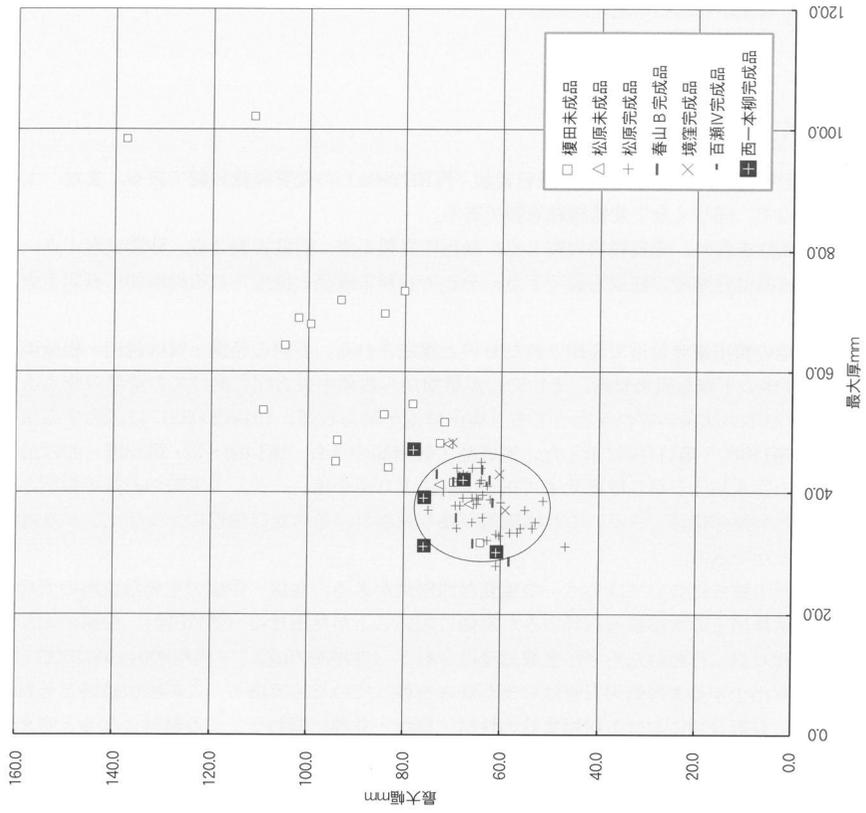
なお、小形の扁平片刃石斧2点と柱状片刃石斧が1点出土しており、石材は全て蛇紋岩である。H7-45（巻頭図版五）は当初基部であった部分を刃部に作り直している。第27図-13とH65-5（巻頭図版五）にはうっすらとはあるが使用による線状痕が認められる。

## 管玉・勾玉（写真31～32）

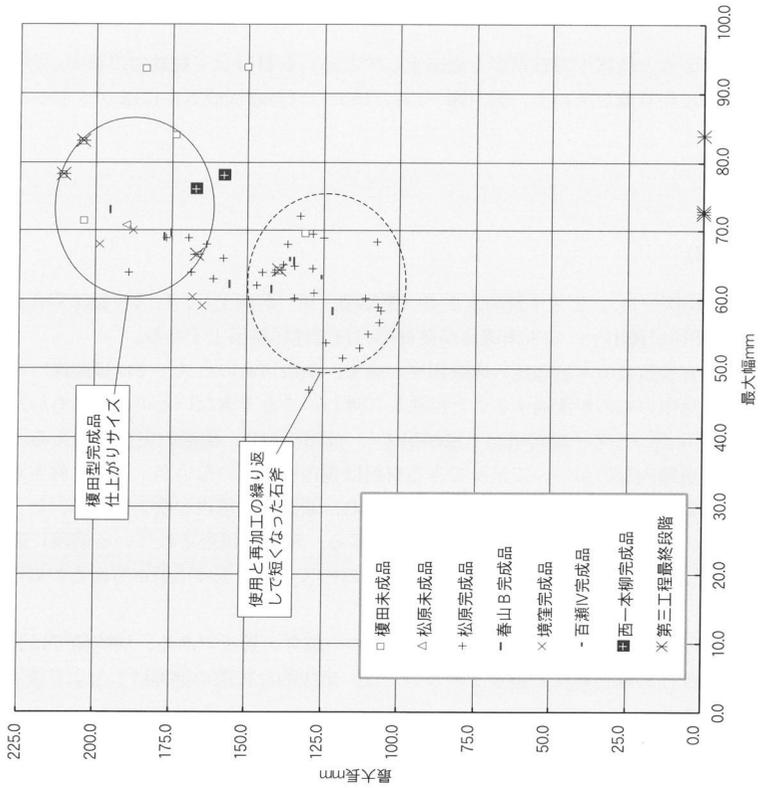
緑色凝灰岩製管玉1点（第63図-11）、ヒスイ製勾玉1点（第35図-16）が出土し、ヒスイ製は穿孔途中の未成品である（写真31）。管玉が箱清水期のH88住居跡出土、勾玉未成品が栗林期のH52住居跡出土である。

ヒスイ製勾玉は糸魚川市教育委員会の木島勉氏の肉眼観察の結果、糸魚川産のヒスイではほぼ間違いないことをご指摘いただいた。そしてこのような穿孔途中のものが流通することは決して珍しいことできないとのご教示もいただいた。同市の後家山遺跡からも緑色凝灰岩製管玉6点、ヒスイ製勾玉が1点出土し（富沢2004）、流通の実態が伺える。穿孔自体は製作地現地なのかあるいは佐久平の集落遺跡内なのかについて云々できる材料は現在揃っていないが、今後、弥生時代のヒスイ製勾玉の流通を考える上で西一本柳・後家山遺跡の例とも重要であろう。なお、新潟県上越市の吹上遺跡で、ヒスイ製勾玉の製作が報告されており（小島・笹澤ほか2002）、栗林式も集落より多数出土する。現在、報告されている遺跡に限定すれば、ヒスイ製勾玉の製作痕跡が明瞭なのは吹上遺跡のみであり、今後、長野地域のヒスイ製勾玉は上越市方面との対比も課題となってくるだろう。

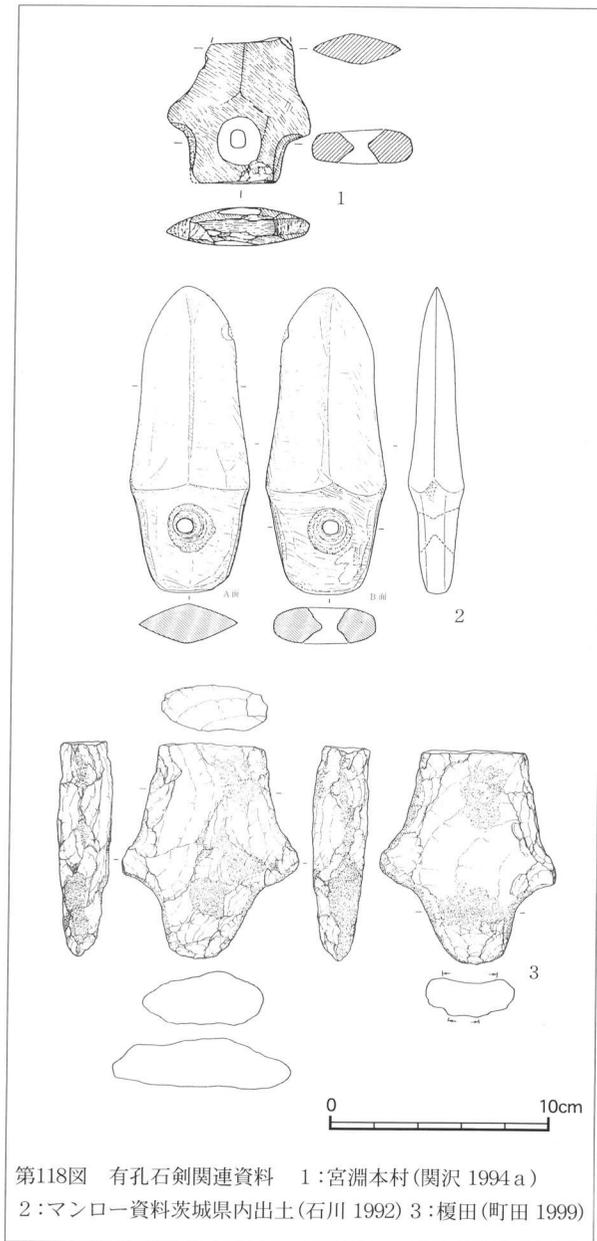
さて緑色凝灰岩製管玉は最大長13.6mm、最大径2.9mmで、やや細身の管玉である。同時期では長野市松原遺跡や春山B遺跡等で出土する。長野盆地出土の緑色凝灰岩製管玉については、形態的な特徴の把握はもとより流通経路についても研究は進んでおらず、今後の課題である。



第117図 太形給刃石斧幅厚比



第116図 太形給刃石斧長幅比



第118図 有孔石剣関連資料 1:宮淵本村(関沢 1994 a)  
2:マンロー資料茨城県内出土(石川 1992) 3:榎田(町田 1999)

### 有孔石剣 (写真33a～c)

写真33a～cの有孔石剣は西一本柳III・IV次調査のH44住居跡から出土し、栗林式でも石川編年2式新段階に相当する器形と文様モチーフをもつ土器群が伴う。同住居跡からは他に有茎鎌・磨製石鎌・打製刃器類・打製石斧が出土する。

この有孔石剣の重要な特徴は、写真33bにあるように、左側辺部は敲打で面が形成され、右側辺は写真33cにあるように研磨で器体を薄くし、研ぎ出しがなされていることである。この左右の異なる加工は左右非対称形を生み出す結果ともなり、写真33bの点線の中軸線を境として、やや右反りになっていることがわかる。

この左右非対称形の重要性は学史的に有孔石剣の系譜を論じるうえで欠かせない材料である。かつて石川日出志氏はマンローコレクションの資料に触れる中で、坪井清足氏の「石戈原型説」(坪井1960)を支持し、長野県松本市の宮淵本村表採例(第118図-1)は、関が強く張り出し、茎部が明瞭、そして茎下部のラインと関の突出が平行しない点などを指摘しながら、

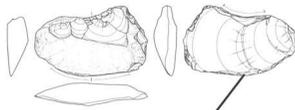
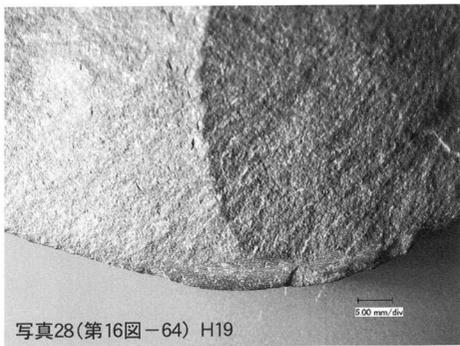


写真28撮影箇所



写真31(第35図-16) H52

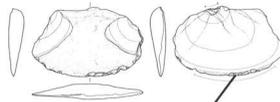
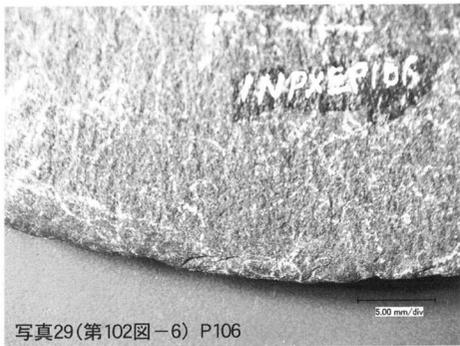


写真29撮影箇所

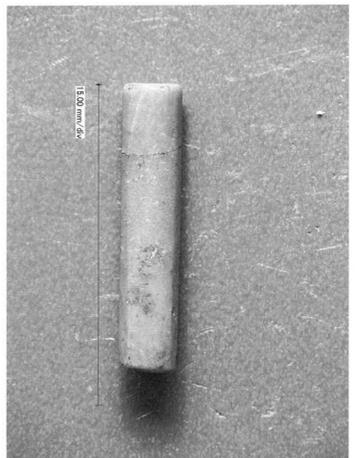


写真32(第63図-11) H88

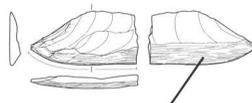
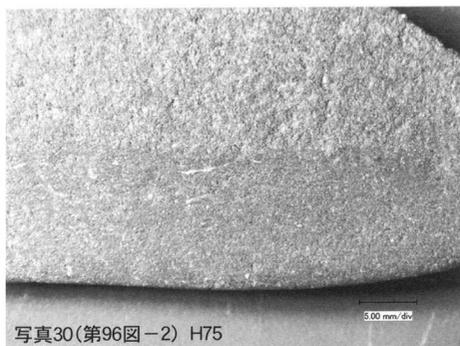


写真30撮影箇所

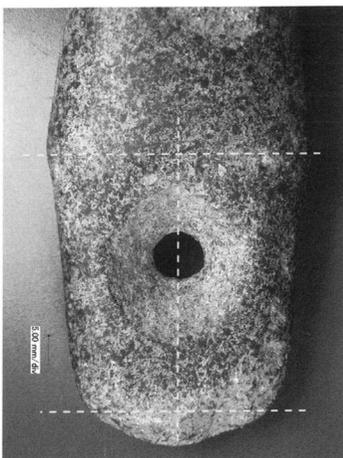


写真33 a

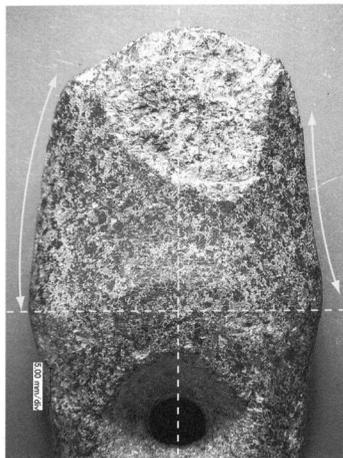


写真33 b

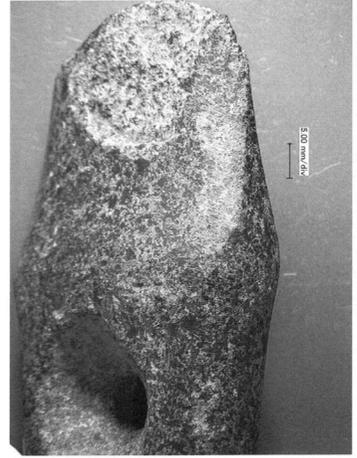


写真33 c

戈の形態をよくとどめている」有孔石剣と指摘する。この資料の石材は閃緑岩と報告されている（関沢1994）。

次に、石川氏が提示したマンロー資料の有孔石剣（第118図-2）は茨城県内発見資料と伝えられるものであり、石材は輝緑岩で「くすんだ濃緑色」と報告されている（石川1992）である。この有孔石剣は宮淵本村表採例とは対照的に身部が左右対称形で、関は左右にやや張り出した先端部分にしかもはやとどめていない。そして関の痕跡に相当する両側辺の突出部と茎部下辺はほぼ並行する。このような点から、本例は宮淵本村例から形態変化がより進んだ一例と理解できよう。

次に、未成品の例であるが、第118図-3の榎田遺跡出土例について見てみたい。剥離で全体を整形したのち、茎部分とその両側辺を中心に敲打整形が行われる。茎中央の敲打痕は穿孔準備のための敲打整形である。完成品ではないので鏝の有無は不明であるが、先の宮淵本村表採例と同様、茎下部のラインと関の突出が平行しない点、茎部が左右非対称形である点で、宮淵本村表採例と同型式に属する。

では、これら前例と比べ、西一本柳遺跡出土の有孔石剣はどのように位置づけられるのであろうか。結論から言うと西一本柳遺跡出土の有孔石剣は、系統的に、宮淵本村表採例とマンロー資料のちょうど中間位置に相当する資料と考える。石戈の関部が側辺の突出部にしか痕跡をとどめていない点、茎部下辺と側辺の突出部のラインが並行する点は、マンロー資料と同じである。ただ、一点異なるのは、身部の左右非対称形である。左側辺は敲打で面形成、右側辺は研磨で器体を薄くし研ぎ出す、という明瞭な加工の違いは左右非対称形につながる行為である。これは第118図-1の宮淵本村表採例の身部の左右非対称形の系譜を直接引く特徴と理解することができる。したがって、冒頭にも言及したように、石戈が変形する過程における宮淵本村表採例とマンロー資料の中間的な位置に置くことの出来る有孔石剣であると考えることができよう。

なお、もう一点、西一本柳遺跡で出土したことで重要な点は、本例が長野県内発掘出土品として確認された有孔石剣の数少ない一例であるという点である。石戈は既に松原遺跡等でも出土が確認されているが、宮淵本村例は表採品であり（関沢1994a）、石川日出志氏が論文の中で触れた長野県内出土の有孔石剣の大半は表採品である（石川1992）。西一本柳遺跡の発掘調査で完成品が出土し、さらに長野市榎田遺跡の石川編年栗林2式新段階の住居跡から第118図-3の未成品が出土したことからも、中期栗林期の製作はほぼ確実といえよう。

## 打製石斧（打製石鋏）

X次調査では合計9点の打製石斧が出土し、そのうち板状の輝石安山岩製が7点である。中期後半栗林期と後期箱清水期の住居跡から出土する。

第13図-20の刃部断片からは、刃縁が摩耗していることが確認できる。第77図-6の打製石斧は全体形が「く」の字状に屈曲するデザインをもち、主体となる長方形のデザインをもつ打製石斧とは異なる装着が考えられるため（池谷・馬場2003）、注意が必要である。第109図-42は出土した打製石斧のなかでも大形の部類に入る基部断片で、側辺の敲打整形が明瞭である。推定復原全長は15cm前後になるうか。

これら輝石安山岩製打製石斧は、後家山遺跡のM1号溝から箱清水式をとともに出土し、弥生後期段階にまで存続することが佐久平においては確認されている（富沢2004）。なお、輝石安山岩製で20cm近くの大形品の破片が弥生前期後半、氷II式段階の土坑から出土する（森泉2004b・馬場2004b）。栗林期の集落出土例は、確実な共伴事例が抑えられないため、不明である。

## スクレイパー・使用痕のある剥片・二次加工のある剥片

本稿では、スクレイパーを「一つの辺に、人為的な同一剥離面が連続的に認められ、なおかつ刃部に相当するエッジが形成されている」と定義し、使用痕のある剥片を「人為的な加工により生じた剥離面ではなく、エッジをもつ辺に微細な剥離がうろこ状に重なる」と定義し、二次加工のある剥片を「人為的な剥離が、刃部以外の部分に認められるもの」と定義する。

X次調査では、スクレイパーは5点（第76図-41・第41図-23・第98図-11・試掘8・40）、使用痕のある剥片は1点（第36図-11）、二次加工のある剥片は5点（第26図-54と55・第47図-12・第108-9・Bう6）である。第26図-54と第108図-9は二次加工により折り取られた痕跡を残す。（巻頭図版六を参照）

## 砥石・石皿

砥石と石皿をここでは一括して説明するが、面の状態を「比較的ざらついた湾曲する面（砥面と定義）をもち、線状痕を伴うことがある」と、「比較的平坦で、光沢を伴うこともある磨り面（磨面と定義）」で区分すると、X次調査から出土したこれら面をもつ石器は以下のように細分される。

- 1類・・大形で、扁平な大形河原石を素材とし、一面に平坦な磨面をもつ。アプライト製である。用途は不明だが、顔料の擦り潰し等の目的にも使用された石器と推定される。第69図-5、第76図-42の2点が該当する。いわゆる従来の石皿に該当する。
- 2類・・全体形は直方体状の形状をもち、なおかつ6面に砥面をもち、線状痕も部分的に認められる。凝灰岩製である。奈良・平安に見られる典型的な砥石の例で、金属工具の仕上げ砥として利用が推定される。H78・89-8・9、M15、W検、試83出土の6点が該当する。いわゆる従来の砥石に該当する。
- 3類・・大形で、素材の形状を留めかつ直方体状の形態をもち、2面あるいは3面に砥面が認められ、線状痕も部分的に認められる。そして磨面は2類に比べ大きく湾曲する。砂岩製である。弥生時代に一般的に見られる砥石であり、H78・89-10の線状痕は先の擦切石器の刃部幅にほぼ合致する。刃部のメンテナンス用であろうか。H78・79-10、第41図-22の2点が該当する。
- 4類・・小形で、扁平な河原礫を素材とし、部分的に磨面をもつ。砂岩製である。用途は不明である。第12図-34、第27図-12、H41-37、試掘出土の4点が該当する。
- 5類・・小形で、表裏側面に砥面が認められるが、縁辺の使用摩耗が最も進展し、断面が菱形となる。砂岩製が主体である。用途は不明であるが、磨製石鏃用の砥石となんら関係があるのではないかと推定する。X次調査では数量的にまとまって出土する。磨製石鏃製作遺跡との関連性を追及するのが今後の課題である。H2-9、第12図-33、第14図-60、第35図-15、第51図-54、第58図-21、第58図-20、第51図-54、W1-5検出土の7点が該当する。  
※図に示してない遺物は図版に写真のみ掲載してある。

## 2. X次調査出土石器の時期についての検討

### ①黒曜石製石器の時期について

第73表の黒曜石製石器群の遺構別組成表を参照しながら検討してみたい。今回のX次調査において、栗林期の住居跡はM8溝東側の調査区東側に偏る傾向にある。X次調査のM12溝は北東側に行くVIII次・IX次のM6溝（森泉2003・2004）に繋がりと、南東側に行くIII・IV次のM8溝（小林1999）に繋がるものと推定される（本報告第101図参照）。V次調査のM5（森泉2001）は、連続的には繋がらないものの、溝の形状の類似点より、前者の溝に連なるであろう。

冒頭にも触れたが、過去の調査を振り返ると栗林期の住居跡はこれら溝の内側に集中して検出される傾向にあるため、この溝はいわゆる「環濠」機能をもつ溝であると考えられる（森泉2003）。

今回のX次調査のM12溝東側の区域が環濠内に相当するが、この区域の栗林期住居跡から多数の黒曜石製剥片・石核・原石が出土する。区域のなかでも多数の黒曜石製石器群を出土したH17～H19・H21～H25の区域は他時期の住居跡との重複がほとんど認められない栗林期住居跡である。

この住居跡区域とこれ以外を比較した場合、第73表からH17～H19・H21～H25の区域が黒曜石製石器群を最も出土する区域であることを確認でき、一方、栗林期住居跡の少ない区域では、黒曜石製石器群の出土が少ないこと、この二点を黒曜石製石器群が栗林期に帰属する遺物である可能性の高さの材料とする。同市後家山遺跡の弥生後期箱清水期出土の遺構からの黒曜石製石器群の出土は少なく、やはり中期栗林期の遺構から多く出土することが判明している上に、溝内の層位的な出土状態の裏付けもあることから黒曜石製石器群は中期栗林期に帰属するものとの所見を得ている（富沢2004・馬場2004c）。したがって、現段階の遺物の共伴関係等からみて、黒曜石製石器群の大半は、弥生中期栗林期に帰属するものであると判断できる。

### ②磨製石鏃の時期

弥生後期の住居跡であるH27・H34・H48・H77の4棟より剥片・裂片等合わせ20～80点近くの出土がある（第74表）。H

48の住居跡床面からは剥片・裂片のほかに未成品が多数出土する。弥生後期段階での磨製石鏃製作は疑いようもない。

問題は中期栗林期に製作されているか否かである。弥生中期・後期の複合遺跡以外でこれを確認してみると、佐久市内で既に調査された遺跡で磨製石鏃の製作跡が明瞭であるのは久瀬添遺跡の弥生後期住居跡H1・H17・H18で、栗林式が出土しておらず弥生後期単純の遺跡である（上原2002）。後期の住居跡遺構が多く検出した後家山遺跡では、未成品2点、完成品1点が出土する。一方、弥生中期栗林期では、対照的に完成品の出土が確認できるものの、こと未成品を伴う製作跡となると確認ができない。石川編年栗林2式新段階相当の佐久市五里田遺跡では、栗林期の住居跡が43棟検出しているにもかかわらず、完成品の磨製石鏃が1点出土しているのみで、黒曜石製有茎鏃が石鏃の大多数を占める。また同市川原端遺跡も同様に、栗林期の住居跡13棟の検出に対し、磨製石鏃の出土は1点である。

このように栗林期主体の遺跡を点検すると、磨製石鏃の出土は極めて少ない実態が判明する。西一本柳遺跡のX次調査分の弥生中期の住居跡覆土から確かに磨製石鏃未成品が出土しているが、H48住居跡のように住居跡床面からは検出されていない。また、H27・H34・H48・H77のように剥片・裂片がまとまって出土することもない。

以上、住居跡床面からの出土確認できない点と、そして同市の他遺跡の栗林期集落で磨製石鏃の製作痕跡が認められない実態を考慮すれば、佐久平において栗林期に磨製石鏃が製作されていたという推定は再検討を要する。この問題は事例を増やし検討する課題であるので、現段階では栗林期の製作を否定する材料が多いことだけを言及するに留めておきたい。

### 3. まとめ

以上の各検討のなかで明らかになったことを以下に記述し、まとめにかえることにする。

1. 本調査および過去の調査で出土した黒曜石の産地分析の結果、有茎鏃が諏訪星ヶ台群に、凹基鏃・平基鏃が和田鷹山群に結びつく傾向が認められた。これは同市後家山遺跡と同様の傾向である。また、和田鷹山群に有茎鏃が2点初めて認められた。凹基鏃・平基鏃は長野県内において縄文後期以前に顕著である点から、西一本柳遺跡や後家山遺跡等の弥生時代集落出土の凹基鏃・平基鏃は、縄文時代後期以前の所産であると推定する。なお、縄文時代から弥生時代にかけての鷹山産黒曜石および原産地遺跡の利用の姿の復元には、和田鷹山群の分布や時期幅を今後もデータから抑える必要がある。また下呂石製有茎鏃が過去の調査で1点出土していることが確認された。下呂石製石核や素材剥片が出土していないため、搬入品であると考えられる。下呂石製有茎鏃は長野県内各地で散在しており、伊勢湾から東美濃・飛騨地域との交流を示す材料となろう。
2. 磨製石鏃の一連の製作工程品が出土した。その製作工程のなかで、第二工程の素材分割技術に擦切単独あるいは擦切と研磨加工が合わさって直接磨製石鏃の素材となる剥片を分割する方法が認められた。そして西一本柳遺跡の磨製石鏃製作には、I～IIIの作業段取りに象徴される磨製石鏃製作技法の構造が存在する一方で、技法を構成する各工程において、剥離加工工程が存在するものとなないものがあり、実施される工程内容に変異があることも注目すべきことである。
3. 西一本柳遺跡の磨製石鏃の素材分割には擦切加工が認められ、その擦切具としての擦切石器が出土している。擦切石器は不定形な横長剥片を素材とし、刃部には横方向の線状痕と磨耗痕が認められ、刃部の対辺には刃潰し加工やノッチ状の剥離がある。この加工は保持や装着のためのものであろう。
4. 黒曜石製石器群の帰属時期は弥生中期栗林期、磨製石鏃の帰属時期は弥生後期箱清水期であることを、遺構出土状態や磨製石鏃製作跡と近隣の弥生集落の共存関係をもとに推定した。
5. 太形蛤刃石斧は全て変質輝緑岩製で、「榎田型太形蛤刃石斧」の特徴が認められる石斧である。未成品は認められず、全て長野盆地からの搬入品と考えられる。破損品は石鎚に転用されているものが多い。報告書写真に見る限り、佐久平の弥生集落には変質輝緑岩製の太形蛤刃石斧が多数出土しているため、今後型式学的な特徴を追究していく必要がある。
6. 過去の調査で出土した有孔石剣は、松本市宮淵本村表採の石戈の原型をよくとどめた有孔石剣と、マンロー資料のなかの茨城県内出土資料との系統関係において、中間的な位置に置かれる有孔石剣であることが判明した。
7. 西一本柳遺跡は佐久平の中期栗林期弥生集落のなかで、環濠をもつ集落であることを改めて確認した。集落の構造的な復原は今後の課題であるが、集落の性格も踏まえ、今後弥生石器を分析していく必要がある。

(馬場伸一郎)

(注1) 明治大学黒耀石研究センターの山科哲氏によると、この問題に対し次のような予測を立てている。ひとつは星糞峠一帯の出土土器から想定できる、利用される原産地の時期的な違い、いわば産地推定分析例の少ない時期に和田鷹山群の頻度が高い、という可能性である。もうひとつは、黒耀石の流通ルートや流通するエリアの違いで、産地推定分析例の少ない、ある特定のエリアおよびそのエリアへのルート上の遺跡で、和田鷹山群の出現頻度が高いという可能性である。いずれにしても、産地推定分析例を増やすことが不可欠である。

#### 引用文献 (本文引用文献のみに限定した)

- 安蒜政雄・宮本淳一ほか1999『鷹山遺跡群III』長門町教育委員会・鷹山遺跡群調査団  
池谷勝典・馬場伸一郎2003「弥生時代飯田盆地における打製石鏃の用途について」『第6回中部弥生時代研究会発表要旨集』  
石川日出志1992「N. G. マンロー資料中の「有孔石剣」と「石庖丁」」『考古学雑誌』78-1, 118-125頁  
石川日出志2002「栗林式土器の形成過程」『長野県考古学会誌』99・100, 54-80頁  
市川隆之2002「箕輪遺跡の発掘について」『信濃考古』No. 169 長野県考古学会  
上原学2002『久瀬遺跡』佐久市埋蔵文化財調査報告書第97集 佐久市教育委員会  
小島幸雄・笹澤正史2002『吹上遺跡発掘調査概要報告書』上越市教育委員会  
小林眞寿1999『西一本柳遺跡III・IV』佐久市埋蔵文化財調査報告書第73集 佐久市教育委員会  
桜井弘人1986「磨製石鏃」『恒川遺跡群 遺物編』飯田市教育委員会, 84-87頁  
佐々木嘉和・山下誠一ほか1986『恒川遺跡群』飯田市教育委員会  
佐々木宗昭ほか1994『西一本柳遺跡I』佐久市埋蔵文化財調査報告書第34集 佐久市教育委員会  
関沢聡1994「松本平東部における弥生時代の石製武器について」『中部高地の考古学』IV, 201-217頁  
坪井清足1960「宝器的な石剣」「角の生えた石斧」『図説世界文化史大系第20巻』角川書店, 155頁  
富沢一明2004『後家山遺跡・東久保遺跡・宮田遺跡I・III』佐久市埋蔵文化財調査報告書第121集, 555-568頁  
長野県教育委員会1982『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書-茅野市その5-昭和52・53年度』  
長野市教育委員会1988『宮崎遺跡』長野市の埋蔵文化財第28集  
賛田明ほか2003『板敷野遺跡』木曾福島町教育委員会  
馬場伸一郎2003a「榎田型磨製石斧の再検討」『埼玉考古』38 埼玉考古学会, 103-117頁  
馬場伸一郎2003b「石材・技法・石器の種類からみた長野の弥生時代石器」『第7回中部弥生時代研究会発表要旨集』, 33-42頁  
馬場伸一郎2004a「弥生時代長野盆地における榎田型磨製石斧の生産と流通」『駿台史学』120, 1-47頁  
馬場伸一郎2004b「佐久市東五里田遺跡から出土した弥生前期石器群について」『東五里田遺跡』佐久市教育委員会, 34-40頁  
馬場伸一郎2004c「後家山遺跡出土の弥生黒曜石製石器群の検討」『後家山遺跡・東久保遺跡・宮田遺跡I・III』佐久市埋蔵文化財調査報告書第121集, 555-568頁  
樋口昇一1967『佐野』長野県考古学会研究報告書3  
樋口昇一・小口英一郎・上條信彦ほか2003『熊久保遺跡第10次調査発掘報告書』朝日村教育委員会  
広田和穂ほか2003『小島遺跡』三岳村教育委員会  
町田勝則1999「第V章 第2節石器・玉類・紡錘車」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12 榎田遺跡第二分冊』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書37  
百瀬忠幸2002『下在I遺跡』大桑村教育委員会・木曾広域連合  
森泉かよ子2001『西一本柳V・VI・中長坂塚I・II・松の木I・II』佐久市埋蔵文化財調査報告書第91集  
森泉かよ子2003「第V章総括」『西一本柳遺跡VIII』佐久市埋蔵文化財調査報告書第109集, 252-253頁 佐久市教育委員会  
森泉かよ子2004a『西一本柳遺跡IX』佐久市埋蔵文化財調査報告書第113集 佐久市教育委員会  
森泉かよ子ほか2004b『東五里田遺跡』佐久市埋蔵文化財調査報告書第117集 佐久市教育委員会  
山科哲ほか2003『鷹山遺跡群VI』長門町教育委員会・鷹山遺跡群調査団



第74表 磨製石鏃の遺構別出土状況

時期	遺構番号	穿孔工程	块り部研磨 加工工程	研磨加工工程	剥離加工工程	素材分割工程 (折り取り)	素材分割工程 (擦切)	剥片・裂片	素材準備工程 (原石・ブランク)	備考
古墳後期	H1							1		
奈良	H3		1							
奈良	H7							2		
古墳中期	H9		1			1		3		
弥生中期	H11							1		
古墳中期	H12	1						3		
古墳中期	H13			1	1			1	1	
古墳中期	H14							1		
古墳後期	H15			1						
弥生中期	H17			4			1	3	1	
弥生中期	H18			1						擦り切り剥片素材か。
弥生中期	H19			1		1		2		
古墳中期	H20				1			1		
弥生中期	H21			1						
弥生中期	H25								1	
古墳後期?	H26			1						
弥生後期	H27			5	4	1	1	8		
弥生中期	H29			2	1			1		
古墳後期	H30								1	
古墳中期	H31			1	1					
平安	H32			2				3		
弥生後期	H34				1		1	24	1	
弥生中期?	H35									
平安	H37	1						3	1	
奈良	H38			3	1			7		
弥生後期	H39								1	
弥生中期	H40							1		
平安	H41			1				3		
弥生中期	H44				1					
弥生中期	H47					1				
弥生後期	H48	1		5	2	3		77	6	
奈良	H53				1			2		
奈良	H54							2		
古墳後期	H57					2		1		
古墳後期	H58							1		
奈良	H63				1					
弥生中期	H66			1						擦り切り痕。
古墳後期	H67			1				1		
奈良	H68			1						
弥生中期	H69			1						
古墳中期	H71							1		
奈良	H72							1		
奈良	H74									
古墳後期?	H75								1	
弥生後期	H77	1		5	4	14		41	1	
弥生中期	H79				1					
弥生後期	H80							1		
奈良	H78	1								
弥生後期	H80					1		1		
奈良?	H85							1		
弥生中期	H86			1				4	1	
弥生後期	H88					1		2		
弥生中期	H92					2		1		
古墳中期	H93							1		
古墳後期	H95				2			3		
奈良	H102								1	
奈良平安	H102・103				1			1		再加工か?。
平安	H103				1	1				
弥生後期	H105							1	1	
弥生中期	3・4住				1					
奈良	6住				1					
弥生後期	13号住					1				
奈良平安	M2							2		
	M7								1	
古墳中期	M8	1				1				
平安	M10					1				
古墳後期	F4							1		
	P126			1						
	WP2				1					
	WP4								1	
	グリッド			1	1	1			1	
	表探			1				1		
	試掘			2			1	2	3	
合計		4	4	44	28	32	4	217	24	

単位は点数

第75表 磨製石鏃属性表(1)

第114図・ 115図の 実測図番号	出土地点	遺構所属年代	アール器種	工程	完成品の 形態部分類 (図113参照)	アール石材 (肉頭鑑定)	刃部使用痕 (肉眼)	刃部・縁刃 整形加工	器体加工	素材の種類	素材の打面	備考	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
	H3 検出	奈良 弥生中期	磨製石鏃		l' b d	粘板岩		研磨	研磨・穿孔	不明	不明		185	102	15	0.5
	H5I 区	奈良 弥生中期	磨製石鏃		l b d	粘板岩		研磨	研磨・穿孔	不明	不明		250	175	20	0.8
	H7.IV区1層	奈良	磨製石鏃		l b d	凝灰岩		研磨	研磨・穿孔	不明	不明		145	210	15	0.5
45	H9	古墳中期	磨製石鏃未成品	挟り部研磨	-	緑色片岩	なし	研磨	挟り研磨	不明	不明		460	153	25	20
42	H15I区1層	古墳後期	磨製石鏃未成品	研磨	-	緑色片岩	なし	研磨	研磨	不明	不明		355	214	28	2.7
	H15I区2層	古墳後期	磨製石鏃未成品	研磨	-	粘板岩		研磨・剥離	研磨・剥離	不明	不明	研磨後の剥離加工あり。	410	260	35	4.4
14	H17.No.11	弥生中期	磨製石鏃	素材分割	l' b-	粘板岩		研磨	研磨・穿孔	不明	不明	研磨で方形状に素材を整え、縁刃線を入れる。	350	130	20	1.1
	H17.No.3	弥生中期	磨製石鏃		l b d	粘板岩		研磨・磨切	研磨・磨切	不明	不明		520	420	35	9.1
	H19	弥生中期	磨製石鏃		l' b d	粘板岩		研磨	研磨・穿孔	不明	不明		315	150	20	1.0
	S	弥生中期	磨製石鏃	研磨	l' b d	粘板岩		研磨	研磨	不明	不明		200	120	20	0.5
13	H27	弥生後期	磨製石鏃未成品	研磨	l' b d	粘板岩		研磨	研磨	不明	不明		520	232	43	60
27	H27	弥生後期	磨製石鏃未成品	素材分割	-	黄岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		193	139	27	0.8
25	H27.II区2層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		316	113	30	1.4
22	H27.II区1層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	黄岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		272	201	4.4	2.3
24	H27.II区2層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		366	100	4.4	2.2
23	H27.II区3層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		251	170	8.2	4.3
19	H27.II区1層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	なし	不明	不明		395	194	3.6	2.8
34	H27.II区2層	弥生後期	磨製石鏃未成品	研磨	-	緑色片岩	なし	研磨	研磨	不明	不明		262	134	1.9	0.8
38	H27.II区1層	弥生後期	磨製石鏃未成品	研磨	-	緑色片岩	なし	剥離・研磨	剥離・研磨	不明	不明		497	292	3.8	6.3
28	H27.II区1層	弥生後期	剥片		-	緑色片岩	なし	なし	なし	不明	不明		193	99	1.7	0.4
41	H27.II区3層	弥生後期	磨製石鏃未成品	研磨	l b d	緑色片岩	なし	研磨・剥離	研磨	不明	不明		188	140	2.4	0.7
	H27.II区1層	弥生後期	磨製石鏃未成品	研磨	l b d	粘板岩		研磨	研磨	不明	不明		300	180	30	1.6
	H29.アトL	弥生中期	磨製石鏃	剥離	l b d	粘板岩		剥離	剥離	不明	不明		360	205	20	1.7
	H31.P.3	古墳中期	磨製石鏃	剥離	l' b d	粘板岩		研磨	研磨	不明	不明	研磨後の剥離あり。	255	175	20	1.5
	H32.II区	平安	大形磨製石鏃		b d	粘板岩		研磨	研磨・穿孔	不明	不明		260	180	25	0.9
	H32.No.5	平安	磨製石鏃未成品	研磨	l' b d	粘板岩		研磨	研磨	不明	不明		320	160	20	1.5
	H34.I区	平安	大形磨製石鏃		不明	緑色片岩		研磨	研磨	不明	不明		300	210	25	2.1
33	H32IV区	平安	磨製石鏃未成品	研磨	不明	緑色片岩		剥離	剥離	不明	不明		573	211	4.4	6.3
16	H38.検出	奈良	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		271	201	3.2	2.4
40	H38I区	奈良	磨製石鏃未成品	研磨	l a d	緑色片岩	なし	剥離・研磨	剥離・研磨	不明	不明		200	140	15	0.5
	H41	平安	磨製石鏃未成品	研磨	l b d	凝灰岩		研磨・磨切	研磨・磨切	不明	不明		420	280	40	6.7
	H41 検出	平安	磨製石鏃未成品	研磨	l b d	粘板岩		研磨	研磨	不明	不明		250	170	15	0.8
	H47.I区	弥生中期	磨製石鏃	研磨	l b d	粘板岩		研磨	研磨・穿孔	不明	不明	右側面に折り取り面。	240	210	20	1.2
10	H47 検出	弥生中期	磨製石鏃素材剥片	研磨	l b d	粘板岩	なし	なし	折り取り加工	不明	不明		285	99	20	0.9
18	H48V区2層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	なし	不明	不明		326	232	47	4.3
3	H48V区2層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	なし	不明	不明	右側面に2mm程度の細い工具による打撃痕あり。分割のためであるか。	682	205	11.4	22.7
17	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃素材剥片	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		400	194	5.1	4.3
5	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃素材剥片	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		305	281	6.2	6.8
7	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃素材剥片	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		516	315	39	95
30	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃素材剥片	剥離	-	緑色片岩	なし	なし	折り取り加工	不明	不明	左側面に折り取り面。	622	147	19	1.9
8	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃素材剥片	剥離	-	緑色片岩	なし	なし	折り取り加工	不明	不明	右側面に折り取り面。	459	88	47	2.2
26	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃素材剥片	剥離	-	緑色片岩	なし	なし	折り取り加工	不明	不明	左側に折り取り面。	308	104	23	0.6
11	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明	分割前の研磨整形あり。	260	155	25	0.8
29	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	なし	不明	不明		311	159	34	20
31	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	なし	不明	不明	左側面に研磨加工。	37.7	161	32	2.4
32	H48V区床	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	なし	不明	不明		362	71	6.6	2.3
9	H48I区2層	弥生後期	磨製石鏃素材剥片	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明	素材分割前の研磨整形痕あり。	278	134	18	10
39	H48IV区床	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	粘板岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		279	176	25	1.5
44	H48V区4層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	粘板岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		220	98	16	0.5
47	H48V区1層	弥生後期	磨製石鏃未成品	剥離	-	緑色片岩	なし	剥離	剥離	不明	不明		245	161	24	0.8



第76表 西一本柳遺跡 各調査区の産地推定結果

Ⅹ次調査	有茎鐵	有茎鐵未成品	凹基鐵	平基鐵	石鐵断片	石鐵未成品	石錐	スクレイパー	二次加工剥片	兩極石器・剥片	剥片	石核	原石	合計	備考
諏訪星ヶ台群		1	1			1	2		8	1	23	8	4	49	有舌尖頭器 1点
和田鷹山群			1	1						1	3		1	7	
和田土屋橋北群													1	1	
和田土屋橋西群											1			1	
和田土屋橋南群	1		1								1			3	
和田芙蓉ライト群								1			9	2		12	
和田小深沢群														0	
和田ブドウ沢群											1			1	
浅間山千ヶ滝群												7		7	

Ⅸ次調査	有茎鐵	有茎鐵未成品	凹基鐵	平基鐵	石鐵断片	石鐵未成品	石錐	スクレイパー	二次加工剥片	兩極石器・剥片	剥片	石核	原石	合計	備考
諏訪星ヶ台群	1		2								1			4	
和田鷹山群			1	1										2	
和田土屋橋北群														0	
和田土屋橋西群														0	
和田土屋橋南群														0	
和田芙蓉ライト群														0	
和田小深沢群														0	
和田ブドウ沢群														0	
浅間山千ヶ滝群														0	

Ⅶ次調査	有茎鐵	有茎鐵未成品	凹基鐵	平基鐵	石鐵断片	石鐵未成品	石錐	スクレイパー	二次加工剥片	兩極石器・剥片	剥片	石核	原石	合計	備考
諏訪星ヶ台群	3		3						1	3	11			21	
和田鷹山群					1			1			1			3	
和田土屋橋北群														0	
和田土屋橋西群			2								2			4	
和田土屋橋南群														0	
和田芙蓉ライト群														0	
和田小深沢群														0	
和田ブドウ沢群														0	
浅間山千ヶ滝群												3		3	

Ⅰ次・Ⅱ次調査	有茎鐵	有茎鐵未成品	凹基鐵	平基鐵	石鐵断片	石鐵未成品	石錐	スクレイパー	二次加工剥片	兩極石器・剥片	剥片	石核	原石	合計	備考
諏訪星ヶ台群	4		5		1				1		1			12	石鐵? 1点
和田鷹山群	2		1											3	
和田土屋橋北群														0	
和田土屋橋西群	1											2		3	
和田土屋橋南群	1												1	2	
和田芙蓉ライト群		1												1	
和田小深沢群	1													1	
和田ブドウ沢群														0	
浅間山千ヶ滝群														0	

第77表 長野県内の産地推定結果の比較

第77表 a 遺跡別産地構成

地域	遺跡名	時期	測定対象条件	諏訪星ヶ台群	和田鷹山群	和田土屋橋北群	和田土屋橋南群	和田土屋橋西群	和田高松沢群	和田小深沢群	和田芙蓉ライト群	和田ブドウ沢	琴科冷山群	浅間千ヶ滝群	神津島恩馳島	文献
木曾	三岳村 小島遺跡	縄文前期末～中期後葉	一部	58	3											広田ほか 2003
松本	朝日村 熊久保遺跡	縄文中期前葉～後葉	一部	354	3	1										樋口ほか 2004
木曾	木曾福島町 板敷野遺跡	縄文中期後葉～後期初頭	全点	236	3											糞田ほか 2003
佐久	佐久市 東五里田遺跡	弥生前期	全点	28					1							森泉ほか 2004b
佐久	佐久市 後家山遺跡	弥生中期後半～後期後半	全点	195	10	3	1	1				3				富沢ほか 2004
佐久	佐久市 西一本柳遺跡	弥生中期後半～後期後半	全点	86	15	1	5	8		1	13	1		10		本報告
佐久	佐久市 東久保遺跡	弥生後期後半	全点	4	2											森泉ほか 2004b

単位:点

第77表 b 諏訪星ヶ台群の器種内訳

地域	遺跡名	時期	有茎鐵(未成品含)	凹基鐵(未成品含)	平基鐵	石鐵未成品	石鐵断片	石錐(未成品含)	削器・搔器	使用痕剥片・刃器	二次加工剥片	剥片・裂片	兩極石器類	石核(断片含む)	原石(断片含む)	その他	合計(点)
木曾	三岳村 小島遺跡	縄文前期末～中期後葉		3		7		2	1	4		38	1	1	1		58
松本	朝日村 熊久保遺跡	縄文中期前葉～後葉		2				5		109		180	4	2	2		304(注1)
木曾	木曾福島町 板敷野遺跡	縄文中期後葉～後期初頭	1	60	1			12	8	70		33	8	31	3	9	236
木曾	三岳村 下在1遺跡	縄文早期後半～晩期末～弥生前期	1	1	1	1											4
佐久	佐久市 東五里田遺跡	弥生前期	2	1		3					1	16	4	1			28
佐久	佐久市 後家山遺跡	弥生中期後半～後期後半	15	6		7	1	4		5	4	102	11	24	15	1	195
佐久	佐久市 西一本柳遺跡	弥生中期後半～後期後半	9	11		2		2			10	36	4	8	4		86
佐久	佐久市 東久保遺跡	弥生後期後半					1					2				1	4

注1) 望月氏分析合計は 354 点だが、報告書掲載の属性表 304 点分のみの結果を提示している。

第77表 c 和田鷹山群の器種内訳

地域	遺跡名	時期	有茎鐵	凹基鐵	平基鐵	石鐵未成品	石錐	削器・搔器	兩極石器類	剥片・裂片	原石	その他	合計(点)
木曾	三岳村 小島遺跡	縄文前期末～中期後葉								3			3
松本	朝日村 熊久保遺跡	縄文中期前葉～後葉					1		1	1			3
木曾	木曾福島町 板敷野遺跡	縄文中期後葉～後期初頭		1					1	1			3
木曾	三岳村 下在1遺跡	縄文早期後半～晩期末～弥生前期											1
佐久	佐久市 後家山遺跡	弥生中期後半～後期後半		5	1	3				1			10
佐久	佐久市 西一本柳遺跡	弥生中期後半～後期後半	2	3	2		1	1		4	1		13
佐久	佐久市 東久保遺跡	弥生後期後半		1								1	2

第77表 I N P X 竪穴住居址一覽表 (1)

遺跡名	旧遺跡名	出土位置	時代	形態	南北長	規模 (cm・m)		土層方位	カマド・竈	柱	備考
						東西長	面積				
H1	EH1	B-8	古墳後期	長方形	554	15~44	678	N-8° W	北	柱3 他1	東側調査 INP Ⅱ H54、INP Ⅲ・Ⅳ H91と同一住居、D1に切られ、H33を切る。 H3・5・49、F1、車P55を切る。
H2	EH2	B-7	奈良	方形	357	26~38	121	N-1° E	北	柱2 他3 床下1	H2・M1に切られる。
H3	EH3	B-7	奈良	方形	521	3~57	276	N-11° W	北	柱2 他2 床下2	H3、M1に切られる。
H4	EH4	B-7	古墳後期	—	350	3~46	—	N-11° W	北	柱2 他1 床下2	H3・3、F1、車P55・56・57に切られ、H49を切る。 北側調査。
H5	EH5	B-7	弥生中期	—	699	312	4~23	—	—	柱2 他4	M1に切られ、車P39を切る。 P5はカマド跡か? M1・2に切られる。 M2に切られ、H11を切る。 M3に切られ、H11・12を切る。
H6	EH6	B-19	弥生中期	—	(176、625)	400	0	N-11° W	—	柱2 他1	H9・10、D6、M2・3、車P41・47・48・50に切られる。 H10、M3・4、車P16・43・46・51・52、1号掘立跡に切られる。 北側調査、カクラに切られ、H50、車P130・131を切る。
H7	EH7	B-8	奈良	方形	514	472	33~48	N-3° W	北	柱2 他4 床下10	東側調査、F2、車P8・9・10・12・13に切られる。 南側調査、F1号住居址に切られ、H17を切る。 西側調査、H16に切られ、H18を切る。
H8	EH8	B-8	奈良	長方形	(273)	368	0~23	N-1° W	—	柱4 他2	東側一部調査、H17に切られる。
H9	EH9	B-6	古墳中期	方形	478	4~47	230	N-2° W	北	柱4 他2 床下1	中央部調査、車P59・60・61に切られる。
H10	EH10	B-6	奈良	方形	416	3~49	187	N-4° W	北	柱4 他4 床下4	西側調査、H21・51を切る。
H11	EH11	B-6	弥生中期	長方形	(560)	458	1~16	N-2° W	砂	柱2 他3 床下1	南側調査、H20、E2に切られ、H22を切る。
H12	EH12	B-8	古墳中期	方形	349	25~35	—	N-3° W	北	柱2 他2	H21、D2、車P88に切られる。
H13	EH13	B-7	古墳後期	—	(172)	(242)	10~28	N-3° W	北	柱2 床下1	東側調査、車P89に切られる。
H14	EH14	B-7	古墳後期	—	542	(180)	8~24	N-0°	—	柱2 他1	西側調査、F3、車P62・63、3号住居址、車P129に切られる。
H15	EH15	A-8	古墳後期	(方形)	(372)	32~46	—	N-12° W	北 (旧カマド)	柱2 床下11	東側調査、F4に切られ、H2を切る。
H16	EH16	A-7	弥生中期	円形	(368)	(376)	4~20	N-5° W	—	他1	西側調査、M4・車P67・90に切られ、M5を切る。
H17	EH17	A-7	弥生中期	隅丸長方形	824	585	9~31	N-10° W	砂	床下2	東側調査、F1に切られ、H2を切る。
H18	EH18	B-7	弥生中期	隅丸長方形	(780)	(368)	8~18	N-10° E	—	柱2 他6 床下10	東側一部調査、H17に切られる。
H19	EH19	B-2	弥生中期	隅丸長方形	(720)	456	6~16	N-10° E	砂	柱2 他3 床下1	中央部調査、車P59・60・61に切られる。
H20	EH20	A-10	古墳中期	方形	(568)	(544)	43~58	N-0°	(北)	柱2 他1 床下2	西側調査、H21・51を切る。
H21	EH21	B-2	弥生中期	方形	(484)	400	4~27	N-10° W	—	柱2 他6	南側調査、H20、E2に切られ、H22を切る。
H22	EH22	B-2	弥生中期	—	(360)	365	14~25	N-5° E	—	柱2 他2 床下2	H21、D2、車P88に切られる。
H23	EH23	A-10	弥生中期	長方形	416	(539)	6~20	N-14° W	—	床下5	東側調査、車P89に切られる。
H24	EH24	B-4	弥生中期	—	448	(232)	3~12	N-11° W	—	床下3	西側調査、F3、車P62・63、3号住居址、車P129に切られる。
H25	EH25	B-7	弥生中期	隅丸長方形	380	(386)	0~8	N-11° E	砂	柱2	東側調査、F4に切られ、H2を切る。
H26	EH26	A-7	古墳後期?	—	390	(86)	49~57	N-7° W	—	床下1	西側調査、M4・車P67・90に切られ、M5を切る。
H27	EH27	A-9	弥生後期	—	(336)	396	22~41	N-2° W	—	柱2 他4 床下10	南側調査、M7に切られ、H28を切る。
H28	EH28	A-9	弥生中期	—	488	(116)	8~25	N-27° W	—	柱2 他4 床下1	H27、D9、M7、車P112に切られる。
H29	EH29	A-5	弥生中期	—	(540)	(440)	17~41	N-7° E	砂・中央	柱2 棟持 床下2	中央部調査、H15に切られる。
H30	EH30	A-6	古墳後期	方形	(626)	572	39~48	N-1° W	—	柱2 他1 床下3	北側調査、H32、M9に切られ、H31・36・55、M8を切る。
H31	EH31	A-6	古墳後期	—	(748)	510	13~36	N-5° E	北	他3	北側調査、H30、32に切られ、H36・55、車P126を切る。
H32	EH32	A-6	平安	方形	(448)	458	36~47	N-6° E	—	柱2 他1	北側調査、H30・31・55を切る、M9に切られる。
H33	EH33	B-8	弥生後期	長方形	656	436	27~31	N-9° W	不明	柱3 他1	東側調査、INP・Ⅳ H106と同一住居、H1、D1に切られる。
H34	EH34	A-7	弥生後期	—	900	(232)	22.5~37.5	N-11° E	—	柱2 他3 床下5	東側調査、INP・Ⅳ H106と同一住居、H1、D1に切られる。
H35	EH35	A-7	弥生中期	—	384	(324)	4~21	N-16° W	—	柱2 他1 床下1	H34・54、F6、車P113・106に切られる。
H36	EH36	A-5	弥生中期?	—	(442)	(260)	0	N-10° E	—	他5	H30・31・55、M8、車P127・128に切られる。
H37	EH37	A-5	平安	方形	(418)	399	20~34	N-2° E	北	柱1 床下4	北側調査、1号土坑に切られ、H39を切る。
H38	EH38	A-5	奈良	長方形	338	460	30~46	N-4° E	—	柱2 他4 床下2	H39、12号住居址を切る。
H39	EH39	A-5	弥生後期	方形	(594)	(540)	7~13	N-20° E	—	柱2 床下1	中央部調査、H37・38・41、1号土坑に切られる。
H40	EH40	A-6	弥生中期	—	440	(136)	1~11	N-6° W	—	柱2 他1	南側調査、車P99、2号土坑に切られる。
H41	EH41	A-7	平安	方形	451	(400)	21~34	N-0°	北	柱2 床下3	東側調査、H39・42・53を切る。
H42	EH42	A-7	古墳後期	—	(124)	(120)	9~19	N-43.5° W	—	他2	北側調査、H41、車P116、2号土坑に切られる。
H43	EH43	A-7	弥生中期	長方形	(548)	(197)	2~12	N-18° W	—	柱1 他1 床下1	北側調査、H33に切られる。
H44	EH44	A-7	弥生中期	長方形	528	456	2~19	N-2° E	—	柱3 他1 床下5	南側調査、INP Ⅴ H81と同一住居、D7、M8に切られる。
H45	EH45	A-7	古墳後期	長方形	633	466	19~30	N-5° E	—	柱3 他4 床下1	南側調査、INP Ⅴ H60と同一住居、カクラに切られ、M8を切る。
H46	EH46	A-7	古墳後期	長方形	506	570	21~54	N-5° E	北	柱2 他1 床下1	南側調査、INP Ⅴ H62と同一住居、H48を切る。
H47	EH47	A-7	弥生中期	—	(310)	(228)	13~29	N-30° W	—	柱1 床下1	南側調査、H48に切られる。
H48	EH48	A-7	弥生後期	長方形	899	640	23~29	N-13° E	砂	柱3 他5 床下16	南側調査、INP Ⅴ H63と同一住居、H46、車P107に切られ、H47を切る。
H49	EH49	B-7	弥生中期	—	(232)	(40)	1~8	N-5° E	—	柱3 他1	H2・3・5、F1、車P55・56・57に切られる。
H50	EH50	B-7	弥生後期	—	(248)	(326)	0~20	N-5° E	—	柱3 他9	北側調査、H13、M2、車P130・131、カクラに切られる。
H51	EH51	A-10	弥生中期?	—	(552)	(132)	5~18	N-2° E	—	柱1 床下2	北側調査、H26に切られる。
H52	EH52	A-7	弥生中期	—	636	(175)	5~13	N-2° E	—	他3	西側調査、H26に切られる。
H53	EH53	A-3	奈良	長方形	(528)	5~13	—	N-8° E	北	柱1 他1 床下住居 柱1	北側調査、床下住居あり、H41に切られ、H43を切る。
H54	EH54	A-4	奈良	方形	296	284	12~50	N-3° E	北	柱2	H35を切る、車P106・113に切られる。
H55	EH55	A-5	弥生後期	—	(70)	(400)	7~12	N-8° E	—	柱2 他3	北側調査、H30・31・32、車P126・127・128に切られ、H36を切る。
H56	WH1	D-2	古墳後期	—	(250)	466	28~14	N-3° W	—	柱2	南側調査、車P1・3・4・5に切られ、D10を切る。
H57	WH2	D-2	古墳後期	—	(250)	664	40~46	N-3° W	—	柱2 階下2	南側調査、車P2・13に切られ、車P14を切る。
H58	WH3	D-2	古墳後期	—	(300)	574	31~49	N-7° W	—	柱4 他1	中央のみ調査。
H59	WH4	D-2	弥生中期	—	(300、625)	(368、575)	20~24	N-12° W	砂・中央	柱2 棟持 1	中央部調査、車P6に切られる。
H60	WH5	D-1.5	平安	長方形	(630)	400	19~35	N-7° W	(カマド) (北)	他4	北側調査、H60、車P18・19・20・21に切られる。
H61	WH6	D-1.5	奈良	—	(234)	344	4~46	N-11° W	カマド・北	柱2 床下1	北側調査、M10に切られ、H60・63を切る。
H62	WH7	D-1.5	平安	長方形	(400)	322	7~16	N-7° E	カマド・北	柱1 他1	北側調査、M10に切られる。
H63	WH8	D-1.5	奈良	方形	(290)	332	7~38	N-2° E	カマド・北	—	北側調査、M10、H62に切られる。
H64	WH9	D-1.5	古墳中期	—	(388)	520	18~31	N-26° E	—	柱2 床下階下1 他5	D12、14号住居址に切られる。

第77表 INPX 竪穴住居址一覧表(2)

遺構名	田遺構名	検出位置	時代	形態	規模 (ca. m)		面積	主軸方位	カマド・炉	柱 穴	備 考
					南北長	東西長					
H65	WH11	D&5	奈良	—	1200	410	—	N7° W	カマド・北	柱2	F7に切られる。
H66	WH12	D5.9	弥生中期	—	3000	604	42~50	N13° W	—	柱3 榑持1 他2 床下4	中央部調査。H90・67・68、重P38・39に切られる。
H67	WH13	D&8	古墳後期	—	1720	4720	46~50	N14° E	—	他1	南端調査。H66を切る。
H68	WH14	D&8	奈良	—	1120	514	20~49	N6° W	—	—	南端調査。H66に切られる。
H69	WH15	D5.9	弥生中期	—	3760	5630	23~30	N17° W	炉	柱2 他1	南端調査。H66に切られる。
H70	WH16	E3.2	弥生中期	—	4760	884	0~45	N11° W	—	柱2 出入口1	南東部調査。重P37に切られる。
H71	WH17	E2.6	古墳中期	—	2640	3200	31~48	N5° W	カマド・北	柱2 出入口1 床下7	南東部調査。重P37に切られる。
H72	WH18	E2.6	奈良	—	2760	4200	30~48	N6° W	カマド・北	柱2 出入口1 他1	南東部調査。重P37に切られる。
H73	WH19	E3.5	弥生中期	—	2760	4200	8~11	N14° E	炉・中灶	柱2 出入口1 床下3	北西調査。M8を切る。
H74	WH20	E3.5	奈良	—	2540	3900	15~32	N9° E	カマド・北	柱4 出入口1 床下3	M10に切られ、H75を切る。
H75	WH21	E2.6	古墳後期?	—	1140	3640	15~20	N10° W	—	—	北東調査。H74、F9に切られる。
H76	WH22	E2.6	奈良	—	6660	6160	43~51	N7° W	カマド・北	柱7 榑持2 床下7	北側調査。H79を切る。
H77	WH23	D14.8	弥生後期	—	1140	406	12~17	N14° E	—	—	北側調査。H79を切る。P10はH79の柱穴か?
H78	WH24	D14.8	奈良	—	2320	422	10~25	N7° W	—	柱2 榑持1	北側調査。H89に切られる。
H79	WH25	E2.9	弥生中期	—	2400	344	0~4	N20° E	—	柱2 榑持1	北側調査。H89に切られる。
H80	WH26	D5.9	弥生後期	—	2240	324	0~30	N30° W	—	柱1 榑持2	南西調査。H91に切られる。
H81	WH27	E&2	弥生中期	—	6000	1200	6~8	N16° W	—	柱1	南西調査。H91に切られる。
H82	WH28	E&4	弥生中期	—	3800	4200	0~7	N5° W	—	柱4 榑持1 床下1	西側調査。床下住居あり。重P52、カクランに切られる。
H83	WH29	E&6	古墳中期	—	3560	3320	0~14	N31° W	—	柱2 貯穴1	一部調査区外。H87、重P33~35、カクランに切られる。
H84	WH30	I.6.4	古墳中期	—	334	370	4~35	N25° W	カマド・北	出入口1 床下2	東側調査。H85、重P3に切られる。
H85	WH31	E&3	奈良?	—	6120	2920	0~12	N4° E	なし	出入口1 床下2	H84・86、重P3を切る。
H86	WH32	I.6.2	弥生中期	—	1200	4120	0~12	N4° W	—	柱3 榑持1 床下柱2 床下4	東側調査。H84・85、重P3に切られる。
H87	WH33	E&6	平安	—	1880	3540	41~49	N9° E	カマド・北	—	北側調査。H83を切る。
H88	WH34	E3.2	弥生後期	—	380	252	0	N7° W	—	柱2 床下4	南東調査。H71に切られ、H70を切る。
H89	WH35	D14.8	5M	—	2960	324	2~32	N3° E	カマド・北	柱2	南端調査。H78に切られる。
H90	WH36	D2.9	平安	—	2300	310	0~24	N14° E	—	出入口1	北側調査。H66・68を切る。
H91	WH37	D5.9	奈良	—	1920	4000	12~18	N7° W	—	榑持柱1 他1	南西調査。カクランに切られ、H80を切る。
H92	WH41	E5.6	弥生中期	—	2120	2160	9~12	N9°	—	柱1	北東調査。H76に切られる。
H93	SH1	I.6.1	古墳中期	(方形)	280	370	28~36	N40° E	—	—	北西調査。
H94	SH2	G&10	弥生中期	(長楕円)	492	1440	6~21	N49° E	—	柱2 他3	北東調査。重P3に切られる。
H95	SH3	H&1	古墳後期	(方形)	892	1644	5~18	N6° W	カマド・北	柱2	西側調査。
H96	SH4	H&3	古墳中期	—	3840	3720	0~20	—	カマド・東	他2	東側一部調査。カクランあり。
H97	SH5	C&8	平安	(方形)	3840	1440	24~33	—	カマド・北	柱1 床下1	北側調査。F12に切られる。
H98	SH6	C&7	奈良	—	380	252	0~20	N28° W	—	—	M15に切られ、M16を切る。
H99	SH7	C&6	不明	—	380	252	0~20	—	カマド・北	柱1 床下1	南端調査。H104を切る。
H100	SH8	E&9	奈良	—	1480	416	10~35	N90° E	カマド・東	柱1 貯穴1 他2	東側調査。H103に切られる。
H101	SH9	E&9	古墳後期	—	1520	5480	38~60	N9° W	カマド・北	柱2 他1	一部調査。H102・104を切る。
H102	SH10	B14.9	奈良	—	1600	4840	52	—	—	—	一部調査。H100・103に切られる。
H103	SH11	B&9	平安	—	1600	3720	68	—	—	—	一部調査。
H104	SH12	B&9	弥生中期	—	1600	4440	40	—	—	—	一部調査。
H105	SH13	B&9	弥生後期	—	388	388	44	N10° W	—	他1	一部調査。

第78表 プラン確認遺構

遺構名	田遺構名	検出位置	時代	備 考
1号住	A<9	弥生後~古墳中?	—	—
2号住	B<3	弥生中期	—	—
3号住	B<4	弥生中期	—	—
4号住	B&4	弥生中期	—	—
5号住	A&7	弥生中期	—	—
6号住	A&7	奈良	—	—
7号住	A14.8	奈良	—	—
8号住	D2.5	不明	—	—
9号住	A&3	古墳後期	—	—
10号住	A14.3	弥生中期	—	—
11号住	B1.4	弥生中期	—	—
12号住	A&6	弥生中期	—	—
13号住	WH39	E&2	弥生後期	—
14号住	W2.H40	D&6	古墳後期	—
15号住	W7.H41	E1.2	不明	—
16号住	W7.H40	E&2	不明	—
溝1	M8	E1.5~E1.6	(5.3)	H82、カクラン、H81、13住、14住を切る。プラン確認のみ。

第79表 INP X 堀立建物址一覽表

遺構名	遺構番号	様式	検出位置	新行交梁間		新行柱間	梁柱柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模		備考
				(間)	(間)				短徑 (cm)	深さ (cm)	
F1	E1	礎柱	B1.8	2 × 2	4.12 × 3.92	2.4	1.72	N69° E	35 ~ 50	31 ~ 55	H5・49, 車P55を切る, H2に切られる。
F2	E2	礎柱	B1.4	2 × 2	3.04 × 3.04	1.52	1.52	N6° W	64 ~ 76	26 ~ 48	H14, 車P53を切る。
F3	E3	礎柱	B1.5	3 × 1	4.24 × (2)	2.12	—	N85° W	47 ~ 66	46 ~ 62	M3に切られ, H24, 3・4号柱を切る。
F4	E4	礎柱	A1.9	2 × 2	3.6 × 3.44	1.8	1.72	N90° W	29 ~ 48	11 ~ 42	H26・52を切る。
F5	E5	礎柱	A1.7	× 3	6 × 4.08	—	—	N88° E	50 ~ 62	50 ~ 66	M7に切られ, H52を切る。
F6	E6	礎柱	A1.4	2 × ×	3.84 × ×	1.92	—	N0°	60 ~ 76	38 ~ 67	H34・35を切る。
F7	E7	礎柱	D1.5	3 × ×	5.52 × ×	1.84	—	N80° E	60 ~ 72	28 ~ 36	車P16・17に切られる。
F8	E8	礎柱	E1.5	(1) × ×	(2.0) × ×	2.0	—	N74° W	70 ~ 76	77 ~ 72	M10に切られる。
F9	E9	礎柱	E1.5	(1) × (2)	(2.0) × (3.6)	2.0	1.8	N84° E	86 ~ 94	35 ~ 36	H73・75, M8を切る。
F10	E10	礎柱	E1.5	(2) × ×	(2.4) × ×	1.2	—	N89° E	70 ~ 74	58 ~ 64	M10に切られる。
F11	SF1	—	G1.0	3 × ×	—	—	—	N0°	62 ~ 72	30 ~ 36	H98を切る。
F12	SF3	—	C1.7	(1) × ×	(1.92) × ×	1.92	—	N0°	40 ~ 72	33 ~ 36	H98を切る。
F13	SF4	—	C1.5	(1) × ×	(1.52) × ×	1.52	—	N16° E	40 ~ 41	24 ~ 36	M16と重なり。
F14	SF5	—	C1.4	(1) × ×	(3.2) × ×	3.2	—	N11° W	50	48 ~ 68	—

第80表 INP X 土坑遺構一覽表

遺構名	遺構番号	平面形状	検出位置	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	柱穴規模		備考
								短径 (cm)	深さ (cm)	
D1	ED1	円形	B1.8	216	136	27	N0°	H1・55を切る, 車P3・4を切る。	—	—
D2	ED2	円形	B1.2	92	88	25	—	H21・22を切る。	—	—
D3	ED3	円形	B1.3	118	104	27	—	車P74に切られる。	—	—
D4	ED4	円形	A1.10	74	74	26	—	—	—	—
D5	ED5	円形	B1.9	108	90	23	—	M1に切られる。	—	—
D6	ED6	円形	B1.7	122	114	17	N83° W	H44を切る。	—	—
D7	ED7	円形	A1.2	208	142	39	N28° E	車P115を切る。	—	—
D8	ED8	円形	A1.5	134	140	93	—	6号柱, H28を切る, M7に切られる。	—	—
D9	ED9	円形	A1.8	154	140	36	N77° W	H56, M10, 車P11・11に切られる。	—	—
D10	WD1	円形	D1.2	476	36	35	N77° W	—	—	—
D11	WD2	円形	D1.5	142	88	31.5	N56° W	—	—	—
D12	WD3	円形	D1.5	(154)	(32)	26	—	—	—	—
D13	WD4	円形	D1.5	128	74	55	N7° W	M11を切る。	—	—
D14	WD5	円形	D1.2	122	74	22	N0°	—	—	—
D15	WD6	円形	D1.2	156	110	56.5	N77° W	カラランに切られる。	—	—
D16	WD7	円形	D1.2	(76)	100	21	—	H78に切られる。	—	—
D17	WD8	円形	E1.5	104	72	15	—	—	—	—
D18	WD9	円形	E1.2	84	78	19.5	—	—	—	—
D19	SD1	隅丸方形	H1.3	168	(88)	96	—	H96に切られ, M12に切られる。	—	—

第81表 INP X 溝址一覽表

遺構名	遺構番号	検出位置	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	備考	
						短径 (cm)	深さ (cm)
M1	EM1	B1.6 ~ B1.10	15.84	1.16 ~ 1.40	24 ~ 50	—	H3・4・7・8, D5を切る, M2と連続, 南北の高底差なし。
M2	EM2	B1.5 ~ B1.6	27.36	0.8 ~ 1.50	8 ~ 45	—	H8・9・10・11・50, 車P21・28, M3・5を切る, M1と連続, 西から東にむかって高くなる。
M3	EM3	B1.5 ~ B1.5	13.96	0.14 ~ 0.28	7 ~ 21	—	H11・12, F9を切る, M2に切られる, 西から東に向かって10cm高くなる。
M4	EM4	B1.5 ~ B1.5	24.50	0.36 ~ 0.4	15 ~ 21	—	H13・25, 3号柱, 1号掘立柱, M5を切る。
M5	EM5	B1.4 ~ B1.5	9.25	0.28 ~ 0.36	14 ~ 22	—	H25, M2・4に切られる。
M6	EM6	A1.8 ~ A1.9	5.75	0.32 ~ 0.4	12 ~ 18	—	F4, M7に切られる, 南北の高底差なし。
M7	EM7	A1.8 ~ A1.8	22.00	0.96 ~ 1.12	15 ~ 21	—	H13・27・28, F5, M6・8, D9を切る, M9と連続, 車P112に切られる, M9と新旧不明。
M8	EM8	A1.1 ~ A1.7	35.00	2.16 ~ 3.56	22 ~ 61	—	H39・44, 車P115を切る, H39・45, M7・9, 車P111に切られる, 北から南に向って切られる。
WM4	E1.5 ~ E1.6	—	5.3	2.3 ~ 2.51	23.5 ~ 107	—	切られる, 北から南に向って低くなる, H2に切られる。
SM6	E1.9	(1.6)	3.6	64	—	—	H72・73, 車P43・45・47に切られる, M13と繋ぐか?
SM9	A1.8 ~ A1.7	26.00	0.84 ~ 0.88	3 ~ 8	—	—	H28・30・32, M8を切る, M7と連続, M7と新旧不明
M10	WM1	D1.2 ~ E1.6	63.75	0.62 ~ 1.22	6.5 ~ 39.5	—	D1を切る, 南から北に向って低くなる。
M11	WM2	D1.5	3.75	0.46 ~ 0.64	3 ~ 10	—	車P25, D14に切られる, 高底差なし。
M12	SM2	H1.2・H1.3	(1.2)	1.02	39	—	D19を切る。
M13	SM1	F1.4	(1.52)	1.32 ~ 1.84	28	—	M8と繋ぐか?
M14	SM3	F1.8 ~ F1.9	(1.13)	1.4	10 ~ 20	—	東から西に低い (21cm)。
M15	SM4	C1.6	(2.3)	1.76	22 ~ 29	—	北から南に低い (10cm)。
M16	SM5	C1.5 ~ C1.6	(10.5)	1.4 ~ 2.5	30 ~ 34	—	東から西に低い (11cm), F13と新旧不明。

INP X W区車独ピット一覽表 (2)

遺構名	出土位置	平面形状	覆土	規模 (cm)		備考
				長径×短径×深さ	厚さ	
P24	D1.5	円形	—	26 × 26 × 27	—	D3を切る。
P25	D1.5	楕円形	—	46 × 50 × 24	—	H66を切る。
P26	D1.5	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	75 × 40 × 16	—	H66を切る。
P27	D1.5	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	40 × 40 × 22	—	H66を切る。
P28	D1.5	円形	—	62 × 60 × 41	—	H66を切る。
P29	D1.5	楕円形	—	40 × 36 × 18.5	—	H66を切る。
P30	D1.5	楕円形	—	28 × 26 × 19	—	H66を切る。
P31	D1.5	楕円形	—	24 × 18 × 19	—	H66を切る。
P32	D1.5	楕円形	—	30 × 26 × 20.5	—	H66を切る。
P33	D1.5	楕円形	—	32 × 30 × 18.5	—	H66を切る。
P34	D1.5	楕円形	—	26 × 26 × 15	—	H66を切る。
P35	D1.5	楕円形	—	72 × 62 × 21.5	—	H66を切る。
P36	D1.5	楕円形	—	40 × 36 × 25	—	H66を切る。
P37	D1.9	楕円形	—	42 × 38 × 37	—	H66を切る。
P38	D1.9	楕円形	—	52 × 50 × 51	—	H66を切る。
P39	D1.9	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	56 × 44 × 43.5	—	H66を切る。
P40	D1.9	楕円形	—	30 × 28 × 26	—	H66を切る。
P41	D1.9	楕円形	—	36 × 34 × 22	—	H66を切る。
P42	D1.9	楕円形	—	46 × 44 × 25	—	H66を切る。
P43	E1.6	楕円形	—	72 × 64 × 41	—	H66を切る。
P44	E1.6	楕円形	—	56 × 50 × 25	—	H66を切る。
P45	E1.5	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	76 × 66 × 57	—	M8を切る。
P46	E1.5	楕円形	黒褐色土層 (10YR4/3)	(72) × (32) × (45)	—	M8を切る。
P47	E1.5	楕円形	—	(58) × (36) × (18.5)	—	H73, M8を切る。
P48	D1.8	楕円形	—	100 × 60 × 24	—	H73, M8を切る。
P49	D1.8	楕円形	—	38 × 34 × 21	—	H73, M8を切る。
P50	E1.4	楕円形	—	80 × 68 × 42	—	H73, M8を切る。
P51	E1.3	楕円形	—	104 × 70 × 27	—	H73, M8を切る。
P52	E1.4	楕円形	—	44 × 42 × 16	—	H82を切る。
P53	E1.6	楕円形	—	66 × 64 × 10	—	H82を切る。
P54	E1.6	楕円形	—	44 × (36) × 20	—	H82を切る。
P55	E1.6	楕円形	—	80 × 64 × 35	—	H82を切る。
P56	E1.6	楕円形	—	76 × 68 × 29	—	H82を切る。
P57	D1.8	楕円形	—	56 × 32 × 81	—	H78を切る。

INP X S区車独ピット一覽表

遺構名	出土位置	平面形状	覆土	規模 (cm)		備考
				長径×短径×深さ	厚さ	
P1	G1.10	円形	—	24 × 21 × 8	—	F11 P4に変更。
P2	G1.10	円形	—	28 × 24 × 17	—	F11 P4に変更。
P3	H1.2	円形	—	—	—	F14 P3から変更。
P4	C1.5	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	32 × 36 × 16	—	F14 P3から変更。

第 82 表 INP X E 区単独ピット一覧表

遺構名	出土位置	規模 (cm)	平面形	覆土	備考
P1	Bあ7	45 × 36 × 26	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P2	Bあ7	42 × 30 × 31	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P3	Bあ8	42 × 40 × 25	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	D1 に切られる。
P4	Bあ8	42 × 40 × 63	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/2)	D1 に切られる。
P5	Bあ9	34 × 32 × 15	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P7	Bけ6	84 × 63 × 55	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/3)	H14 を切る。
P8	Bけ6	46 × 44 × 54	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/3)	H14 を切る。
P9	Bけ6	56 × 50 × 45	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 3. 黒褐色土層 (O1YR3/4)	H14 を切る。
P10	Bけ5	58 × 56 × 69	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H14 を切る。
P11	Bく5	64 × 63 × 45	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P12	次				
P13	Bけ4	68 × 62 × 65	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H14 を切る。
P14	次				
P15	次				
P16	Bく5	58 × 50 × 74	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P17	Bく5	82 × 76 × 63	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/2) 3. 黒褐色土層 (O1YR3/4)	H12 を切る。
P18	Bえ6	52 × 44 × 26.5	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P19	Bえ6	44 × 38 × 35	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P20	Bえ6	60 × 50 × 24	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P21	Bえ6	50 × 44 × 28	楕円形	黒褐色土層 (O1YR4/4)	
P22	Bえ6	46 × 42 × 16.5	円形	黒褐色土層 (O1YR3/2)	M2 に切られる。
P23	Bえ6	72 × 56 × 27	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/2) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P24	Bえ5	62 × 50 × 21	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	
P25	Bえ5	50 × 40 × 42.5	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P26	Bえ5	62 × 56 × 27	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P27	Bえ5	82 × 68 × 47	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/2) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P28	Bえ6	52 × 48 × 11	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	M2 に切られる。
P29	Bお7	44 × 40 × 23	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P30	Bお7	118 × 32 × 40	不整形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/2) 3. 黒褐色土層 (O1YR3/1)	
P32	Bお7	44 × 36 × 20	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P33	Bお7	48 × 44 × 44	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P34	Bお7	38 × 36 × 26	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P35	Bお7	26 × 22 × 21	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR4/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/3)	
P36	Bお7	38 × 26 × 21	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P37	Bお8	48 × 40 × 20	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P38	Bお8	48 × 38 × 16	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P39	Bお8	36 × 36 × 16	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P40	Bお7	32 × 26 × 31	円形	黒褐色土層 (O1YR4/3)	
P41	Bお7	46 × 40 × 16	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P42	Bお5	50 × 41 × 26	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	H7 に切られる。
P43	Bく5	64 × 60 × 34	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P44	Bお6	28 × 15 × 14	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H11 を切る。
P46	次				
P47	Bく6	66 × 60 × 30	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H12 を切る。
P48	Bお7	306 × 36 × 28	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	H11 を切る。
P49	Bお7	52 × 40 × 27	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	H11 を切る。
P49	Bお7	52 × 30 × 56	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H11 を切る。
P50	Bお7	52 × 30 × 25	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	H11 を切る。
P51	Bく6	48 × 40 × 27	円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	H12 を切る。
P52	Bく6	38 × 22 × 23	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H12 を切る。

遺構名	出土位置	規模 (cm)	平面形	覆土	備考
P53	Bく6	40 × 36 × 23	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P54	Bく6	60 × 46 × 14	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P55	Bう8	126 × 29 × 14	—	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H2, F1 に切られ、H5-49 を切る。
P56	Bあ7	72 × 62 × 39	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H5-49 を切る。
P57	Bあ7	51 × 32 × 24	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H5-49 を切る。
P58	次				
P59	Bお2	38 × 35 × 12	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H19 を切る。
P60	Bお2	30 × 25 × 24	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H19 を切る。
P61	Bお2	34 × 27 × 26	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H19 を切る。
P62	Bお4	76 × 60 × 27	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/2)	H24 を切る。
P63	Bお4	72 × 56 × 30	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/2)	H24, 車門 P29 を切る。
P64	Bお3	62 × 60 × 33	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P65	Bく2	46 × 44 × 19	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P66	Bう4	78 × 50 × 36	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P67	Bう4	52 × 48 × 36	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P68	Bお2	30 × 24 × 19	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P70	Bお2	37 × 30 × 10	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P71	Bお2	53 × 60 × 16	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P72	Bお2	33 × 56 × 29	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P73	Bお2	31 × 26 × 15	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P74	Bお2	35 × 32 × 16	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P75	Bお2	33 × 31 × 15	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P76	Bお2	26 × 24 × 17	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P77	Bお3	49 × 44 × 16	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P78	Bお3	44 × 40 × 20	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P79	Bお3	34 × 32 × 14	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P80	Bお3	44 × 38 × 31	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P81	Bお2	49 × 37 × 12	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/4) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P82	Bお2	43 × 39 × 28	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P83	Bお2	44 × 42 × 25	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P84	Bお2	58 × 47 × 29	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/3)	
P85	Bお2	30 × 28 × 19	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P86	Bお2	64 × 46 × 22	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	車 P87 を切る。
P87	Bお2	50 × 33 × 33	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	車 P86 に切られる。
P88	Bお2	37 × 32 × 32	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P89	Bお1	44 × 40 × 54	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H23 を切る。
P90	Bお1	50 × 44 × 22	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H25 を切る。
P91	Aう10	44 × 39 × 18	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P92	Aう10	31 × 31 × 10	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P93	Aう10	28 × 28 × 21	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P94	Aう10	39 × 39 × 33	円形	黒褐色土層 (O1YR17/1)	
P95	Aう9	41 × 40 × 17	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR17/1) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/3)	
P96	Aう9	75 × 66 × 30	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P97	Aう9	38 × 37 × 24	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P98	Aう10	28 × 27 × 14	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P99	Aう5	34 × 30 × 10	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H40 を切る。
P100	Aえ1	69 × 66 × 26	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P101	Aお3	87 × 51 × 32	不整形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/3)	車 P102 に切られる。
P102	Aお3	54 × 54 × 35	不整形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	車 P101 を切る。
P103	Aお3	83 × 48 × 37	不整形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	
P104	Aお4	48 × 43 × 26	円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	
P105	Aお4	55 × 54 × 38	円形	黒褐色土層 (O1YR3/2)	
P106	Aお4	70 × 65 × 36	円形	黒褐色土層 (O1YR3/2)	
P107	Aお4	53 × 47 × 31	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	H35-54 を切る。
P108	Aお5	48 × 48 × 36	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/2) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	
P109	Aお5	86 × 78 × 54	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/2) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 3. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	

遺構名	出土位置	規模 (cm)	平面形	覆土	備考
P110	Aお5	62 × 50 × 58	円形	黒褐色土層 (O1YR3/2)	
P111	Aく5	68 × 66 × 30	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/2) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/3)	M8 を切る。
P112	Aお8	58 × 38 × 26	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR17/1) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/2)	H28, M7 を切る。
P113	Aお4	52 × 50 × 33.5	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/2) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	H34-54 を切る。
P114	Aお6	60 × 54 × 42.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	
P115	Aお6	96 × 72 × 54	不整形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	D8, M8 に切られる。
P116	Aう4	32 × 32 × 21	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P117	Aお5	32 × 31 × 20	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P118	Aお5	75 × 59 × 53	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P119	Aお5	36 × 34 × 22	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P120	Aお5	35 × 35 × 19	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	
P121	Aお4	49 × 47 × 18	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P122	Aお5	49 × 49 × 25	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	
P123	Aお5	39 × 36 × 35	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P124	Aお5	53 × 53 × 17	円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR4/4)	
P125	Aお5	46 × 30 × 18	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	
P126	Aお5	33 × (19) × 33	—	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H31 に切られ、H55 を切る。
P127	Aお5	43 × (22) × 25	—	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H36-55 を切る。
P128	Aお5	43 × 37 × 41	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	
P129	Bお4	39 × 34 × 22	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	車門 P27 を切る。
P130	Bく7	53 × 34 × 35	不整形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H13 に切られ、H50 を切る。
P131	Bけ7	51 × 40 × 31	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR3/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR2/2) 3. 黒褐色土層 (O1YR2/3)	H13 に切られ、H50 を切る。

INP X W 区単独ピット一覧表 (1)

遺構名	出土位置	規模 (cm)	平面形	覆土	備考
P1	Dう2	80 × 70 × 67	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H56 を切る。
P2	Dお2	73 × 54 × 23	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H57 を切る。
P3	Dお2	40 × 36 × 19	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P4	Dう2	36 × 30 × 14	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H56 を切る。
P5	Dお2	38 × × × 34	—	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H56 を切る。
P6	Dく2	68 × 66 × 59	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H6-PT は Fか、H58 を切る。
P7	Dく2	54 × 50 × 31	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H6-PT は F5。
P8	Dう2	62 × 40 × 35	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	P10 に切られる。
P9	Dう2	56 × 56 × 60	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H61 を切る。
P10	Dう2	50 × 45 × 53	円形	黒褐色土層 (O1YR2/3)	H62 を切る。
P11	Dう2	76 × 62 × 53	楕円形	1. 黒褐色土層 (O1YR2/3) 2. 黒褐色土層 (O1YR3/4)	H63 を切る。
P12	Dお2	27 × 26 × 15	円形	黒褐色土層 (O1YR3/4)	
P13	Dお2	32 × 30 × 20	円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	H57 に切られる。
P14	Dお2	32 × 26 × 29	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P15	Dお2	32 × 26 × 33	楕円形	黒褐色土層 (O1YR2/2)	
P16	Dく5	102 × 70 × 64	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	F1 を切る。
P17	Dく5	42 × 36 × 24	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	F1 を切る。
P18	Dお6	38 × 34 × 26.5	円形	黒褐色土層 (O1YR4/4)	H61 を切る。
P19	Dお5	36 × 34 × 26	円形	黒褐色土層 (O1YR4/4)	H61 を切る。
P20	Dお5	56 × 34 × 37	楕円形	黒褐色土層 (O1YR4/4)	H61 を切る。
P21	Dお5	42 × 24 × 25	楕円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	H61 を切る。
P22	Dお5	34 × 34 × 25	円形	黒褐色土層 (O1YR3/3)	
P23	Dお5	38 × 38 × 27	円形	黒褐色土層 (O1YR4/4)	

# 佐久市西一本柳遺跡 出土黒曜石産地推定結果

沼津工業高等専門学校 望月 明彦

分析法	エネルギー分散蛍光X線分析法(EDX)		
分析装置	セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光X線分析計 SEA-2110L		
分析条件	管電圧	50kV	管電流 自動設定
	測定時間	240sec	雰囲気 真空
	照射径	10mm	
	検出器	Si(Li) 半導体検出器	
測定元素	Al(アルミニウム)、Si(ケイ素)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)		
分析法の特徴	長所	非破壊分析 多元素同時分析 前処理不要 → 洗浄は必要 迅速分析 操作が簡単	
	短所	微量分析は不得意 表面分析 → 試料を破壊せずに測定するため、分析結果は表面を測定したことになる。 → そのため、汚れた試料、風化した試料は汚れ、風化を測定したことになり、正確でない。 類似した組成の標準試料が必要	
試料の洗浄	5分間(汚れがひどい場合は15分間)超音波洗浄器で洗浄。 さらに汚れを拭き取ってから測定。  試料は破壊せずに分析できますが、以下のような試料は分析できません。		
測定不可能な試料	・風化した試料 → 割ることが可能ならば、できます。 ・汚れがとれない試料 → 割ることが可能ならば、できます。 ・厚さが1mm以下の試料 ・大きさ5mm以下の試料 ・遺物番号などの書き込みで測定できる面がない試料		
産地推定可能な石材	上記の条件をクリアしていれば、以下の分析ができます。 ・現在は黒曜石(日本全国)と下呂石 ・ガラス質安山岩は分類可能。 ただし、原石データが不足しているため、産地推定は不可能。 現在、原石データを収集中 ・その他の石材(特に堆積岩)は分類不可能。		
産地推定法	得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表すとする。 二つの方法とも以下の指標を用いる。		
指標	$Sum = Rb + Sr + Y + Zr$ とする。 $Rb \text{ 分率} = Rb / Sum$ $Sr \text{ 分率} = Sr / Sum$ $Zr \text{ 分率} = Zr / Sum$ $Mn * 100 / Fe$ $\log (Fe / K)$		
	産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。 測定結果から上記の指標を算出する。 以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。 下記の二つの方法で産地推定を行う。		

## ①判別図法(判別図のシート参照)

用いる指標	図1 横軸: Rb分率、縦軸: Mn/Fe 図2 横軸: Sr分率、縦軸: log(Fe/K)
特長	簡単な計算であり、誰にでも作成可能 視覚的に確認でき、分かりやすい。
推定方法	遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。 指標を図にプロットする。 重なった原石産地を推定結果とする。

## ②判別分析(推定結果表参照)

用いる指標	算出された指標全て
特長	各産地との類似度を距離で算出 既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。 → 未知の産地の判別はできない。
推定方法	判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。 この産地は試料と2次的に最も距離が近い。 判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。 試料と最も距離(マハラノビス距離)に近い産地を推定結果とする。 この距離から、各産地に属する確率を計算する。

推定結果表の見方

推定結果

下記の右の表に判別図法の結果と判別分析の結果を挙げてあります。  
左の表は二つの方法から導いた推定結果をまとめたものです。

分析番号	遺構名	黒曜石品名	遺構所属年代	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
						第1候補産地			第2候補産地		
				判別群	距離	確率	判別群	距離	確率		
INP-1	INPX・H1	原石	古墳中期	和田土屋橋北群	WDTK	WDTK	5.48	0.9991	WDTN	19.77	0.0009
INP-2	INPX・H1	二次加工のある剥片	古墳中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	22.6	1	SBIY	128.63	0
INP-3	INPX・H2	剥片	平安	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.48	1	WDTN	131.99	0
INP-4	INPX・H4	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.24	1	SBIY	87.73	0
INP-5	INPX・H7	有茎石鏃	奈良	和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	1.97	1	WOTM	32.96	0
INP-6	INPX・H10	石核	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.8	1	SBIY	87.43	0
INP-7	INPX・H10	剥片	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.28	1	SBIY	89.09	0
INP-8	INPX・H15	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.86	1	SBIY	45.58	0
INP-9	INPX・H17	石錐	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.43	1	SBIY	124.03	0
INP-10	INPX・H17	剥片	弥生中期	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	8.37	0.9959	WDTK	19.13	0.0041
INP-11	INPX・H17	原石	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.6	1	SBIY	93.42	0
INP-12	INPX・H17	剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.97	1	SBIY	57.26	0
INP-13	INPX・H17	両極石器断片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.47	1	WDTN	93.55	0
INP-14	INPX・H17	剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.64	1	SBIY	98.39	0
INP-15	INPX・H18	剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.15	1	SBIY	85.81	0
INP-16	INPX・H19	石核	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.71	1	SBIY	75.52	0
INP-17	INPX・H20	二次加工のある剥片	古墳中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.92	1	SBIY	131.52	0
INP-18	INPX・H20	原石	古墳中期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	20.03	1	HNKT	85.62	0
INP-19	INPX・H21	剥片	弥生中期	和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	4.4	0.9997	WDTN	24.1	0.0003
INP-20	INPX・H28	石核	弥生中期	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	6.18	1	WDTY	50.45	0
INP-21	INPX・H29	二次加工のある剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.86	1	SBIY	94.5	0
INP-22	INPX・H29	剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.7	1	SBIY	93.5	0
INP-23	INPX・H30	二次加工のある剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.15	1	SBIY	81.29	0
INP-24	INPX・H30	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.3	1	SBIY	85.61	0
INP-25	INPX・H34	剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.29	1	SBIY	86.2	0
INP-26	INPX・H34	原石	弥生後期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	10.57	1	HNKT	115.2	0
INP-27	INPX・H38	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.8	1	SBIY	95.73	0
INP-28	INPX・H38	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.42	1	SBIY	67.22	0
INP-29	INPX・H40	石核	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.3	1	SBIY	81.53	0
INP-30	INPX・H41	剥片	平安	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.7	1	SBIY	124.48	0
INP-31	INPX・H41	石核	平安	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.69	1	SBIY	85.7	0
INP-32	INPX・H41	原石	平安	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	4.45	1	HNKT	115.45	0
INP-33	INPX・H47	石鏃	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.08	1	SBIY	107.99	0
INP-34	INPX・H48	石鏃	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.28	1	WDTN	111.58	0
INP-35	INPX・H48	剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.09	1	SBIY	108.79	0
INP-36	INPX・H49	凹基石鏃	弥生中期	和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	2.73	1	WDTN	39.89	0
INP-37	INPX・H56	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.51	1	SBIY	96.57	0
INP-38	INPX・H56	原石	古墳後期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	15.32	1	HNKT	103.81	0
INP-39	INPX・H57	二次加工のある剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.2	1	SBIY	87.51	0
INP-40	INPX・H59	原石	弥生中期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	20.24	1	HNKT	84.83	0
INP-41	INPX・H64	原石	古墳中期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	8.02	1	HNKT	125.02	0
INP-42	INPX・H66	剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	18.74	1	SBIY	103.27	0
INP-43	INPX・H66	二次加工のある剥片(両極打方)		和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.47	1	WDHY	36.11	0
INP-44	INPX・H67	原石	古墳後期	推定不可	推定不可	推定不可					
INP-45	INPX・H68	石錐	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.75	1	SBIY	105.27	0
INP-46	INPX・H68	原石	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.89	1	SBIY	94.43	0
INP-47	INPX・H70	小剥片8	弥生中期	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	14.02	1	WDTY	55.18	0
INP-48	INPX・H71	石核	古墳中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.26	1	SBIY	138.45	0
INP-49	INPX・H74	二次加工のある剥片	奈良	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	2.5	0.987	WDTY	13.6	0.013
INP-50	INPX・H74	剥片	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.22	1	SBIY	61.56	0
INP-51	INPX・H74	剥片	奈良	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	18.24	1	WDTY	56.37	0
INP-52	INPX・H76	石核	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	26.78	1	SBIY	141.93	0
INP-53	INPX・H77	剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.13	1	SBIY	56.1	0
INP-54	INPX・H77	剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.58	1	SBIY	68.21	0
INP-55	INPX・H77	剥片	弥生後期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.25	0.9999	WDHY	18.07	0.0001
INP-56	INPX・H77	剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.97	1	SBIY	63.99	0
INP-57	INPX・H80	石核	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.73	1	SBIY	95.11	0
INP-58	INPX・H84	剥片	古墳中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	22.57	1	SBIY	147.53	0
INP-59	INPX・H88	二次加工のある剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.62	1	SBIY	111.01	0
INP-60	INPX・H88	二次加工のある剥片	弥生後期	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	2.28	1	WDTY	32.48	0
INP-61	INPX・H88	二次加工のある剥片	弥生後期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.71	1	WDHY	36.6	0
INP-62	INPX・H88	石核	弥生後期	推定不可	推定不可	推定不可					
INP-63	INPX・H88	剥片	弥生後期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.99	1	WOKB	24.23	0
INP-64	INPX・H88	剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.08	1	SBIY	130.4	0
INP-65	INPX・H88	剥片	弥生後期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.71	0.9984	WDHY	13.18	0.0016
INP-66	INPX・2住	原石	弥生後期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	13.34	1	HNKT	119.02	0
INP-67	INPX・10住	剥片	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.28	1	SBIY	101.25	0
INP-68	INPX・D12	凹基石鏃	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.57	1	SBIY	60.49	0
INP-69	INPX・M2	凹基石鏃	奈・平	和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.1	1	WDHY	32.22	0
INP-70	INPX・M8	原石	古墳中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.01	1	WDTM	114.32	0
INP-71	INPX・M8	平基石鏃		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.51	0.9987	WDHY	14.34	0.0013

推定結果表の見方

推定結果

下記の右の表に判別図法の結果と判別分析の結果を挙げてあります。  
左の表は二つの方法から導いた推定結果をまとめたものです。

IN P-72	IN P X・W 7	石鑑		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.7	1	SBIY	82.94	0
IN P-73	IN P X・試験 25 (H17・H18 検)	剥片		和田ブドウ沢群	WOBD	WOBD	9	0.9987	WOMS	21.72	0.0013
IN P-74	IN P X・試験 36	二次加工のある剥片		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.16	1	SBIY	101.85	0
IN P-75	IN P X・試験 53	原石		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.31	1	WDHY	25.5	0
IN P-76	IN P X・試験 106	原石		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	27.26	1	SBIY	182.17	0
IN P-77	IN P X・表彩	剥片		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.11	1	SBIY	106.16	0
IN P-78	IN P IX・H 2.35	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.77	1	SBIY	109.45	0
IN P-79	IN P IX・H 2.36	凹基石鑑	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.2	1	WDTN	74.37	0
IN P-80	IN P IX・H 18.18	凹基石鑑	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.04	1	SBIY	107.28	0
IN P-81	IN P IX・S M 3.3	凹基石鑑	古墳後期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.62	1	WDHY	31.11	0
IN P-82	IN P IX・グリット 7	有茎石鑑		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.79	1	SBIY	71.5	0
IN P-83	IN P IX・グリット 8	平基石鑑		和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.29	0.9087	WDHY	8.45	0.0913
IN P-84	IN P VII・H 9.33	凹基石鑑	古墳後期	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	10.14	1	WDTM	29.04	0
IN P-85	IN P VII・H 9.34	有茎石鑑	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.81	1	SBIY	124.44	0
IN P-86	IN P VII・H 13.14	凹基石鑑	古墳中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.8	1	SBIY	106.3	0
IN P-87	IN P VII・H 17.25	ミガキ石	奈良	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	7.35	1	HNKT	110.53	0
IN P-88	IN P VII・H 25.11	両極石器	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.64	1	SBIY	96.49	0
IN P-89	IN P VII・H 26.23	石鑑	平安	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.06	1	SBIY	117.6	0
IN P-90	IN P VII・H 29.5	スクレイパー	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.13	1	SBIY	107.41	0
IN P-91	IN P VII・H 32.37	ミガキ石	弥生後期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	7.74	1	HNKT	159.08	0
IN P-92	IN P VII・H 32.36	類形石器	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.93	1	SBIY	102.65	0
IN P-93	IN P VII・H 42.35	凹基石鑑	平安	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	18.06	1	SBIY	87.77	0
IN P-94	IN P VII・H 43.5	石鑑	弥生中期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.75	1	WDHY	42.9	0
IN P-95	IN P VII・H 48.6	楔形石器	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.31	1	SBIY	87.41	0
IN P-96	IN P VII・H 49.7	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.18	1	SBIY	65.04	0
IN P-97	IN P VII・H 49.8	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.81	1	SBIY	116.04	0
IN P-98	IN P VII・H 60.6	剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.87	1	SBIY	79.19	0
IN P-99	IN P VII・H 67.31	凹基石鑑	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.96	1	SBIY	80.57	0
IN P-100	IN P VII・H 74.10	ミガキ石	弥生中期	浅間山千ヶ滝群	AMST	AMST	25.22	1	HNKT	75	0
IN P-101	IN P VII・H 74.10	剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.31	1	SBIY	115.64	0
IN P-102	IN P VII・H 86.16	剥片	奈良	和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.39	0.9967	WDHY	15.35	0.0033
IN P-103	IN P VII・H 94.1	剥片	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.06	1	SBIY	99.54	0
IN P-104	IN P VII・M 6.35	スクレイパー		和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.61	0.9999	WDHY	19.9	0.0001
IN P-105	IN P VII・H 8.44	剥片		和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	13.97	0.9968	WDTM	21.77	0.0032
IN P-106	IN P VII・グリット 25	平基石鑑		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.69	1	WDTN	72.55	0
IN P-107	IN P VII・グリット 26	凹基石鑑		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.85	1	WDTN	91.05	0
IN P-108	IN P VII・グリット 27	剥片		和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	4.07	1	WDTM	27.57	0
IN P-109	IN P VII・M 1	剥片	未実測	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.6	1	SBIY	106.4	0
IN P-110	IN P VII・F 32	剥片	未実測	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	18.18	1	SBIY	136.79	0
IN P-111	IN P VII・H 89	剥片	未実測	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.86	1	SBIY	82.83	0
IN P-112	IN P VII・グリット H< 10	剥片	未実測	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	18.21	1	SBIY	127.95	0
IN P-113	IN P VII・グリット M& 9	剥片	未実測	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	26.44	1	WDTN	165.42	0
IN P-114	IN P VII・M 1	剥片	未実測	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.64	1	WDTN	95.75	0
IN P-115	IN P III・IV・H 31	剥片		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.01	1	SBIY	56.36	0
IN P-116	IN P III・IV・H 27	凹基石鑑	弥生後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.21	1	SBIY	137.39	0
IN P-117	IN P III・IV・H 41	有茎石鑑	弥生後期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.25	0.9995	WDHY	17.04	0.0005
IN P-118	IN P III・IV・H 44.24	有茎石鑑	弥生中期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.04	1	WDTN	141.93	0
IN P-119	IN P III・IV・H 44.24	二次加工のある剥片	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.25	1	SBIY	114.57	0
IN P-120	IN P III・IV・H 43.7	石鑑	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.53	1	SBIY	136.74	0
IN P-121	IN P III・IV・H 65.11	凹基石鑑	古墳後期	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.13	1	WDHY	23.14	0
IN P-122	IN P III・IV・H 141.32	有茎石鑑	古墳後期	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	13	0.9919	WDTM	18.93	0.0081
IN P-123	IN P III・IV・H 158	凹基石鑑	古墳後期(末)	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.2	1	SBIY	117.49	0
IN P-124	IN P III・IV・H 167	原石	古墳後期	和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	4.46	1	WDTN	36.37	0
IN P-125	IN P III・IV・H 195	原石	古墳後期	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	6.14	1	WDTK	34.34	0
IN P-126	IN P III・IV・H 195	有茎石鑑	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	25.09	1	SBIY	134.07	0
IN P-127	IN P III・IV・H 47.6	スクレイパー	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.52	1	SBIY	78.32	0
IN P-128	IN P III・IV・H 93.8	有茎石鑑	奈良	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.19	1	SBIY	96.07	0
IN P-129	IN P III・IV・H 186	凹基石鑑	古墳後期	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.29	1	SBIY	93.01	0
IN P-130	IN P III・IV・H 130.26	凹基石鑑	平安	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	14.09	1	WDTY	56.57	0
IN P-131	IN P III・IV・H 130.27	石鑑	平安	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.16	1	SBIY	107.98	0
IN P-132	IN P III・IV・F 7.1	凹基		和田小深沢群	WDKB	WDKB	9.17	1	WDTK	34.49	0
IN P-133	IN P III・IV・H 93.8	有茎石鑑	奈良	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.33	1	WDHY	19.99	0
IN P-134	IN P III・IV・M 1.56	スクレイパー		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.74	1	SBIY	114.34	0
IN P-135	IN P III・IV・遺構外 69	凹基石鑑		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.61	1	SBIY	115.79	0
IN P-136	IN P II・H 59.5	有茎石鑑		和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	3.35	1	WDTN	30.73	0
IN P-137	IN P II・P it 8	凹基石鑑		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	20.16	1	SBIY	151.68	0
IN P-138	IN P III・IV・H 143	原石	古墳	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	5.08	0.9999	WDTM	20.53	0.0001
IN P-139	IN P III・IV・H 173	凹基石鑑	古墳~平安	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.92	1	SBIY	106.58	0

右側の表

判別図判別群： 判別図法によって推定された産地 (判別分析と結果が異なるときは“\*”をつけて示す。)

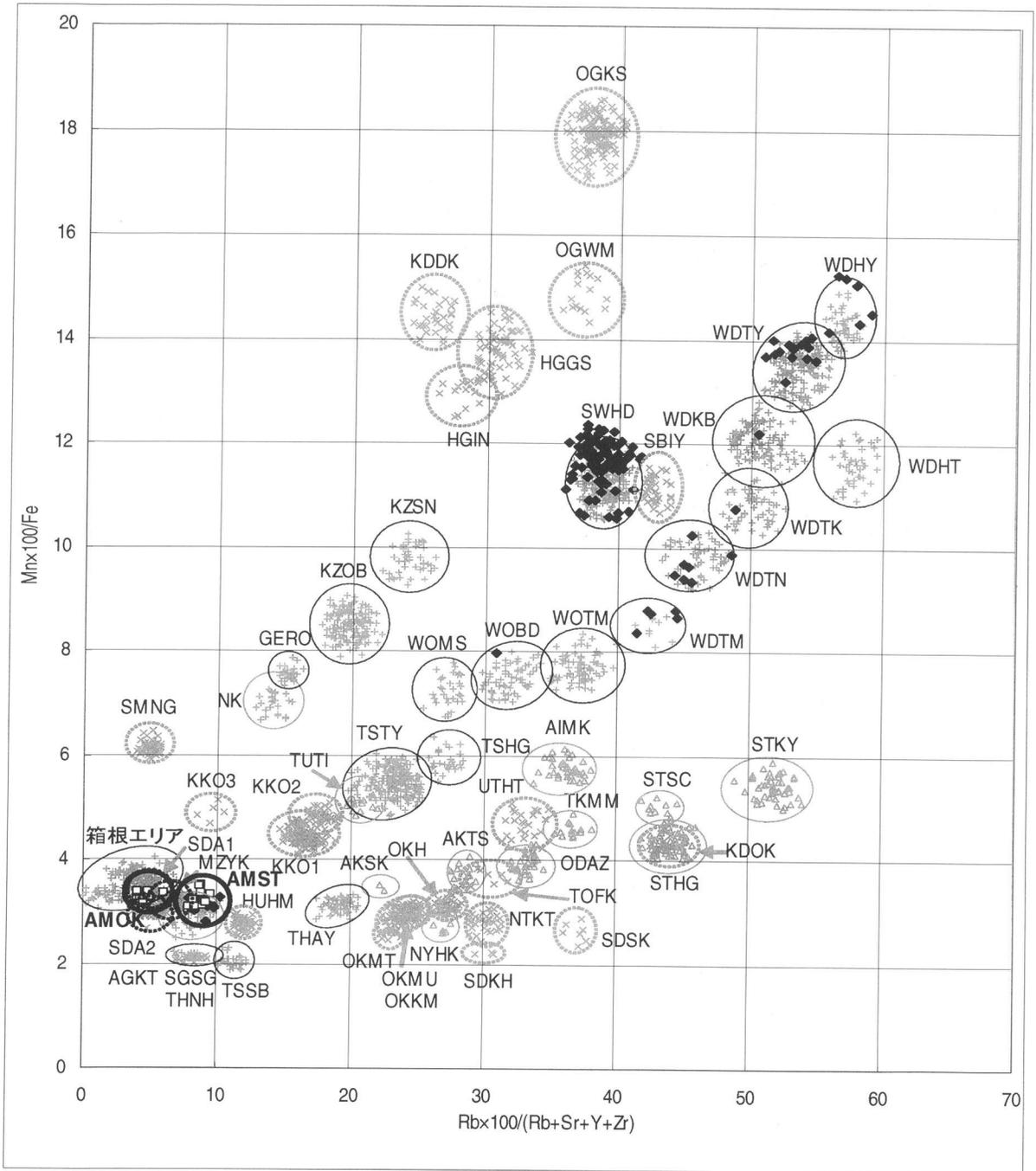
判別分析： 第1候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補

第2候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補

判別群 候補産地記号→判別図法による産地と通常は一致する。

距離 試料から候補産地までのマハラノビス距離→値が小さいほど候補産地と類似性が高い。

確率試料が候補産地に属する確率→1に近いほど類似性が高い。





## 産地原石判別群 (SEIKO SEA-2110L 蛍光 X 線分析装置による)

都道府県	地図 No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地 (分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群 黒曜の沢群		STHG STKY		赤石山山頂 (19)、八号沢露頭 (31)、八号沢 (79)、 黒曜の沢 (6)、幌加林道 (4)
	2	上土幌	三股群		KSM		十三ノ沢 (16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住 (25)、清水ノ沢 (9)
	4	旭川	高砂台群 春光台群		AKTS AKSK		高砂台 (6)、雨紛台 (5)、春光台 (5)
	5	名寄	布川群		NYHK		布川 (10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田 (6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川 (25)、土木川 (15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉 (16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸 (34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園 (8)、六角沢 (8)、岡崎浜 (40)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群 脇本群		OGKS OGWM		金ヶ崎温泉 (37)、脇本海岸 (98) 脇本海岸 (16)
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前 (30)、朝日町田代沢 (18)、櫛引町中沢 (18)
			今野川群		HGIN		今野川 (9)、大網川 (5)
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津 (29)
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場 (40)
栃木	15	高原山	甘湯沢群 七尋沢群	高原山 1 群 高原山 2 群	THAY THNH	TKH1 TKH2	甘湯沢 (50)、桜沢 (20) 七尋沢 (9)、自然の家 (9)
長野	16	和田 (WD)	鷹山群	和田峠 1 群	WDTY	WDT1	鷹山 (53)、小深沢 (54)、東餅屋 (36)、芙蓉ライト (87)、古峠 (50)、 土屋橋北 (83)、土屋橋西 (29)、土屋橋南 (68)、丁字御嶺 (18)
			小深沢群	和田峠 2 群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠 3 群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠 4 群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠 5 群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
		古峠群		WDHT			
		和田 (WO)	ブドウ沢群	男女倉 1 群	WOBD	OMG1	ブドウ沢 (36)、ブドウ沢右岸 (18)、牧ヶ沢上 (33)、 牧ヶ沢下 (36)、高松沢 (40)
	牧ヶ沢群		男女倉 2 群	WOMS	OMG2		
	高松沢群		男女倉 3 群	WOTM	OMG3		
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第 1 鉱区 (36)、星ヶ塔第 2 鉱区 (36)、星ヶ台 A (36)、星ヶ台 B (11)、 水月霊園 (36)、水月公園 (13)、星ヶ塔のりこし (36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山 (33)、麦草峠 (36)、麦草峠東 (33)、渋ノ湯 (29)、 美し森 (4)、八ヶ岳 7 (17)、八ヶ岳 9 (18)、双子池 (34)
双子山群				TSHG		双子池 (26)	
播鉢山群				TSSB		播鉢山 (31)、亀甲池 (8)	
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAV	ASY	芦ノ湯 (34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿 (71)
	21		黒岩橋群	箱根系 A 群	HNKI	HKNA	黒岩橋 (9)
鍛冶屋群		鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋 (30)		
静岡	22	天城	上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀 (18)
東京	23	神津島	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠 (80)
			恩馳島群	神津島 1 群	KZOB	KOZ1	恩馳島 (100)、長浜 (43)、沢尻湾 (8)
			砂糠崎群	神津島 2 群	KZSN	KOZ2	砂糠崎 (40)、長浜 (5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中 (30)、久見採掘現場 (18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸 (30)、加茂 (19)、岸浜 (35)
			岬群		OKMT		岬地区 (16)
その他			NK 群		NK		中ッ原 1G、5G (遺跡試料)、原石産地は未発見

## 佐々木繁喜氏提供試料(まだ地図には入れていない)

青森	小泊	折腰内群	KDOK	小泊市折腰内 (8)
岩手	北上川	北上折居 1 群	KKO1	水沢市折居 (36)、花巻日形田ノ沢 (36)、雫石小赤沢 (22)
		北上折居 2 群	KKO2	水沢市折居 (23)、花巻日形田ノ沢 (8)、雫石小赤沢 (2)
		北上折居 3 群	KKO3	水沢市折居 (5)
宮城	宮崎	湯ノ倉群	MZYK	宮崎町湯ノ倉 (54)
		色麻根岸群	SMNG	色麻町根岸 (48)
仙台	仙台	秋保 1 群	SDA1	仙台市秋保土蔵 (17)
		秋保 2 群	SDA2	仙台市秋保土蔵 (35)
	塩竈	塩竈群	SGSG	塩竈市塩竈漁港 (22)

佐久市西一本柳遺跡出土黒曜石産地組成

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田 (WO)	ブドウ沢	WOBD	1	0.73
	牧ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	0	0
和田 (WD)	芙蓉ライト	WDHY	6	4.38
	鷹山	WDTY	16	11.68
	小深沢	WDKB	1	0.73
	土屋橋北	WDTK	1	0.73
	土屋橋西	WDTN	7	5.11
	土屋橋南	WDTM	5	3.65
	古峠	WDHT	0	0
諏訪	星ヶ台	SWHD	90	65.69
蓼科	冷山	TSTY	0	0
	双子山	TSHG	0	0
	擂鉢山	TSSB	0	0
天城	柏峠 1	AGKT	0	0
箱根	畑宿	HNFU	0	0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
神津島	恩馳島	KZOB	0	0
	砂糠崎	KZSN	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
	七尋沢	THNH	0	0
浅間山	大窪沢	AMOK	0	0
	千ヶ滝	AMST	10	7.3
新津	金津	NTKT	0	0
新発田	板山	SBYI	0	0
深浦	八森山	HJHM	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0
	船本	OGWM	0	0
羽黒	月山	HGGS	0	0
	今野川	HGYN	0	0

エリア	判別群	記号	試料数	%
北上川	折居 1 群	KKO1	0	0
	折居 2 群	KKO2	0	0
	折居 3 群	KKO3	0	0
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0
仙台	秋保 1 群	SDA1	0	0
	秋保 2 群	SDA2	0	0
色麻	根岸	SMNG	0	0
塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0
小泊	折腰内	KDOK	0	0
魚津	草月上野	UTHT	0	0
高岡	二上山	TOFK	0	0
佐渡	真光寺	SDSK	0	0
	金井ニッ坂	SDKH	0	0
隠岐	久見	OKI-M	0	0
	嵯地区	OKMT	0	0
白滝	箕浦	OKMU	0	0
	8 号沢	STHG	0	0
	黒曜の沢	STKY	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0
赤井川	曲川	AMK	0	0
豊浦	豊泉	TUTI	0	0
置戸	安住	ODAZ	0	0
十勝	三股	TKMM	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0
旭川	高砂台	AKTS	0	0
	春光台	AKSK	0	0
不明産地 1	NK	NK	0	0
下呂石		GERO	0	0
合計			137	100

不可など			2	
総計			139	



# 佐久市西一本柳遺跡X出土試料の自然科学分析

株式会社古環境研究所

## I. 西一本柳遺跡Xにおける種実同定

### 1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

### 2. 試料

試料は、古墳時代後期の床より採取された試料No.8 (E . H46床) と弥生時代後期の炉跡より採取された試料No.9 (W . H23炉) の2点である。

### 3. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

### 4. 結果

試料No.8 (E . H46床) および試料No.9 (W . H23炉) はいずれもモモ核であった。以下に学名および特徴を記し、写真を添付する。

モモ *Prunus persica* Batsch 核 バラ科

やや炭化し黄褐色?黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。試料No.8は齧歯類の齧り痕があり、試料No.9は破片となる。

### 5. 所見

モモは食用となる栽培植物であり、稲作とともに伝来する。西南日本を中心に多くの遺跡が出土し、弥生時代から古墳時代にかけて多くなる。試料No.8は比較的丸いタイプであるが、いずれの試料も遺存が悪く詳細な観察は困難であった。

#### 参考文献

- 南木睦彦 (1992) 低湿地遺跡の種実. 月刊考古学ジャーナル No.355, ニューサイエンス社, p.18?22.  
 南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276?283.  
 金原正明 (1996) 古代モモの形態と品種. 月刊考古学ジャーナル No.409, ニューサイエンス社, p.15?19.

## II. 西一本柳遺跡Xにおける樹種同定

### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### 2. 試料

試料は、西一本柳遺跡Xより出土した弥生時代中期、弥生時代後期、古墳時代中期および古墳時代後期の遺構より出土した炭化材10点である。

### 3. 方法

試料を割折して、炭化材の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50~1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

### 4. 結果

結果を表1示し、顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1・2・3

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1~数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cm ぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

## 5. 所見

同定の結果、西一本柳遺跡Xで出土した炭化材は10点はいずれもコナラ属コナラ節であった。コナラ属コナラ節は日当たりの良い山野に生育する落葉高木で、温帯を中心に広く分布する。ミズナラなどは冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素である。当時、遺跡周辺からもたらすことができる樹種であったと考えられる。

### 参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p49-100.

表1 西一本柳遺跡Xにおける樹種同定結果

No.	遺構名	旧番号	学名	結果(学名/和名)
1	H15	E.H15No.3	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
2	H17	E.H17No.8	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
3	H19	E.H19	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
4	H25	E.H25	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
5	H27	E.H27	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
6	H30	E.H30P 2	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
7	H45	E.H45No.3	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
10	H83	W.H29No.3	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
11	H86	W.H32No.3	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節
12	H86	W.H32No.6	<i>Quercus sect. Prinus</i>	コナラ属コナラ節

表2 西一本柳遺跡Xにおける動物遺存体同定結果

No.	遺構名	旧番号	小分類	学名	種類	部位	備考
1	H32	E.H32 カマド (礎土)	不明				平安時代
2	H38	E.H38 1区1層	不明				古墳時代後期
3	H57	W.H 2区1層	不明				古墳時代後期
4	H57	W.H 2カマド	イヌ	<i>Canis familiaris</i>	哺乳類	肋骨	古墳時代後期
5	H77	W.H23 炉	不明				弥生時代後期
6	M10	W.M 1 トレンチ	ウシ	<i>Bos taurus</i>	哺乳類	脛骨(左)	平安時代

## III. 西一本柳遺跡Xにおける動物遺存体同定

### 1. はじめに

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、遺跡で動物遺存体が出土するのは、貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰が代表的で、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が報告されつつある。しかし、乾燥した沖積平野上の遺跡ではほとんどの動物遺存体が、長い年月の間に腐食して土に還ってしまっている。その中で、動物の歯、特にエナメル質は、動物骨格の中でも腐食に強く、特に大きく堅固なウシやウマの臼歯のエナメル質が、乾燥環境から出土する例は珍しくない。また微細な魚骨の歯のエナメル質は、発掘中肉眼で採集することは不可能で、遺構の埋土を1ミリ以上のフルイの面上で洗うことが必要である。そうした哺乳類の歯のエナメル質、灰化して無機質化した微細な魚骨や動物骨からそれぞれの種類を同定することで、その生態的情報を援用して当時の環境を復元したり、過去の人々の生業や食生活を知ることができる。

### 2. 試料

試料は、弥生時代後期の炉跡、古墳時代後期のカマド跡および平安時代のカマド跡などから出土した動物骨6点である。試料はいずれも水洗選別されていた。

### 3. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。

### 4. 所見

分析の結果、哺乳類2分類群が同定された。学名、和名および部位を表2、試料の写真を図版に示す。

試料 No.1: 骨片が小さいため同定には至らなかった。

試料 No.2: 骨片が小さいため同定には至らなかった。

試料 No.3: 骨片が小さいため同定には至らなかった。

試料 No.4: イヌ [哺乳類] *Canis familiaris* 肋骨 (熱を受け変形している?)

試料 No.5: 骨片が小さいため同定には至らなかった。

試料 No.6: ウシ [哺乳類] *Bos Taurus* 左脛骨部分

参考文献

- 松井章 (1987) 「岡山城本丸中の段出土の動物遺存体」, 「史跡岡山城跡本丸中の段発掘調査報告」, 岡山市教育委員会, p.323-331.
- 松井章 (2000) 「恒武西宮・西浦遺跡発掘調査報告書」, (財) 静岡県埋蔵文化財研究所, p.156-161.
- 松井章・宮路淳子 (2000) 「坪井・大福遺跡から出土した動物遺存体」 「坪井・大福遺跡」 奈良県立橿原考古学研究所, p.194-205.

IV. 西一本柳遺跡Xにおける蛍光X線分析

1. 試料

試料は、古墳時代中期とされるH15(No.1)、古墳時代後期とされるH17(No.2) および弥生時代中期とされるH27(No.3) から採取された計3点の赤色顔料である。ここでは、赤色顔料の構成元素から顔料の種類を同定する目的で蛍光X線分析を行った。

2. 分析方法

エネルギー分散型蛍光X線分析システム(日本電子(株)製, JSX3201)を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法(FP法)による定量分析を行った。以下に分析の手順を示す。

- 1) 試料を絶乾(105℃・24時間)
- 2) 試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力15t/?でプレスして錠剤試料を作成
- 3) 測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定

なお、X線発生部の管球はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。

3. 分析結果

各元素の定量分析結果(wt%)を表3および図1に示す。

4. 考察

赤色顔料としては、一般的に水銀朱(硫化水銀: HgS)、ベンガラ(酸化第二鉄: Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、鉛丹(酸化鉛: Pb<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)が知られている(市毛, 1998, 本田, 1995)。

蛍光X線分析の結果、No.1、No.2、No.3の各試料とも鉄(Fe)の明瞭なピークが認められ、水銀(Hg)や鉛(Pb)は検出されなかった。鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)の含量は、No.1では20.8%、No.2では15.5%、No.3では10.9%であり、No.1が最も高くなっている。

これらのことから、古墳時代中期とされるH15(No.1)、古墳時代後期とされるH17(No.2) および弥生時代中期とされるH27(No.3) から採取された赤色顔料は、いずれもベンガラと考えられる。

文献

- 市毛 勲 (1998) 新版朱の考古学. 考古学選書. 雄山閣出版
- 本田光子 (1995) 古墳時代の赤色顔料. 考古学と自然科学. 31・32, p.63-79.

表3 西一本柳遺跡Xにおける蛍光X線分析結果 単位: wt(%)

原子No.	地点・試料 化学式	1	2	3
		H 15	H 17	H 27
11	Na2O	1.155	0.873	1.248
12	MgO	1.383	0.905	1.061
13	Al2O3	20.386	24.920	27.654
14	SiO2	47.298	50.063	51.113
15	P2O5	1.933	1.969	1.992
16	SO3	0.331	0.375	1.168
19	K2O	0.601	0.673	0.703
20	CaO	4.514	3.343	2.863
22	TiO2	1.053	0.935	0.945
23	V2O5	0.068	0.059	0.065
25	MnO	0.426	0.338	0.289
26	Fe2O3	20.803	15.496	10.855
37	Rb2O	0.006	0.004	0.000
38	SrO	0.043	0.048	0.044

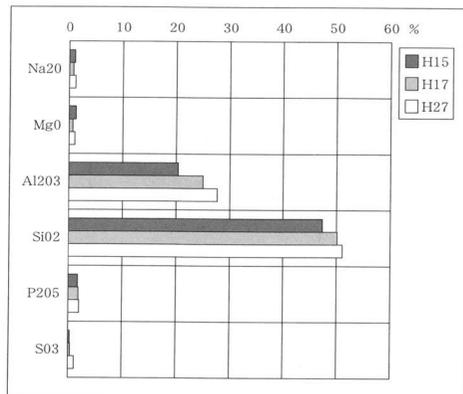
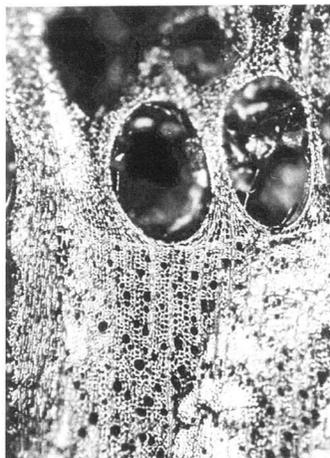
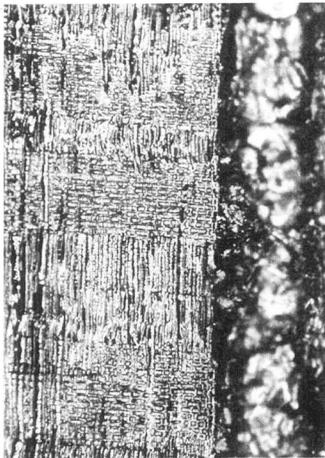


図1 西一本柳遺跡Xにおける蛍光X線分析結果

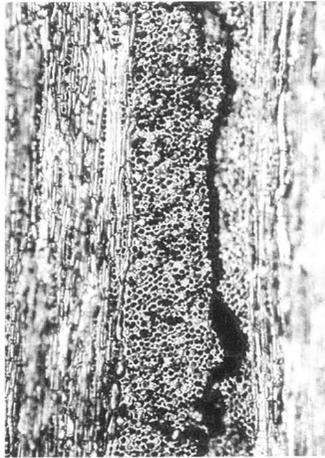


横断面 ————— : 0.4mm

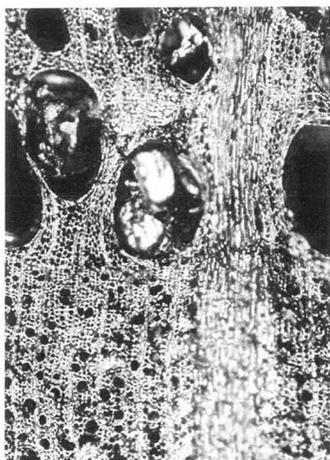
1. No. 1 コナラ属コナラ節



放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.4mm

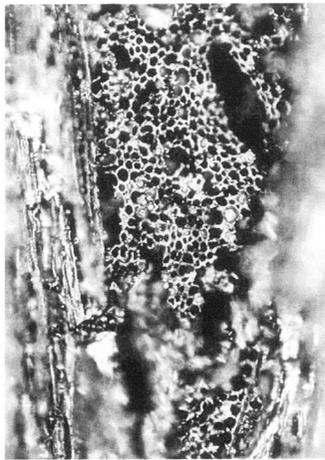


横断面 ————— : 0.4mm

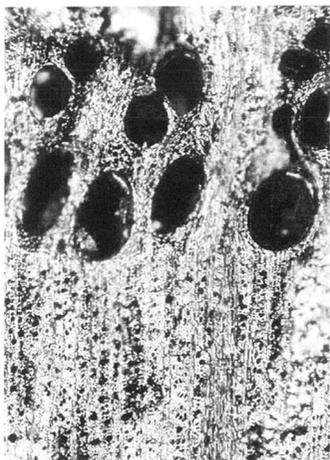
2. No. 2 コナラ属コナラ節



放射断面 ————— : 0.2mm

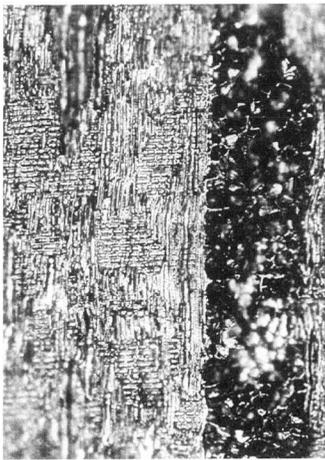


接線断面 ————— : 0.4mm



横断面 ————— : 0.4mm

3. No. 4 コナラ属コナラ節

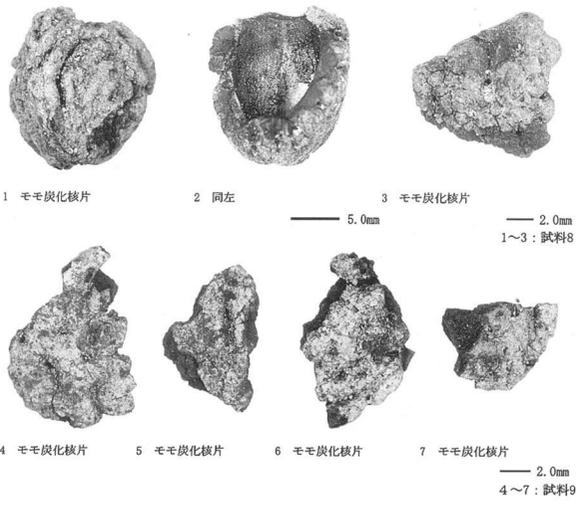


放射断面 ————— : 0.4mm

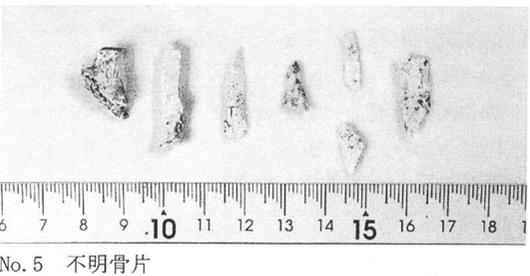
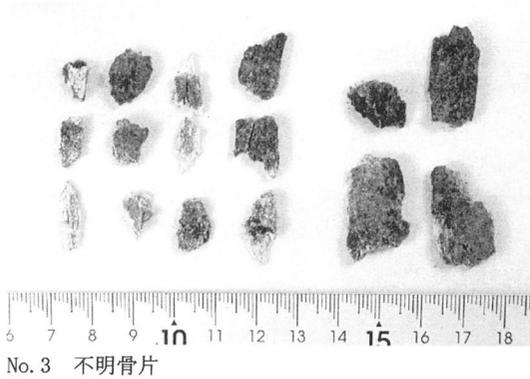
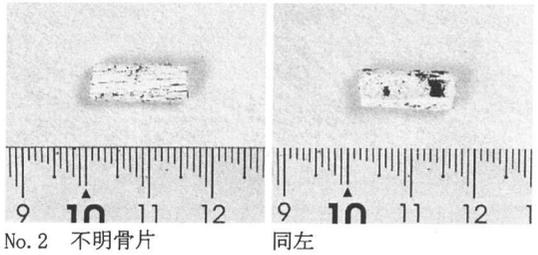
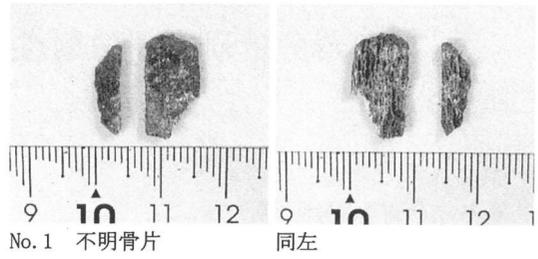


接線断面 ————— : 0.2mm

西一本柳遺跡Xの種実



西一本柳遺跡Xの動物遺存体



# 加速器分析研究所放射性炭素年代測定結果報告書

2004年 8月 20日

佐久市教育委員会 様

2004年7月26日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。

表示したBP年代は、1950年から何年前かの年数で、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差 $\sigma$ にもとづいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料のβ線計数率と自然計数率の差が $2\sigma$ 以下のときは、 $3\sigma$ に相当する年代を下限の年代値(記号 >)として表示してあります。また試料のβ線計数率と現在の標準炭素についての計数率との差が $2\sigma$ 以下のときには、Modernと表示してあります。

表示した同位体比は標準値からのずれをパーミルで表した値です。 $\delta^{14}\text{C}$ の値は、放射線の測定で求めた試料炭素中の $^{14}\text{C}$ 濃度Aと現在の炭素の標準濃度A(std)を用いて、 $\delta^{14}\text{C} = [(A - A(\text{std}) / A(\text{std})) \times 1000]$  によって算出された値です。 $\delta^{13}\text{C}$ の値は、試料炭素の $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて同様に算出した値です。

$\Delta^{14}\text{C}$ は試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ パーミルであったときの $^{14}\text{C}$ 濃度を計算した値です。この濃度を用いて、(貝殻など海洋起源の試料を除き)表記のBP年代値が算出されています。したがって、表記の年代値は同位体効果による測定誤差を補正した年代値となっています。

## 記

Code No.	試料	BP年代と炭素の同位体比
IAA-520	木炭 from 西一本柳 X (INPX) H17 No.1	2240 ± 70
		$\delta^{14}\text{C} = -243.8 \pm 6.3$
		$\delta^{13}\text{C} = -24.8$
		$\Delta^{14}\text{C} = -244.1 \pm 6.3$
IAA-521	木炭 from 西一本柳 X (INPX) H86 No.2	2320 ± 70
		$\delta^{14}\text{C} = -252.2 \pm 6.7$
		$\delta^{13}\text{C} = -25.6$
		$\Delta^{14}\text{C} = -251.3 \pm 6.7$

以上

(株)加速器分析研究所 白河分析センター

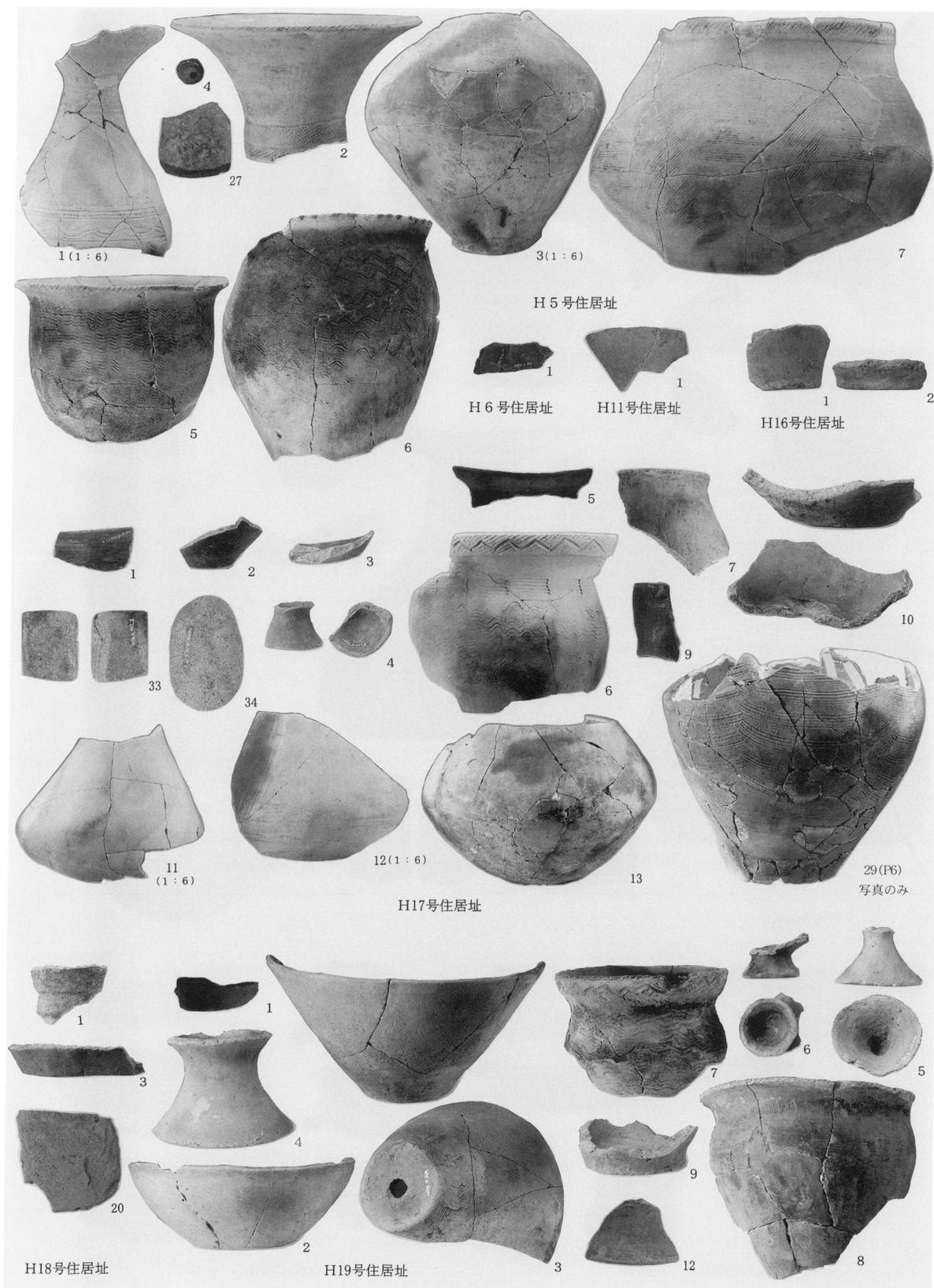
〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段 6-270

TEL 0248-21-1055(代)

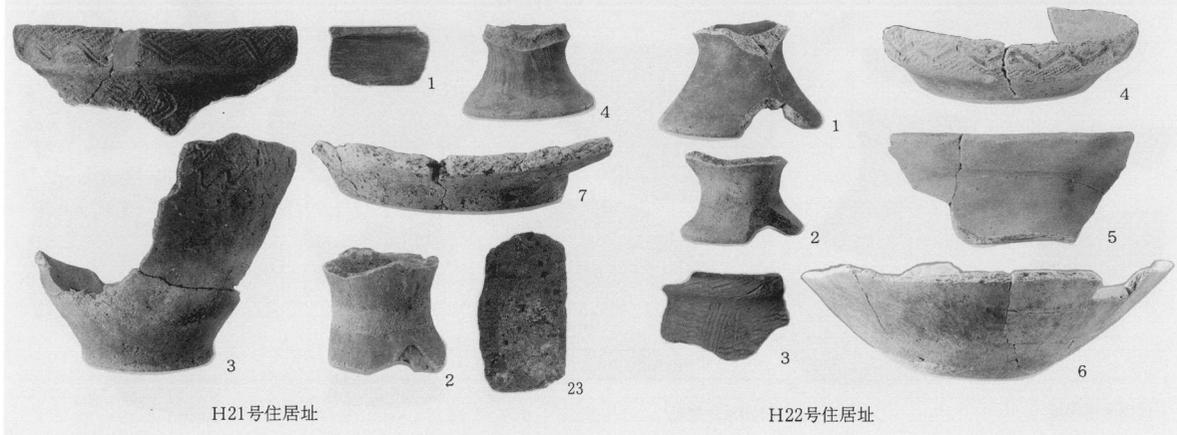
FAX 0248-21-1057

木越邦彦 



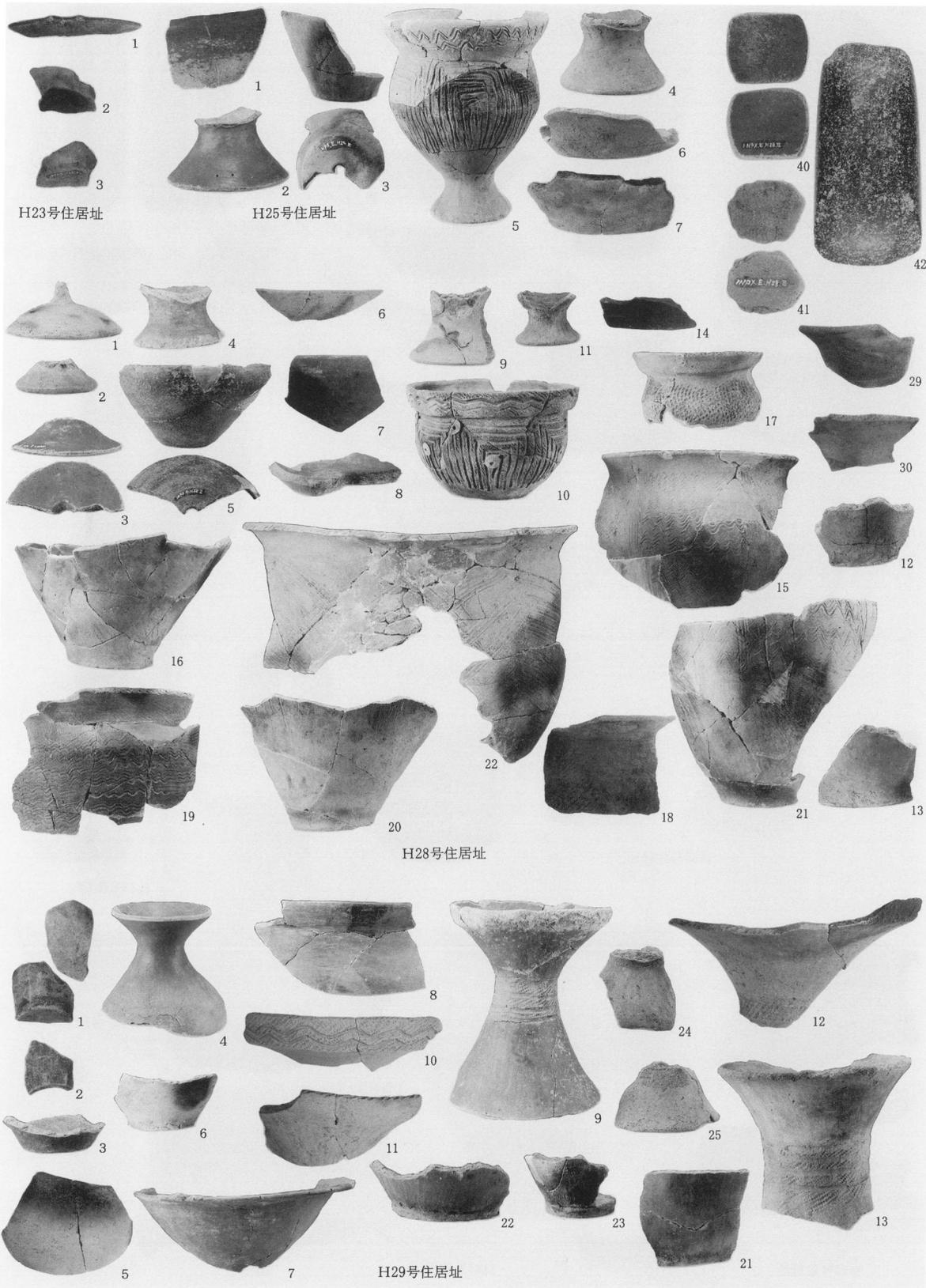


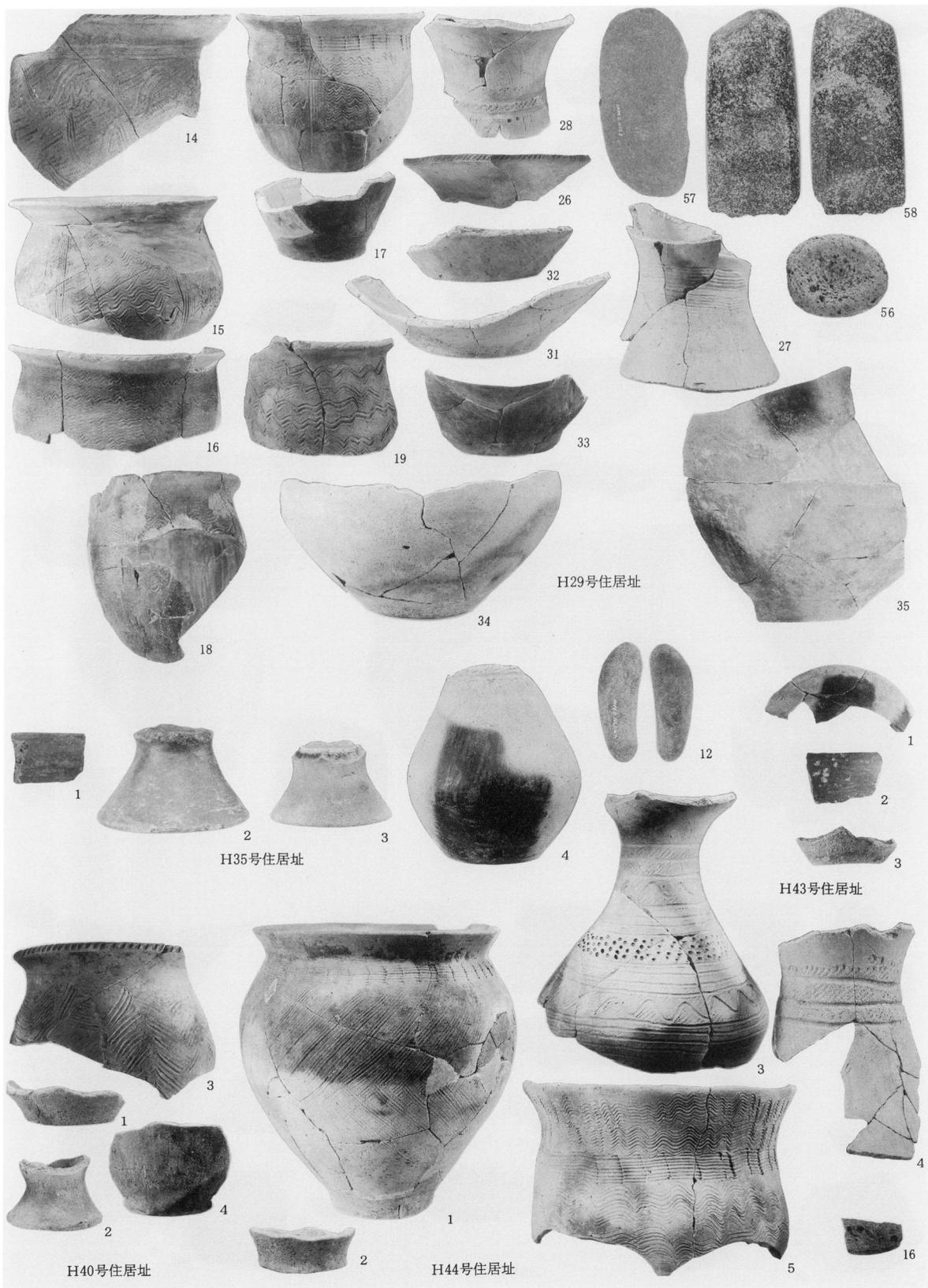
H19号住居址

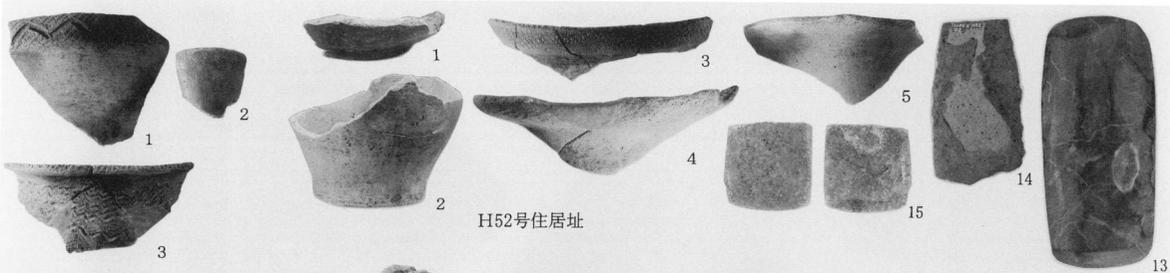


H21号住居址

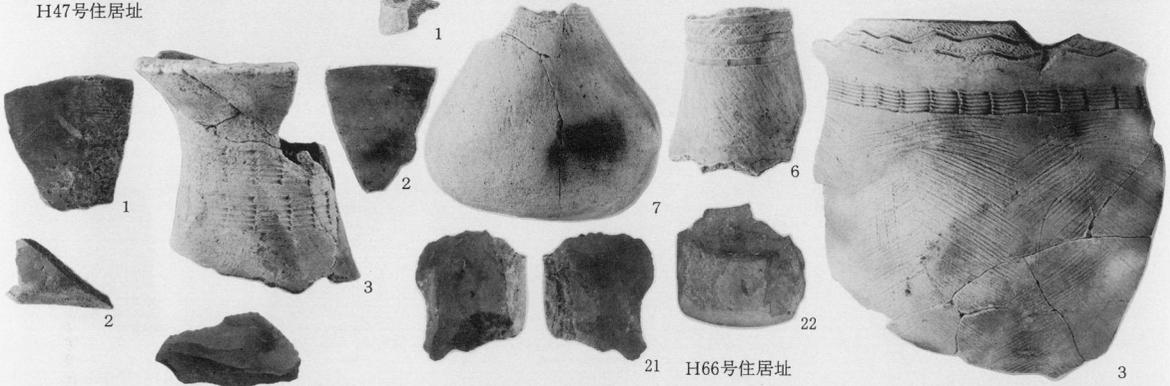
H22号住居址







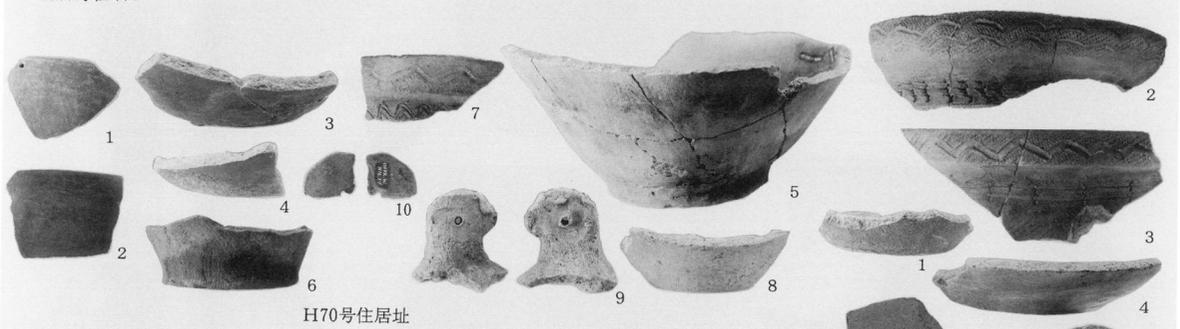
H52号住居址



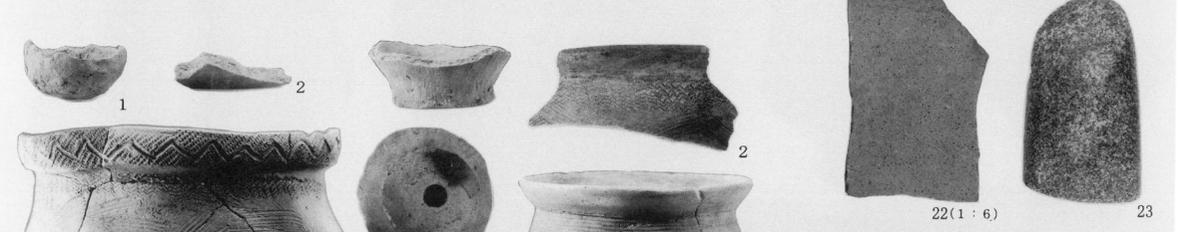
H47号住居址

H59号住居址

H66号住居址



H70号住居址

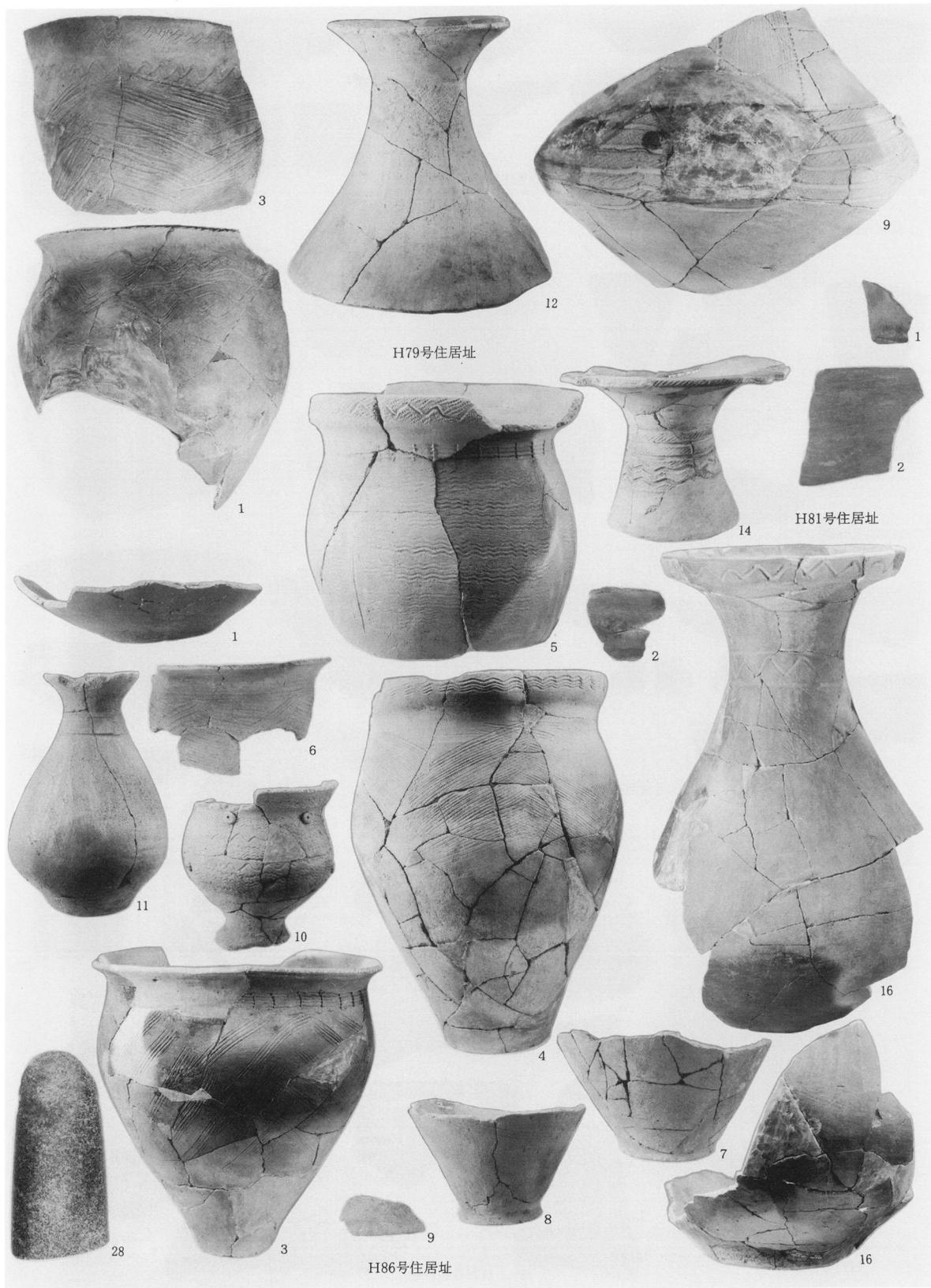


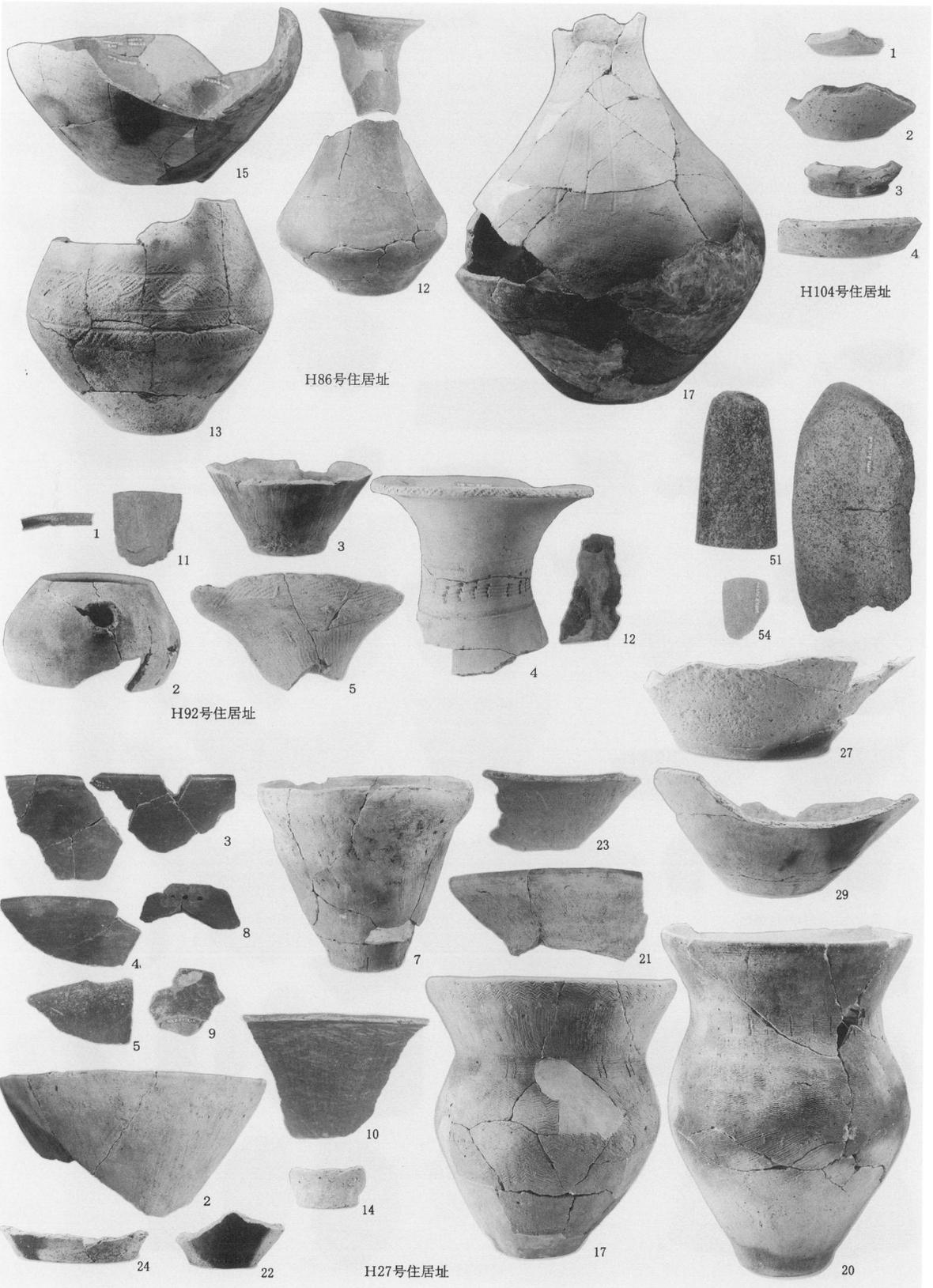
H73号住居址

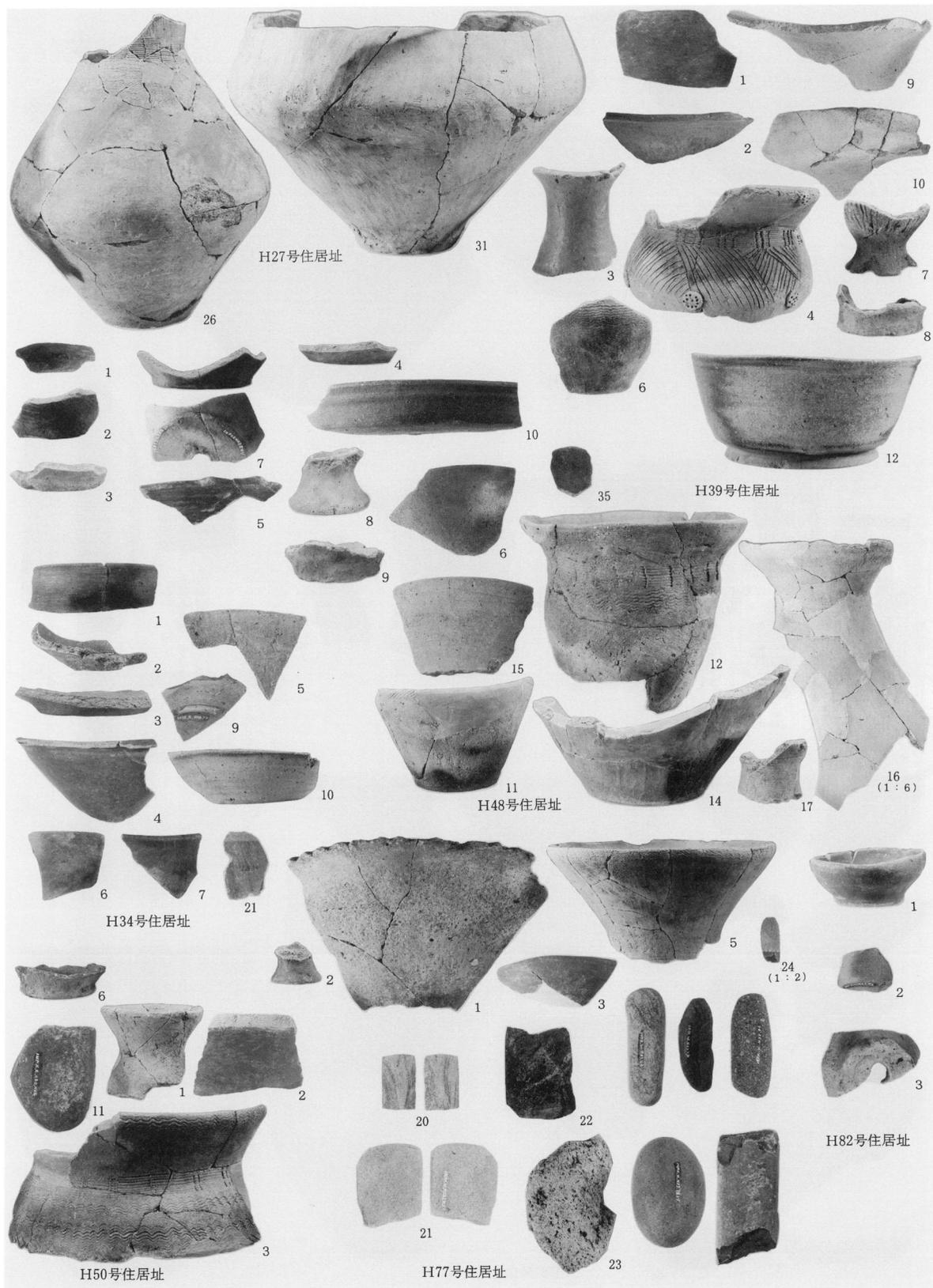
H69号住居址

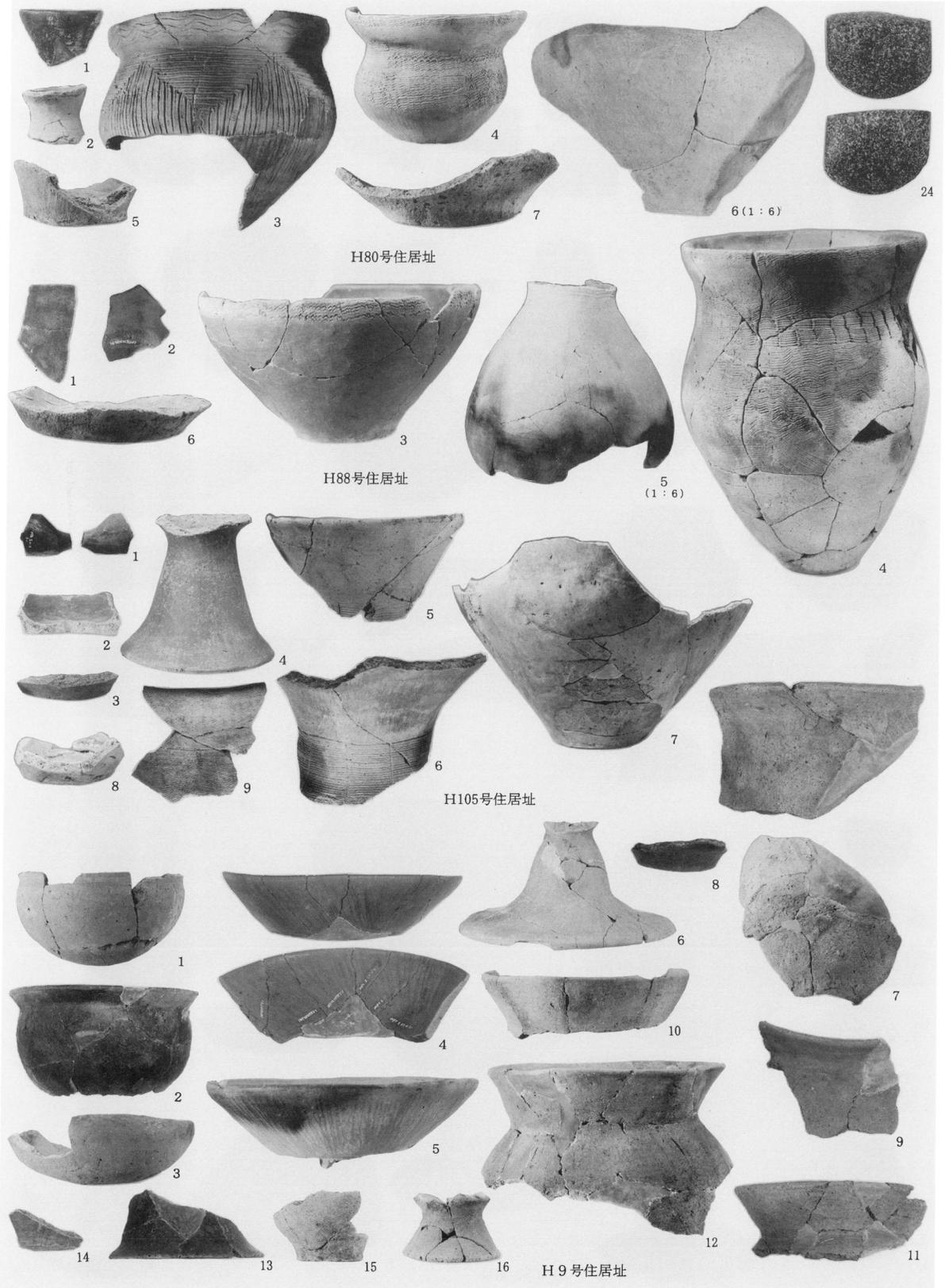
H79号住居址

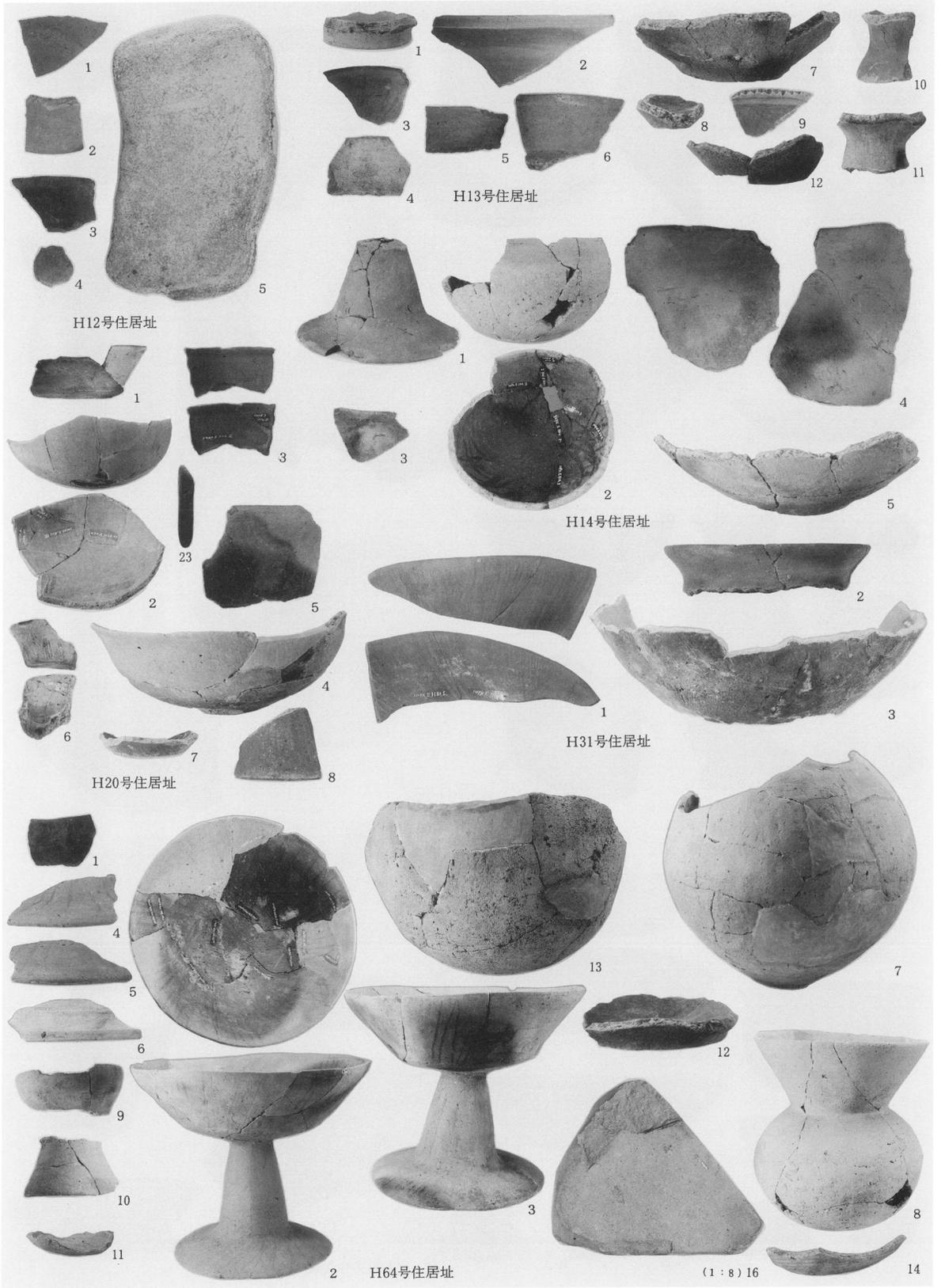
13(1:6)

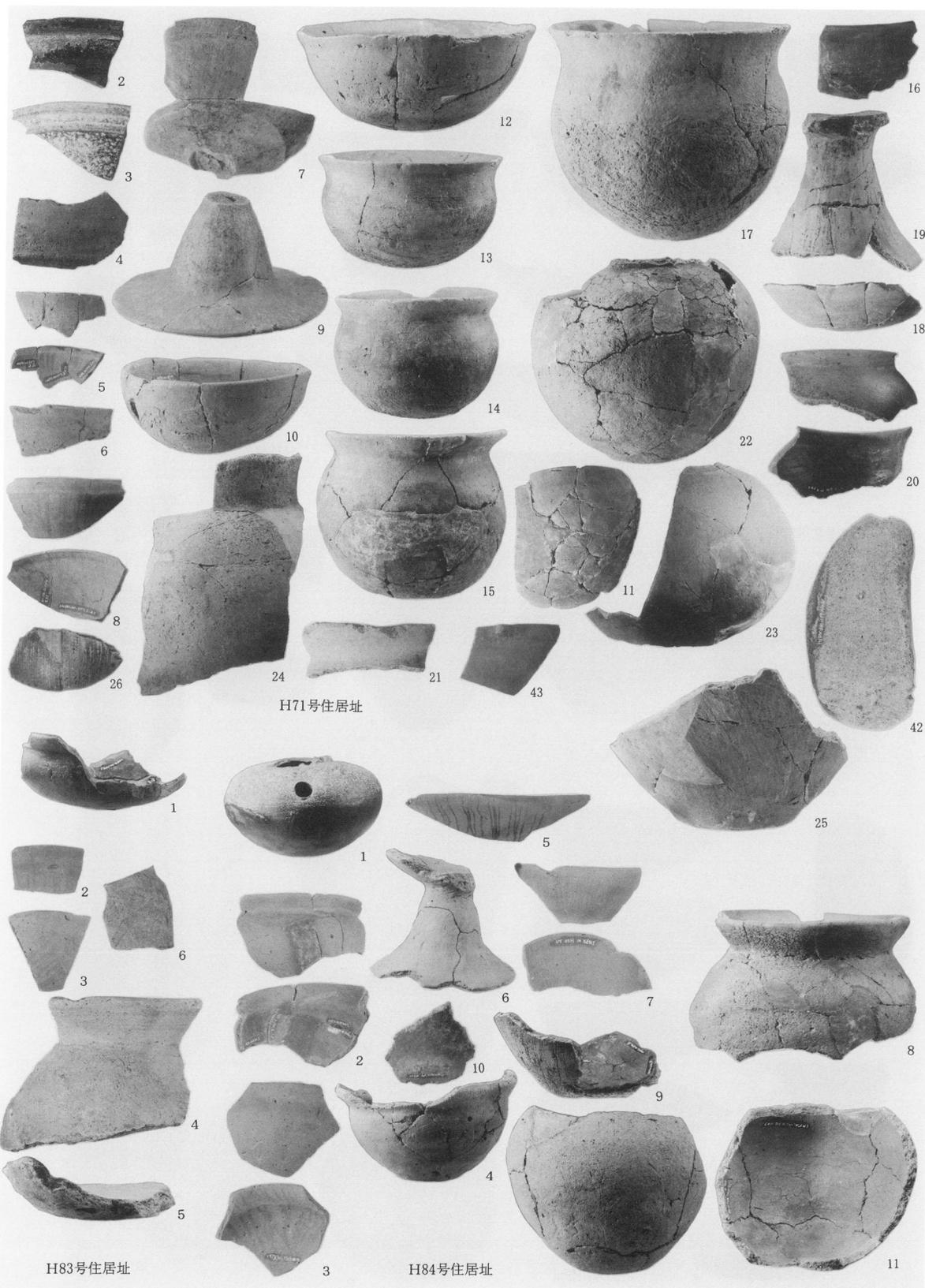






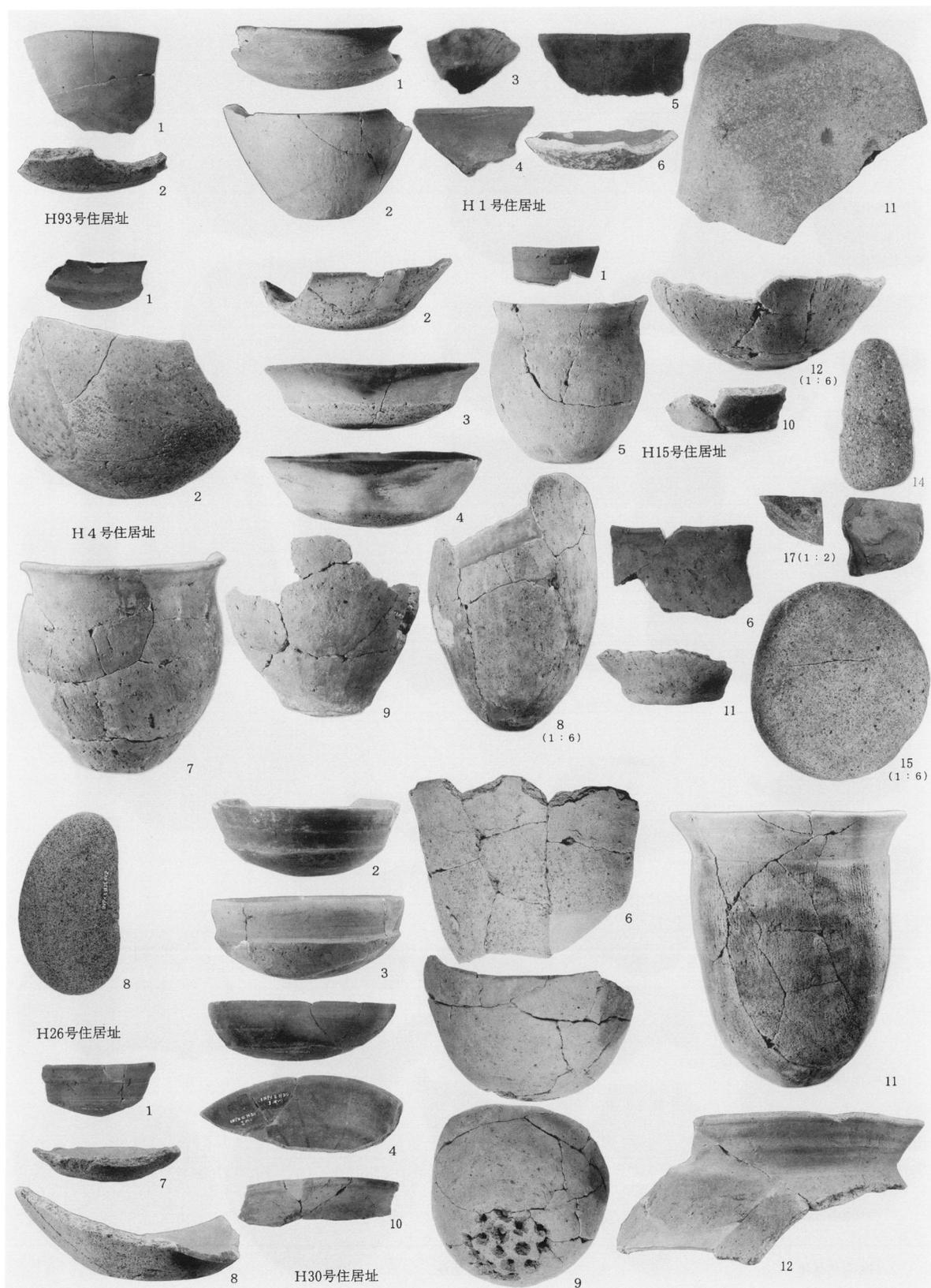


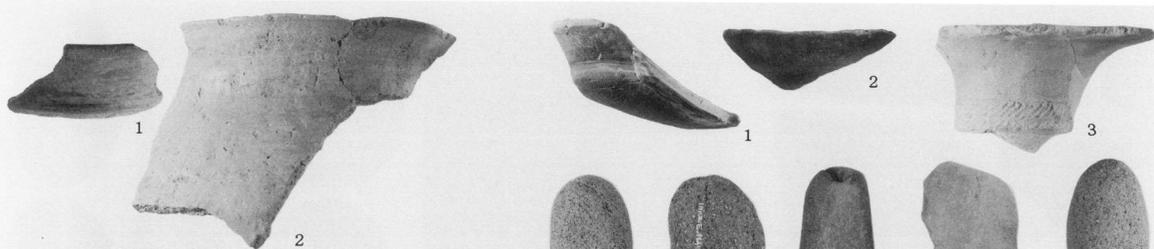




H83号住居址

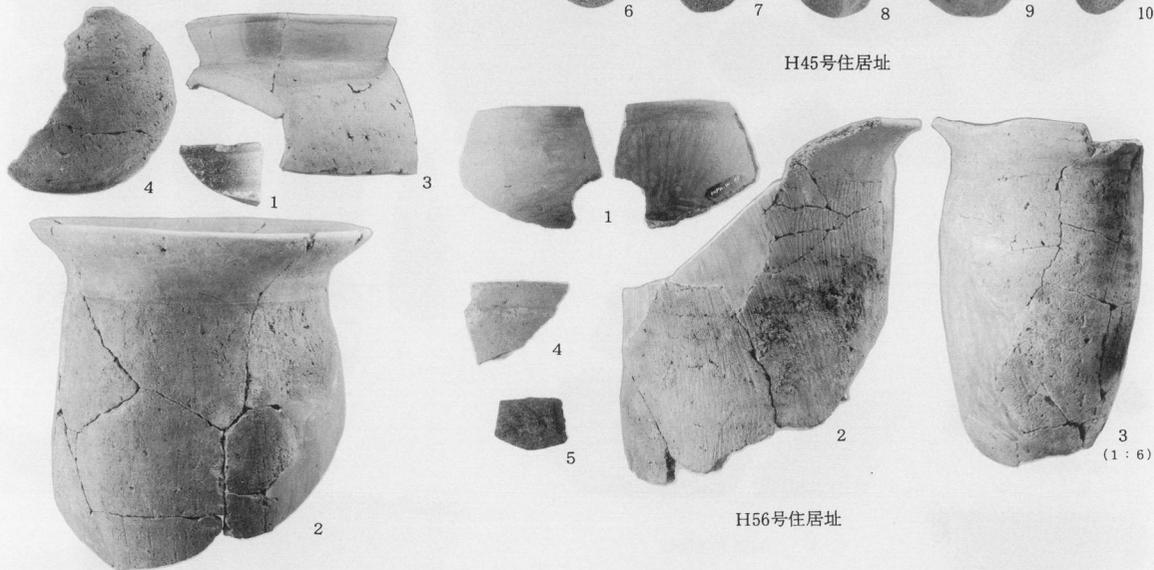
H84号住居址





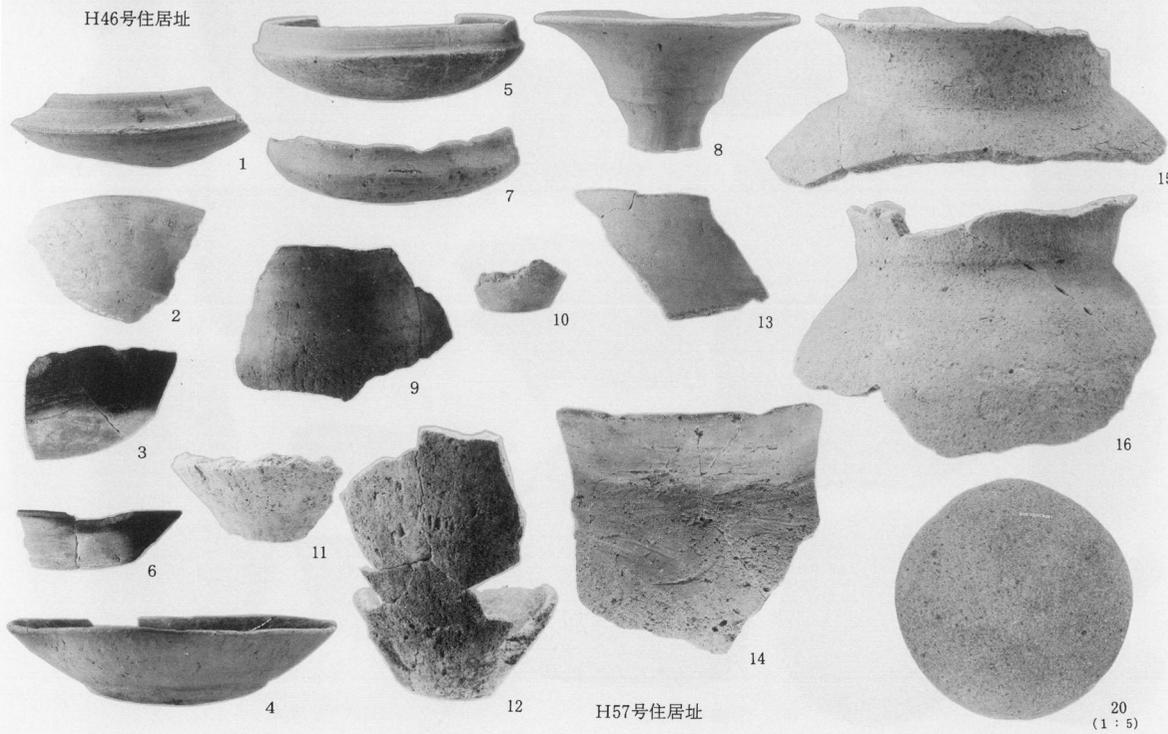
H42号住居址

H45号住居址



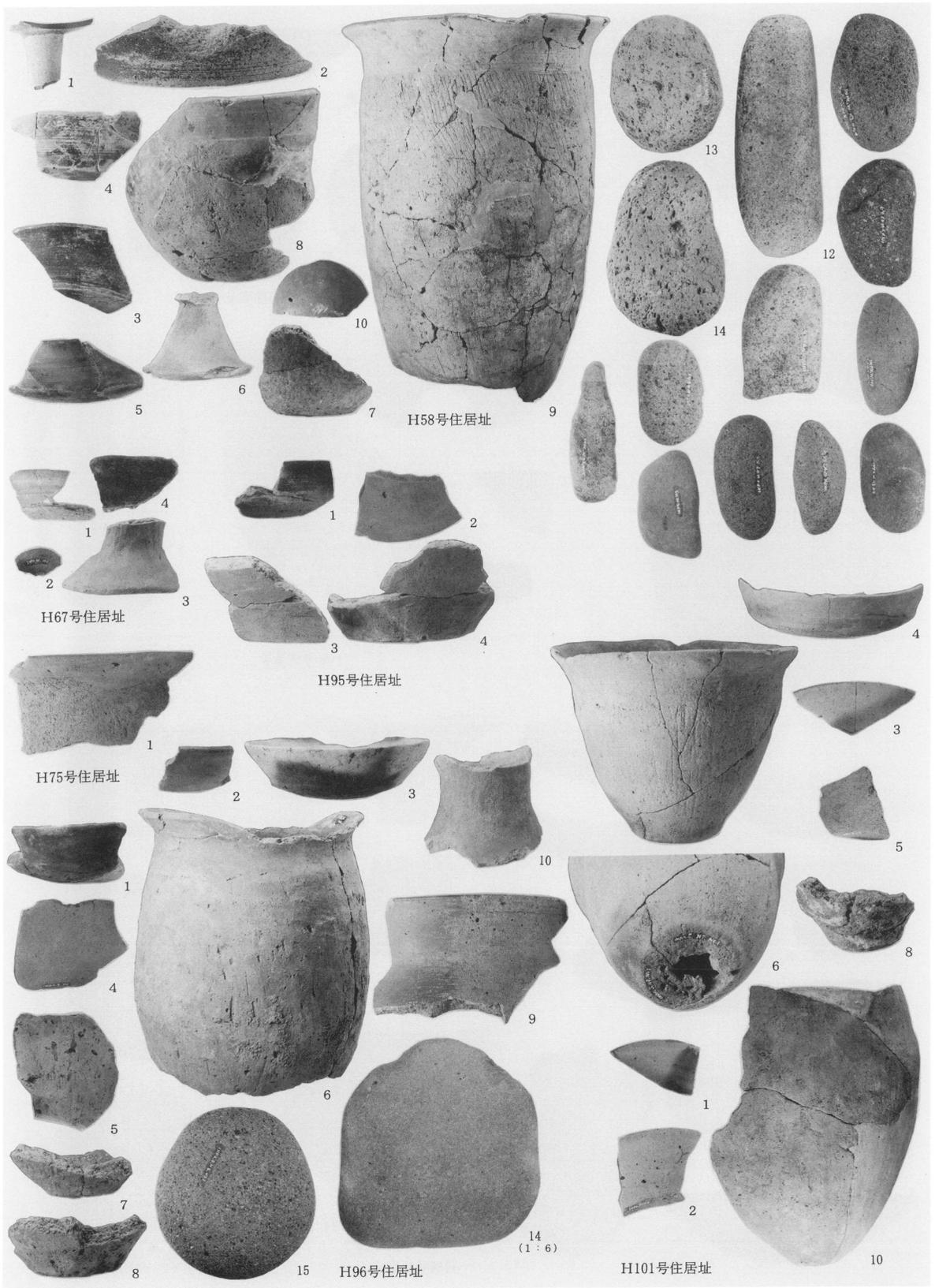
H46号住居址

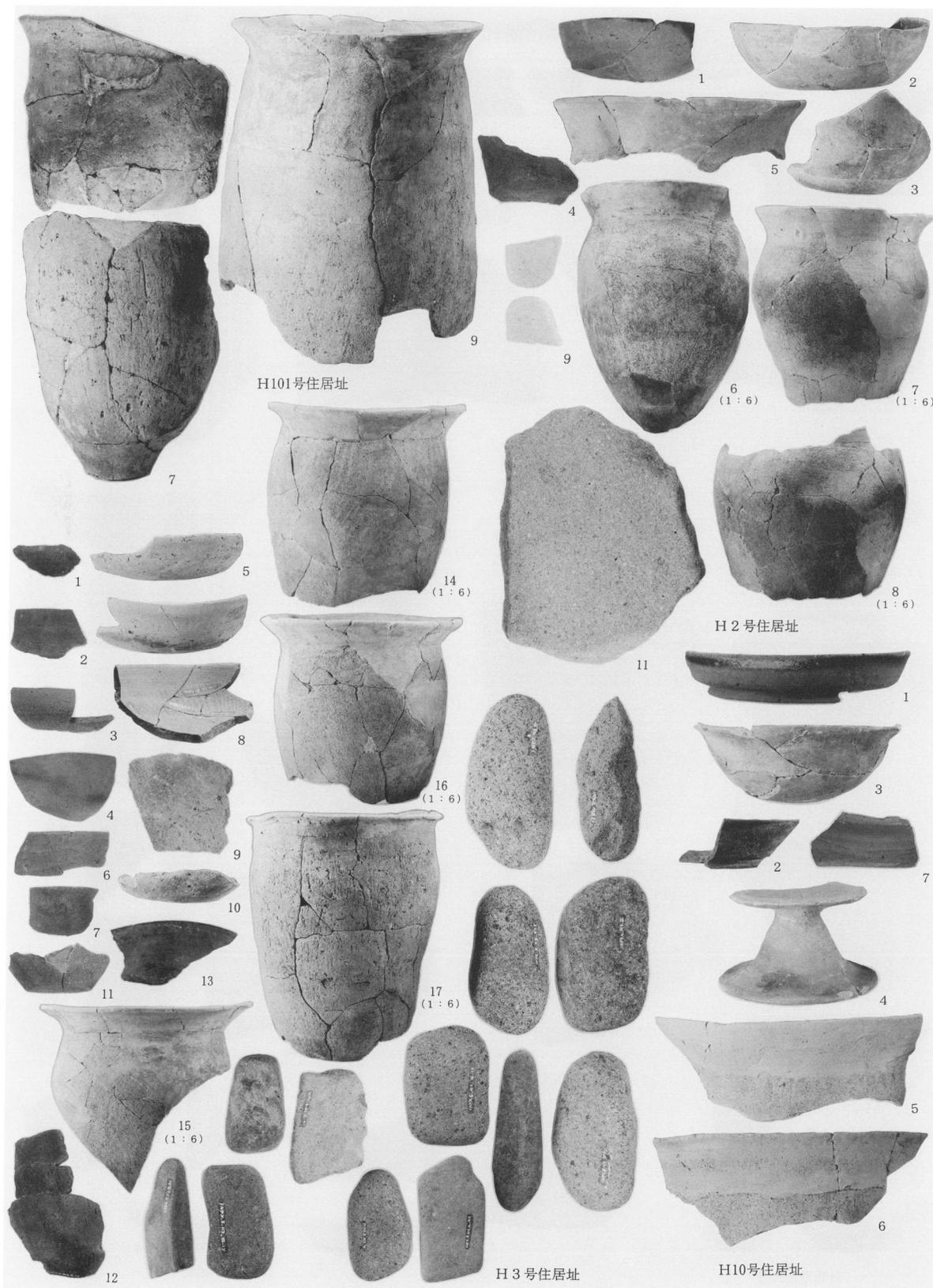
H56号住居址

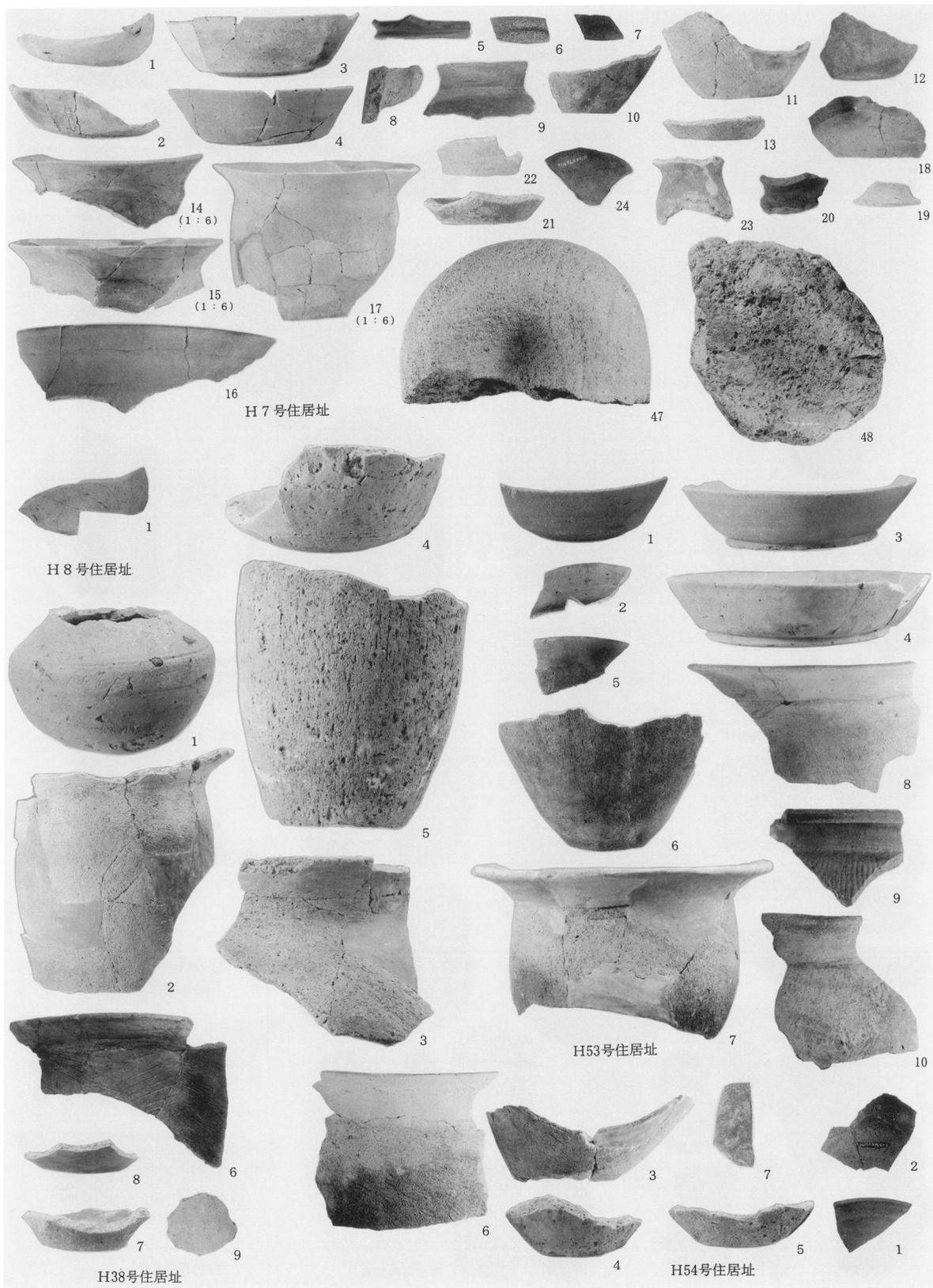


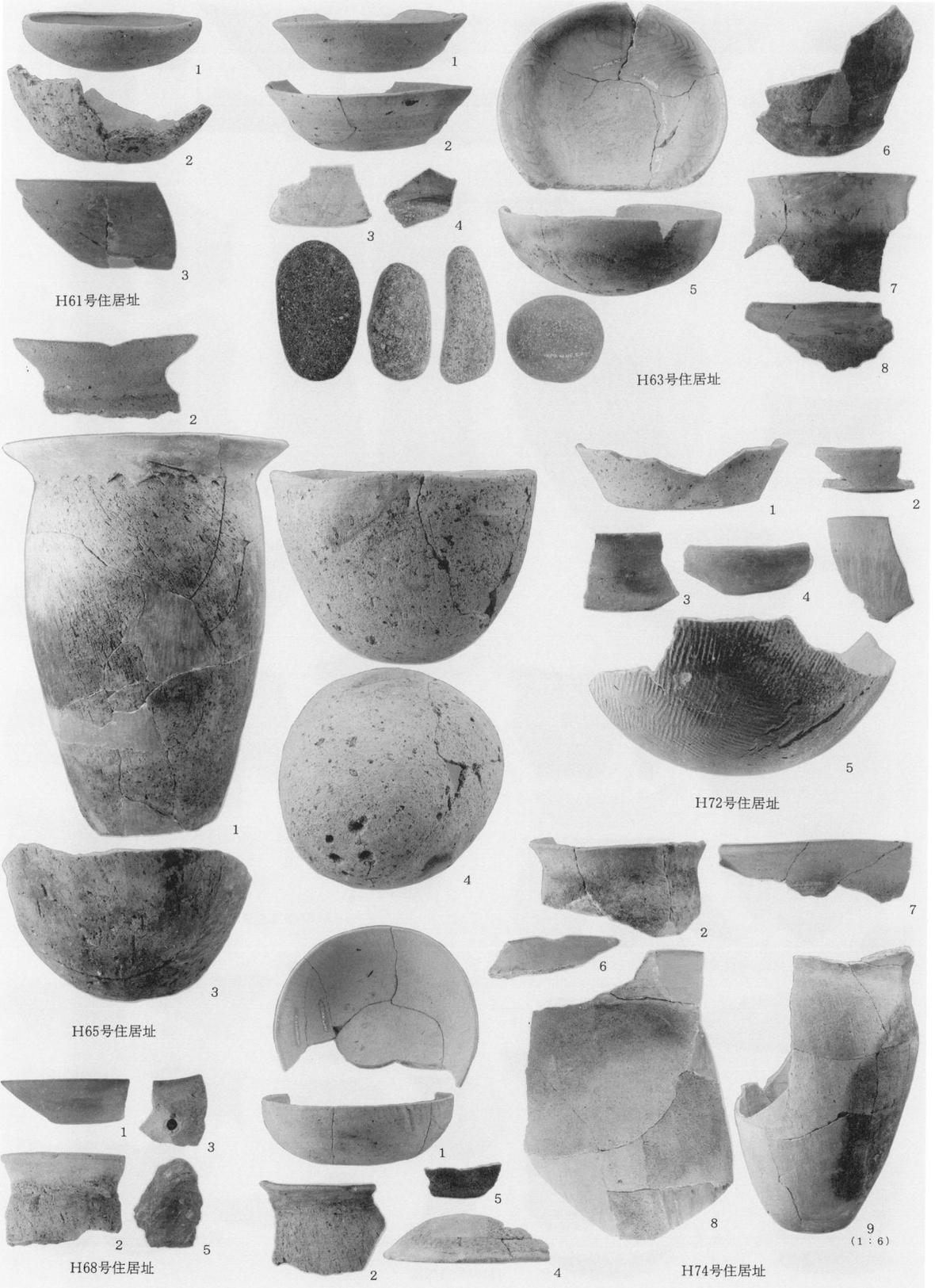
H57号住居址

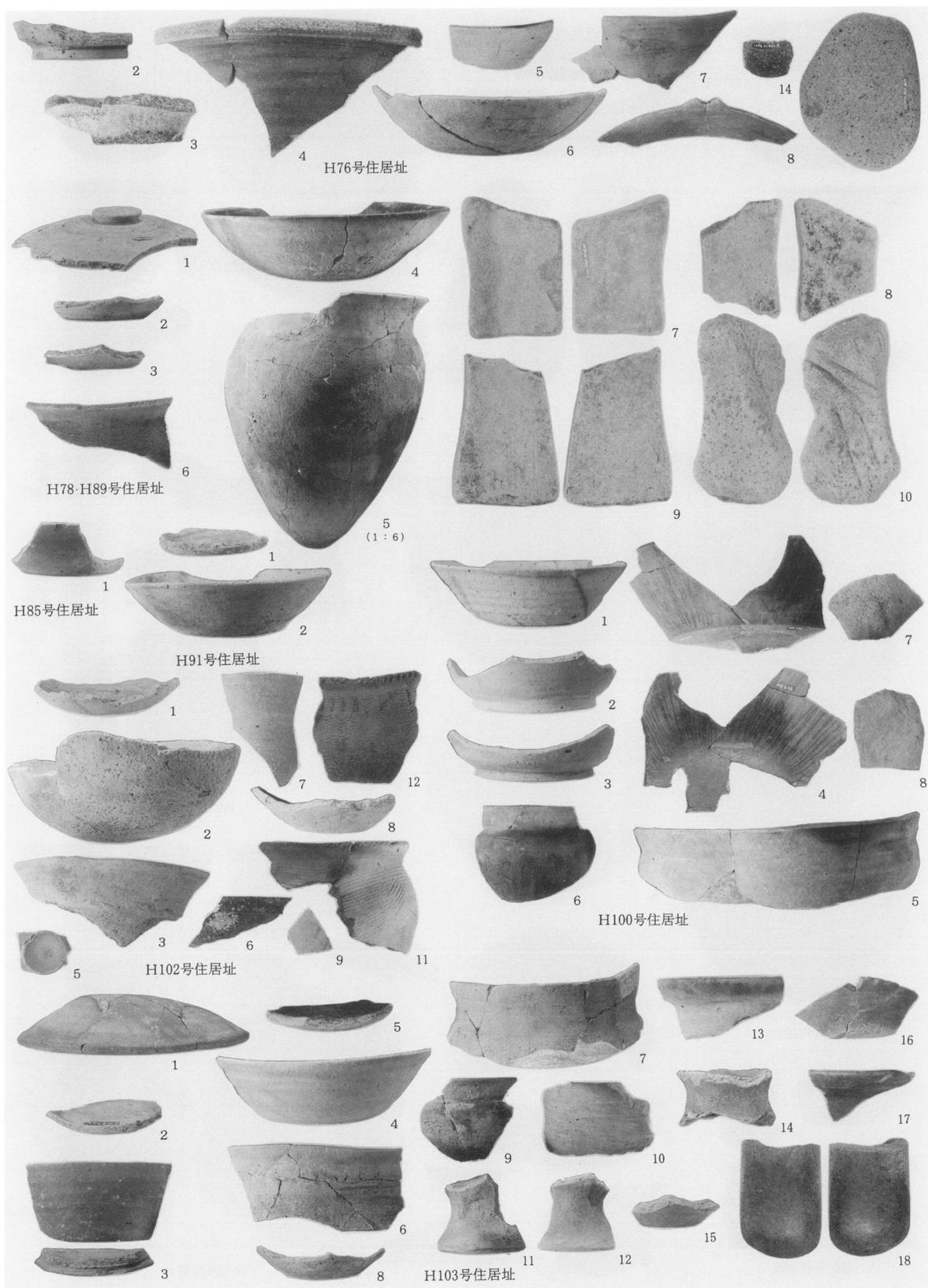
20  
(1:5)

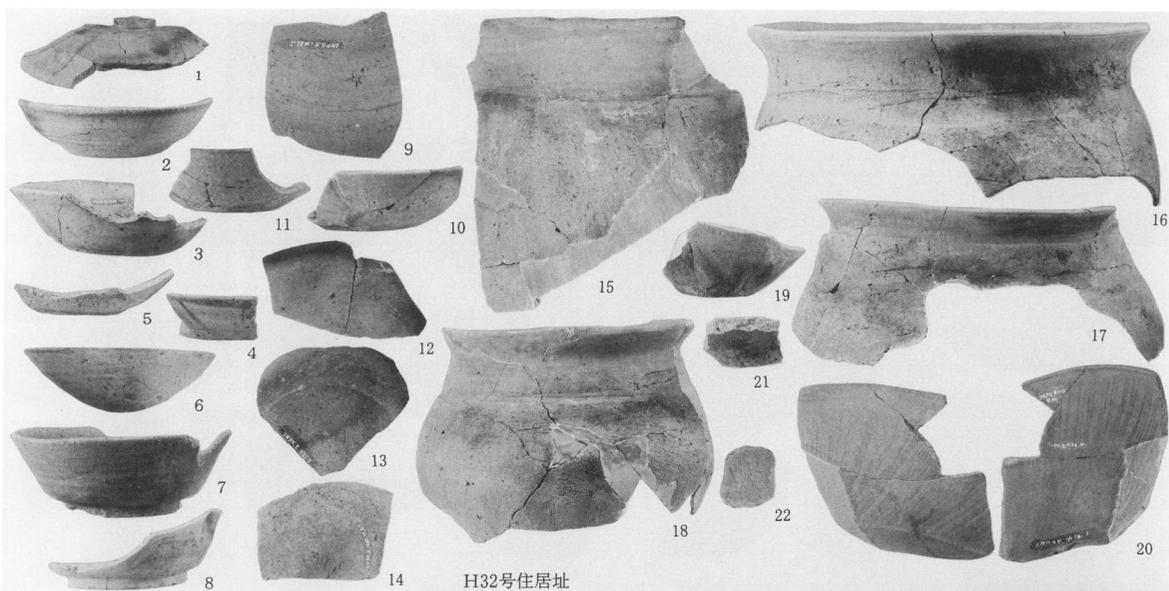








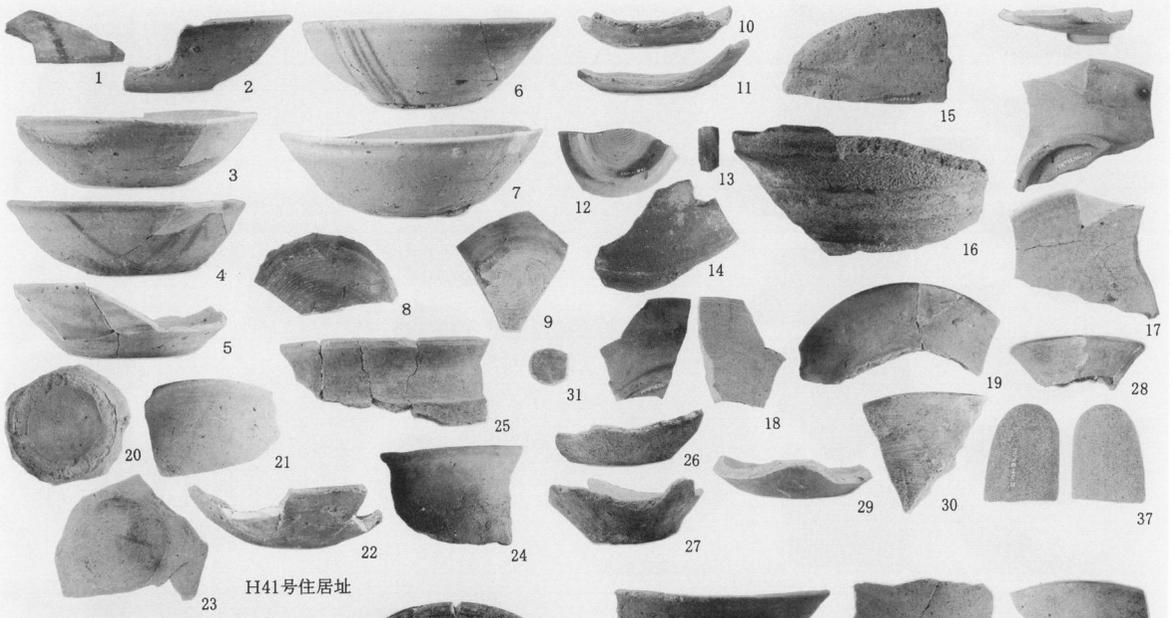




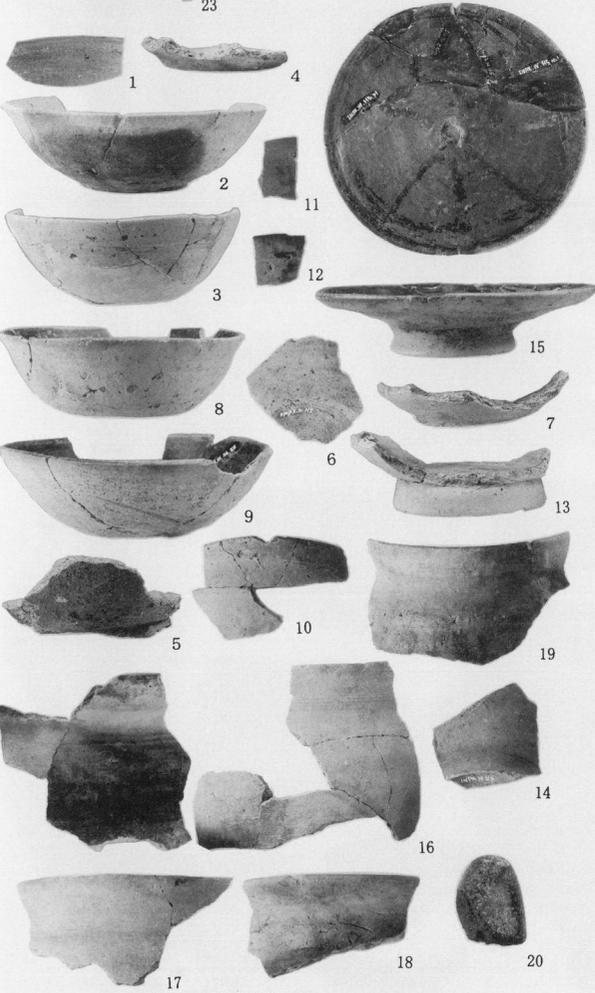
H32号住居址



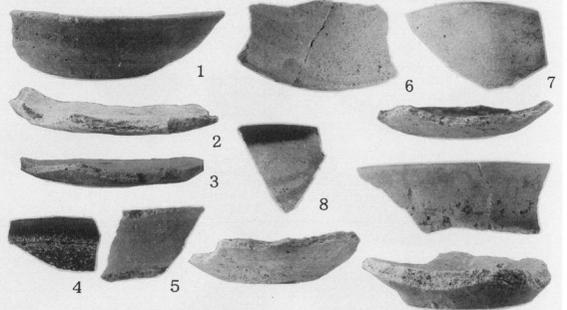
H37号住居址



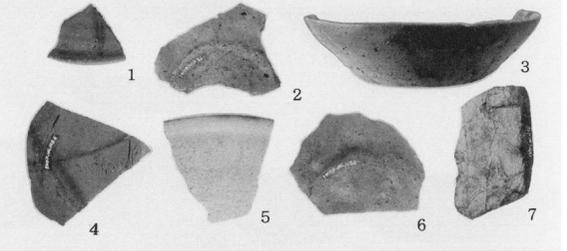
H41号住居址



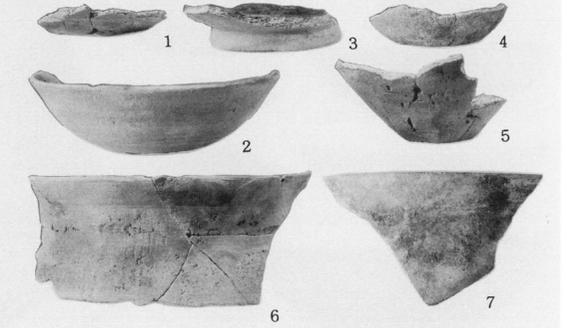
H60号住居址



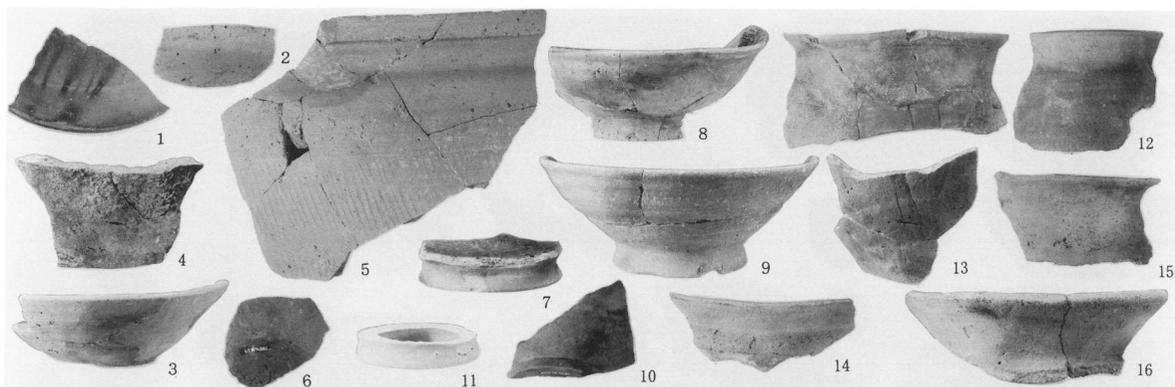
H62号住居址



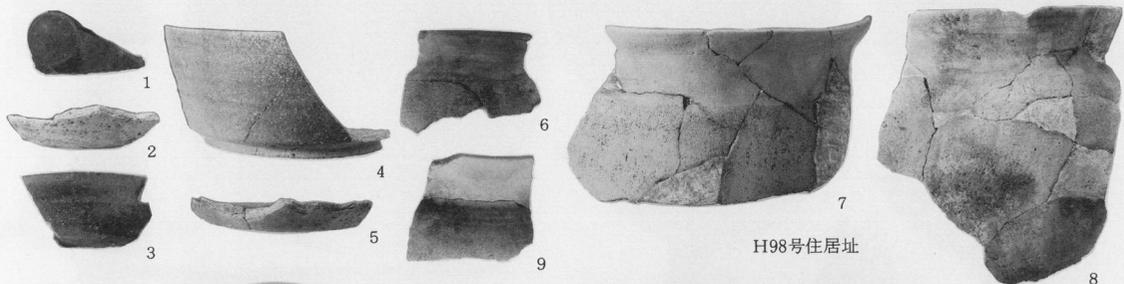
H90号住居址



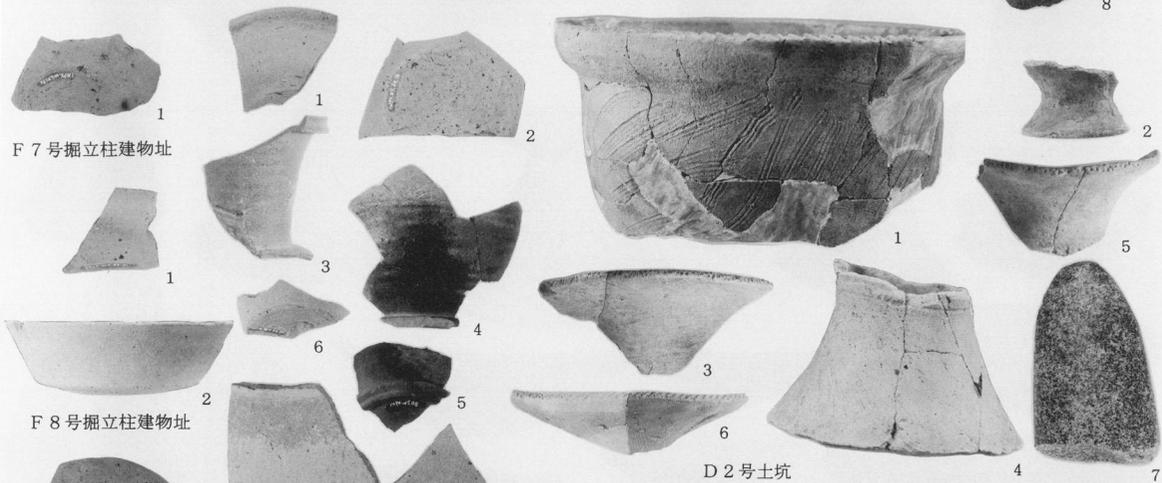
H97号住居址



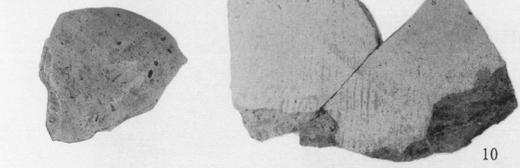
H87号住居址



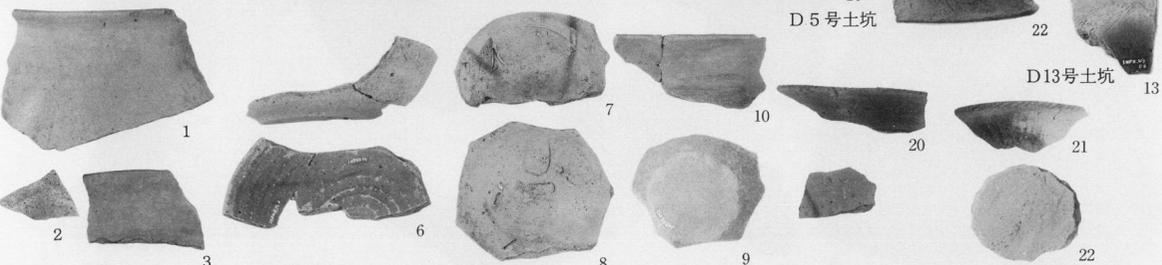
H98号住居址



D 2号土坑



F 9号掘立柱建物址



D 3号土坑

D 5号土坑

D 6号土坑

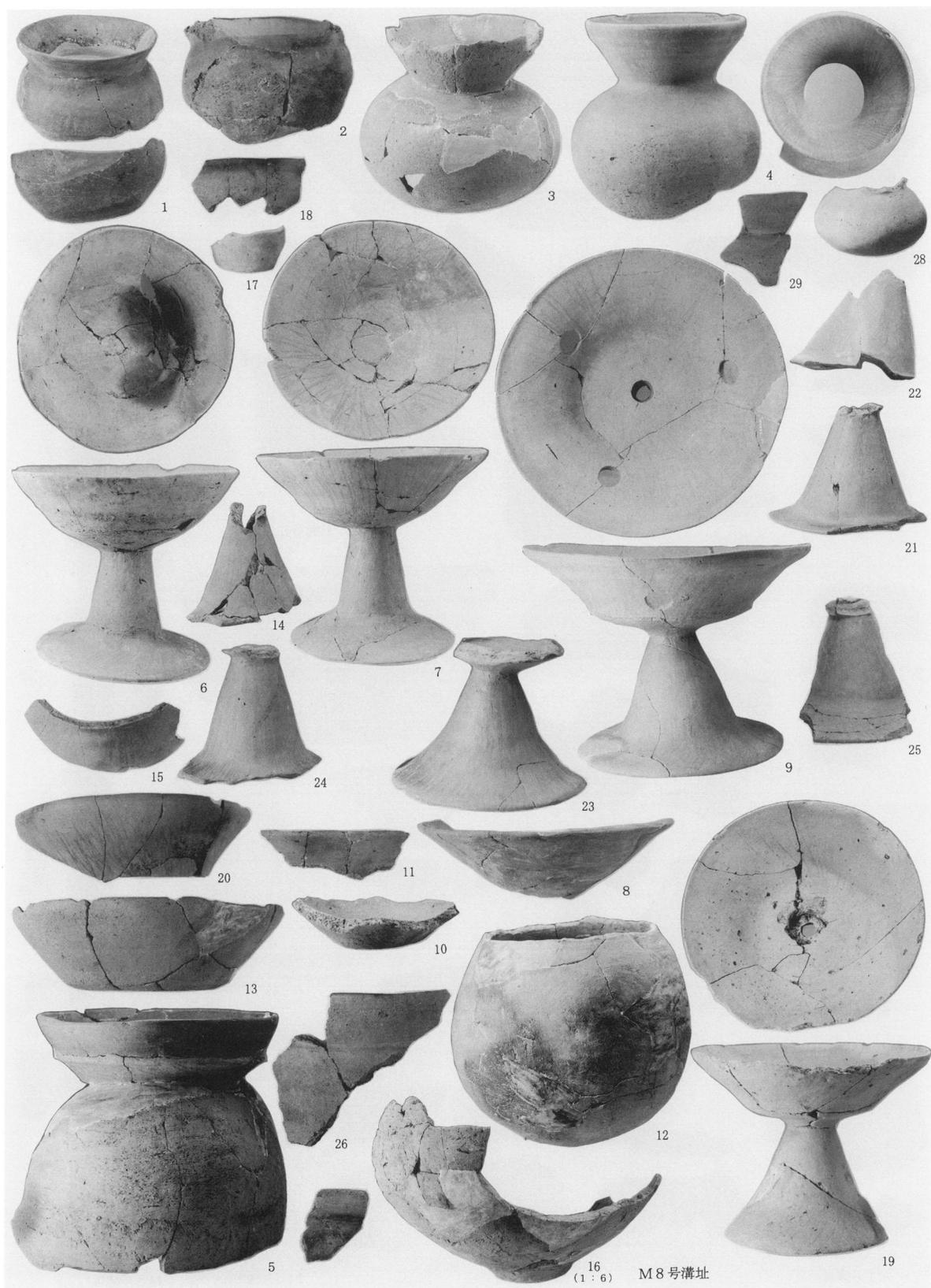
D 13号土坑

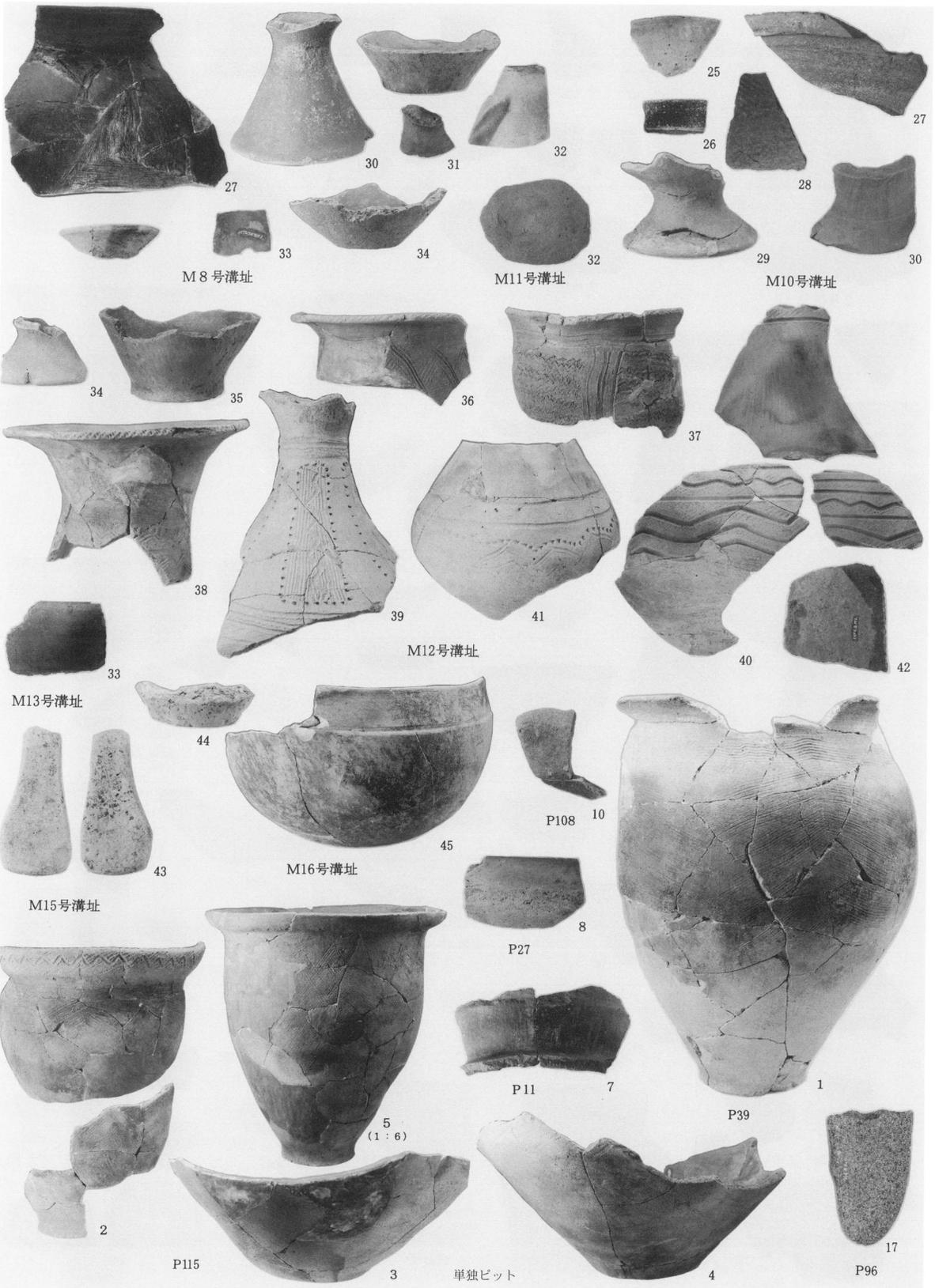
M 1号沟址

M 2号沟址

M 4号沟址

M 5号沟址





M8号溝址

M11号溝址

M10号溝址

M12号溝址

M13号溝址

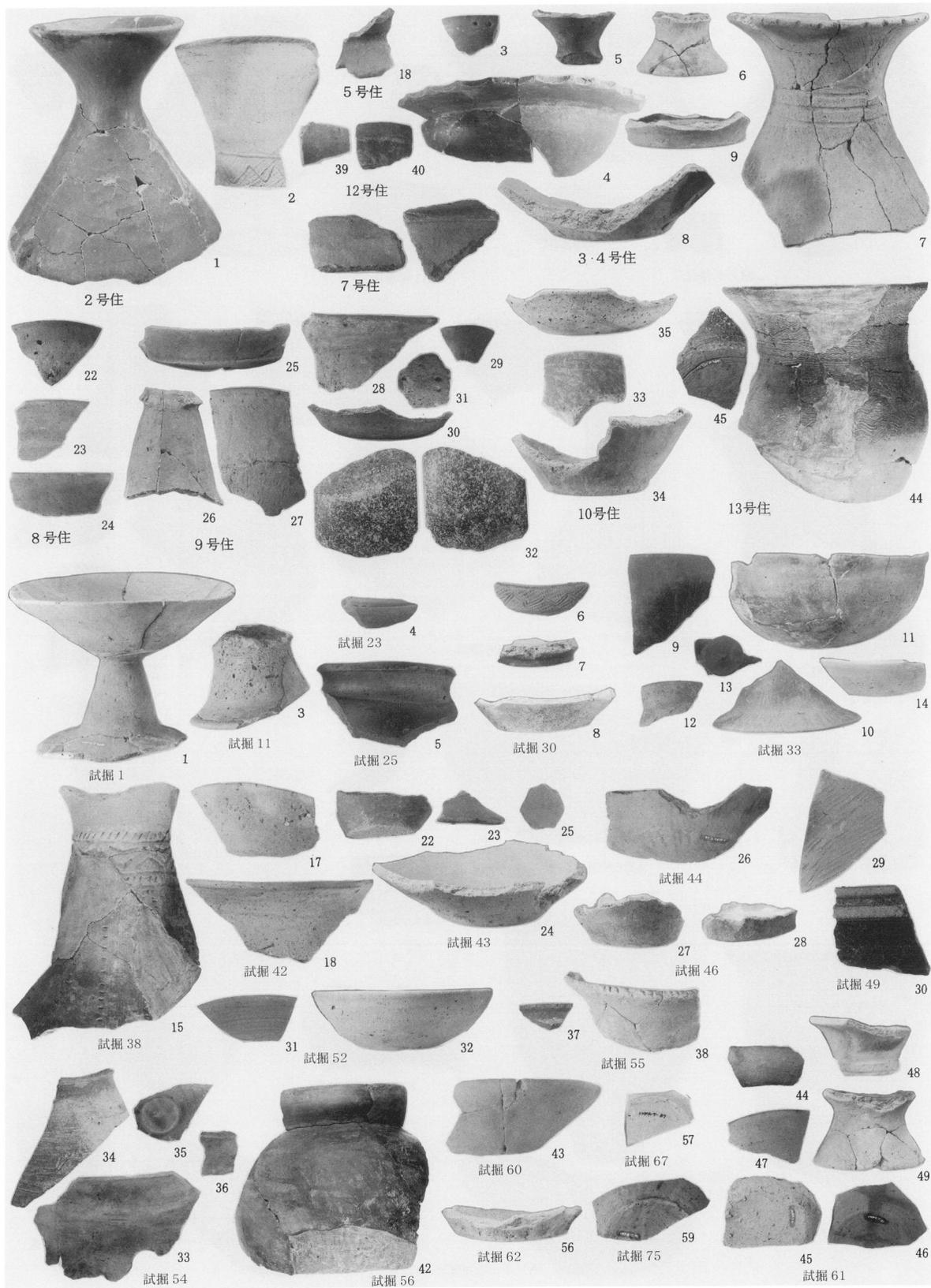
M16号溝址

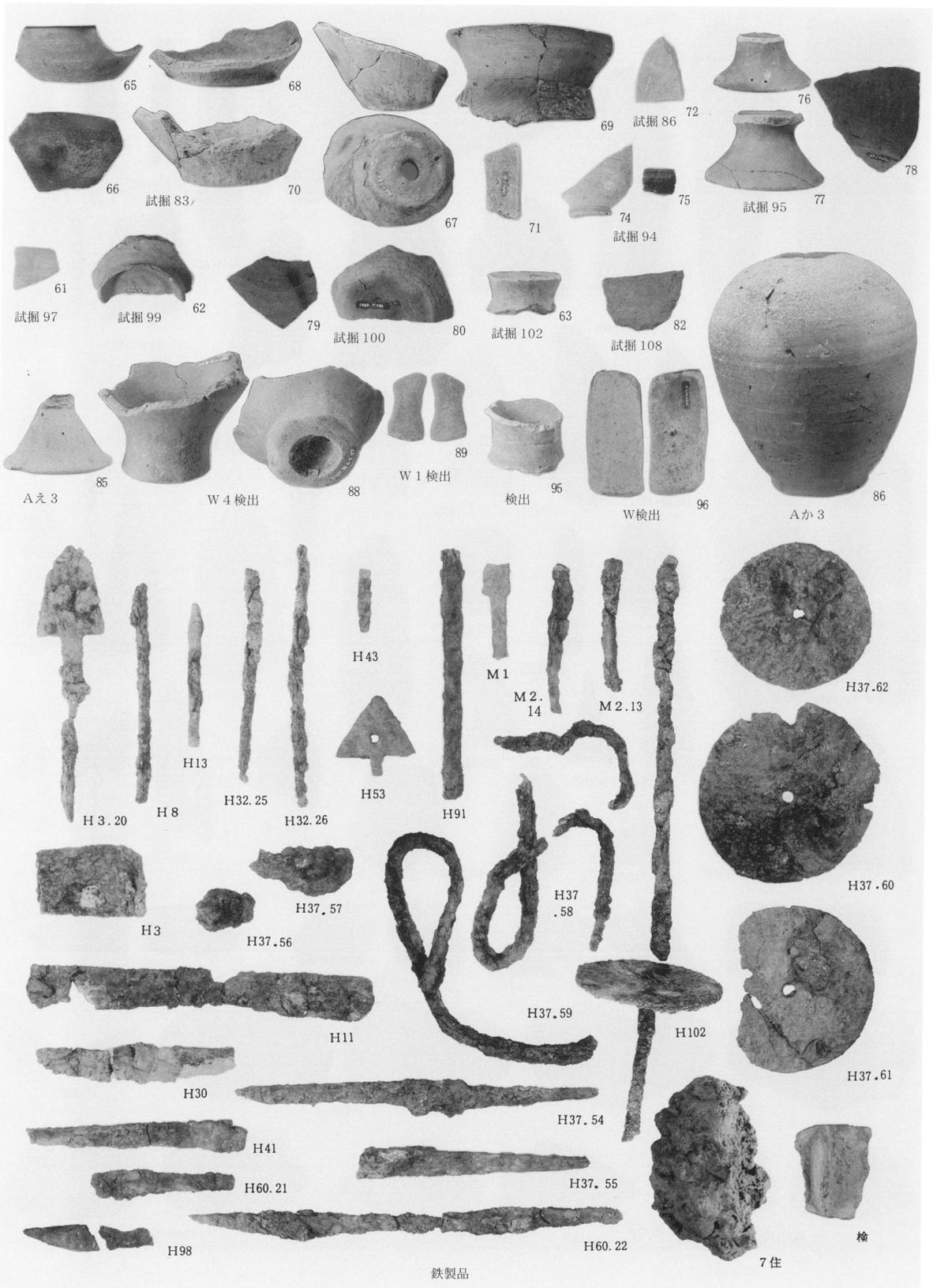
M15号溝址

P115

単独ピット

P96





鉄製品

7住

検

65

68

69

72

76

77

78

66

70

67

71

74

75

76

78

試掘 83

試掘 86

試掘 95

61

62

79

80

63

82

試掘 97

試掘 99

試掘 100

試掘 102

試掘 108

85

88

89

95

96

86

A 元 3

W 4 検出

W 1 検出

検出

W 検出

A 办 3

H 3.20

H 8

H 13

H 32.25

H 32.26

H 53

H 43

H 91

M 1

M 2.14

M 2.13

H 37.62

H 3

H 37.56

H 37.57

H 37.58

H 37.60

H 11

H 37.59

H 102

H 30

H 37.61

H 41

H 37.54

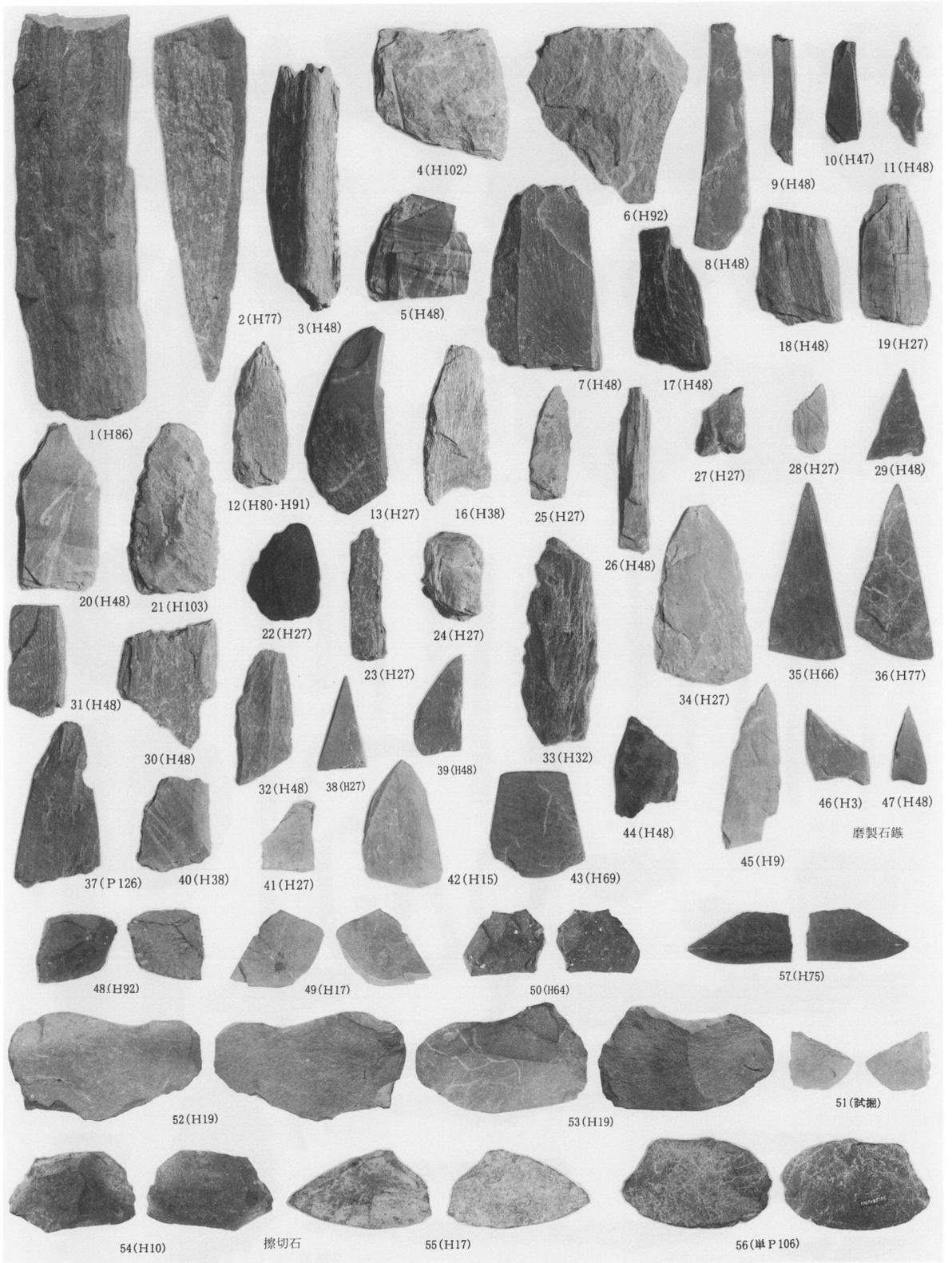
H 60.21

H 37.55

H 98

H 60.22

7 住



## 佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『金井城跡』  
第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』  
第3集 『石附築址群Ⅲ』  
第4集 『大ふけ』  
第5集 『立科F遺跡』  
第6集 『上曾根遺跡』  
第7集 『三貫畑遺跡』  
第8集 『瀧の下遺跡』  
第9集 『国道141号線関係遺跡』  
第10集 『聖原遺跡Ⅱ』  
第11集 『赤座垣外遺跡』  
第12集 『若宮遺跡Ⅱ』  
第13集 『上高山遺跡Ⅱ』  
第14集 『栗毛坂遺跡』  
第15集 『野馬久保遺跡』  
第16集 『石並城跡』  
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1月～3月)  
第18集 『西曾根遺跡』  
第19集 『上芝宮遺跡』  
第20集 『下聖端遺跡Ⅲ』  
第21集 『金井城跡Ⅲ』  
第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』  
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』  
第24集 『上聖端遺跡』  
第25集 『上久保田向Ⅳ』  
第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』  
第27集 『上久保田向Ⅲ』  
第28集 『曾根新城Ⅴ』  
第29集 『筒村遺跡B 山法師遺跡B』  
第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』  
第31集 『山法師遺跡A 筒村遺跡A』  
第32集 『東ノ割』  
第33集 『聖原遺跡Ⅶ 下曾根遺跡Ⅰ』  
第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』  
第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』  
第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』  
第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ』  
第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』  
第39集 『中屋敷遺跡』  
第40集 『寺畑遺跡』  
第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ  
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ  
西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』  
第42集 『寄山』  
第43集 『権現平遺跡 池端遺跡』  
第44集 『寺添遺跡』  
第45集 『市内遺跡発掘調査報告書1994』  
第46集 『濁り遺跡』  
第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』  
第48集 『池端城跡』  
第49集 『根々井芝宮遺跡』  
第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』  
第51集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』  
第52集 『坪の内遺跡』  
第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』  
第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』  
第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』  
第56集 『聖原遺跡Ⅹ』  
第57集 『高師町遺跡Ⅱ』  
第58集 『下穴虫遺跡Ⅰ』  
第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』  
第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』  
第61集 『割地遺跡』  
第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』  
第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』  
第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』  
第65集 『中宿遺跡』  
第66集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』  
第67集 『供養塚遺跡』  
第68集 『前藤部遺跡』  
第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』  
第70集 『観音堂遺跡』  
第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』  
第72集 『市道遺跡Ⅱ』  
第73集 『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』  
第74集 『五里田遺跡』  
第75集 『八風山 五斗代』  
第76集 『南近津』  
第77集 『番屋前遺跡』  
第78集 『蛇塚遺跡 蛇塚古墳』  
第79集 『四ツ塚遺跡Ⅰ』  
第80集 『四ツ塚遺跡Ⅱ』  
第81集 『薬師寺遺跡』  
第82集 『市内遺跡発掘調査報告書1998』  
第83集 『下聖端遺跡Ⅳ』  
第84集 『榛名平遺跡』  
第85集 『柳堂遺跡』  
第86集 『市内遺跡発掘調査報告書1999』  
第87集 『宮添遺跡』  
第88集 『下曾根遺跡』  
第89集 『川原端遺跡』  
第90集 『梨の木遺跡Ⅲ』  
第91集 『西一本柳遺跡 中長塚Ⅰ・Ⅱ 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ』  
第92集 『辻の前遺跡Ⅱ 中仲田遺跡Ⅱ』  
第93集 『入高山遺跡』  
第94集 『聖石遺跡』  
第95集 『市内遺跡発掘調査報告書2000』  
第96集 『上木戸遺跡』  
第97集 『久瀬添遺跡』  
第98集 『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』  
第99集 『中道遺跡』  
第100集 『野沢館跡Ⅲ』  
第101集 『深堀遺跡Ⅳ』  
第102集 『円正坊遺跡Ⅳ』  
第103集 『聖原 一第1分冊一』  
第104集 『聖石遺跡Ⅱ』  
第105集 『曾根城遺跡Ⅲ』  
第106集 『樋村遺跡Ⅱ』  
第107集 『聖原 一第2分冊一』  
第108集 『市内遺跡発掘調査報告書2001』  
第109集 『西一本柳Ⅷ』  
第110集 『佐久駅周辺土地区画整理事業  
埋蔵文化財発掘調査報告書』  
『上ノ城遺跡』  
第111集 『西赤座』  
第112集 『西一本柳遺跡Ⅸ』  
第113集 『供養塚遺跡Ⅱ』  
第114集 『聖原 一第3分冊一』  
第115集 『東久保遺跡Ⅱ』  
第116集 『東五里田遺跡』  
第117集 『東近津遺跡』  
第118集 『野沢館跡Ⅳ』  
第119集 『市内遺跡発掘調査報告書2002』  
『後家山』  
第120集 『聖原 一第4分冊一』  
第121集 『西村中遺跡』  
第122集 『西村中遺跡』  
第123集 『西一本柳ⅩⅡ』  
第124集 『聖原 一第5分冊一』  
第125集  
第126集

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第127集

西一本柳遺跡Ⅹ

佐久市岩村田西一本柳遺跡Ⅹ発掘調査報告書

2005年2月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056  
文化財課  
〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953  
TEL 0267-68-7321

印刷所 頼 COX